
羽 生 市

東 畑 遺 跡

首都圏氾濫区域堤防強化対策における
埋蔵文化財発掘調査報告

2018

国土交通省 関東地方整備局
公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



1 調査区遠景（北東から）



2 第2号沟迹出土遗物

序

埼玉県北東部の県境を流れる利根川は、日本の河川の長男として「坂東太郎」の異名を持つ日本最大級の河川です。その広大な流域には肥沃な農地が広がり、約1,280万人もの人々が暮らしています。

利根川は、「刀祢河泊」として万葉集の恋歌にも詠まれており、古くから人々に親しまれてきました。また、交通路として、農業・生活・工業用水の供給源としてもかぎらない恵みをもたらしています。その一方で、過去にたびたび恐ろしい水害を引き起こしてきました。国土交通省ではこのような災害を未然に防ぐため、様々な対策を講じています。首都圏の安全性を確保するための氾濫区域の堤防強化対策事業もその一環です。

本事業地のある加須・羽生・久喜地区には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しています。今回、発掘調査を行った羽生市の東畑遺跡もその一つです。発掘調査は同事業に伴う事前調査であり、国土交通省関東地方整備局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

東畑遺跡では、中世から近世にかけて連綿と生活が営まれていた集落跡がみつかりました。また、多くの陶磁器類とともに漆碗や鉄鍋・鉄瓶が出土し、当時の暮らしぶりをうかがうことができました。さらに、天明3年(1783)に起こった浅間山の大噴火と、その後起こった利根川の洪水の被害から遅く復興した村の様子をとらえることができました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また、学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部文化資源課をはじめ、国土交通省関東地方整備局、羽生市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成30年11月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理事長 藤田 栄二

例 言

1. 本書は羽生市に所在する東畑遺跡の発掘調査報告書である。

2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

東畑遺跡

羽生市下村君東畑2305-1 他

平成24年9月3日付け教生文第2-34号

3. 発掘調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策に伴う埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課（当時）が調整し、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4. 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。発掘調査事業（平成24年度）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策（加須・羽生・久喜地区）における平成24年度埋蔵文化財発掘調査」

整理・報告書作成事業（平成29・30年度）

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成29年度発掘調査（整理）（東畑遺跡）」

「首都圏氾濫区域堤防強化対策における平成30年度発掘調査（整理）（東畑遺跡）」

5. 発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ-3に示した組織により実施した。

発掘調査は、平成24年9月1日から平成25年3月31日まで実施し、栗岡潤、的野美佐子が担当した。

整理報告書作成事業は、平成30年1月1日

から9月30日まで実施し、平成30年1月1日から3月31日までを福田聖、平成30年4月1日から9月30日までを渡邊理伊知が担当した。

報告書は、平成30年11月22日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第449集として印刷・刊行した。

6. 発掘調査における基準点測量は有限会社ジオプランニングに委託した。

7. 発掘調査における空中写真撮影は中央航業株式会社へ委託した。

8. 発掘調査における自然科学分析は株式会社バレオ・ラボに委託した。

9. 発掘調査における写真撮影は栗岡、的野が行い、出土遺物の写真撮影は渡邊が行った。

10. 出土品の整理・図版作成は福田、渡邊が行った。陶磁器・石製品・石造物については村山卓・砂生智江・水村雄功、金属製品については瀧瀬芳之・井上真帆、木製品については矢部睦の協力を得た。

11. 本書の執筆は、Ⅰ-1を埼玉県教育局市町村支援部文化資源課、その他を渡邊が行った。

12. 本書の編集は渡邊が行った。

13. 本書にかかる諸資料は平成30年12月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。

14. 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の方々、関係機関の皆様から御教示・御協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略五十音順）。
中島利治 成田涼子 藤澤良祐 堀内秀樹
羽生市教育委員会

凡 例

1. 遺跡全体におけるX・Yの数値は、世界測地系、国家標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

H-6グリッド北西杭の座標は、X=22770.000m、Y=-22550.000m、北緯36° 12′ 29.3542″、東経139° 34′ 45.4442″、標高は15.808mである。

2. 調査に際して使用したグリッドは、国土標準平面直角座標に基づく10×10mの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を組んだ。
3. グリッドの名称は、北西隅を基点に、北から南方向にアルファベット（A・B・C…）、西から東方向に数字（1・2・3…）を付し、表記は両者を組み合わせて、B-5グリッドとした。

4. 本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S B…建物跡 S D…溝跡

S E…井戸跡 S K…土壇

S O…道路跡 P…柱穴・ピット

5. 本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とし、スケールに表記した。

全体図 1/800 遺構図 1/60・1/30

遺物実測図・拓影図・合成図 1/8・1/6・1/5・1/4・2/3・1/3・1/2・1/1

6. 遺物実測図の表記方法は以下のとおりである。

・鉄5%、赤彩25%、墨書60%、赤色系漆10%、黒色系漆20%、煤30%、被熱（黒色化）

50%、被熱（赤色化）40%の網掛けで示した。

・施軸陶器は軸の範囲を一点鎖線及び15%の網掛けで示した。

7. 遺構断面図に表記した水準数値は、全て海拔標高（単位m）を表す。

8. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・種別は磁器、陶器、瓦質土器、土師質土器、かわらけ、須恵器、土師器、土製品、瓦、埴輪、鉄製品、銅製品、鉄滓、木製品、石製品と表記した。

・遺物計測値は原則cm、銭貨のみmm、重さはg単位とした。

・遺物計測値の（ ）は復元推定値、[]は残存計測値を示す。

・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。

A：雲母 B：片岩 C：角閃石 D：長石
E：石英 F：軽石 G：砂粒子 H：赤色粒子 I：白色粒子 J：針状物質 K：黒色粒子 L：その他 M：チャート

・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けて示した。

・残存率は器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

・備考には出土位置、注記No.、煤の付着、生産窯、年代、分類等を記した。

9. 本書に掲載した地形図類は、国土地理院発行の1/50,000地形図、羽生市発行の1/2,500都市計画図を編集のうえ、使用した。

10. 文中の引用文献等は、（著者 発行年）の順で表記し、その他の参考文献とともに巻末に掲載した。

目 次

巻頭図版

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1	5. 道路跡	124
1. 発掘調査に至る経過	1	6. 災害復旧痕	129
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	7. 柱穴・ピット	135
3. 発掘調査・報告書作成の組織	3	8. グリッド・調査区出土遺物	151
II 遺跡の立地と環境	4	V 自然科学分析	156
1. 地理的環境	4	1. 木材の放射性炭素年代測定	156
2. 歴史的環境	6	2. 花粉分析	159
III 遺跡の概要	11	VI 調査のまとめ	161
IV 遺構と遺物	20	1. 遺構の時期区分	161
1. 掘立柱建物跡	20	2. 主な遺構について	161
2. 井戸跡	20	3. 主な遺物について	164
3. 溝跡	52		
4. 土壌	110		

写真図版

挿図目次

第1図 埼玉県の地形	5	第12図 東畑遺跡分割図(5)	18
第2図 周辺の地形	5	第13図 東畑遺跡分割図(6)	19
第3図 周辺の遺跡	9	第14図 第1号掘立柱建物跡	21
第4図 基本層序	11	第15図 井戸跡(1)	23
第5図 遺跡の位置図	12	第16図 井戸跡(2)	24
第6図 遺跡周辺の断面模式図	12	第17図 井戸跡(3)	25
第7図 東畑遺跡全体図	13	第18図 井戸跡(4)	26
第8図 東畑遺跡分割図(1)	14	第19図 井戸跡(5)	29
第9図 東畑遺跡分割図(2)	15	第20図 井戸跡(6)	30
第10図 東畑遺跡分割図(3)	16	第21図 井戸跡(7)	32
第11図 東畑遺跡分割図(4)	17	第22図 井戸跡出土遺物(1)	34

第23図	井戸跡出土遺物 (2)	35	第60図	溝跡出土遺物 (7)	80
第24図	井戸跡出土遺物 (3)	36	第61図	溝跡出土遺物 (8)	81
第25図	井戸跡出土遺物 (4)	37	第62図	溝跡出土遺物 (9)	82
第26図	井戸跡出土遺物 (5)	38	第63図	溝跡出土遺物 (10)	83
第27図	井戸跡出土遺物 (6)	39	第64図	溝跡出土遺物 (11)	84
第28図	井戸跡出土遺物 (7)	40	第65図	溝跡出土遺物 (12)	85
第29図	井戸跡出土遺物 (8)	41	第66図	溝跡出土遺物 (13)	86
第30図	井戸跡出土遺物 (9)	42	第67図	溝跡出土遺物 (14)	87
第31図	井戸跡出土遺物 (10)	43	第68図	溝跡出土遺物 (15)	88
第32図	井戸跡出土遺物 (11)	44	第69図	溝跡出土遺物 (16)	89
第33図	井戸跡出土遺物 (12)	45	第70図	溝跡出土遺物 (17)	90
第34図	井戸跡出土遺物 (13)	46	第71図	溝跡出土遺物 (18)	91
第35図	井戸跡出土遺物 (14)	47	第72図	溝跡出土遺物 (19)	92
第36図	井戸跡出土遺物 (15)	48	第73図	溝跡出土遺物 (20)	93
第37図	第1号溝跡	56	第74図	溝跡出土遺物 (21)	94
第38図	第2号溝跡 (1)	57	第75図	溝跡出土遺物 (22)	95
第39図	第2号溝跡 (2)・木材出土状況	58	第76図	溝跡出土遺物 (23)	96
第40図	第3・4号溝跡	59	第77図	溝跡出土遺物 (24)	97
第41図	第5・7・9号溝跡	60	第78図	溝跡出土遺物 (25)	98
第42図	第6・8号溝跡	61	第79図	溝跡出土遺物 (26)	99
第43図	第10・11号溝跡	62	第80図	溝跡出土遺物 (27)	100
第44図	第12・13・15号溝跡	63	第81図	溝跡出土遺物 (28)	101
第45図	第14号溝跡	64	第82図	溝跡出土遺物 (29)	102
第46図	第16・17号溝跡	65	第83図	土壌 (1)	112
第47図	第18号溝跡	66	第84図	土壌 (2)	113
第48図	第19号溝跡	67	第85図	土壌 (3)	114
第49図	第20～24号溝跡	68	第86図	土壌 (4)	115
第50図	第25～27号溝跡	69	第87図	土壌 (5)	116
第51図	第28～30号溝跡	70	第88図	土壌 (6)	117
第52図	第31号溝跡	71	第89図	土壌出土遺物 (1)	118
第53図	第32～34号溝跡	72	第90図	土壌出土遺物 (2)	119
第54図	溝跡出土遺物 (1)	74	第91図	土壌出土遺物 (3)	120
第55図	溝跡出土遺物 (2)	75	第92図	土壌出土遺物 (4)	121
第56図	溝跡出土遺物 (3)	76	第93図	土壌出土遺物 (5)	122
第57図	溝跡出土遺物 (4)	77	第94図	第1号道路路跡	125
第58図	溝跡出土遺物 (5)	78	第95図	第1号道路路跡硬化面範囲	126
第59図	溝跡出土遺物 (6)	79	第96図	第1号道路路跡出土遺物 (1)	127

第97図	第1号道路跡出土遺物(2).....	128
第98図	災害復旧痕全体図.....	130
第99図	災害復旧痕群1.....	131
第100図	災害復旧痕群2・3.....	132
第101図	災害復旧痕群4.....	133
第102図	災害復旧痕群1～3出土遺物.....	134
第103図	柱穴・ピット分布図(1).....	136
第104図	柱穴・ピット分布図(2).....	137
第105図	柱穴・ピット分布図(3).....	138
第106図	柱穴・ピット分布図(4).....	139
第107図	柱穴・ピット分布図(5).....	140
第108図	柱穴・ピット分布図(6).....	141
第109図	柱穴・ピット分布図(7).....	142

第110図	柱穴・ピット出土遺物.....	150
第111図	グリッド・調査区出土遺物(1) ..	152
第112図	グリッド・調査区出土遺物(2) ..	153
第113図	グリッド・調査区出土遺物(3) ..	154
第114図	ウィグルマッピング結果.....	158
第115図	年代測定を行った木材(PLD-22948 ～22950)と年輪計測結果.....	158
第116図	東畑遺跡(SD2下層)における 花粉分布図.....	160
第117図	東畑遺跡(SD2下層)から産出した 花粉・胞子.....	160
第118図	東畑遺跡時期区分図.....	162

表目次

第1表	周辺の遺跡一覧.....	10
第2表	井戸跡一覧表.....	33
第3表	井戸跡出土遺物観察表.....	49
第4表	溝跡一覧表.....	73
第5表	溝跡出土遺物観察表.....	103
第6表	土壇一覧表.....	117
第7表	土壇出土遺物観察表.....	123
第8表	第1号道路跡出土遺物観察表.....	129
第9表	災害復旧痕出土遺物観察表.....	134
第10表	災害復旧痕一覧表.....	135

第11表	柱穴・ピット一覧表.....	143
第12表	柱穴・ピット土層類型表.....	149
第13表	柱穴・ピット出土遺物観察表.....	151
第14表	グリッド・調査区出土遺物観察表 ..	155
第15表	ウィグルマッピング測定試料 および処理.....	158
第16表	放射性炭素年代測定、暦年校正、 ウィグルマッピングの結果.....	158
第17表	産出花粉・胞子一覧.....	160

写真図版目次

巻頭図版1	調査区遠景(北東から)
2	第2号溝跡出土遺物
図版1 1	調査区垂直写真
図版2 1	調査区全景(南西から)

2	第1号掘立柱建物跡(東から)
3	第1号井戸跡(東から)
4	第3号井戸跡(南から)
5	第4号井戸跡(東から)

図版 3	1	第5号井戸跡遺物出土状況	3	第28号井戸跡 (東から)
	2	第5号井戸跡 (西から)	4	第29号井戸跡 (西から)
	3	第6号井戸跡 (西から)	5	第30号井戸跡 (西から)
	4	第8号井戸跡 (南から)	6	第31号井戸跡遺物出土状況
	5	第7号井戸跡遺物出土状況	7	第31号井戸跡 (西から)
図版 4	1	第7号井戸跡 (南から)	8	第32号井戸跡 (南から)
	2	第9号井戸跡遺物出土状況 (1)	図版 8	第33号井戸跡遺物出土状況
	3	第9号井戸跡遺物出土状況 (2)		第33号井戸跡 (南から)
	4	第9号井戸跡遺物出土状況 (3)		第34号井戸跡 (南から)
	5	第9号井戸跡 (東から)		第35号井戸跡 (南から)
図版 5	6	第11号井戸跡 (東から)		第36号井戸跡 (西から)
	7	第12号井戸跡 (北から)		第37号井戸跡 (西から)
	8	第13号井戸跡 (東から)		第38号井戸跡 (西から)
	1	第14号井戸跡 (東から)	図版 9	第39号井戸跡遺物出土状況
	2	第15号井戸跡 (北から)		第40号井戸跡 (西から)
図版 6	3	第16号井戸跡 (東から)		第41号井戸跡 (西から)
	4	第17号井戸跡 (南から)		第42号井戸跡 (北から)
	5	第18号井戸跡遺物出土状況 (1)		第43号井戸跡 (西から)
	6	第18号井戸跡遺物出土状況 (2)		第44号井戸跡 (西から)
図版 7	7	第18号井戸跡遺物出土状況 (3)		第45・46・51号井戸跡 (西から)
	8	第18号井戸跡 (南から)	図版 10	第47号井戸跡 (東から)
	1	第19号井戸跡 (南西から)		第48号井戸跡遺物出土状況
	2	第20号井戸跡 (東から)		第48号井戸跡 (西から)
	3	第21号井戸跡遺物出土状況		第49号井戸跡 (西から)
図版 8	4	第21号井戸跡 (東から)		第50号井戸跡 (北から)
	5	第22号井戸跡 (東から)	図版 11	第1号溝跡 (南から)
	6	第23号井戸跡 (東から)		第2号溝跡遺物出土状況 (1)
	7	第24号井戸跡 (東から)		第2号溝跡遺物出土状況 (2)
	8	第25号井戸跡 (東から)		第2号溝跡遺物出土状況 (3)
図版 9	1	第26号井戸跡 (東から)		第2号溝跡遺物出土状況 (4)
	2	第27号井戸跡 (東から)		第2号溝跡 (東から)
			図版 12	第2・5号溝跡 (1) (東から)
				第2・5号溝跡 (2) (東から)
				第3号溝跡 (1) (東から)
				第3号溝跡 (2) (東から)
				第2～5号溝跡 (1) (東から)
				第2～5号溝跡 (2) (東から)

図版13	6	第6・8号溝跡（東から）	図版18	6	第19号土壇（東から）
	7	第7号溝跡（北から）		7	第20号土壇（西から）
	8	第8号溝跡遺物出土状況		8	第22号土壇（西から）
	1	第10号溝跡		1	第23号土壇（西から）
	2	第10号溝跡（南から）		2	第24号土壇（西から）
	3	第10号溝跡（南西から）		3	第25号土壇（西から）
	4	第10号溝跡（北西から）		4	第26号土壇（南西から）
	5	第12・13号溝跡（西から）		5	第27号土壇（西から）
図版14	6	第13・15号溝跡（東から）	図版19	6	第39号土壇（東から）
	7	第16号溝跡（東から）		7	第40・41号土壇（南西から）
	8	第17号溝跡（南から）		8	第42・43号土壇（東から）
	1	第18号溝跡（南から）		1	第45号土壇（西から）
	2	第19号溝跡（南東から）		2	第46号土壇（東から）
	3	第20～24号溝跡（南から）		3	第50号土壇（東から）
	4	第25・26号溝跡（東から）		4	第51号土壇（西から）
	5	第27号溝跡（東から）	図版20	5	第51号土壇遺物出土状況
図版15	6	第28号溝跡（南から）		1	第52号土壇（南から）
	7	第29・30号溝跡（南から）		2	第53号土壇（南東から）
	8	第31・33・34号溝跡（南から）		3	第54号土壇（南東から）
	1	第32号溝跡（東から）		4	第55号土壇（西から）
	2	第1号土壇（東から）		5	第1号道路跡（1）（北から）
	3	第2号土壇（東から）		6	第1号道路跡（2）（北から）
	4	第3号土壇（東から）		7	災害復旧痕（1）（西から）
	5	第4号土壇（南から）		8	災害復旧痕（2）（西から）
図版16	6	第5号土壇（南から）	図版21	1～12	第9号井戸跡
	7	第6号土壇（南から）		13	第17号井戸跡
	8	第7号土壇（北東から）		14	第18号井戸跡
	1	第8号土壇（北から）	図版22	15	第28号井戸跡
	2	第9～11号土壇（東から）		1	第31号井戸跡
	3	第12号土壇（西から）		2	第39号井戸跡
	4	第13号土壇（南から）	図版23	3	第42号井戸跡
	5	第14号土壇馬骨検出状況（1）		4	第43号井戸跡
図版17	1	第14号土壇馬骨検出状況（2）		5	第49号井戸跡
	2	第14号土壇（西から）	図版24	6～13	第2号溝跡
	3	第16号土壇（北東から）		1～12	第2号溝跡
	4	第17号土壇（東から）		13・14	第6号溝跡
	5	第18号土壇（北から）		1・2	第6号溝跡

	3	第8号溝跡
	4～6	第9号溝跡
	7・8	第10号溝跡
	9	第14号溝跡
	10～13	第17号溝跡
	14	第1号土壇
	15	第26号土壇
図版25	1	第38号土壇
	2・3	第49号土壇
	4・5	第1号道路跡
	6	H-7P1
	7	E-9グリッド
	8	I-5グリッド
	9	J-3グリッド
	10	調査区
	11	第4・6・12・16・18・21・ 35・36・43号井戸跡
図版26	1	第44・45・48・49号井戸跡
	2	第48号井戸跡
	3	第1・2号溝跡
図版27	1・2	第2号溝跡
	3	第3・6～9号溝跡
図版28	1	第9・10号溝跡
	2	第10～13・16・17号溝跡
	3	第17号溝跡
図版29	1	第17号溝跡
	2	第17・18・24号溝跡
	3	第18・24・25・29・30・32号 溝跡
図版30	1	第1・19・26・35・38・41・ 42・49・53号土壇
	2	第1号道路跡
	3	復旧痕13・18・21・23・ E-10P78・H-7P1

図版31	1	グリッド・調査区
	2～5	第7号井戸跡
	6・7	第9号井戸跡
図版32	1～6	第9号井戸跡
	7	第40号井戸跡
図版33	1	第42号井戸跡
	2・3	第43号井戸跡
	4	第43・50号井戸跡
	5・6	第48号井戸跡
	7	第2号溝跡
図版34	1	第2号溝跡
	2	第22号溝跡
	3	第29号溝跡
	4	第46号土壇
	5	第49号土壇
	6・7	第51号土壇
	8・9	第1号道路跡
	10	E-9P161
	11～13	調査区
	14	第5号井戸跡
	15	第21号井戸跡
図版35	1	第39号井戸跡
	2	第43号井戸跡
	3	第49号井戸跡
	4	第2号溝跡
	5	第17号溝跡
	6・7	第49号土壇
	8	木製品
図版36	1～3	木製品
図版37	1・2	第2号溝跡
図版38	1	第2号溝跡
	2	鉄・銅製品
	3	銭貨

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所では「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画【大臣管理区間】」に基づき、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業として、利根川右岸の堤防を拡幅し、強化する事業を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課では、国が実施するこうした公共開発事業に係る埋蔵文化財の保護について、従前より関係機関と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に係る埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、利根川上流河川事務所長から平成17年1月20日付け利上沿第18号で、埼玉県教育委員会教育長あて、埋蔵文化財の所在及びその取扱いについて照会がなされた。

事業予定区域については埼玉県指定旧跡や周知の埋蔵文化財包蔵地が所在すること、埋蔵文化財の詳細な状況等を把握するための確認調査を実施する必要がある旨を、平成17年3月17日付け教生文第1780号で回答した。

当該箇所については、平成22年11月18日に試掘調査を実施した。その結果、近世の遺構、遺物が検出された。

この結果をもとに平成23年1月18日付け教生文第1865-1号で、東畑遺跡の取扱いについて次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

事業予定地には次の周知の埋蔵文化財包蔵地が所在します。

名称	種別	時代	所在地
東畑遺跡 (No.70-89)	河岸跡 街道跡	南北朝・戦 国・江戸	羽生市大 字下村君 字東畑

2 法手続

工事予定地内には上記の埋蔵文化財包蔵地が所在しますので、工事を行う場合には、工事着手前に文化財保護法第94条の規定による発掘通知を提出してください。

3 取扱いについて

「発掘調査を要する区域」については、工事計画上やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施してください。

その後、取扱いについて協議を重ねたが、現状保存が困難であることから記録保存の措置を講ずることとなった。

調査に際し、発掘調査実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と、国土交通省関東地方整備局利根川上流河川事務所、生涯学習文化財課（当時）の三者で、工事日程、調査計画、調査期間などについて定期的に会議を開催し、各種の調整を行った。

文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が利根川上流河川事務所長から平成24年2月9日付け国関利上沿第27号で、埼玉県教育委員会教育長あて提出された。それに対する埼玉県教育委員会教育長からの発掘調査が必要な旨の勧告は下記のとおりである。

平成24年2月9日付け教生文第4-1337号

また同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され、それに対する埼玉県教育委員会教育長からの指示通知は下記のとおりである。

平成24年9月3日付け教生文第2-34号

（埼玉県教育局市町村支援部文化資源課）

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

東畑遺跡の調査は、首都圏氾濫区域堤防強化対策事業に先立ち、平成24年度(第1次)に実施した。調査面積は5,754.92㎡である。

調査は平成24年9月1日から平成25年3月31日まで実施した。

事前準備として、平成24年9月4日から6日にかけて囲柵工事、9月6日に発掘事務所の設置工事、9月10日から12日にかけて動力設置工事を行った。

重機による表土除去作業は、第1回目を9月6日から28日にかけて実施した。9月10日からは補助員による作業を開始し、遺構確認作業を行った。

遺構測量用の基準点測量及びグリッド杭打設作業は、表土除去作業終了後に、第1回目を9月20日から26日にかけて実施した。12月13日から平成25年1月23日にかけて第2回目の表土掘削を行い、引き続いて下層掘削を1月24日から29日に実施した。第2回目の基準点測量及びグリッド杭打設作業は1月28日から2月4日にかけて実施した。

確認作業の結果、中世後半から近世にかけての遺構が検出された。これらの遺構は作業の進行に合わせて、順次、土層断面図、遺構平面図、写真撮影等の記録作成作業を行った。空中写真撮影は第1回目を平成24年12月11日、第2回目を平成25年3月5日に実施した。平成25年3月12日から25日に重機により危険箇所の埋め戻しを行い、現地調査を終了した。

平成25年3月22日には遺物、器材を撤収して現地調査を終了した。3月27日に埋蔵物発見届(羽生警察署長あて)と埋蔵文化財保管証(埼玉県教育委員会あて)を提出し、実績報告書作成等の事務処理を行い、3月31日に終了した。

(2) 整理・報告書の作成

整理・報告書の作成作業は、平成30年1月1日から9月30日まで実施した。

平成29年度の作業は、出土遺物の水洗・注記から開始し、直ちに接合・復元に着手した。復元を終えた遺物は順次実測・トレース・採拓を経て、遺構ごとに印刷用の挿図を作成した。実測には磁気式3次元位置測定装置、正射投影画像撮影機などを用い、効率化を図った。

遺構の断面図や平面図等は、必要に応じて修正を行い、第二原図を作成し、これをスキャナでパソコンに取り込み、画像編集ソフトを用いてトレースを行った。

平成30年度も引き続き、残りの遺物の水洗・注記・接合・復元・実測・トレース・採拓の作業を進めた。8月には遺物の写真撮影を行い、これらの編集に着手した。同時に、遺構図面類のトレースを継続して行い、土層説明等を組み込んで、印刷用の版下とした。

9月までに原稿執筆を終え、報告書の編集を行った。入稿後、3回の校正を経て、平成30年11月22日に、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第449集『東畑遺跡』(本書)を刊行した。

なお、図面や写真などの記録類や遺物は、平成30年11月に整理分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成24年度（発掘調査）

理 事 長	中 村 英 樹	調査部	
常務理事兼総務部長	根 本 勝	調 査 部 長	昼 間 孝 志
総務部		調 査 部 副 部 長	鷗 持 和 夫
総 務 部 副 部 長	富 田 和 夫	調 査 第 二 課 長	黒 坂 禎 二
総 務 課 長	矢 島 将 和	主 査	栗 岡 潤
		主 事	的 野 美 佐 子

平成29年度（報告書作成）

理 事 長	塩野谷 孝 志	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	赤 熊 浩 一
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	吉 田 稔
総 務 部 副 部 長	黒 坂 禎 二	主 査	福 田 聖
総 務 課 長	曾 川 浩 二		

平成30年度（報告書作成）

理 事 長	藤 田 栄 二	調査部	
常務理事兼総務部長	川 目 晴 久	調 査 部 長	瀧 瀬 芳 之
総務部		調査部副部長兼整理第二課長	山 本 靖
総 務 部 副 部 長	田 中 広 明	主 任	渡 邊 理 伊 知
総 務 課 長	新 井 了 悟		

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

埼玉県は、盆地と周辺の山地からなる県西部地域、荒川から西にかけての武蔵野台地・入間台地・高坂台地・東松山台地・江南北台地などからなる県中部地域、荒川低地・中川低地と大宮台地などの低台地からなる県東部地域に分かれ、西高東低の地形である。また、利根川と荒川を中心とした河川が多く流れている。中部地域から東部地域にかけては全体的に平坦な地形であるため、河床勾配も緩く、蛇行している河川も多いことから洪水が起きやすい土地が多い。県全体の面積に対する河川面積の占める割合は3.9%で、この割合は日本一であり、埼玉県は河川との関わりが深い県といえる。

東畑遺跡は、東武伊勢崎線羽生駅から東北東約7kmにあたる羽生市下村君に所在する。羽生市は埼玉県の北東部県境に位置し、利根川を挟んで群馬県邑楽郡板倉町、明和町と接する。また、西側は行田市、南東側は加須市と接している。

市内には東武伊勢崎線や秩父鉄道秩父本線が乗り入れ、秩父本線起点駅の羽生駅が所在する。そのほか市内には、東武伊勢崎線の南羽生駅、秩父本線の西羽生駅、新郷駅がある。道路網は県北地域を横断する国道125号バイパスと市内を縦断する国道122号バイパスが通っている。また、東畑遺跡の西側で東北自動車道が利根川を渡っており、首都圏と北関東や東北地方を結ぶ交通網の要衝といえる地域である。

羽生市は北側を流れる大河、利根川とともに発展してきた。地味豊かな水田が広がる米どころとして知られるとともに、自然堤防の土壌が綿作や藍作に適していたことから綿栽培が盛んで、数百年の紺屋が営まれていたという。

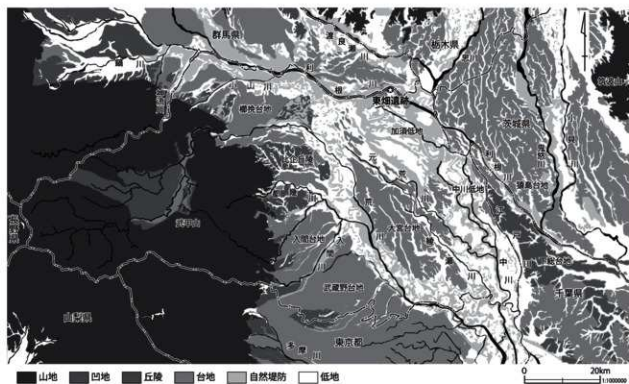
東畑遺跡の所在する下村君周辺は加須低地の利

根川に沿って形成された自然堤防にあたり、水田の中に屋敷林が混在する景観が広がっている。加須低地は埼玉平野の北東に位置し、利根川中流域低地の東半にあたる。東側を中川低地、西側を妻沼低地、南側は大宮台地と接し、北側は利根川を越えて館林台地と接している。加須低地は、河川による開析谷に沖積層が堆積した一般的な沖積低地とは異なり、関東造盆地運動によって、沈降した台地上に河川堆積物が堆積することによって形成された低地である。基盤は、大宮台地から館林台地にかけて連続するローム台地の大宮・館林台地である。羽生市付近は最も沈降の度合いが強い。古墳時代後期の小松1号墳は、地下3mに埋没した古墳として著名である。

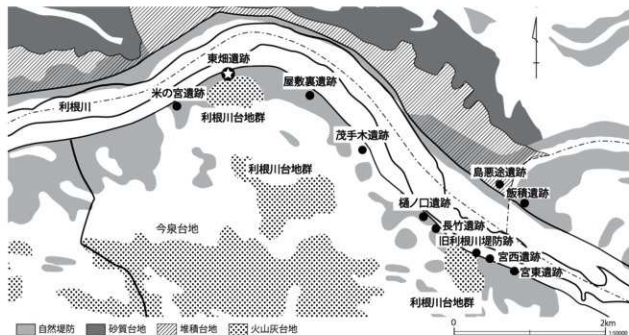
沈降前の利根川は現在の荒川筋を流れており、この造盆地運動によって現在の利根川の方へと遷移したとされている。しかし、その流路は安定せず、多くの蛇行する流路跡とそれに伴う自然堤防が形成された。本流筋としては、会の川、合の川、北川辺蛇行流路、浅間川が考えられ、それ以外にも細かな流路が推定されている。

本流筋のひとつである会の川に沿うように日本最大級の河畔砂丘が連なる状況からも、かつての流路を窺うことができる。隣接する加須市の志多見砂丘は国内に残る河畔砂丘の中でも最大級のものであり、平成26年(2014)には埼玉県指定天然記念物「中川低地の河畔砂丘群 志多見砂丘」に指定されている。

このように東畑遺跡の周辺はローム台地の沈降が進んでいる地域であり、利根川を中心とした河川の氾濫による堆積物によって形成された地形といえる。



第1図 埼玉県の地形



第2図 周辺の地形

2. 歴史的環境

東畑遺跡の所在する加須低地周辺は、台地の沈降と河川の乱流による堆積土に厚く覆われている。そのため遺跡の分布は未だ不明な部分が多く、現在発見されているよりも多くの遺跡が存在すると思われる。

後期旧石器時代

後期旧石器時代後半の遺跡は、加須低地では埋没台地上に立地する。羽生市谷田遺跡(6)、内容遺跡(35)、大道遺跡からナイフ形石器・剥片が出土した。

縄文時代

縄文時代草創期から早期の遺跡は利根川以南では知られておらず、北側の邑楽台地、猿島台地に分布するのみである。早期から前期の遺跡としては、板倉町岡西遺跡(78)で大量の土器が出土している。早期末には、海進による奥東京湾の形成とともに地点貝塚がみられるようになった。邑楽台地の谷田川北岸に位置する板倉町小保呂第1貝塚(73)、第2貝塚(74)ではマガキ・ヤマトシジミを中心とする貝層が検出された。

集落跡は、加須低地の埋没台地上に立地する堀口遺跡(10)、鍋田遺跡(11)、砂田遺跡(13)などで前期の土器が採集された。後期は低地域への進出が顕著になるとされているが、本地域においても利根川沿いの低地域にそれまでとは一転して遺跡が増加する。加須市長竹遺跡(44)では、関東地方でも屈指の環状盛土遺構が埋没した姿で発見され、膨大な遺物出土した。盛土遺構の中やその周辺からは、堅穴住居跡、掘立柱建物跡、土壇、埋甕、遺物集中などが検出されている。東畑遺跡の南西側3kmには、土面の出土で有名な羽生市発戸遺跡(16)があり、加曾利B～安行Ⅲ式の土器・石器が多く出土している。

弥生時代

弥生時代に入ると遺跡は小規模になり、ほとんど様相が不明になる。邑楽台地では、谷田川左岸

の沼田南遺跡から後期の上稲吉式の住居跡3軒が検出された。中期前半の板倉町雲間遺跡(84)は、墓域もしくは集落域と推定されている。

古墳時代

古墳時代前期の関東地方は、低地で遺跡が増加するが、周辺では屋敷裏遺跡(7)で展開するほかは米の宮遺跡(4)から住居跡が検出されたのみである。

周辺で遺跡数が本格的に増加するのは中期に入ってからである。近隣に位置する屋敷裏遺跡では、完形に近い須恵器の脚付長頸壺、脚付短頸壺、有蓋高環などの古墳の副葬品として用いられるような製品が出土した。利根川と合の川の合流点付近の自然堤防に立地する加須市飯積遺跡(59)は、5世紀後半から10世紀前半までの24軒もの住居跡が検出された拠点的な集落である。周辺では、飯積遺跡以外にも須賀遺跡(60)、山越遺跡(61)、麦倉遺跡(62)で古墳時代後期の土器が採集されている。利根川以南では加須市長竹遺跡、宮東遺跡(47)で中後期の住居跡が検出された。

利根川南側の埋没台地上には、群集墳が分布している。羽生市村君古墳群は、全長73mの永明寺古墳(5)、御廟塚古墳(2)、稲荷塚古墳(3)の現存する3基のほか、浅間塚跡、上村君八幡塚跡などの小円墳が存在したと伝えられている。

永明寺古墳は、礫層から緑泥片岩とともに耳環、鉄鋸、衝角付冑、挂甲小札、九思鈔付太刀片、刀子片、馬具(雲珠・鞍・轡・銚鉤・鉄地金銅張紙留金具)が出土し、6世紀前半の築造とされている。御廟塚古墳からは、緑泥片岩の破片、轡が出土したと伝えられている。稲荷塚古墳は径20m、高さ1.50mの墳丘があり、円筒埴輪、形象埴輪が出土した。

羽生市尾崎古墳群は、鷲宮神社古墳、遍照院古墳(18)、浅間塚古墳が現存する。この3基以外にも、耕作中に地表下1mほどから埴輪や主体部の

石材が何箇所からも出土することから、埋没古墳群が存在する地として知られている。

加須市大越古墳群は浅間塚古墳(42)、稲荷塚古墳(50)、八幡塚古墳(51)の3基が現存し、人物埴輪、円筒埴輪が伝えられている。加須市樋造川古墳群は御室塚古墳(54)、浅間塚古墳(55)、稲荷塚古墳(56)の3基の円墳が現存している。また西方にあたる消滅した宮西塚古墳からは、方格四獣鏡、ガラス玉、馬具(轡・辻金具・杏葉)、太刀片が出土し、6世紀中葉頃の築造とされている。以上の低地に分布する古墳群は、6世紀から7世紀代に築造されたと考えられており、当地域の集落遺跡の急速な形成と軌を一にしている。

古代

東畑遺跡の周辺は武蔵国埼玉郡に属していたと思われる。奈良時代の遺跡は、多くが古墳時代から継続して営まれている。概して住居跡は小型化し、分布は分散的である。

近隣の屋敷裏遺跡では26軒のまとまった集落跡が検出された。また、特筆すべき点として、国内で3例目の口琴が出土した。羽生市常木の茂手木遺跡(8)では平安時代の集落が確認され、「寺」や「秋」と記された複数の墨書土器や京都産緑釉陶器が出土した。

利根川の下流側に位置する長竹遺跡、宮西遺跡(46)、宮東遺跡では、平安時代に集落の規模が大きくなる。飯積遺跡では8世紀前半までは集落の規模が維持され、その後、縮小化が進んでいく。

生産遺跡としては下野国の三霞山窯跡群が7世紀末から操業を始める。また、下総国の三和窯は9世紀からの生産が認められる。ほかに加須市水深遺跡では、8世紀中葉から9世紀にかけての土師器焼成坑65基が検出された。

中世

東畑遺跡周辺は、平安時代末期に成立した八条院領荘園の一つである太田荘に属する。太田荘は、おおそ大落古利根川の流域一帯に広がる広範囲

な荘園で、北は羽生市、南はさいたま市岩槻区周辺にまで及ぶ。太田荘の初見は、『吾妻鏡』の文治4年(1188)6月4日条に「八条院領武蔵国太田荘」と記されたものである。久喜市鷲宮に所在する鷲宮神社に残される文禄4年(1595)の「鷲宮神社棟札」によると、創建当時は66の村が存在した。また、鷲宮神社の支社(鷲神社)が鎮守として分布している範囲が、太田荘の範囲にあたることされている(宮代町教育委員会編2002)。

太田荘を開発した藤原秀郷流太田氏の太田行尊は「太田大夫」・「太田別当」を称していた。太田氏の傍流にあたる太田政光は下野国小山に移り、小山氏と称するようになる。政光の子の小山朝政は源頼朝に従い、治承寿永の乱や奥州合戦において活躍し、鎌倉幕府の有力御家人として下野国を中心に勢力を拡大していく。一方、惣領である太田氏は、建久5年(1194)6月に太田行朝が久伊豆神社の神人を殺傷したことにより、太田荘の荘司職を解かれ没落していく。

その後、貞和5年(1349)頃に成立したとされる軍記物『梅松論』によると、足利尊氏と新田義貞が争った建武2年(1335)の箱根竹之下合戦において小山常大丸が足利尊氏に従い戦功を挙げ、その恩賞として太田荘を得たとされる。しかし、康暦2年(1380)に小山義政が鎌倉公方足利氏満に対して起こした反乱(小山義政の乱)を契機として小山氏嫡流が滅亡し、太田荘は鎌倉公方に没収された。

本遺跡から南に200mほどに真言宗豊山派永明寺が所在する。永明寺には延慶二年(1309)八月銘釈迦主尊の板碑2枚、正中三年(1326)銘の阿彌陀三尊板碑1枚がある。同寺は鎌倉時代の銅像阿彌陀如来立像、貞治六年(1367)の胎内墨書がある木造薬師如来坐像が伝えられ、同寺が鎌倉時代まで遡る寺院であったのは確実であろう。また、下村君松ノ木観音堂には建治二年(1276)阿彌陀主尊の板碑が見られる。

東畑遺跡の西側に位置する米の宮遺跡は、13世

紀後半から15世紀前半にかけての遺跡である。大規模な区画溝、掘立柱建物跡、竪穴状遺構、井戸跡、馬の埋葬土壌などが検出された。

村君周辺より3kmほど南東の加須市大越に所在する真言宗豊山派徳性寺は、文政13年(1830)に完成した『新編武蔵風土記稿』に「小山朝政の祈願所」とあり、小山義政が再興したと記されている。近隣には加須市指定史跡の「小山朝政の墓」とされる宝篋印塔がみられ、「右志者覺遠菩提也 貞和元乙酉二十九敬白」の銘文に貞和元年(1345)の年号が刻まれている。『吾妻鏡』によれば、小山朝政は嘉禎4年(1238)3月30日、84歳で卒したと記されている。この宝篋印塔が実際に小山朝政に関わるものであれば、子孫が建てた供養塔となる。

加須市大越に所在する宮西遺跡、宮東遺跡、旧利根川堤防跡(45)からは、中世の遺構が多く検出された。宮西遺跡、宮東遺跡では、15世紀から16世紀代を中心とする土壌、井戸跡、溝跡等が検出された。宮西遺跡の西側に位置する旧利根川堤防跡からは、16世紀後半に築堤され近代まで拡張を繰り返しながら機能していた旧堤防跡が検出された。その下層からは、15世紀から16世紀後半にかけての集落域と墓域が検出されている。

以上のように、村君や大越の周辺では一連の調査によって東畑遺跡と同時期にあたる中世の遺構、遺物が多く検出されている。

他に羽生市内では、藤井上組に羽生市指定史跡「堀越家五輪塔」が立地するとともに、堀越屋敷跡において、屋敷跡に伴うと想定される堀跡が検出されている。

近世

近世の東畑遺跡の周辺では、江戸幕府によって中川低地の水害防止と開拓、江戸への舟運の整備を目的とした利根川の瀬替えが行われた。

文禄3年(1594)、忍城城主松平忠吉の命を受けた忍藩家老小笠原三郎左衛門が羽生市上新郷で会

の川を締め切ったのに端を発する。

元和7年(1621)に加須市大利根佐波から猿島郡釈迦沼までを開削、2度の拡張、増掘を経て、天保9年(1838)に合の川と浅間川が完全に締め切られた。その後、下流の大越には黒田河岸と鈴木河岸が設けられ、北埼玉地域の物資の集積地となり繁栄した。

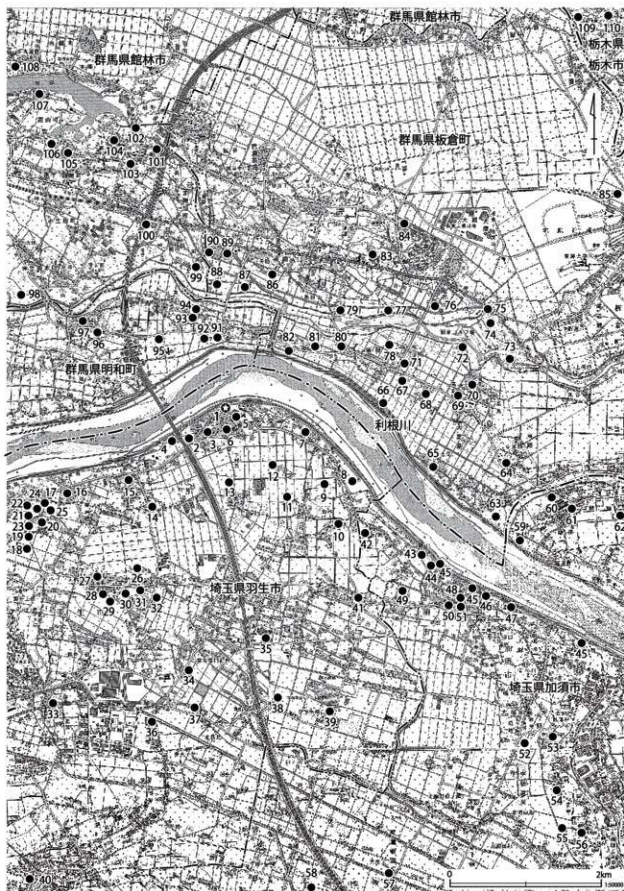
また、羽生市内には日光脇往環が通り、利根川堤防上に川俣関が置かれた。

天明3年(1783)には浅間山が噴火し、その際に発生した泥流によって利根川の河床が上昇し、洪水が頻発する状況が生み出された。大越の旧利根川堤防跡では、この時に降灰した火山灰が堤防の法面に堆積している状況が確認された。

天明3年の浅間山噴火による災害の痕跡は、群馬県側で多く確認されている。佐波郡玉村町の利根添遺跡では、利根川の支流である旧矢川に伴う堤防が検出され、この堤防が旧矢川ごと浅間山噴火の泥流によって埋没し、廃絶したことが確認された。また、邑楽郡板倉町に所在する島悪途遺跡(63)では、江戸初期頃に開かれた畠が幾度も洪水を受けながら耕作が行われていた様子が確認された。

利根川対岸の上野国側は館林城の領内であった。館林城は、徳川家康の関東入府以降は利根川を掌握する重要拠点として幕府重鎮の居城となり、榊原氏、松平氏(大給)、徳川氏(館林)、松平氏(越智)、太田氏、井上氏、秋元氏が城主となった。

羽生領やその周辺は、その豊富な水源と肥沃な土地に恵まれ小麦の生産が盛んである。加須市内に所在する不動ヶ岡不動尊総願寺には、館林城の城主であった松平清武へ「温饅粉」を献上した際の礼状が残されており、羽生領と館林領との交流の様子が窺える。付近には上野国への渡船場としての役割を担った下村君の河岸があり、東畑遺跡も上野国の館林領と武蔵国の羽生領を結ぶ重要な結節点としての役割を担ったものと思われる。



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡一覧

No.	遺跡名	所在	時代	No.	遺跡名	所在	時代
1	東畑遺跡	埼玉県 加須市	中世、近世	56	稲荷塚古墳	埼玉県 加須市	古墳
2	御前塚古墳		古墳	57	鶴ヶ塚古墳		古墳
3	稲荷塚古墳		古墳	58	下谷遺跡		古墳
4	米の宮遺跡		古墳(前)、古代、中世	59	飯積遺跡		古墳(後)、古代
5	永明寺古墳		古墳	60	須賀遺跡		古墳(後)
6	谷田遺跡		旧石器	61	山越遺跡		古墳(後)
7	屋敷裏遺跡		縄文、弥生、古墳(前・後)、 古代、中世	62	友倉遺跡		古墳(後)
8	茂手木遺跡		古墳(後)、古代	63	島慈途遺跡		中世、近世
9	本宮遺跡		縄文、古墳(後)	64	宇那根中世墓		中世
10	堀口遺跡		縄文	65	大久保中世墓		中世
11	鍋田遺跡		縄文、古代	66	城遺跡		古墳(後)
12	天王遺跡		縄文、弥生、古墳(後)、古 代	67	辻遺跡		縄文、弥生
13	砂田遺跡		縄文、古墳(後)、古代	68	登戸遺跡		弥生、古墳
14	上村君沖遺跡		縄文、古墳、古代	69	大塚山古墳		古墳
15	風雲遺跡		古墳(後)、古代	70	稲荷神社古墳		古墳
16	免戸遺跡		縄文	71	岡村遺跡		縄文
17	免戸跡畑遺跡		古墳	72	伊勢ノ木遺跡		縄文、古墳(後)、古代
18	瀬戸院古墳	埼玉県 羽生市	旧石器、縄文、弥生、古墳	73	小保呂第1貝塚	群馬県 板倉町	縄文
19	尾崎古墳群第2号墳		古墳	74	小保呂第2貝塚		縄文、古代
20	尾崎古墳群第3号墳		古墳	75	板倉遺跡		縄文
21	尾崎古墳群第4号墳		古墳	76	藤ノ木古墳		古墳
22	尾崎古墳群第5号墳		古墳	77	花和田遺跡		古墳(後)、古代
23	尾崎古墳群第6号墳		古墳	78	岡西遺跡		縄文、古墳(前・後)
24	尾崎古墳群第8号墳		古墳	79	沼田南遺跡		古墳(後)、古代
25	尾崎古墳群第9号墳		古墳	80	松ノ木古墳		古墳
26	大口遺跡		縄文、古墳(後)、古代	81	中古墳		古墳
27	熊野塚古墳		古墳	82	新村下遺跡		古代
28	天神塚古墳群		古墳	83	宝福寺遺跡		中世
29	西原遺跡		古墳	84	雲間遺跡		弥生
30	稲荷山古墳		古墳	85	寺西貝塚		縄文
31	観音塚古墳		古墳	86	道明山古墳		古墳
32	外之内遺跡		古墳(後)、古代	87	八反遺跡		古墳、中世
33	北谷遺跡		古代	88	長良遺跡		古墳、中世
34	内野遺跡		古代	89	筑波山古墳		古墳
35	内谷遺跡	埼玉県 加須市	旧石器	90	船山古墳	群馬県 明和町	古墳
36	天神塚古墳		古墳	91	富士塚古墳		古墳
37	高橋遺跡		縄文、古代	92	稲荷塚古墳		古墳
38	赤鶴人馬遺跡		縄文	93	愛宕塚古墳		古墳
39	惣達遺跡		縄文	94	葉王寺古墳		古墳
40	葛瀬氏館		中世	95	斗合田遺跡		弥生
41	三田ヶ谷本村遺跡		縄文、古代	96	江黒古墳		古墳
42	浅間塚古墳		古墳	97	上江黒遺跡		古墳(後)
43	樋ノ口遺跡		縄文、古代、近世	98	宮内遺跡		縄文、古代
44	長竹遺跡		縄文、古墳(後)、古代	99	瀬ノ上古墳		古墳
45	田利根川堤防跡		中世、近世	100	赤生田遺跡		縄文
46	宮西遺跡		古代、中世	101	白敷城跡		中世
47	宮東遺跡		古墳(後)、古代、中世	102	町谷1号墳		古墳
48	正伝木遺跡		縄文、古墳、古代	103	町谷2号墳		古墳
49	別所遺跡		古代	104	下志柄古墳		古墳
50	稲荷塚古墳		古墳	105	富士山古墳		古墳
51	八幡塚古墳		古墳	106	大袋城跡	栃木県 栃本市	旧石器、古墳(前)、中世
52	石子塚古墳		古墳	107	大袋遺跡		旧石器、古墳(前)
53	穴塚古墳		古墳	108	山王山古墳		古墳
54	御家塚古墳		古墳	109	藤岡神社遺跡		縄文
55	浅間塚古墳		古墳	110	城山遺跡		旧石器

III 遺跡の概要

東畑遺跡は、東武伊勢崎線羽生駅から東北東へ約7kmの羽生市下村君に所在する。遺跡の北側には利根川が東流し、地形分類では加須低地に含まれる。周辺にはほぼ平坦な地形が広がり、遺跡付近の標高は約15～16mである。

検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸跡50基、溝跡34条、土壕54基、道路跡1条、災害復旧痕4群51条、柱穴・ピット695基である。

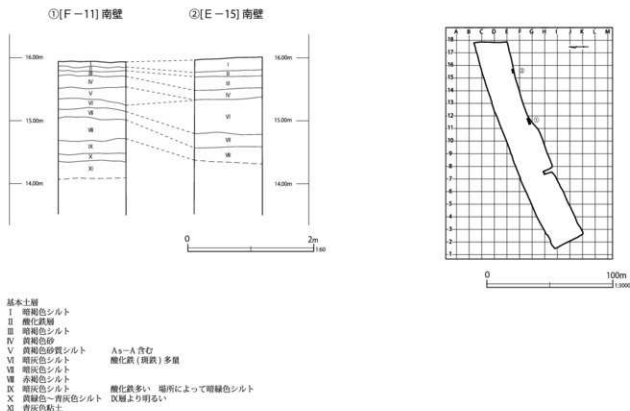
溝跡のなかには屋敷の区画溝として機能していたものも認められ、多くの遺物が検出された。

溝跡によって区画された内部には、柱穴・ピットが集中して確認された範囲や、逆に柱穴・ピットが全く確認されなかった範囲などがみられる。それぞれの屋敷において建物の建築方法が異なっ

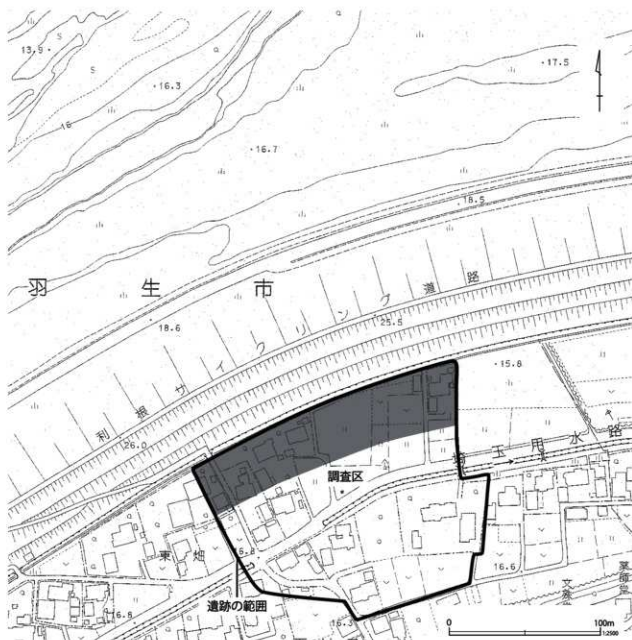
ていた可能性が想定される。

基本層序は、調査区のF-11グリッド南壁とE-15グリッド南壁の2箇所に設定した。遺構は第V・VI層にかけて確認され、現地表面から1～1.50m下で検出された。調査区西側は上部に砂が約0.40m堆積していた。いずれの土層も基本的にはシルト質で、河川由来の砂が含まれる。第IV層には黄褐色砂が堆積し、第V層は黄褐色砂質シルトでAs-A軽石粒を含む。

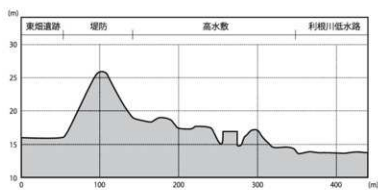
出土遺物は16世紀後半から18世紀にかけての陶磁器類、瓦質土器、かわらけ、銭貨、木製品、鉄製品、石製品が多い。ほかに14世紀から15世紀代の紀年銘をもつ板碑や須恵器、土師器などが出土した。コンテナの総計は55箱である。



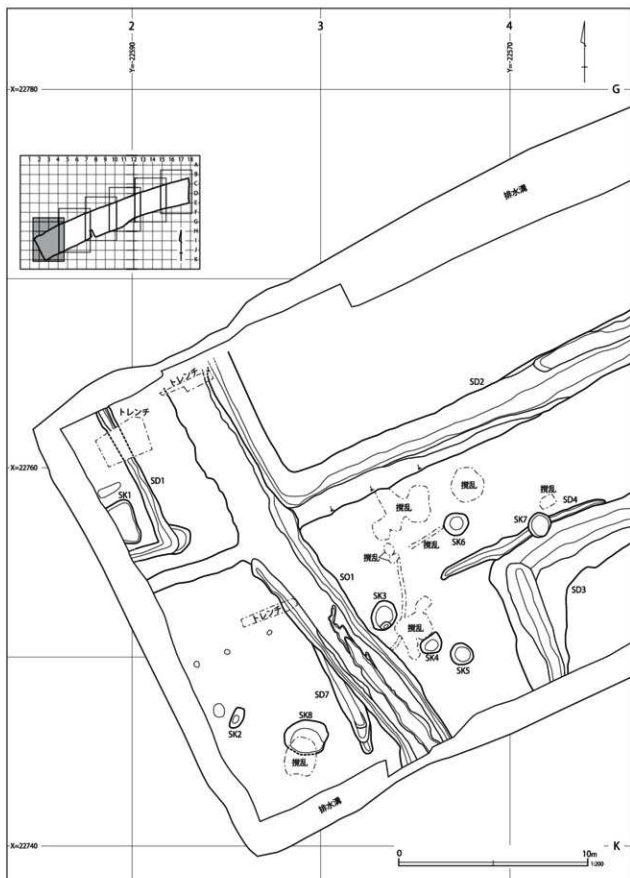
第4図 基本層序



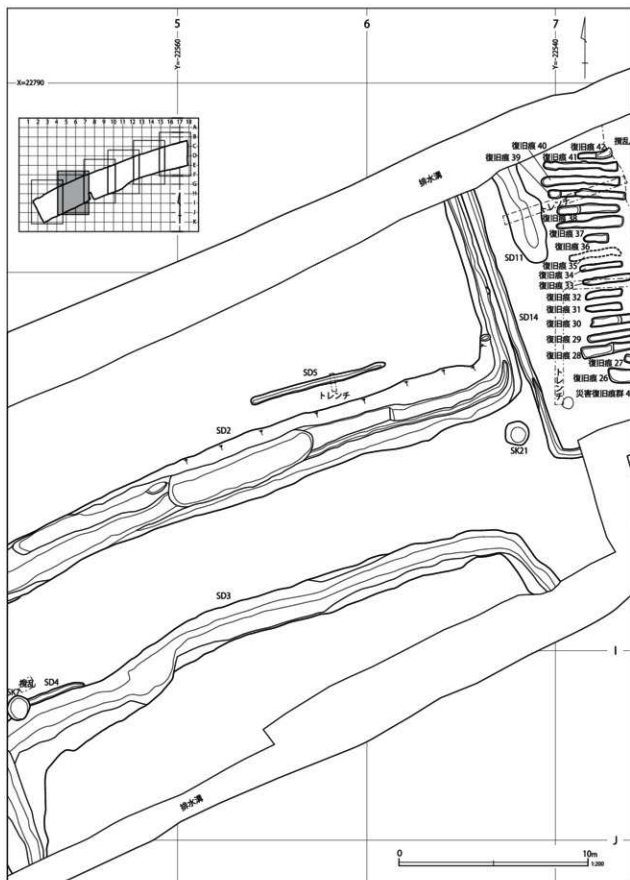
第5図 遺跡の位置図



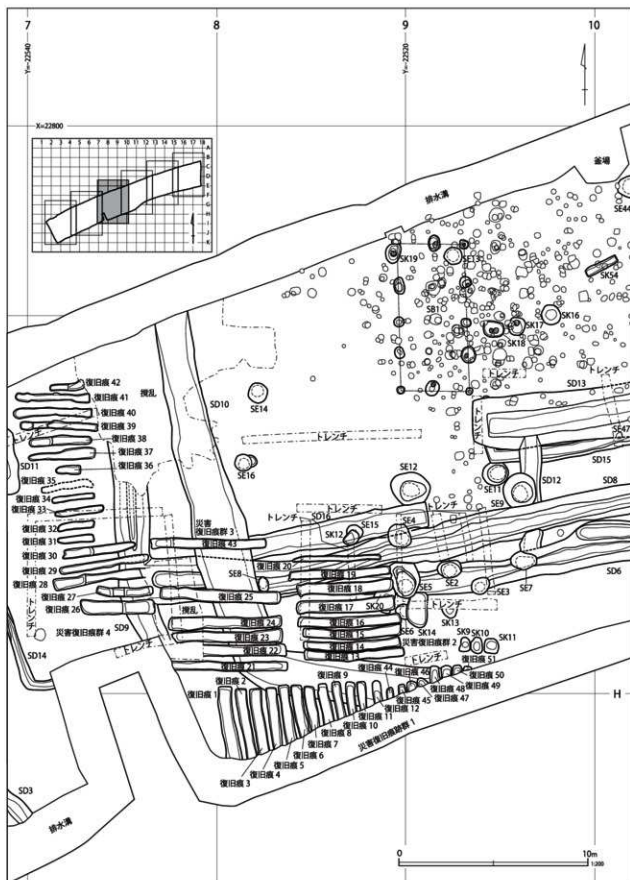
第6図 遺跡周辺の断面模式図



第8図 東畑遺跡分割図(1)



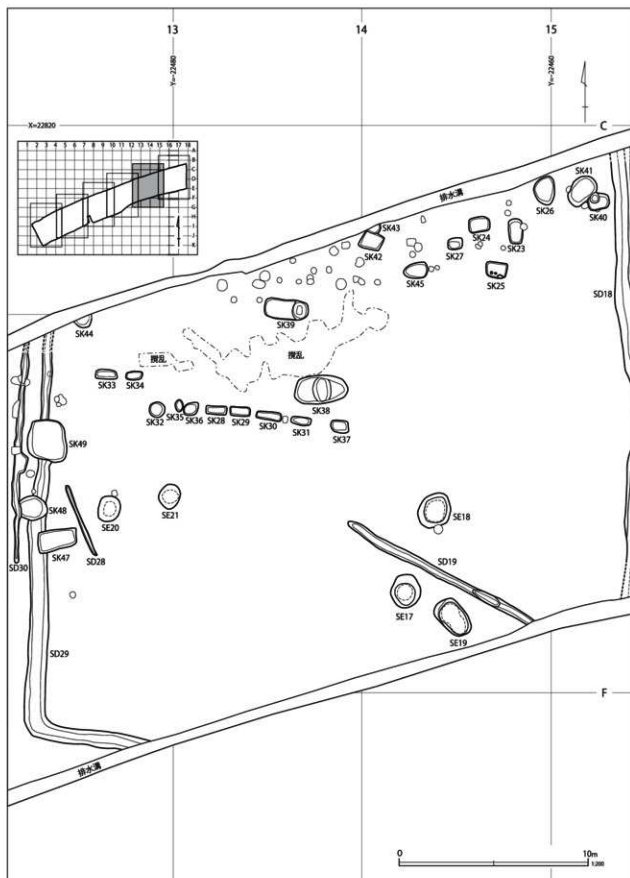
第9図 東畑遺跡分割図(2)



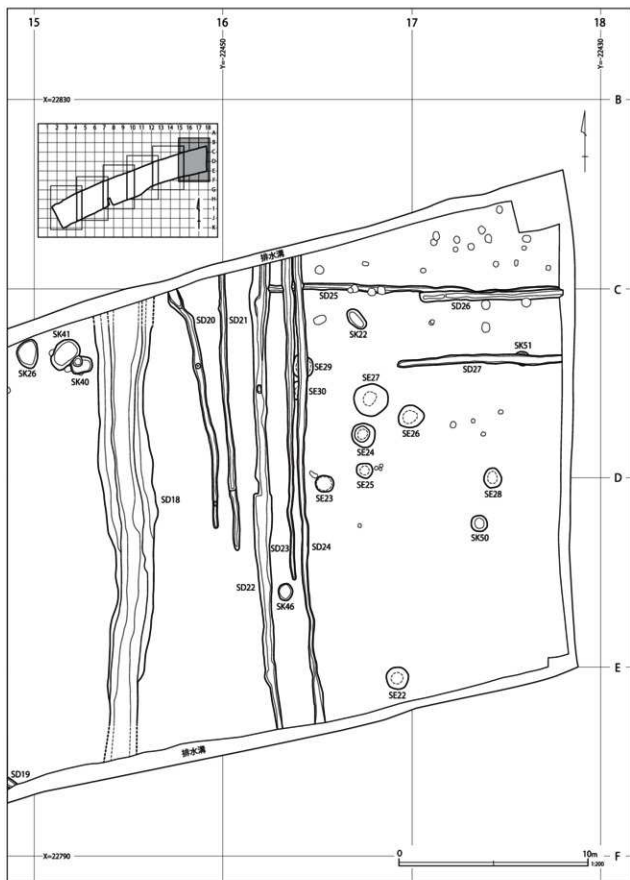
第10図 東畑遺跡分割図(3)



第 11 図 東畑遺跡分割図 (4)



第 12 図 東畑遺跡分割図 (5)



第13図 東畑遺跡分割図(6)

IV 遺構と遺物

1. 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は1棟検出された。調査区のほぼ中央、第10号溝跡、第13号溝跡、第17号溝跡などに囲まれた範囲に位置する。

周囲には柱穴（ビット）が多数検出されているが、他に掘立柱建物跡として認定できる柱筋が揃わなかった。しかし、柱穴（ビット）が集中していることから、柱筋が揃わない建物が複数棟存在していた可能性や、建物の建て替えが繰り返行われていたことが想定される。

2. 井戸跡

井戸跡は合計50基検出された。平面形態は円形、楕円形のものが多く、いずれも素掘り、井戸枠となる構造物は検出されなかった。崩落の危険から第9号井戸跡以外は検出面から1.50m前後で掘削を止めており、底面に達していない。

第1号井戸跡（第15図）

G-10グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.38m、短軸1.08m、深さ1.05m以上である。第6号溝跡と重複し、これよりも新しい。

遺物は出土していない。

第2号井戸跡（第15図）

G-9グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.30m、短軸0.93m、深さ1.08m以上である。第6号溝跡と重複し、これよりも新しい。

遺物は出土していない。

第3号井戸跡（第15図）

G-9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.05m、短軸0.90m、深さ1.32m以上である。第6号溝跡と重複し、これよりも新しい。

遺物は出土していない。

第4号井戸跡（第15・22図）

G-8・9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.33m、短軸1.23m、深さ0.92m以

第1号掘立柱建物跡（第14図）

E・F-8・9グリッドに位置する。主軸方向はN-6°-Wを指す。平面規模は桁行7.75m、梁行3.60mである。柱間は4×2間で、桁行方向の柱間寸法は1.68～1.98m、梁行方向の柱間寸法は1.56～2.00mである。

遺物は出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、周囲の区画溝の年代から中世後半から近世に帰属する。

上である。第8号溝跡と重複しこれよりも新しい。

第22図1は古瀬戸後期3期の天目茶碗である。内外面に鉄軸が施されている。2は角閃石デイスait製の不明石製品である。古瀬戸製品が出土していることから15世紀前半頃に埋没したものと思われる。

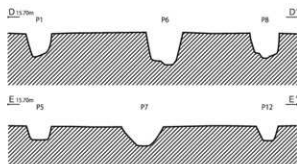
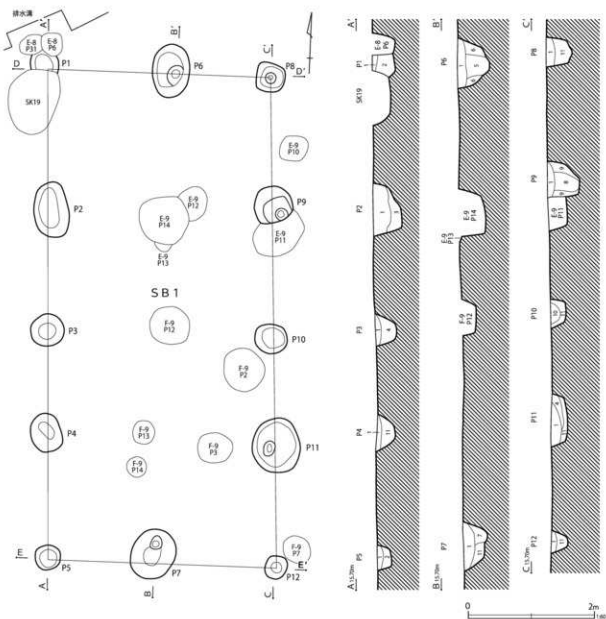
第5号井戸跡（第15・22図）

G-8・9グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸2.00m以上、短軸1.55m、深さ1.05m以上である。北側にテラス状の中端がみられ、そこから下層が長軸1.30m、短軸0.90mとやや細くなる。重複関係は第6号溝跡、第14号土壇と重複し、これよりも新しい。また第8号溝跡に先行する。第4層には木葉などの植物遺体が多量に含まれており、第22図4の漆碗が出土している。その他に3の角釘が出土している。

第6号井戸跡（第15・22図）

G-8・9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.88m以上、短軸0.78m、深さ1.04m以上である。第14号土壇と重複し、これに先行する。

第22図5は常滑系の甕破片である。時期は16世紀後半に位置付けられる。



- SB 1
- 1 暗灰色土 灰色砂中量 灰白色粒子 ($\phi 3 \sim 5 \text{ mm}$) 中量までに層全体に含む 酸化鉄少量～中量 しまりや強い 粘性なし
 - 2 暗褐色土 炭褐色粒子 ($\phi 2 \sim 5 \text{ mm}$)・灰白色粒子 ($\phi 3 \text{ mm}$) 各多量 炭化物粒子 ($\phi 5 \text{ mm}$) 少量までに層全体に含む しまりあり 粘性やや強い
 - 3 暗青灰色土 砂質土主体 炭化物粒子 ($\phi 10 \text{ mm}$) 少量 しまり弱い 粘性なし 灰白色粒子 ($\phi 8 \text{ mm}$) 少量までに含む 灰白色土中量～多量までに層全体に含む しまりあり 粘性やや強い
 - 4 暗褐色土 白色土多量までに含む 青灰色粒子 ($\phi 3 \text{ mm}$) 中量層下部に含む しまり強い 粘性ややあり (P6 柱痕跡)
 - 5 暗褐色土 灰色土中量～多量層全体にまじらに含む 炭化物粒子 ($\phi 10 \text{ mm}$) 少量 しまりとても強い 粘性ややあり (P9 堀方)
 - 6 暗褐色土 灰白色粒子 ($\phi 3 \sim 8 \text{ mm}$) 中量 炭化物粒子 ($\phi 5 \sim 10 \text{ mm}$) 少量 層全体にまじらに含む しまりあり 粘性ややあり
 - 7 暗褐色土 青灰色粒子 ($\phi 1 \sim 10 \text{ mm}$) 多量層全体に含む しまり強い 粘性なし (P9 柱痕跡)
 - 8 暗褐色土 粘土主体 青灰色粒子 ($\phi 3 \sim 5 \text{ mm}$) 多量層全体に含む しまり強い 粘性強い (P9 堀方)
 - 9 暗褐色土 粘土主体 灰色砂・青灰色粒子 ($\phi 3 \sim 5 \text{ mm}$) 中量 炭化物粒子・灰土粒子 ($\phi 1 \sim 10 \text{ mm}$) 中量各層全体にまじらに含む しまり強い 粘性あり
 - 10 暗褐色土 暗褐色土少量までに含む しまりあり 粘性あり

第 14 図 第 1 号掘立柱建物跡

第7号井戸跡 (第15・22・23図)

G-9グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.40m、短軸0.95m、深さ0.92m以上である。第6号溝跡、第12号溝跡と重複し、これよりも新しい。

遺物は石製品と板碑が出土している。8～10は板碑である。8は「キリク」の種字を持ち、種字部分に金泥が残る。銘文は第3表に記した。

第8号井戸跡 (第17図)

G-8グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸0.80m、短軸0.56m、深さ0.92m以上である。第8号溝跡と重複し、これよりも新しい。

遺物は出土していない。

第9号井戸跡 (第16・24～26図)

F・G-9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.90m以上、短軸1.71m、深さ1.80mである。重複関係は第8号溝跡より先行し、第12号溝跡よりも新しい。

遺物は、第24図11～22がかわらけである。いずれも残存状態が良く、重なった状態で出土した。口径は10.40～11.10cmで、器高は3.50～4.10cm、底径は4.30～5.50cmの大きさに収まる。いずれもロクロ整形で、底部回転糸切り右回転と板目状圧痕が認められるものがある。23は安山岩製石臼の下臼である。24～33は板碑である。24、30～32は「キリク」の種字を持つ。33は散蓮華を刻んでいる。板碑の銘文は第3表に記した。その他に木片や焼石、種実類などが出土した。

第11号井戸跡 (第17図)

F-9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.38m、短軸1.30m以上、深さ0.90m以上である。第5層には木葉などの植物遺体が多量に含まれていた。遺物は出土していない。

第12号井戸跡 (第17・27図)

F-8・9グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸2.08m、短軸1.77m以上、深さ1.34m以上である。検出面より0.60m下で中端が

みられ、長軸1.35m、短軸1.00mと規模が小さくなる。第4層には木葉などの植物遺体が多量に含まれていた。第16号溝跡と重複し、これに先行する。

第27図34は瀬戸美濃系の陶器碗類で円盤に転用されている可能性がある。35は常滑系の片口鉢、36は桶の底板である。

第13号井戸跡 (第17図)

E-9グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.97m、短軸0.92m、深さ0.90m以上である。E-9 P45と重複し、これよりも新しい。遺物は出土していない。

第14号井戸跡 (第17図)

F-8グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.09m、短軸1.08m、深さ0.85m以上で素掘りである。遺物は出土していない。

第15号井戸跡 (第17図)

G-8グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.87m、短軸0.80m、深さ0.83m以上である。第16号溝跡と重複し、これに先行する。遺物は出土していない。

第16号井戸跡 (第17・27図)

F-8グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.17m、短軸0.87m、深さ0.84m以上である。第2層、第3層には木葉などの植物遺体が多量に含まれていた。

第27図37は肥前系磁器の丸碗である。18世紀代に埋没したとみられる。

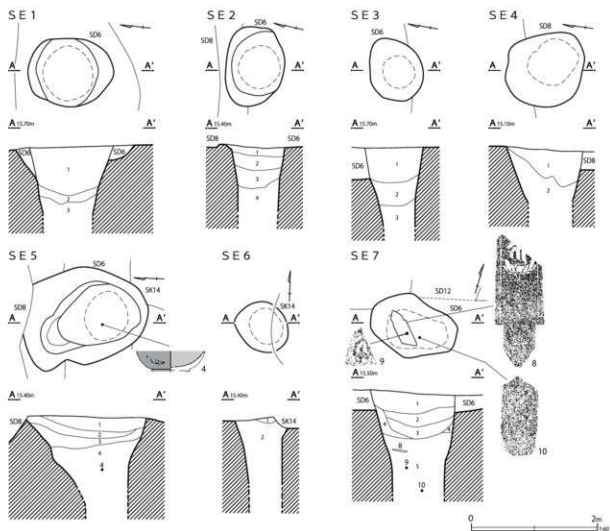
第17号井戸跡 (第17・27図)

E-14グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.80m、短軸1.53m、深さ1.63m以上である。

第27図38は熔烙である。時期は16世紀後半頃に位置付けられよう。

第18号井戸跡 (第18・27図)

D・E-14グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸2.00m、短軸1.65m、深さ1.78m以

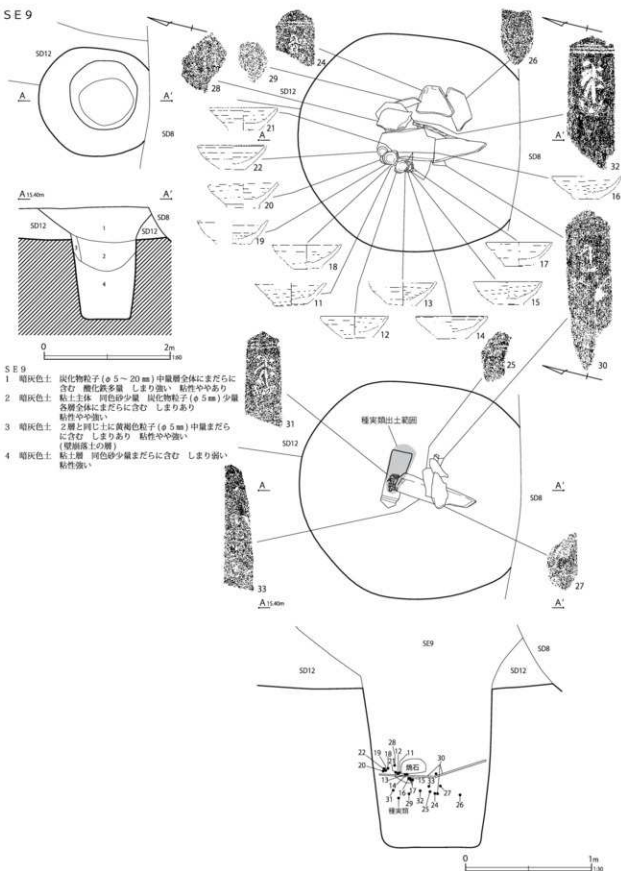


- SE 1
1 灰褐色土 炭化物粒子含む しまりややあり 粘性あり
2 灰褐色土 酸化鉄多量 しまりややあり 粘性あり
3 暗灰色土 地山黄褐色ブロック含む 炭化物多量 粘性あり
- SE 2
1 暗褐色土 黄褐色粒子 (φ 2mm) 表面にわずかに散る 酸化鉄多量に付着 しまりあり 粘性ややあり
2 暗灰色土 1層より暗い やや同色の砂が混入 酸化鉄多量に付着 しまり弱い 粘性あり
3 暗灰色土 2層より暗い 酸化鉄多量に付着 しまり弱い 粘性強い
4 灰色土 粘土主体 しまりなし 粘性強い 混入物なし
- SE 3
1 暗褐色土 暗黄褐色ブロック (φ 3mm) 少量まだらに含む 酸化鉄多量 しまり強い 粘性ややあり
2 暗灰色土 粘土主体 酸化鉄多量 しまり弱い 粘性強い
3 灰色土 粘土層 植物質の残骸多く含む しまりなし 粘性強い
- SE 4
1 暗褐色土 粘土主体 同色砂少量 層全体に酸化鉄多量 しまり弱い 粘性強い
2 暗灰色土 粘土層 しまりなし 粘性強い 特に混入物なし

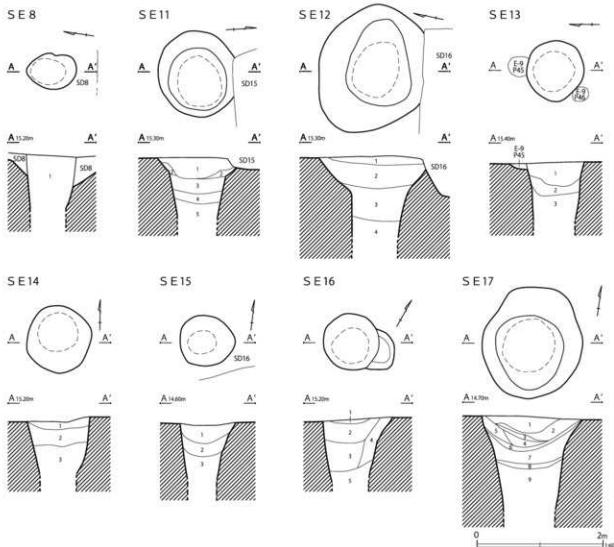
- SE 5
1 暗灰色土 灰白色粒子 (φ 1~10mm) 中層下部に含む 炭化物粒子 (φ 5mm) 中層~多量層全体に含む 酸化鉄多量 しまりやや強い 粘性ややあり
2 灰色土 粘土主体 同色砂少量 酸化鉄多量 しまりややあり 粘性あり
3 灰白色土 粘土 (2層より明るい) 主体 灰白色粒子 (φ 3mm) 層下部に含む 酸化鉄多量 しまり強い 粘性あり
4 暗青灰色土 粘土層 植物質遺体 (木の葉など) 多く混入 しまり非常に弱い 粘性あり
- SE 6
1 暗褐色土 黄褐色粒子 (φ 2~5mm) 少量 炭化物粒子 (φ 5mm) 極少量 酸化鉄付着 しまり強い 粘性ややあり
2 暗褐色土 全体的に灰色味が強く黄褐色粒子 (φ 5mm) わずかに含む 酸化鉄付着 しまり弱い 粘性強い
- SE 7
1 暗褐色土 黄褐色粒子 (φ 3~5mm) 中層・炭化物粒子 (φ 2mm) 少量まだらに含む しまりあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 粘土主体 同色砂質土少量~中量層全体に含む しまりやや弱い 粘性あり
3 暗灰色土 粘土主体 同色砂質土少量 しまりやや弱い 粘性強い (2層より粘性強い)

第15図 井戸跡 (1)

SE 9



第16図 井戸跡(2)



SE 8
1 暗褐色粘土 粘土層 しまり非常に弱い 粘性強い 特に底人物なし

- SE 11
1 暗褐色粘土 砂中層まだらに含む 酸化鉄少量 しまりあり 粘性ややあり
2 暗褐色粘土 1層の土に地山黄褐色ブロック (φ 10 ~ 20 mm) 少量~中層まだらに含む しまりややあり 粘性あり (硬弱粘土)
3 暗褐色粘土 粘土主体 黄褐色粒子 (φ 2 ~ 5 mm) 少量まだらに含む
4 暗褐色粘土 粘土主体 黄褐色粘土中層まだらに含む しまりなし 粘性あり
5 黒灰色土 粘土主体 植物質多量 しまり非常に弱い 粘性あり

- SE 12
1 暗褐色粘土 粘土主体 黄粒子 (φ 1 ~ 5 mm) 多量 しまりやや弱い 粘性あり
2 暗褐色粘土 粘土主体 砂中層~多量まだらに含む しまり弱い 粘性あり
3 暗褐色粘土 2層より暗い粘土主体 しまり非常に弱い 粘性あり
4 黒灰色土 粘土主体 植物質多量 しまり非常に弱い 粘性あり

- SE 13
1 暗褐色土 砂中層まだらに含む 炭化物粒子 (φ 5 ~ 10 mm) 少量 酸化鉄多量 層全体に含む しまりややあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 粘土主体 砂中層~多量まだらに含む 酸化鉄少量 しまりややあり 粘性ややあり
3 暗褐色土 2層よりさらに暗い粘土主体 しまりなし 粘性あり

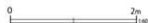
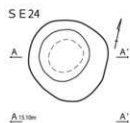
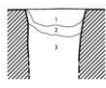
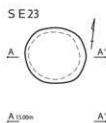
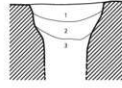
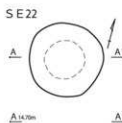
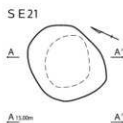
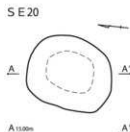
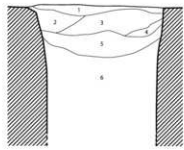
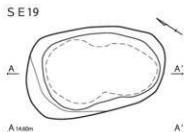
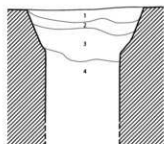
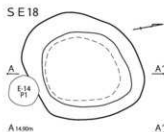
- SE 14
1 暗褐色土 明るめの暗褐色土 砂少量~中層 酸化鉄中層まだらに含む しまりあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 1層より暗い粘土主体 砂・酸化鉄中層まだらに含む しまりややあり 粘性あり
3 暗褐色土 2層より暗い粘土主体 酸化鉄中層まだらに含む しまり弱い 粘性あり

- SE 15
1 暗褐色土 粘土主体 炭化物粒子 (φ 10 mm) 中層まだらに含む しまりなし 粘性強い
2 暗褐色土 1層より暗い粘土主体 炭化物粒子 (φ 10 mm) 中量 しまりなし 粘性強い
3 暗褐色土 1層と同色粘土主体 同色砂少量 しまり非常に弱い 粘性強い

- SE 16
1 暗褐色土 粘土主体 同色砂少量まだらに含む 地山暗褐色土中量 しまりなし 粘性強い
2 暗褐色土 粘土主体 同色砂少量~中層まだらに含む 植物質有機物少量 しまり弱い 粘性あり
3 暗褐色土 粘土主体 同色砂多量 植物質有機物中量 しまり弱い 粘性あり
4 暗褐色土 砂主体 同色粘土中層まだらに含む しまり弱い 粘性ややあり
5 暗褐色土 1~4層より暗い粘土主体 同色砂少量~中層まだらに含む しまりなし 粘性強い

- SE 17
1 シルト質 炭化物含む しまりあり 粘性あり
2 暗褐色土 シルト質 炭化物含む しまりあり 粘性あり
3 黒色土 ビート状 植物遺体含む しまりあり
4 暗褐色土 シルト質 炭化物含む しまりあり 粘性あり
5 黄灰色土 オリーブ色強い、シルト質 粘性あり
6 黒色土 ビート状 植物遺体含む しまりあり
7 暗褐色土 粘土主体 しまりややあり 粘性強い
8 黒色土 ビート状 植物遺体含む しまりあり
9 暗褐色土 粘土主体 しまりややあり

第 17 図 井戸跡 (3)



SE18

- | | |
|--------|------------------|
| 1 暗灰色土 | シルト質 酸化鉄多量 |
| 2 暗灰色土 | シルト質 黒色味強い 炭化物含む |
| 3 暗灰色土 | 粘土主体 炭化物含む しまりあり |
| 4 暗灰色土 | 粘土主体 炭化物含む 粘性強い |

SE19

- | | |
|--------|--------------------------------|
| 1 暗灰色土 | 灰白色・明褐色シルトブロック多量 酸化鉄多量 |
| 2 暗灰色土 | シルト質 粘性ややあり |
| 3 暗灰色土 | 明褐色粘土ブロック(φ50~100mm)多量 しまりややあり |
| 4 暗灰色土 | 暗褐色シルトブロック+明褐色シルトブロック しまりややあり |
| 5 暗灰色土 | 砂+軽石(φ1~2mm)・明褐色シルトブロック多量 |
| 6 暗灰色土 | 粘土主体 粘性あり |

SE20

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 1 暗灰色土 | シルト質 酸化鉄多量 炭化物粒子(φ5mm)少量まだらに含む |
| 2 暗灰色土 | しまりややあり 粘性ややあり |
| 3 暗灰色土 | 1層より明るい 同色砂多量 しまり強い 粘性なし |
| 4 暗灰色土 | 粘土主体 炭化物粒子(φ5mm)少量まだらに含む |
| 5 暗灰色土 | 粘土主体 暗灰色砂少量~中量まだらに含む しまりなし 粘性強い |

SE21

- | | |
|--------|---|
| 1 暗褐色土 | シルト主体 灰白色粒子(φ2~3mm)レンズ状に含む 酸化鉄多量 しまりややあり 粘性ややあり |
| 2 暗灰色土 | 粘土主体 灰白色粒子(φ2mm)少量まだらに含む 酸化鉄少量 しまり強い 粘性あり |
| 3 暗灰色土 | 粘土主体 同色シルト土少量含む しまりなし 粘性強い |
| 4 黒灰色土 | 粘土層 しまり強い 粘性強い |

SE22

- | | |
|--------|---|
| 1 暗褐色土 | シルト主体 灰白色粒子(φ2~3mm)レンズ状に含む 酸化鉄多量 しまりややあり 粘性ややあり |
| 2 暗灰色土 | 粘土主体 灰白色粒子(φ2mm)少量まだらに含む 酸化鉄少量 しまり強い 粘性あり |
| 3 暗灰色土 | 粘土主体 同色シルト土少量 しまりなし 粘性強い |

SE23

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し) |
| 2 暗褐色土 | 地山黄褐色ブロック含む (埋め戻し) |
| 3 暗灰色土 | 粘土主体 炭化物含む 灰色粘土ブロック多量 しまりややあり (埋め戻し) |

SE24

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色土 | 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し) |
| 2 暗褐色土 | 地山黄褐色ブロック含む (埋め戻し) |
| 3 暗灰色土 | 粘土主体 炭化物含む 灰色粘土ブロック多量 しまりややあり (埋め戻し) |
| 4 暗灰色土 | 粘土主体 しまりややあり 粘性あり |

上である。E-14P1と重複し、これに先行する。

第27図39は瀬戸美濃系大窯の志野丸皿である。40は常滑系の甕片、41は瓦質土器の播鉢、42は内耳鍋、43は土釜の蓋である。44と45はかわらけである。いずれも底部のみで小型のタイプである。46と47は鉄滓である。埋没時期は志野丸皿や常滑の甕から16世紀後半から17世紀前半頃に位置付けられよう。ほかに第4層から曲物の破片が検出されたが、残存状態が極めて悪かったため図示できなかった。

第19号井戸跡 (第18・27・28図)

E-14グリッドに位置し、平面形は楕円形と想定される。長軸2.25m、短軸1.35m、深さ2.00m以上である。下端が中央付近でややくびれており、本来は井戸跡が2基あった可能性がある。

第27図48と49は銅製の環である。50は銭貨の「熙寧元寶」である。第28図51は曲物の底板である。

第20号井戸跡 (第18図)

D・E-12グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.40m、短軸1.15m、深さ1.42m以上である。遺物は出土していない。

第21号井戸跡 (第18・28図)

D・E-12・13グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.32m、短軸1.16m、深さ1.25m以上である。

第28図52はかわらけである。底部がほぼ残存していない。53は漆碗である。内外面に黒色系漆が施されている。54は粘板岩製の砥石である。ほかに小片のため図示していないが古瀬戸の平碗片が出土した。

第22号井戸跡 (第18・28図)

E-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.20m、短軸1.19m、深さ1.06m以上である。

第28図55は木槌である。中央部に柄穴が貫通している。56は曲物の底板である。

第23号井戸跡 (第18図)

C・D-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.99m、短軸0.95m、深さ0.83m以上である。覆土は第1層から第3層にかけて地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。遺物は出土していない。

第24号井戸跡 (第18・28図)

C-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.33m、短軸1.25m、深さ1.35m以上である。覆土は第1層から第3層にかけて地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。第28図57は角閃石デイスサイト製の砥石である。

第25号井戸跡 (第19図)

C-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.88m、短軸0.78m、深さ0.83m以上である。覆土は第1層、第2層ともに地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。遺物は出土していない。

第26号井戸跡 (第19図)

C-16・17グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.40m、短軸1.17m、深さ1.12m以上である。覆土は第1層、第2層ともに地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。遺物は出土していない。

第27号井戸跡 (第19・29図)

C-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.83m、短軸1.70m、深さ1.28m以上である。覆土は第1層、第2層ともに地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。

第29図58は瓦質土器の播鉢である。時期は16世紀後半以前に位置付けられよう。

第28号井戸跡 (第19・29図)

C・D-17グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.02m、短軸0.95m、深さ1.12m以上である。覆土は第1層、第2層ともに地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれる。

第29図59は古瀬戸後期様式1期の平碗である。

時期は14世紀後半以降となろう。

第29号井戸跡（第19図）

C-16グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.26m、短軸1.10m、深さ0.94m以上である。第23号溝跡、第24号溝跡と重複し、これらに先行する。遺物は出土していない。

第30号井戸跡（第19図）

C-16グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸0.97m、短軸0.78m、深さ1.15m以上である。第23号溝跡、第24号溝跡と重複し、これらに先行する。遺物は出土していない。

第31号井戸跡（第19・29図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.40m、短軸1.29m、深さ0.90m以上である。

第29図60fは完形の手づくねかわらけである。器壁は厚く体部外面から内面見込みにかけてナデ調整、底部にはケズリ調整がみられる。61は石鍾である。紐かけの部分が摩耗している。

第32号井戸跡（第19図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.87m、短軸0.81m、深さ0.80m以上である。遺物は出土していない。

第33号井戸跡（第19・29図）

E-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.45m、短軸1.40m、深さ1.57m以上である。第32号溝跡と重複し、これより新しい。

第29図62は木製品である。器種は不明であるが六角形の断面形状を有し、端部がくびれている。

第34号井戸跡（第20図）

E-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.15m、短軸1.02m、深さ1.20m以上である。遺物は出土していない。

第35号井戸跡（第20・29図）

E-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.42m、短軸1.30m、深さ1.25m以上である。第33号溝跡、第34号溝跡と重複し、これらよ

りも新しい。

第29図63は瓦質土器の鉢である。砥具として転用されており、口縁部に砥面が残る。64fはかわらけである。底部回転糸切りであるが、方向は不明である。

第36号井戸跡（第20・29図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.32m、短軸1.30m、深さ1.18m以上である。E-10P94、E-10P99と重複し、これらよりも新しい。

第29図65fは古瀬戸後期の平碗である。内外面に灰釉が施されている。口縁部、底部が欠損しているため、詳細な年代は不明であるが、14世紀後半から15世紀代に収まる。

第37号井戸跡（第20図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.02m、短軸0.90m、深さ0.80m以上である。第38号井戸跡、E-10P103と重複し、これらよりも新しい。遺物は出土していない。

第38号井戸跡（第20図）

E・F-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.39m、短軸1.35m、深さ1.20m以上である。F-10P29と重複し、これより新しく、第37号井戸跡に先行する。遺物は出土していない。

第39号井戸跡（第20・29図）

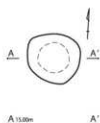
F-10グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.60m以上、短軸1.35m以上、深さ1.02m以上である。第53号土壇と重複して先行する。

第29図66fは瀬戸美濃系の陶器瓶類である。外面に鉄釉が施されている。口縁部から頸部にかけ残存している。瀬戸美濃系大窯3・4期に帰属する。67は曲物である。埋没時期は大窯3・4期の陶器から16世紀後半以降に位置付けられよう。

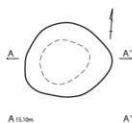
第40号井戸跡（第20・29図）

E-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.34m、短軸1.29m、深さ1.20m以上である。

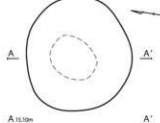
SE 25



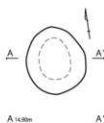
SE 26



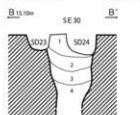
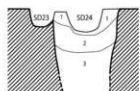
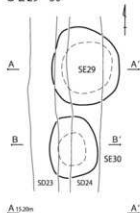
SE 27



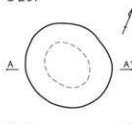
SE 28



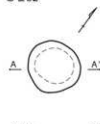
SE 29・30



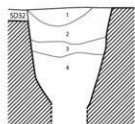
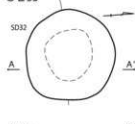
SE 31



SE 32



SE 33



0 2m

SE 25
1 灰褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し)
2 灰褐色土 地山黄褐色ブロック含む (埋め戻し)

SE 26
1 灰褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し)
2 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む 灰色粘土ブロック多量
しまりややあり (埋め戻し)

SE 27
1 灰褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し)
2 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む 灰色粘土ブロック多量
しまりややあり (埋め戻し)

SE 28
1 灰褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し)
2 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む 灰色粘土ブロック多量
しまりややあり (埋め戻し)

SE 29
1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い

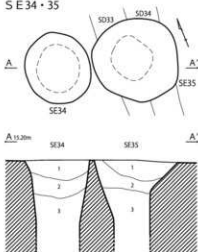
SE 30
1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い
4 青緑灰色土 粘土主体 炭化物含む

SE 31
1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い
4 青緑灰色土 粘土主体 炭化物含む

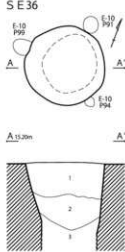
SE 32
1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量

SE 33
1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い
4 青緑灰色土 粘土主体 炭化物含む

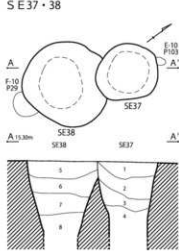
SE 34・35



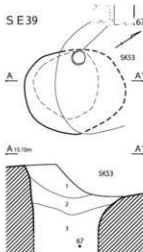
SE 36



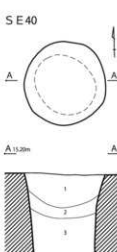
SE 37・38



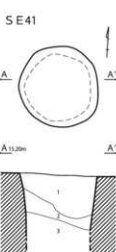
SE 39



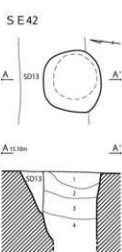
SE 40



SE 41



SE 42



0 2m 1:80

SE 34

- 1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い

SE 35

- 1 暗灰色土 シルト主体 炭化物・シルトブロック多量
2 暗灰色土 シルト主体 炭化物・酸化鉄多量
3 青灰色土 粘土質だが酸化鉄多い

SE 36

- 1 暗褐色土 シルト質 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 しまりあり
粘性ややあり
2 暗灰色土 砂質シルト 粘性弱い
3 暗灰色土 粘土主体 しまりややあり 粘性強い

SE 37

- 1 暗褐色土 シルト質 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 しまりあり
粘性ややあり
2 暗灰色土 砂質シルト 粘性弱い
3 暗灰色土 粘土主体 しまりややあり 粘性強い
4 暗灰色土 粘土主体 しまりあり

SE 38

- 5 黄灰色土 地山黄褐色ブロック・暗灰色粘土ブロック多量
しまりあり 粘性ややあり
6 暗褐色土 シルト質 酸化鉄多量 粘性ややあり
7 暗褐色土 砂質シルト 酸化鉄多量 しまりなし
8 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む しまりややあり 粘性あり

SE 39

- 1 暗灰色土 シルト主体 酸化鉄多量
2 暗青灰色土 シルト主体 砂質 微細な砂含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物わずかに含む しまりなし

SE 40

- 1 暗灰色土 シルト主体 酸化鉄多量
2 暗青灰色土 シルト主体 砂質 微細な砂含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物わずかに含む しまりなし

SE 41

- 1 暗灰色土 シルト主体 酸化鉄多量
2 暗青灰色土 シルト主体 砂質 微細な砂含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物わずかに含む しまりなし

SE 42

- 1 暗褐色土 シルト質 地山黄褐色ブロック・炭化物多量
しまりあり 粘性ややあり
2 暗灰色土 砂質シルト 粘性弱い
3 暗灰色土 粘土主体 しまりややあり 粘性強い
4 暗灰色土 粘土主体 しまりあり

第29図68は緑泥片岩の石製品であるが器種は不明である。69は角閃石デイスサイト製の五輪塔水輪である。大部分が欠損している。

第41号井戸跡（第20図）

E・F-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.30m、短軸1.25m、深さ1.00m以上である。遺物は出土していない。

第42号井戸跡（第20・30図）

F-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.03m、短軸0.99m、深さ1.06m以上である。第13号溝跡と重複し、これよりも新しい。

第30図70と71はかわかけである。70は底部回転糸切り右回転で板目状圧痕がみられ、内面にロクロ目が強く残る。71は底部のみ残存しており、回転糸切り右回転の痕跡がみられる。72は板碑である。銘文は第3表に記した。

第43号井戸跡（第21・30～33図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸2.03m、短軸1.92m、深さ1.38m以上である。第2層に炭状の植物遺体が含まれている。E-10P2と重複し、これより新しく、E-10P106に先行する。

第30図73は瀬戸美濃系大窯第4段階後半の志野丸皿である。内外面に長石釉が施されている。底部には「十」の墨書が認められる。74は古瀬戸系の皿類である。75と76はかわかけである。底部に回転糸切り痕がみられる。77は瓦質土器の焙烙である。78は漆碗である。内外面に黒色系漆が施され、外面に赤色系漆で草花文様が描かれている。79、80、第31図81、82は緑泥片岩の砥石である。板碑を転用したものと思われる。83～87は軽石の磨石である。83と85には刃物痕がみられる。88と89は石臼の上臼である。いずれも欠損が著しい。90～95は板碑である。第32図90、92、第33図95は「キリーク」の種字を持つ。銘文は第3表に記した。時期は瀬戸美濃系大窯第4段階末の年代から16世紀末から17世紀初頭頃に位置付けられる。

第44号井戸跡（第21・33図）

E-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.24m、短軸1.16m、深さ0.98m以上である。第2層に炭状の植物遺体が含まれている。重複関係はE-10P31より新しく、E-10P30、E-10P33に先行する。

第33図96は古瀬戸後期3期の節目付大皿である。97は曲物の底板である。時期は15世紀代に位置付けられよう。

第45号井戸跡（第21・33図）

E-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸0.73m、短軸0.64m、深さ0.90m以上である。第46号井戸跡、第51号井戸跡、第32号溝跡、第33号溝跡と重複し、これらよりも新しい。

第33図98はかわかけである。口縁部のみ残存している。

第46号井戸跡（第21図）

E-11グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸1.25m、短軸1.07m以上、深さ1.25m以上である。第33号溝跡、第34号溝跡よりも新しく、第45号井戸跡に先行する。第51号井戸跡との重複関係は不明である。

遺物は出土していない。

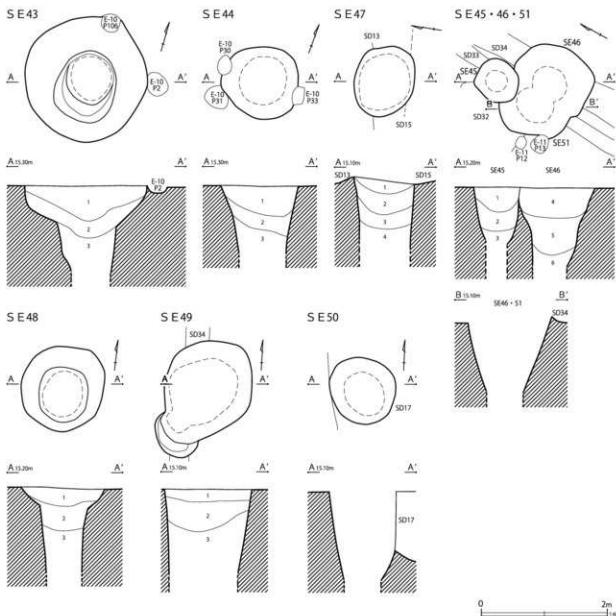
第47号井戸跡（第21図）

F-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.15m、短軸0.94m、深さ0.95m以上である。第13号溝跡、第15号溝跡と重複し、これよりも新しい。遺物は出土していない。

第48号井戸跡（第21・33～35図）

F-10グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.40m、短軸1.31m、深さ1.45m以上である。

第33図99と100は瓦質土器の播鉢である。101は須恵器の盤であるが、井戸庵絶時に混入したものと思われる。第34図102は常滑系の甕である。部分的に残存しているが、復元高が50cmを超える。時期は15世紀前半頃に位置付けられる。103



SE 43
1 暗褐色土 シルト主体 酸化鉄含む しまりあり
2 暗灰色土 砂含む粘土主体 炭状の植物遺体含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 しまりなし 粘性あり

SE 44
1 暗褐色土 シルト主体 酸化鉄含む しまりあり
2 暗灰色土 砂含む粘土主体 炭状の植物遺体含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 しまりなし 粘性あり

SE 45
1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック含む 炭化物多量 しまりあり
粘性ややあり
2 暗褐色土 地山黄褐色ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
やや砂質 炭多く含む
3 暗灰色土 黒色泥炭質の植物遺体多く含む しまりなし

SE 46
1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック (φ50～100 mm) 多量 しまりあり
粘性ややあり
2 暗灰色土 砂含む粘土主体 炭状の植物遺体含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 しまりなし 粘性あり

SE 47
1 暗褐色土 シルト主体 地山黄褐色ブロック (φ30 mm以下) 含む
しまりあり
2 暗褐色土 シルト主体 地山黄褐色ブロック (φ50～80 mm) 多量
しまりあり
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む しまりややあり 粘性あり
4 暗灰色土 粘土主体 角閃石・炭石 (φ100 mm前後) 含む しまりなし
粘性弱い

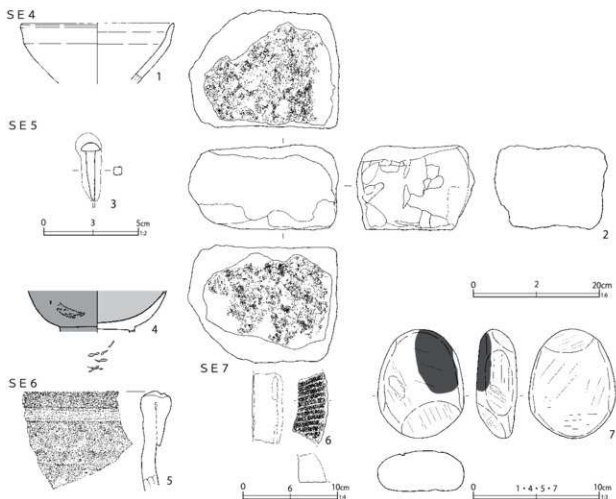
SE 48
1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック含む 炭化物多量 しまりあり
粘性ややあり
2 暗褐色土 地山黄褐色ブロック含む しまりあり 粘性ややあり
3 暗灰色土 粘土主体 砂含む しまりなし 粘性あり

SE 49
1 暗褐色土 シルト主体 酸化鉄含む しまりあり
2 暗灰色土 砂含む粘土主体 炭状の植物遺体含む しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 しまりなし 粘性あり

第21図 井戸跡(7)

第2表 井戸跡一覧表 (第15～21図)

番号	グリッド	平面形態	長軸方位	長軸/m	短軸/m	深さ/m	重複遺構
1	G-10	槽内形	N-6°-W	1.38	1.08	[1.05]	SD6→本跡
2	G-9	槽内形	N-83°-E	1.30	0.93	[1.08]	SD6→本跡
3	G-9	円形	N-53°-E	1.05	0.90	[1.32]	SD6→本跡
4	G-8・9	円形	N-60°-W	1.33	1.23	[0.92]	SD8→本跡
5	G-8・9	槽内形	N-15°-W	[2.00]	1.55	[1.05]	SD6、SK14→本跡→SD8
6	G-8・9	円形	N-71°-W	(0.88)	0.78	[1.04]	本跡→SK14
7	G-9	槽内形	N-86°-E	1.40	0.95	[0.92]	SD6・12→本跡
8	G-8	槽内形	N-9°-W	0.80	0.56	[0.92]	SD8→本跡
9	F・G-9	円形	N-19°-W	(1.90)	1.71	1.80	SD12→本跡→SD8
10							欠番
11	F-9	円形	N-84°-E	1.38	(1.30)	[0.90]	本跡→SD15
12	F-8・9	槽内形	N-87°-W	2.08	(1.77)	[1.34]	本跡→SD16
13	E-9	円形	N-87°-W	0.97	0.92	[0.90]	E-9 P45→本跡
14	F-8	円形	N-10°-W	1.09	1.08	[0.85]	
15	G-8	円形	N-79°-W	0.87	0.80	[0.83]	本跡→SD16
16	F-8	槽内形	N-87°-E	1.17	0.87	[0.84]	
17	E-14	円形	N-23°-E	1.80	1.53	[1.63]	
18	D・E-14	槽内形	N-38°-E	2.00	1.65	[1.78]	本跡→E-14 P1
19	E-14	槽内形	N-50°-W	2.25	1.35	[2.00]	
20	D・E-12	槽内形	N-45°-E	1.40	1.15	[1.42]	
21	D・E-12・13	槽内形	N-4°-W	1.32	1.16	[1.25]	
22	E-16	円形	N-49°-E	1.20	1.19	[1.06]	
23	C・D-16	円形	N-46°-W	0.99	0.95	[0.83]	
24	C-16	円形	N-40°-W	1.33	1.25	[1.35]	
25	C-16	円形	N-61°-W	0.88	0.78	[0.83]	
26	C-16・17	円形	N-75°-E	1.40	1.17	[1.12]	
27	C-16	円形	N-67°-W	1.83	1.70	[1.28]	
28	C・D-17	円形	N-4°-E	1.02	0.95	[1.12]	
29	C-16	円形	N-21°-W	1.26	1.10	[0.94]	本跡→SD23・24
30	C-16	槽内形	N-6°-E	0.97	0.78	[1.15]	本跡→SD23・24
31	E-10	円形	N-60°-W	1.40	1.29	[0.90]	
32	E-10	円形	N-88°-W	0.87	0.81	[0.80]	
33	E-11	円形	N-86°-E	1.45	1.40	[1.57]	SD32→本跡
34	E-11	円形	N-7°-E	1.15	1.02	[1.20]	
35	E-11	円形	N-43°-W	1.42	1.30	[1.25]	SD33・34→本跡
36	E-10	円形	N-7°-W	1.32	1.30	[1.18]	E-10 P94・99→本跡
37	E-10	円形	N-17°-E	1.02	0.90	[0.80]	S E38、E-10 P103→本跡
38	E・F-10	円形	N-85°-W	1.39	1.35	[1.20]	F-10 P29→本跡→S E37
39	F-10	槽内形	N-32°-E	(1.60)	(1.35)	[1.02]	本跡→S K53
40	E-11	円形	N-2°-E	1.34	1.29	[1.20]	
41	E・F-11	円形	N-50°-W	1.30	1.25	[1.00]	
42	F-11	円形	N-40°-E	1.03	0.99	[1.06]	SD13→本跡
43	E-10	円形	N-10°-E	2.03	1.92	[1.38]	E-10 P2→本跡→E-10 P106
44	E-10	円形	N-56°-E	1.24	1.16	[0.98]	E-10 P31→本跡→E-10 P30・33
45	E-11	円形	N-21°-E	0.73	0.64	[0.90]	S E46・51、S D32・33→本跡
46	E-11	槽内形	N-29°-W	1.25	(1.07)	[1.25]	SD33・34→本跡→S E45 S E51との新旧不明
47	F-10	円形	N-81°-W	1.15	0.94	[0.95]	SD13・15→本跡
48	F-10	円形	N-41°-E	1.40	1.31	[1.45]	
49	E・F-11	槽内形	N-31°-E	2.03	1.41	[1.42]	SD34→本跡
50	F-11	円形	N-42°-W	1.12	1.02	[1.42]	SD17→本跡
51	E-11	槽内形	N-30°-W	1.10	(0.75)	[1.16]	SD32・33・34→本跡→S E45 S E46、E-11 P13新旧不明
52							欠番



第 22 図 井戸跡出土遺物 (1)

は片岩製の砥石である。5 面の使用面がみられる。104は磨石である。穿孔が施されて、ほかに多数の加工痕がみられる。第35図105は安山岩製の茶臼下臼である。一部黒色化している。掘り面は摩滅しており使用感がある。106は角閃石デイスait製の石製品で礎石と思われる。円形の凹みが1箇所みられる。

そのほかに漆碗の破片が出土したが、残存状態が悪く図示できなかった。

第49号井戸跡 (第21・35・36図)

E・F-11グリッドに位置し、平面形は楕円形である。長軸2.03m、短軸1.41m、深さ1.42m以上である。第34号溝跡と重複し、これよりも新しい。第35図107は京信楽系の陶器丸碗である。108と109は瀬戸美濃系陶器の碗類と皿類である。

109の皿底部には墨痕が広がっている。110は瀬戸美濃系大窯3期後半の皿類底部である。111は瀬戸美濃系陶器の鉄絵鉢で、いわゆる笠原鉢である。112は丹波系の陶器播鉢、113は瀬戸美濃系の陶器播鉢である。114は瀬戸美濃系陶器甕の破片で口縁部を砥具として転用している。115は志戸呂系徳利の胴部片である。116は瓦質土器の播鉢である。内面に描目が残るが摩滅が激しい。117は漆碗である。内外面に菱形文様がみられる。第36図118は安山岩製石臼の上臼である。井戸廃絶の時期は18世紀中頃に位置付けられよう。

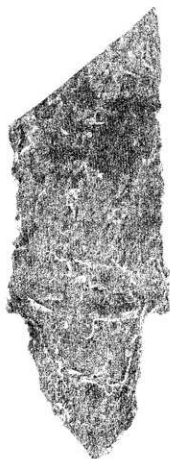
第50号井戸跡 (第21・36図)

F-11グリッドに位置し、平面形は円形である。長軸1.12m、短軸1.02m、深さ1.42m以上である。第17号溝跡と重複し、これよりも新しい。

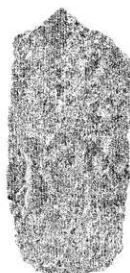
SE7



8



9



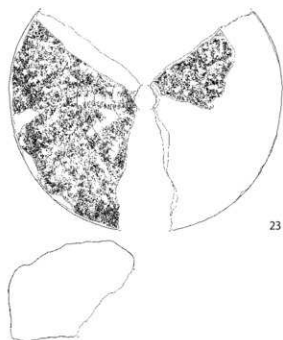
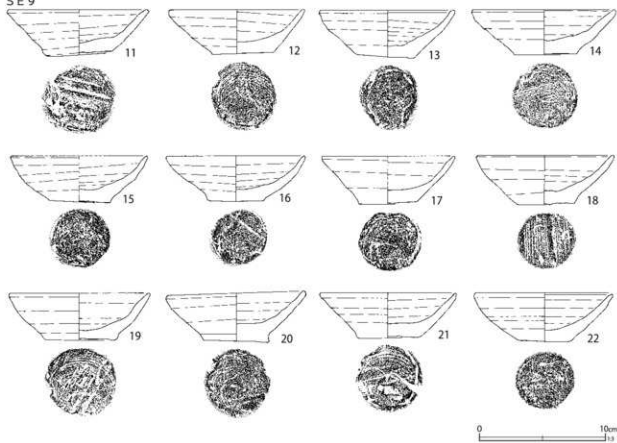
10



0 20cm

第23図 井戸跡出土遺物(2)

SE9

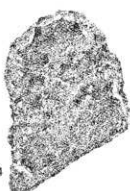


第24図 井戸跡出土遺物(3)

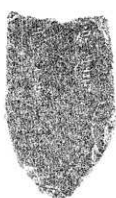
SE9



24



25



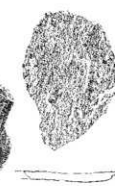
26



27



28

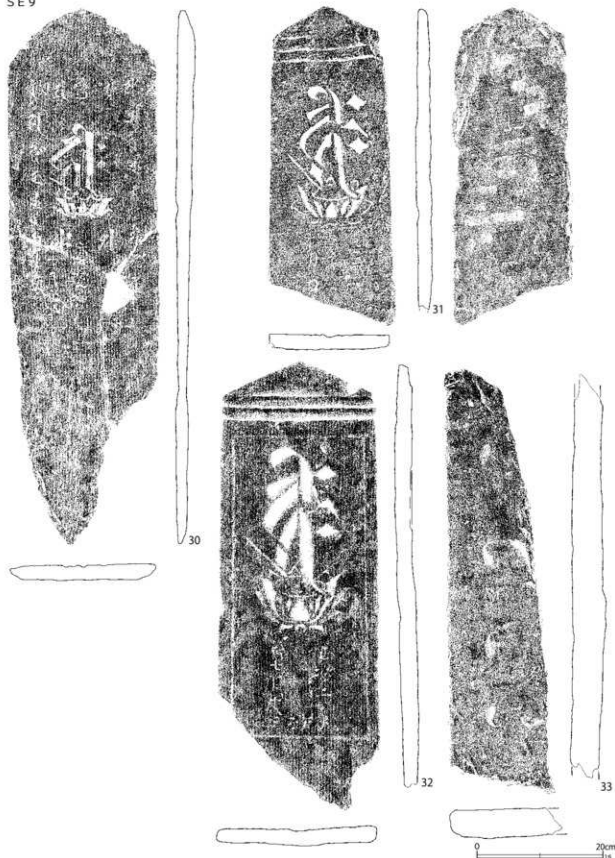


29



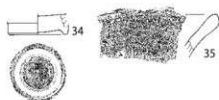
第25図 井戸跡出土遺物(4)

SE9

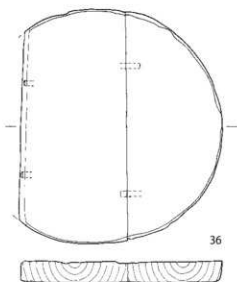


第26図 井戸跡出土遺物(5)

SE12



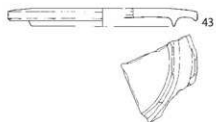
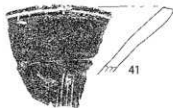
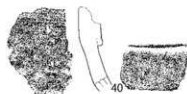
SE16



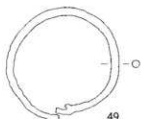
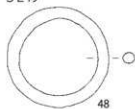
SE17



SE18

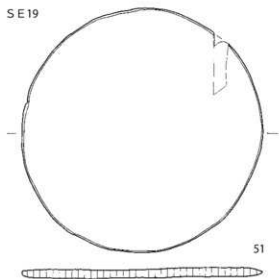


SE19

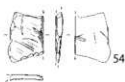


第27図 井戸跡出土遺物(6)

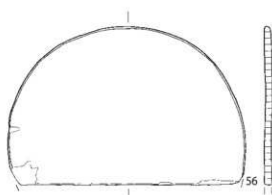
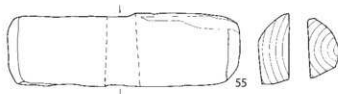
SE19



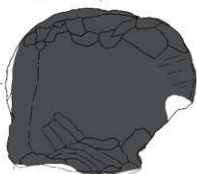
SE21



SE22



SE24



0 10cm

第28図 井戸跡出土遺物(7)

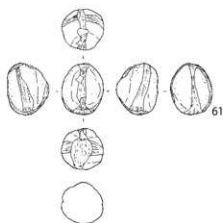
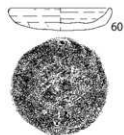
SE27



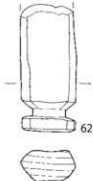
SE28



SE31



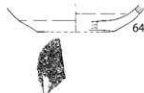
SE33



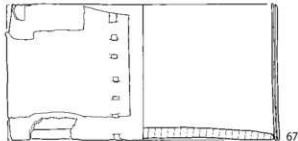
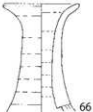
SE35



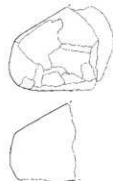
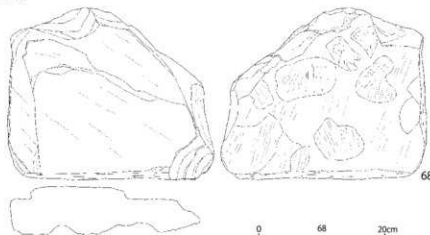
SE36



SE39



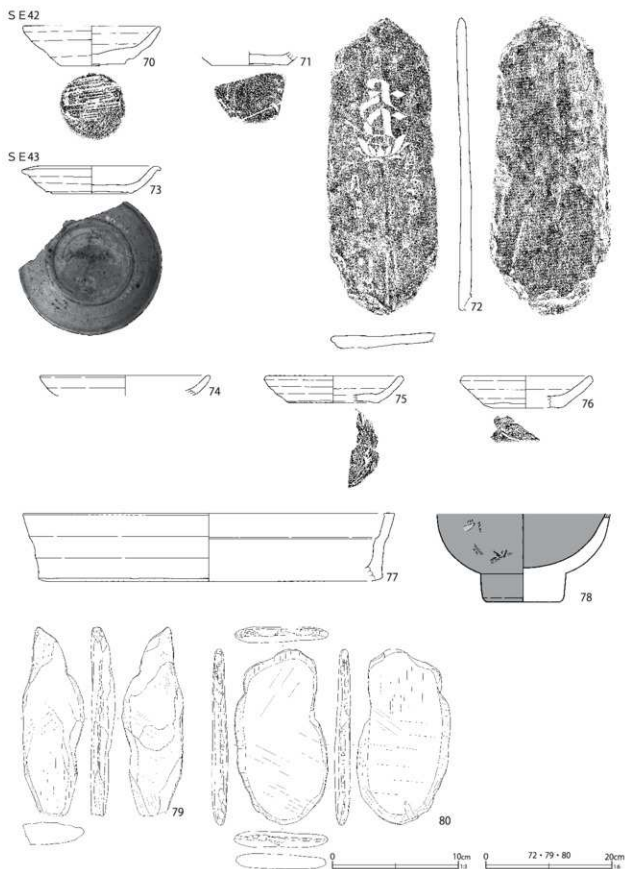
SE40



0 68 20cm
16

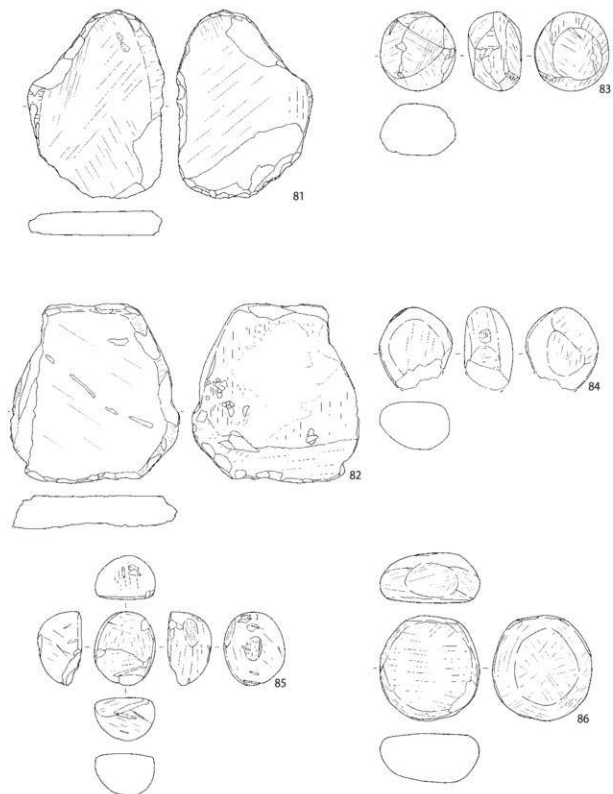
0 10cm
13

第29図 井戸跡出土遺物(8)



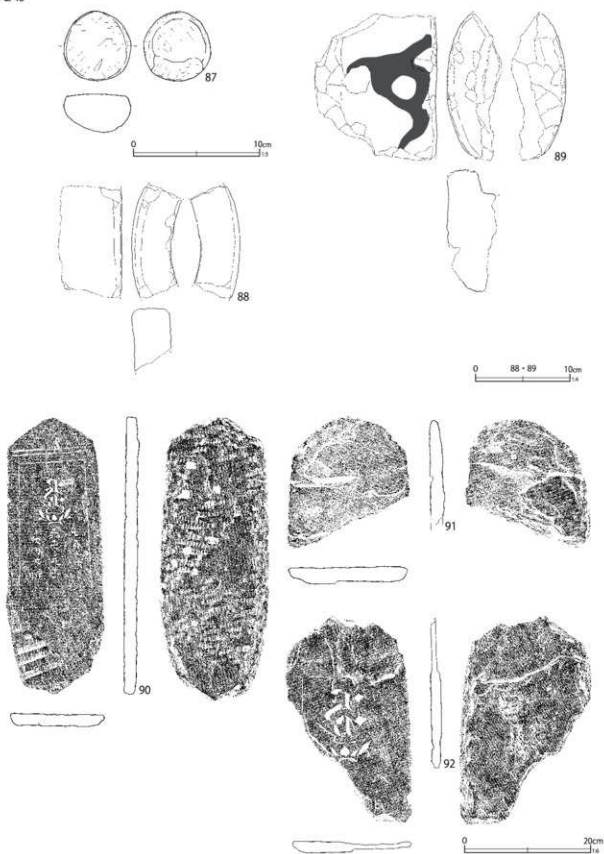
第30図 井戸跡出土遺物(9)

SE43



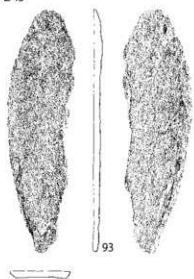
第31図 井戸跡出土遺物 (10)

SE43



第 32 図 井戸跡出土遺物 (11)

SE43



93



94



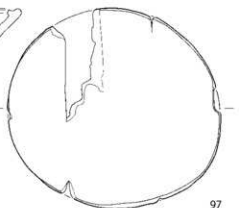
95



SE44



96



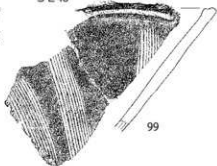
97

SE45



98

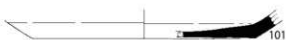
SE48



99



100

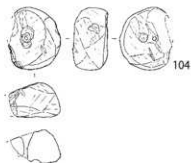
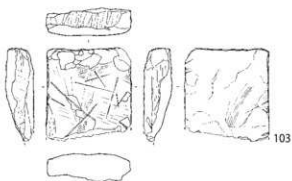
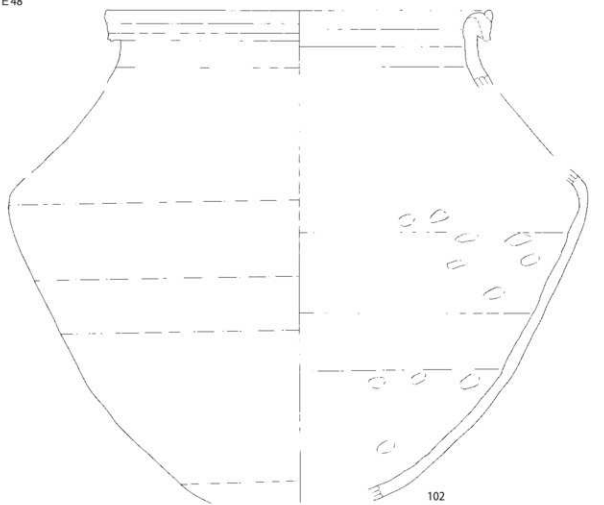


101



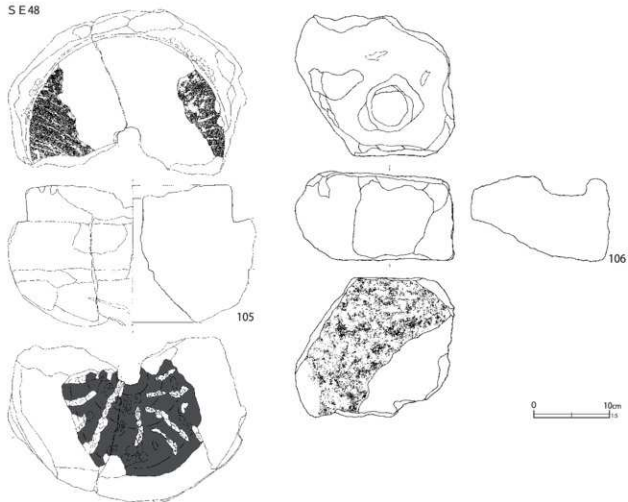
第33図 井戸跡出土遺物(12)

SE48



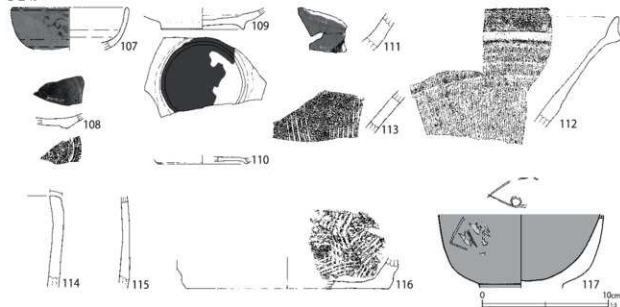
第 34 図 井戸跡出土遺物 (13)

SE48



0 10cm

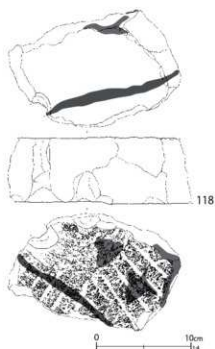
SE49



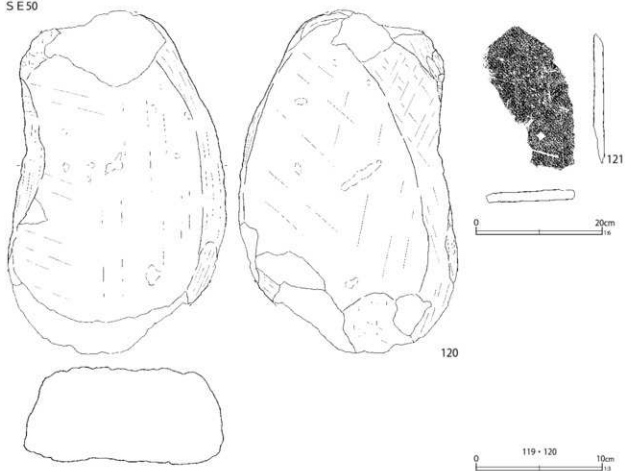
0 10cm

第35図 井戸跡出土遺物 (14)

SE49



SE50



第36図 井戸跡出土遺物 (15)

第3表 井戸跡出土遺物観察表 (第22～36図)

番号	遺構名	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	SE 4	陶器	天目茶碗	(11.8)	[4.8]	—	I K	10	良好	灰白	古瀬戸後期3期 鉄輪 15C前	25-11
2	SE 4	石製品	不明	長さ13.4	幅[23.7]	厚さ18.6	重さ5800.0g	欠損			角閃石ゲサイト 加工痕あり	
3	SE 5	鉄製品	釘	長さ[3.1]	幅0.4	厚さ0.4	重さ6.6g				角釘	38-2
4	SE 5	木製品	漆桶	口径 —	器高[3.2]	底径(6.5)					No.1 内面赤色系漆 外面黒色系漆 文様	34-14
5	SE 6	陶器	甕	—	8.0	—	I K	5	良好	褐灰	常滑系 16C後	25-11
6	SE 7	石製品	石臼 (上臼)	長さ[7.6]	幅[3.8]	推定径(20.0)	高さ[3.3]				安山岩 播目10溝	
7	SE 7	石製品	磨石か	長さ8.7	幅6.8	厚さ3.2	重さ99.2g	完形			軽石 一部黒色化	31-2
8	SE 7	石製品	板碑	長さ[63.4]	幅24.5	厚さ3.5	重さ9400.0g				No.1 緑泥片岩 キリーク(正)一尊/康暦元年己未一七廿四日/[]/ 銘文と特線内に金泥 裏面ノミ痕	31-3
9	SE 7	石製品	板碑	長さ[19.4]	幅[15.8]	厚さ2.1	重さ930.5g				No.2 緑泥片岩 キリーク(異)/	31-4
10	SE 7	石製品	板碑	長さ[43.0]	幅[19.4]	厚さ1.7	重さ2634.3g				No.3 緑泥片岩 キリーク(異)一尊/永正ヵ []/	31-5
11	SE 9	かわらけ	小皿	11.0	3.7	5.2	CK	90	普通	淡黄	No.1 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-1
12	SE 9	かわらけ	小皿	10.5	3.5	4.9	I K	80	普通	淡黄	No.2 底部回転糸切り右回転	21-2
13	SE 9	かわらけ	小皿	10.5	3.8	4.5	I K	95	普通	淡黄	No.3 底部回転糸切り右回転	21-3
14	SE 9	かわらけ	小皿	11.1	3.6	4.9	HK	80	普通	淡黄	No.4 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-4
15	SE 9	かわらけ	小皿	10.6	3.7	4.8	HK	95	普通	淡黄	No.5 底部回転糸切り右回転	21-5
16	SE 9	かわらけ	小皿	10.8	3.6	4.5	HK	80	普通	淡黄	No.6 8・12 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-6
17	SE 9	かわらけ	小皿	10.4	3.8	4.6	HK	70	普通	浅黄橙	No.7 8 底部回転糸切り右回転	21-7
18	SE 9	かわらけ	小皿	10.6	3.9	4.5	I K	95	普通	浅黄橙	No.9 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-8
19	SE 9	かわらけ	小皿	11.0	3.7	5.5	CK	95	普通	黄橙	No.10 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-9
20	SE 9	かわらけ	小皿	10.7	4.1	5.3	C I K	80	普通	にぶい黄橙	No.11 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-10
21	SE 9	かわらけ	小皿	10.6	3.5	5.0	I K	75	普通	にぶい黄橙	No.12 底部回転糸切り右回転板目状圧痕	21-11
22	SE 9	かわらけ	小皿	10.8	3.8	4.3	HK	95	普通	淡黄	No.13 底部回転糸切り右回転	21-12
23	SE 9	石製品	石臼 (下臼)	長さ[22.9]	幅[13.8]	推定径(29.0)	高さ[10.8]				安山岩 播目7溝	
24	SE 9	石製品	板碑	長さ[26.0]	幅20.1	厚さ2.5	重さ2502.5g				No.18 緑泥片岩 キリーク(異)/	32-1
25	SE 9	石製品	板碑	長さ[24.2]	幅[12.4]	厚さ[2.4]	重さ1014.7g				No.22 緑泥片岩 煤付着 正面剥離	32-1
26	SE 9	石製品	板碑	長さ[28.6]	幅17.3	厚さ2.6	重さ2197.6g				No.19 緑泥片岩 康応二年/六月一日/ 裏面ノミ痕 煤付着	32-1
27	SE 9	石製品	板碑	長さ[27.7]	幅[15.7]	厚さ2.3	重さ1757.2g				No.21 緑泥片岩 []三年/[]日/ 裏面ノミ痕 煤付着	32-5
28	SE 9	石製品	板碑	長さ[29.7]	幅[23.4]	厚さ1.7	重さ1698.7g				No.14 緑泥片岩 正応[]十一月/五輪塔発心門二行/ 正面剥離	32-6
29	SE 9	石製品	板碑	長さ[21.2]	幅[14.8]	厚さ1.4	重さ739.6g				No.17 緑泥片岩 正面剥離 裏面ノミ痕 煤付着	31-6
30	SE 9	石製品	板碑	長さ85.5	幅23.2	厚さ2.8	重さ8500.0g				No.15・23 緑泥片岩 キリーク(正)三尊/壽鏡庵門[]/明応八年己未/十二月廿八日/ 柿輪に光明真言	31-7
31	SE 9	石製品	板碑	長さ[48.0]	幅[19.1]	厚さ2.4	重さ4890.0g				No.25 緑泥片岩 キリーク(異)一尊/正和三年/十月日/ 裏面ノミ痕	32-2
32	SE 9	石製品	板碑	長さ[67.5]	幅25.6	厚さ2.8	重さ10300.0g				No.16 緑泥片岩 キリーク(異)一尊/正安二年/子口/七月十八日	32-3
33	SE 9	石製品	板碑	長さ[64.7]	幅[17.6]	厚さ4.7	重さ12100.0g				No.24 敬白/ 敬蓮華	32-4
34	SE 12	陶器	碗	—	[1.6]	4.8	I K	20	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系 灰輪 円盤転用か	
35	SE 12	陶器	片口鉢	—	[3.5]	—	I K	5	普通	にぶい黄橙	常滑系	25-11
36	SE 12	木製品	桶底板	長さ18.5	幅[15.8]	厚さ1.7					栴円形	35-8
37	SE 16	磁器	丸碗	10.0	[4.1]	—	I K	15	良好	白	肥前系 18C	25-11

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
38	S E 17	瓦質土器	焙烙	(37.0)	5.3	(33.2)	I K	40	普通	にがい黄褐色	16C 後	21-13
39	S E 18	陶器	丸皿	(8.8)	[1.7]	—	I K	5	普通	灰黄	瀬戸美濃系大室 志野 長石輪 煤付着 口縁部だけあり	25-11
40	S E 18	陶器	甕	—	[6.4]	—	I K	5	普通	褐灰	常滑系 16C 後～17C 前	25-11
41	S E 18	瓦質土器	摺鉢	—	5.4	—	I K	5	普通	灰白	掘目 1 分画 7 溝	25-11
42	S E 18	瓦質土器	内耳鍋	—	[4.6]	—	I K	5	普通	浅黄橙		25-11
43	S E 18	瓦質土器	土釜蓋	—	1.4	(11.1)	I K	15	普通	褐灰		21-14
44	S E 18	かわらけ	小皿	—	[0.4]	(3.4)	I K	5	普通	灰黄		25-11
45	S E 18	かわらけ	小皿	—	[0.7]	(3.4)	I K	5	普通	にがい黄褐色		
46	S E 18	鉄滓	碗型滓	長さ2.5	幅3.9	厚さ1.0	重さ11.5g	磁着○				38-2
47	S E 18	鉄滓	碗型滓	長さ3.1	幅4.1	厚さ1.7	重さ30.4g	磁着○				38-2
48	S E 19	銅製品	環	大きさ5.3×5.3	径0.6	重さ34.9g						38-2
49	S E 19	銅製品	環	大きさ5.9×5.9	径0.4	重さ12.2g						38-2
50	S E 19	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.4	厚さ1.9	重さ4.0g				%49 照寧元寶	38-3
51	S E 19	木製品	曲物	径18.9	高さ—	厚さ0.7					底板	35-8
52	S E 21	かわらけ	小皿	(9.3)	2.0	(6.0)	H I	30	普通	にがい黄褐色		25-11
53	S E 21	木製品	漆桶	口径—	器高[3.0]	底径6.3					黒色系漆	34-15
54	S E 21	石製品	砥石	長さ[4.0]	幅[2.8]	厚さ[0.5]	重さ6.6g	欠損			粘板岩 刃物痕	
55	S E 22	木製品	木桶	長さ[5.5]	幅18.2	厚さ6.3						
56	S E 22	木製品	曲物	径(18.7)	高さ—	厚さ0.6					底板	36-1
57	S E 24	石製品	砥石	長さ[13.2]	幅[5.0]	厚さ7.5	重さ1100.0g				角閃石デイスサイト 一部黒色化 刃物痕	
58	S E 27	瓦質土器	摺鉢	—	[3.5]	(12.0)	C I K	10	普通	にがい黄褐色	掘目 3 分画 7 溝 16C 後	
59	S E 28	陶器	平碗	—	[4.0]	(4.6)	I K	30	良好	浅黄橙	古瀬戸後期 1 期 灰軸 14C 後	21-15
60	S E 31	かわらけ	小皿	7.8	1.8	—	C I	100	普通	にがい黄褐色	手づくね	22-1
61	S E 31	石製品	石鐙	長さ4.1	幅3.3	厚さ3.3	重さ54.1g	欠損			石英斑岩 平面槽円形 断面円形 溝長輪あり 紐かけ摩耗	
62	S E 33	木製品	不明	長さ[10.0]	幅4.3	厚さ2.5					黒色下地	36-2
63	S E 35	瓦質土器	鉢	—	[3.2]	—	I K	5	普通	浅黄橙	口縁部砥具粘用	25-11
64	S E 35	かわらけ	小皿	—	[1.9]	(6.0)	C I	10	普通	にがい黄褐色	底部回転糸切り	25-11
65	S E 36	陶器	平碗	—	[4.1]	—	I K	5	良好	灰白	F-9 P 7 古瀬戸後期 灰軸 14C 後～15C	25-11
66	S E 39	陶器	瓶類	6.0	[8.5]	—	I K	10	普通	灰白	瀬戸美濃系大室 3・4 期 鉄輪 16C 後	22-2
67	S E 39	木製品	曲物	径21.4	高さ10.7	厚さ—					%1	35-1
68	S E 40	石製品	不明	長さ27.1	幅32.6	厚さ8.1	重さ9800.0g				緑泥片岩	32-7
69	S E 40	石製品	五輪塔	長さ[15.3]	幅[8.3]	厚さ[6.7]	重さ425.1g	欠損			角閃石デイスサイト 水輪	
70	S E 42	かわらけ	小皿	10.6	3.1	5.0	C I K	80	普通	にがい黄褐色	底部回転糸切り右回転板目状圧痕	22-3
71	S E 42	かわらけ	小皿	—	[1.0]	6.0	H I K	30	普通	にがい黄褐色	底部回転糸切り右回転	
72	S E 42	石製品	板碑	長さ46.7	幅[16.5]	厚さ2.0	重さ3170.0g				緑泥片岩 キリク(異)一尊/貞治七年/十月日/裏面ノミ痕	33-1
73	S E 43	陶器	丸皿	9.7	2.2	6.3	K	80	良好	灰白	瀬戸美濃系大室 4 後期 志野 長石輪 底面無輪 底面墨書「+」 16C 末～17C 初頭	22-4
74	S E 43	陶器	皿類	(13.6)	1.6	—	K	5	良好	灰白	古瀬戸系 灰軸	25-11
75	S E 43	かわらけ	小皿	(11.2)	2.1	(7.2)	C H I K	30	普通	にがい黄褐色	底部回転糸切り	
76	S E 43	かわらけ	小皿	(10.6)	2.5	(5.8)	C H I	20	普通	にがい黄褐色	底部回転糸切り	
77	S E 43	瓦質土器	焙烙	(29.6)	5.3	(27.6)	A C I K	10	普通	灰黄		25-11
78	S E 43	木製品	漆桶	口径—	器高[7.0]	底径5.8					黒色系漆 外面赤色系漆で文様	35-2
79	S E 43	石製品	砥石	長さ[29.9]	幅[9.8]	厚さ3.8	重さ1300.0g	欠損			緑泥片岩 黒色化 擦痕	
80	S E 43	石製品	砥石	長さ28.7	幅14.8	厚さ2.5	重さ1500.0g				緑泥片岩 擦痕	
81	S E 43	石製品	砥石	長さ14.8	幅10.7	厚さ1.9	重さ500g				緑泥片岩 擦痕	
82	S E 43	石製品	砥石	長さ14.2	幅13.2	厚さ2.6	重さ700g				緑泥片岩 擦痕	
83	S E 43	石製品	磨石	長さ6.2	幅5.9	厚さ4.2	重さ126.7g	完形			軽石 刃物痕	
84	S E 43	石製品	磨石	長さ[6.5]	幅5.7	厚さ3.8	重さ82.4g	欠損			軽石	
85	S E 43	石製品	磨石	長さ5.8	幅4.8	厚さ3.4	重さ57.7g	完形			軽石 刃物痕	

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
86	S E 43	石製品	磨石	長さ8.2	幅7.9	厚さ4.0	重さ151.6g	欠損			軽石 全面擦痕明瞭 平面円形 断面楕円形	
87	S E 43	石製品	磨石	長さ5.5	幅5.3	厚さ3.0	重さ44.1g	完形			軽石 平坦面全体に擦痕 平面円形 断面楕円形	
88	S E 43	石製品	石臼 (上臼)	長さ[11.9]	幅[5.2]	推定径(30.0)	高さ[6.7]				安山岩	
89	S E 43	石製品	石臼 (上臼)	長さ[15.4]	幅[5.8]	推定径(24.0)	高さ[12.8]				安山岩 一部黒色化	
90	S E 43	石製品	板碑	長さ[44.7]	幅[15.8]	厚さ2.0	重さ2855.0g				緑泥片岩 キリーク(異)一尊/嘉吉元年/七月七日/□□大姉/ 裏面ノミ痕	33-2
91	S E 43	石製品	板碑	長さ[6.7]	幅[18.8]	厚さ2.3	重さ1400.0g				緑泥片岩 煤付着	33-4
92	S E 43	石製品	板碑	長さ[24.0]	幅[18.9]	厚さ1.8	重さ1620.0g				緑泥片岩 キリーク(異)/正月/ 正面摩滅 裏面ノミ痕 煤付着	33-4
93	S E 43	石製品	板碑	長さ[38.7]	幅[9.5]	厚さ1.1	重さ800.0g				緑泥片岩 砥石転用	33-3
94	S E 43	石製品	板碑	長さ[22.5]	幅[10.3]	厚さ2.7	重さ1040.0g				緑泥片岩 バク/ 砥石転用	33-4
95	S E 43	石製品	板碑	長さ[14.8]	幅[11.4]	厚さ2.4	重さ640.0g				緑泥片岩 キリーク/ 砥石転用 15C	33-4
96	S E 44	陶器	知目付大甕	(30.8)	[8.8]	—	I	10	普通	灰白	古瀬戸後期3期 灰軸	26-1
97	S E 44	木製品	曲物	径16.6	高さ—	厚さ0.6					底板	36-1
98	S E 45	かわらけ	小皿	(10.8)	[2.8]	—	I K	5	普通	浅黄橙		26-1
99	S E 48	瓦質土器	擂鉢	—	[9.8]	—	I	10	普通	浅黄橙	擂目3分画9溝	26-1
100	S E 48	瓦質土器	擂鉢	—	[3.0]	—	I	10	普通	浅黄橙	擂目5分画7溝	
101	S E 48	須臾器	甕	—	—	(17.6)	H I K	5	普通	浅黄橙		
102	S E 48	陶器	甕	(40.4)	[51.8]	—	A G I K	30	普通	褐灰	常滑系 15C前	26-2
103	S E 48	石製品	砥石	長さ[7.4]	幅[6.7]	厚さ2.2	重さ200.0g	欠損			片岩 刀物痕 丸ノミ痕	
104	S E 48	石製品	磨石	長さ5.0	幅[4.2]	厚さ2.7	重さ25.0g	欠損			軽石 穿孔あり 加工痕多数	
105	S E 48	石製品	茶臼 (下臼)	長さ[17.4]	幅[25.1]	推定径(27.0)	高さ[14.9]				安山岩 一部黒色化 工具成形痕多数 擂目6溝	33-5
106	S E 48	石製品	礎石	長さ[11.7]	幅[21.0]	厚さ[18.4]	重さ4200.0g	欠損			角閃石グライサイト 円形凹みあり	33-6
107	S E 49	陶器	丸碗	(9.0)	[3.3]	—	I K	10	普通	灰白	京信楽系 鉄軸 18C中	26-1
108	S E 49	陶器	碗類	—	[1.3]	—	I	5	普通	灰黄	瀬戸美濃系 鉄軸	
109	S E 49	陶器	皿類	—	[1.7]	6.5	I	40	普通	灰白	瀬戸美濃系 灰軸 底部黒痕	22-5
110	S E 49	陶器	皿類	—	[0.5]	(7.0)	I K	10	良好	灰白	瀬戸美濃系大窯3期後半 灰軸	26-1
111	S E 49	陶器	鉢	—	[3.0]	—	I K	5	普通	淡黄	瀬戸美濃系 鉄軸 笠原鉢	26-1
112	S E 49	陶器	擂鉢	—	[8.8]	—	I	10	普通	褐灰	丹波系	26-1
113	S E 49	陶器	擂鉢	—	[3.5]	—	I K	5	普通	淡黄	瀬戸美濃系 擂目2分画7溝	26-1
114	S E 49	陶器	甕	—	[7.2]	—	I K	5	普通	灰白	瀬戸美濃系 鉄軸 砥石転用	26-1
115	S E 49	陶器	徳利	—	[7.3]	—	I K	10	普通	にぶい焼	志戸呂系 鉄軸	26-1
116	S E 49	瓦質土器	擂鉢	—	[2.5]	(16.0)	I K	5	普通	淡黄	擂目3分画7溝	
117	S E 49	木製品	漆桶	口径—	器高[5.7]	底径(6.4)					内外面黒色系漆 内外面赤色系漆で文様	35-3
118	S E 49	石製品	石臼 (上臼)	長さ[12.4]	幅[18.1]	推定径—	高さ[7.1]				安山岩 一部黒色・赤色化 擂目2分画6溝	
119	S E 49	石製品	磨石	長さ5.7	幅4.2	厚さ[3.4]	重さ45.1g	欠損			軽石	
120	S E 50	石製品	不明	長さ[27.0]	幅[17.3]	厚さ8.1	重さ2000.0g	欠損			角閃石安山岩 表裏両側面擦痕多数	
121	S E 50	石製品	板碑	長さ[20.8]	幅[14.3]	厚さ1.4	重さ1000.0g				緑泥片岩 キリーク(異)/ 砥石転用	33-4

第36図120は角閃石安山岩製の石製品である。両面に擦痕がみられるが、性格は不明である。121は板碑である。種字の一部が残る。

第51号井戸跡(第21図)

E-11グリッドに位置し、平面形は楕円形であ

る。長軸1.10m、短軸0.75m以上、深さ1.16m以上である。第32号溝跡、第33号溝跡、第34号溝跡と重複し、これらよりも新しく、第45号井戸跡に先行する。第46号井戸跡との新旧関係は不明である。遺物は出土していない。

3. 溝跡

溝跡は計34条検出された。調査区内においてL字型やL字型の形状で検出された区画溝と想定されるものと、直線的に延びるものが認められる。

第1号溝跡(第37・54図)

H・I-1・2グリッドに位置する。逆L字状に屈曲し、走行方位は東側がN-26°-W、南側がN-70°-Eを指す。北端、西端が調査区外に至る。検出全長7.80m、幅0.55~1.75m、深さ0.38~0.52mで、逆台形の断面形状を有する。

覆土は砂が堆積し、第1層及び第2層にはAs-A軽石粒を含む。第1号道路跡を挟み第2号溝跡と並んだ区画溝であると想定される。

第54図1は軒丸瓦である。焼成が甘く胎土が浅黄橙色を呈する。中世段階のものと思われる。

溝の埋没時期は、As-A軽石粒を含むことから18世紀後半に位置付けられよう。

第2号溝跡(第38・39・54~66図)

F-6、G-5・6、H-2~5、I-2・3グリッドに位置する。L字状に屈曲し、走行方位は東側がN-16°-W、西側がN-25°-W、南側がN-65°-Eを指す。両端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長59.00m、幅1.80~3.50m、深さ0.60~1.20mで、葉研形の断面形状を有する。覆土は第1層から第13層にかけて砂の比率が高い。第15層からはAs-A軽石粒が検出されている。このことから天明3年以前から機能していた溝跡であり、天明3年以後に砂が堆積した様相が窺える。第1号道路跡を挟み西側で第1号溝跡と並び、南側では約6mの距離を開けて第3号溝跡と並ぶ。それぞれの溝跡が、隣接する屋敷の区画溝であると想定される。

遺物は多く出土している。また、木材や木片も多く検出されている。第54・55図2~14は肥前系磁器である。2~8は丸皿である。2、3、6~8には梅樹文、4は草花文、5は二重網目文の染付がある。9は碗類で外面に二重網目文、見込

み中央に五弁花が描かれている。第55図10~14は皿類である。10~12は内面に草花文が描かれ、見込み中央にコンニャク印判の五弁花が施文される。外面体部には唐草文、底部には圏線と枠なしで崩れた「渦福」の銘款が認められる。13は内面に草花文、見込み中央にコンニャク印判の五弁花が施文される。外面体部には唐草文、底部には圏線と枠なしで崩れた「渦福」の銘款が認められる。14は蛇ノ目軸剥ぎの皿である。内面に草花文が描かれ、見込み中央にコンニャク印判の五弁花が施文される。外面体部と底部は無文である。第56図15は瀬戸美濃系磁器の徳利である。胴部の2箇所に「金□」と「□」の文字が書かれる。16は肥前系磁器の徳利の底部である。第56図17~23は瀬戸美濃系陶器の碗類である。17はせんじ碗である。18~20は腰緒碗である。24~27は肥前系陶器の碗類である。24と25は呉器手碗であり、25は円盤に転用されている可能性がある。26は刷毛目碗である。28~30は京信楽系の碗類である。29の割れ口に煤が付着している。第56図31~第57図35は瀬戸美濃系陶器類である。31は志野丸皿である。32と33は天目茶碗である。34は坏である。内外面に灰釉が施されている。35は皿である。欠損が全くない完形品である。見込み部分及び底部から体部下半以外にかけて灰釉が施されている。底部中央には墨痕が認められる。36は陶器の皿類である。内面に釉が施され、鉄絵で草花文が描かれており、底部に屋号と思われる「八」(ヤマ)に「大」の墨書が書かれている。産地は不明である。37は志戸呂系の皿類である。38と39は瀬戸美濃系陶器で、38は丸皿である。内外面に灰釉が施されている。39は内充皿である。見込みを除き、内外面に灰釉が施されている。40は肥前系陶器で古唐津の皿である。内面及び外面上半に乳白色の釉を施す。41は肥前系陶器で三島手の皿である。印花文と鉄釉による施釉がみられる。42は古瀬戸後期2・3期の

盤類である。底部のみであるが、底部中央がやや膨らみ残存部の端がやや厚くなることから脚付きのタイプと想定される。内面に灰釉が施されている。43は瀬戸美濃系陶器の菊皿である。44は瀬戸美濃系陶器の笠原鉢である。長石釉を施し緑釉がかけられ、鉄絵が描かれている。目跡が残る。45は瀬戸美濃系陶器の鉢類である。目跡が残る。内外面に濃緑色の灰釉がかけられている。割れ口に煤が付着している。46は肥前系陶器で三島手の鉢類である。第57図47～第58図52は片口鉢、53～第59図62は播鉢である。63は古瀬戸の鉢類である。64と65は香炉である。66と67は花生である。66は正面に「大」の文字と龍が彫り込まれ、周囲に渦巻き模様が配置され、裏面には「小」の文字と渦巻き模様が彫られている。全面灰釉が施されている。口縁部は欠損している。67は底部を除き鉄釉が施されている。肩部に耳が付き、口縁部が朝顔形にひらく。68は産地不明の壺類である。69は瀬戸美濃系陶器の徳利である。外面に鉄釉が施された後、乳白色の釉がかけられている。

第60図70～第61図82までは瓦質土器である。71は焙烙で見込みに「極上」の刻印がある。82は竈である。口縁部の下に鐙が取り付け、その下が開口している。83～87はかわらけである。84は内面に煤や油煙が多量に付着しており、灯明皿として使用されたとみられる。87は小型のかわらけで、口縁部に油煙が付着している灯明皿である。第62図88～90は土製品、91、92は土師質土器、93、94は瓦である。

木製品は第63図95の漆椀と96の鋤を図示した。ほかの遺物は残存が悪く図示できなかった。97は銅製の柄鏡である。中央に十六菊花紋、その周囲に銀杏の葉が6葉と「光政」の銘がみられる。98～108は銭貨である。確認できた102、104、105、107は「新寛永」である。これらの銭貨は重なって張り付いた状態で出土している。

第64図109は鉄鍋である。吊手がつくタイプで

耳部の片側は欠損している。吊手を接続する耳部の穴は3箇所確認できたが、2箇所は塞がれている。片口は無い。底部には短い足が3箇所取り付け、中央部には楕円形さみの湯口がみられる。また底部は赤く被熱している。110は鉄瓶である。錆により状態は極めて悪い。注口は先端部が欠損しているが、直線的に立ち上がる形状を有する。上面に3箇所の吊手を接続する部分が残る。底部には短い足が3箇所取り付けが1箇所欠損している。底部に錆で塞がっているが、X線撮影によって小さな穴が開いていることが確認できた。体部には文様が認められるが、錆が多く詳細は判然としない。湯口は確認できなかった。他に砥石や石臼などの石製品が出土している。

最下層からまともな丸太材が検出された。内1点で放射性炭素年代測定を実施したところ、18世紀後半から19世紀初頭の年代が得られた。樹種はケヤキである。第2号溝跡の埋没時期は、As-A軽石が含まれる砂が堆積していることから18世紀後半に埋没したと位置付けられよう。

第3号溝跡（第40・67図）

H-4～7・I-3～5・J-4グリッドに位置する。逆U字形に屈曲し、走行方位は東側がN-40°-W、西側がN-20°-W、北側がN-65°-Eを指す。両端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長38.80m、幅1.30～2.80m、深さ0.30～0.70mで、葉研形の断面形状を有する。覆土はいずれの層も砂が堆積しており、底面に近い第8層からAs-A軽石粒が検出されている。北側で、第2号溝跡と並行して並ぶ区画溝と想定される。

第67図131は古瀬戸系陶器の平碗である。132は丹波系陶器の播鉢である。播目は5分画7溝一単位確認できる。133は瀬戸美濃系陶器の舟徳利の底部である。底部に刻印のような痕跡が認められる。134は瓦質土器の丸火鉢である。135は鉄洋、136は石灰質砂岩製の砥石である。

第4号溝跡 (第40図)

I-3・4グリッドに位置する。走行方位はN-65°-Eを指し、南西から北東方向にかけて延びている。規模は長さ8.35m、幅0.35~0.80m、深さ0.04~0.15mで、皿形の断面形状を有する。覆土は砂が堆積している。遺物は出土していない。

第5号溝跡 (第41・67図)

G-5・6グリッドに位置する。走行方位はN-75°-Eを指し、北東から南西方向にかけて延びている。規模は長さ7.40m、幅0.20~0.40m、深さ0.34~0.43mで、U字形の断面形状を有する。覆土はシルト質の土が堆積しており、第1層からはAs-A軽石粒が検出されている。

第67図137は銭貨で、銭種は「開元通寶」である。138と139は火打石である。

第6号溝跡 (第42・68・69図)

G-7~10グリッドに位置する。走行方位はN-82°-Eを指し、東西方向に延びている。西端は第9号溝跡に接続していた可能性がある。東端は調査区内で、立ち上がり不明瞭となっていく。検出全長24.00m、幅1.05~2.40m、深さ0.48~0.68mで、断面形状は葉研形である。第8号溝跡に先行し、西側で完全に同一の溝になる。

第68図140と141は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗である。142は古瀬戸系陶器の平碗である。143~146は瓦質土器の焙烙、内耳鍋、播鉢である。147~153はかわらけである。149は体部の内外面両面に油煙が付着している。153は小型のタイプで、口縁部に油煙が付着した灯明皿である。第69図154は鉄滓である。155は磨石で、刃物痕が認められる。156と157は板碑の破片である。時期は16世紀後半以降に埋没したと位置付けられよう。

第7号溝跡 (第41・69図)

H-2、I-2・3、J-3グリッドに位置する。走行方位はN-24°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びている。検出全長23.00m、幅0.90~1.20m、深さ0.80mで断面形状は葉研

形である。覆土は砂が堆積している。第1号道路跡と重複し、第7号溝跡が埋没後に道路が敷設されたことがわかる。

遺物は陶器類が出土している。第69図158は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗である。内外面に鉄軸が施されている。159と160は灯明皿で、159は瀬戸美濃系、160は志戸呂系の陶器である。16世紀後半頃には埋没したとみられよう。

第8号溝跡 (第42・69・70図)

F-9・10、G-7~10グリッドに位置する。走行方位はN-77°-Eを指し、北東から南西方向にかけて延びている。西端は第9号溝跡に接続していた可能性がある。東端は調査区内で立ち上がり、不明瞭となっていく。検出全長27.10m、幅1.20~2.10m、深さ0.48~1.04mで断面形状は葉研形である。重複する第6号溝跡より新しく、西側で完全に同一の溝になる。

第69図161は瀬戸美濃系陶器の鉢類である。外面及び内面口縁部に鉄軸が施されている。162は焙烙である。内耳部分は欠損している。163は播鉢である。播目は4分画5溝確認できる。164は火鉢である。外面に三角形文が刻印されている。165は手づくねかわらけである。口縁部がサデ、体部がケズリ調整されている。第70図166~168は鉄製品である。169と170は安山岩製の石臼である。169は粉挽臼の上臼で、170は茶臼下臼の受皿部分である。遺物は中世段階のものが主体である。しかし、重複する第6号溝跡が16世紀後半頃に埋没したとみられることから、それ以降のほぼ同時期に埋没した可能性が想定されよう。

第9号溝跡 (第41・70・71図)

F・G-7グリッドに位置する。走行方位はN-10°-Wを指し、南東から北西方向にかけて延びる。両端が調査区外に至るため全長は不明である。検出全長10.70m、幅1.45~1.90m、深さ0.53~0.56mで、断面形状は葉研形である。

第70図171は瀬戸美濃系陶器の腰緒碗である。

18世紀後半頃に位置付けられる。172は笠原鉢の破片である。内面に鉄絵が描かれている。173と174は肥前系の陶器である。173は鉢、174は刷毛目碗である。175は瀬戸美濃系陶器の有耳壺蓋である。176は志野の水差である。外面に長石釉を施し、鉄絵で草花が描かれている。177は瀬戸美濃系の水差である。内外面に灰釉が施されている。178は常滑系陶器の甕口縁部である。第71図179は焙烙の底部である。内面に「口吉」の刻印が認められる。180は角火鉢である。外面に3種の刻印が認められる。181～184はかわらけである。181、183、184は器壁が薄手で扁平なタイプである。182は器壁が厚いが同様に扁平なタイプである。いずれも底部回転糸切り右回転である。185は羽口である。融解した鉄が付着している。186は流紋岩製の砥石である。187は「貞治七年」（1368）の年号を刻む板碑である。銘文は第5表に記した。第9号溝跡は17世紀代の遺物がいくつみられることから、この頃に開口し、18世紀後半以降に埋没したとみられよう。

第10号溝跡（第43・72・73図）

E-7、F-7・8、G-7～9、H-8グリッドに位置する。L字状に屈曲し、走行方位は西側がN-15°-W、南側がN-82°-Wを指す。検出全長24.80m、幅1.90～2.80m、深さ0.45～0.90mで、断面形状は逆台形である。覆土は、第4層から第10層にかけて植物遺体が多く検出されている。遺物は豊富に出土している。

第72図188は肥前系磁器の皿である。189は瀬戸美濃系陶器の灯明皿である。内外面に鉄釉が施されている。190と191は古瀬戸系の緑釉小皿である。190は古瀬戸後期4期古頃に位置付けられる。内外面口縁部に灰釉が施されている。192は笠原鉢である。長石釉を施した後、緑釉がかけられ、鉄絵で葦か薄と思われる絵が描かれている。17世紀後半頃の製品に位置付けられる。193は瀬戸美濃系陶器の播鉢である。播目が10分画9溝確認でき

る。194は京信楽系の播鉢である。播目が4分画7溝確認できる。195は常滑系壺類の口縁部である。196は瀬戸美濃系陶器の筒形香炉である。外面及び口縁部に灰釉が施されている。内面には煤が付着している。時期は18世紀前半頃に位置付けられよう。

197は瓦質土器の内耳鍋であるが、内耳部分は欠損している。第73図198と199は焙烙である。いずれも口縁部にナデ調整、体部下半に指オサエ痕が残る。200～202は火鉢で、それぞれ刻印が認められる。203～208はかわらけである。209は高台付坏のクロロ土師器である。高台脚部が外側へ外反する。内面が黒色化しているが、ミガキ調整はされていない。器形から10世紀中～後半頃の製品に位置付けられる。周辺から混入したものであろう。210は曲物の底板である。釘穴が2箇所みられる。また、表面に刃物痕が確認できる。211は砥石、212は火打石である。

第10号溝跡の埋没時期は17世紀代の遺物がいくつみられることから、この頃から埋没が進み、196の筒形香炉の時期にあたる18世紀前半頃にはほぼ埋まったと想定される。覆土にAs-A軽石粒が確認されていない点とも一致する。

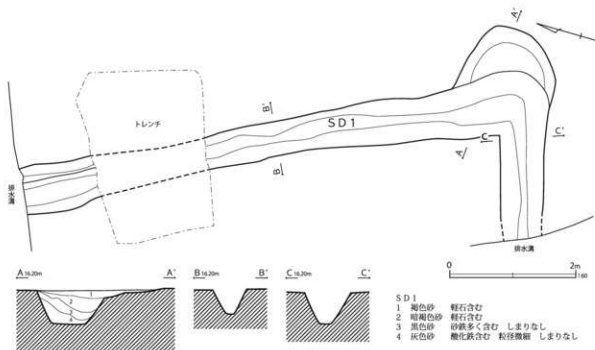
第11号溝跡（第43・73図）

F-6グリッドに位置する。走行方位はN-25°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。北端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長5.30m、幅1.35～1.90m、深さ0.42～0.51mで断面形状は栗研形である。

第73図213は土釜で外面に耳が取り付け。中世段階には埋没した可能性がある。

第12号溝跡（第44・74図）

F・G-9グリッドに位置する。走行方位はN-3°-Wを指し、南から北方向にかけて延びる。南側が第6号溝跡、北側が第13号溝跡に切られており、全長は不明である。検出全長5.00m、幅1.00～1.10m、深さ0.20mで、断面形状は逆台



第37図 第1号溝跡

形である。

遺物は陶器類とかかわりが1点ずつ出土している。第74図214は古瀬戸後期の緑釉小皿である。口縁部に鉄鈹が施されている。215は小型のかかわりである。古瀬戸後期の陶器が出土していることから、15世紀代以降の埋没と想定される。

第13号溝跡 (第44・74図)

F-9～11グリッドに位置する。走行方位はN-80°-Eを指し、北東から南西方向にかけて延びる。西側が第17号溝跡によって切られている。検出全長20.80m、幅1.15～2.65m、深さ0.44～1.00mで、断面形状は葉研形である。

第74図216は古瀬戸後期の平碗である。217は瓦質土器の播鉢である。218は板碑である。15世紀代以降の埋没と想定される。

第14号溝跡 (第45・74図)

F-6、G-6・7グリッドに位置する。L字状に屈曲し、走行方位は西側がN-20°-W、南側がN-84°-Eを指す。北端が調査区外に至るため全長は不明である。検出全長14.00m、幅

0.45～0.65m、深さ0.18～0.25mで、断面形状は葉研形である。西側で第2号溝跡と重複し、これより新しい。

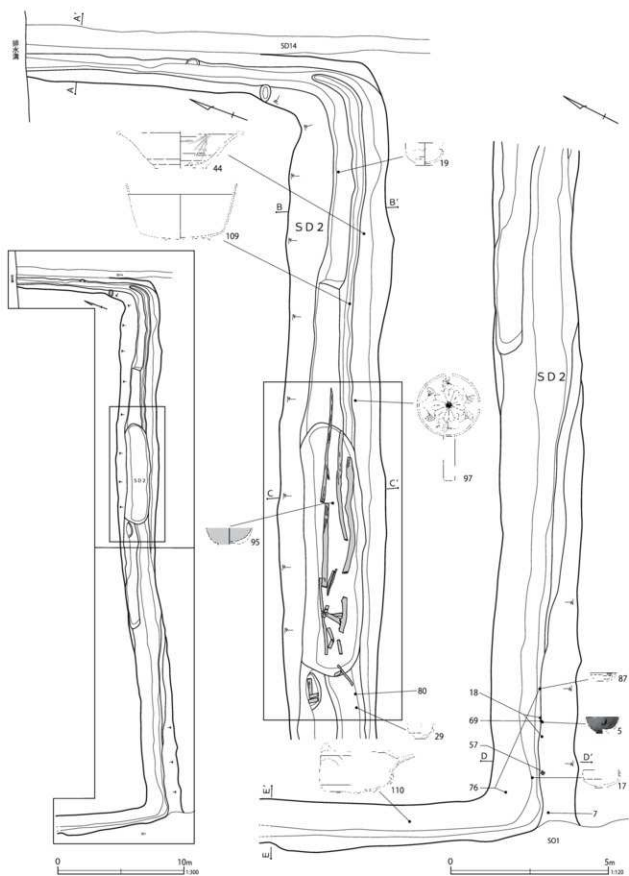
第74図219は焙烙である。内耳が口縁から底部にかけて接続しているタイプで、19世紀代に位置付けられる。220と221はかわりである。220は底部回転糸切り右回転、221は底部回転糸切り左回転の痕がみられる。時期は第2号溝跡との重複関係から18世紀後半以降に埋没を開始し、19世紀代にかけて埋没したと位置付けられる。

第15号溝跡 (第44図)

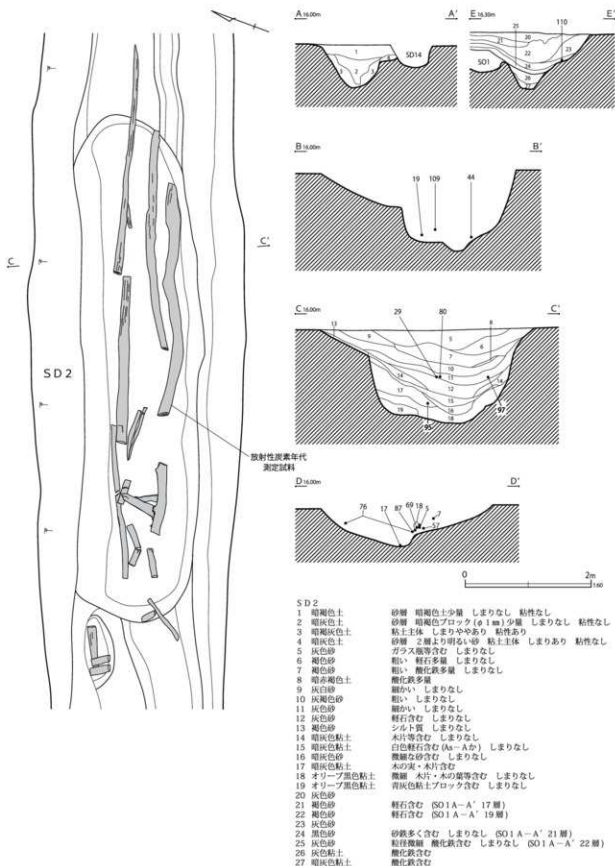
F-9・10グリッドに位置する。逆L字状に屈曲し、走行方位は西側がN-5°-W、南側がN-77°-Eを指す。検出全長13.85m、幅0.45～1.60m、深さ0.12～0.54mで、断面形状は葉研形である。遺物は出土していない。

第16号溝跡 (第46・74図)

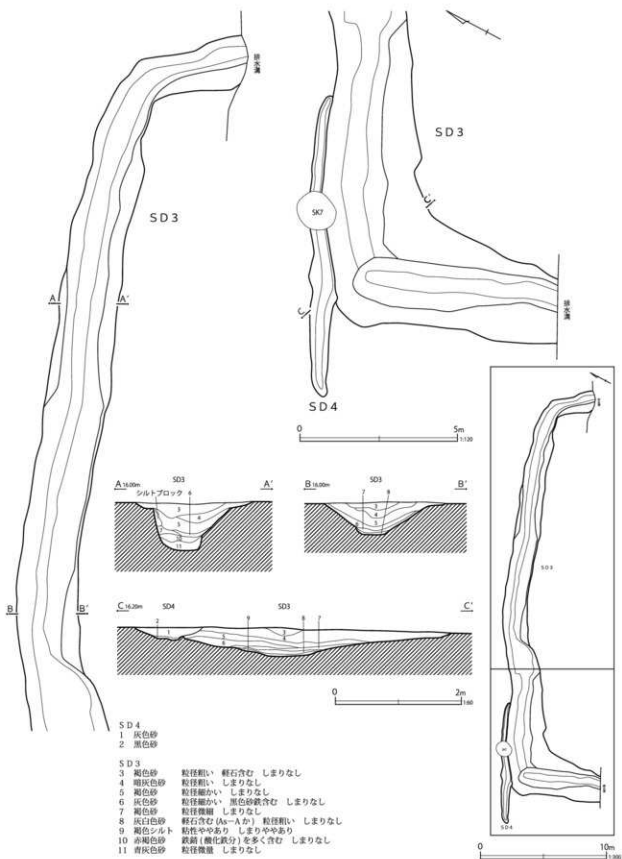
F-9、G-8・9グリッドに位置する。走行方位はN-79°-Eを指し、北東から南西方向にかけて延びる。東端で立ち上がり、西側が第10号



第38图 第2号沟迹(1)

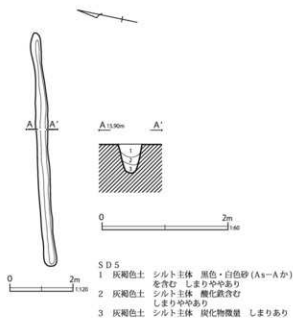


第39図 第2号溝跡(2)・木材出土状況

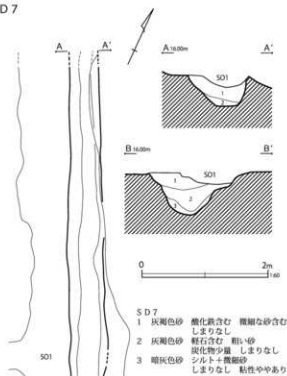


第 40 図 第 3・4 号溝跡

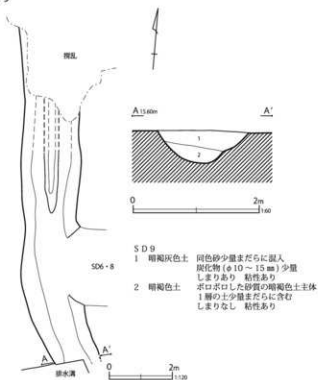
SD5



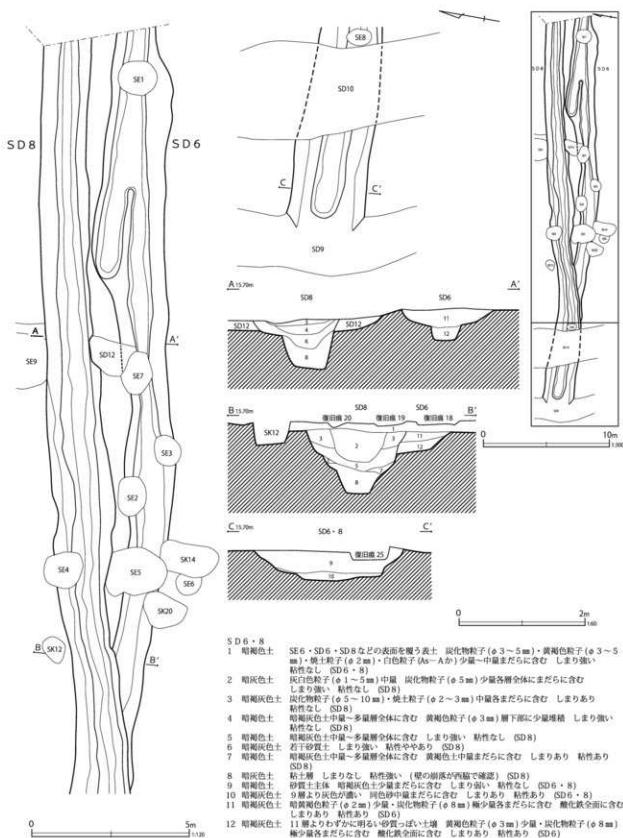
SD7



SD9

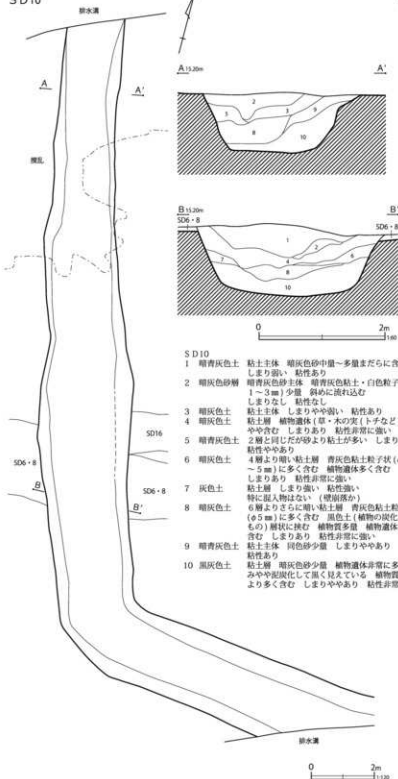


第41図 第5・7・9号溝跡



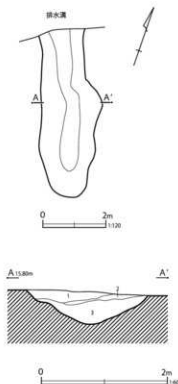
第 42 図 第 6・8号溝跡

SD10



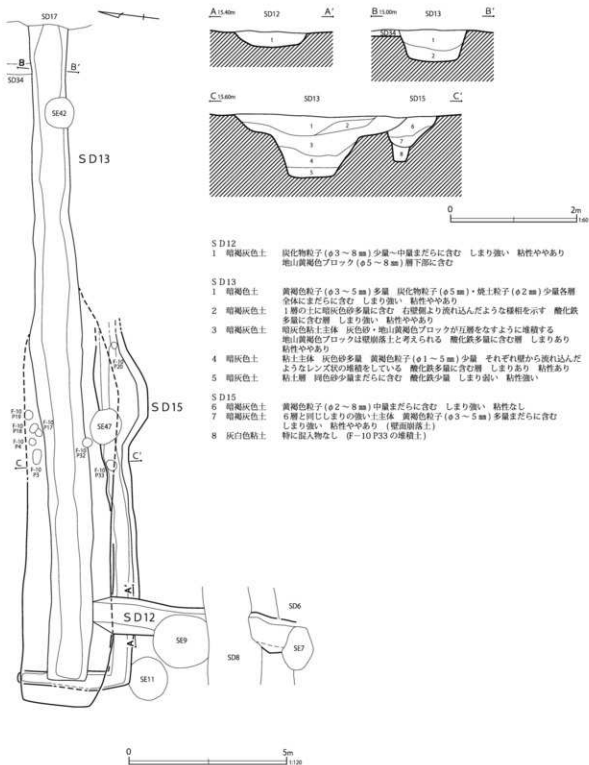
- SD10
- 1 暗青灰色土 粘土主体 暗灰色砂中量～多量までに含む
しまり強い 粘性あり
 - 2 暗灰色砂層 暗青灰色粘土・白色粒子(φ
1～3mm)少量 弱めに流れ込む
しまりなし 粘性なし
 - 3 暗灰色土 粘土主体 しまりやや弱い 粘性あり
 - 4 暗灰色土 粘土層 植物遺体(草・木の皮(トチなど)
やや含む しまりあり 粘性非常に強い
 - 5 暗青灰色土 2層と同じだが砂より粘土が多い しまり弱い
粘性ややあり
 - 6 暗灰色土 4層より暗い粘土層 青灰色粘土粒子状(φ2
～5mm)に多く含む 植物遺体多く含む
しまりあり 粘性非常に強い
 - 7 灰色土 粘土層 しまり強い 粘性強い
特に混入物はない(壁崩壊か)
 - 8 暗灰色土 6層よりさらに暗い粘土層 青灰色粘土粒子状
(φ5mm)に多く含む 黒色土(植物の炭化した
もの)縦状に挟む 植物質多量 植物遺体多く
含む しまりあり 粘性非常に強い
 - 9 暗青灰色土 粘土主体 同色砂少量 しまりややあり
粘性あり
 - 10 黒灰色土 粘土層 暗灰色砂少量 植物遺体非常に多く含む
みやや泥炭化して黒く見えている 植物質8層
より多く含む しまりややあり 粘性非常に強い

SD11

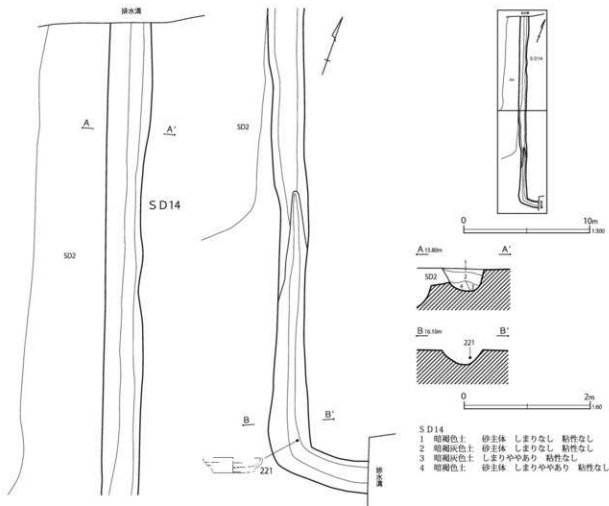


- SD11
- 1 暗黄褐色土 粘土の非常に細かい砂層
しまりなし 粘性なし
 - 2 暗褐色土 砂層 腐化炭多く含む
しまり弱い 粘性なし
 - 3 暗褐色土 同色砂少量までに含む
腐化炭多く含む しまりややあり
粘性ややあり

第43図 第10・11号溝跡



第44図 第12・13・15号溝跡



第45図 第14号溝跡

溝跡に切れ立ち上がりは確認できないが、第10号溝跡の反対側には延びない。検出全長9.60m、幅1.15～1.55m、深さ0.37～0.60mで、断面形状は逆台形である。

第74図222は常滑系の山茶碗である。

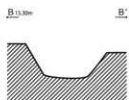
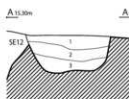
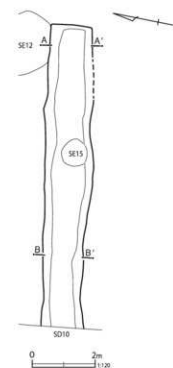
第17号溝跡 (第46・74～79図)

D～F-11グリッドに位置する。走行方位はN-6°-Eを指し、南から北東方向にかけて延びる。南側が調査区外に至るため全長は不明であるが検出全長17.60m、幅3.00～3.20m、深さ0.89～1.10mで、断面形状は逆台形である。

遺物の出土量が多い。第74図223は景德鎮系青白磁の梅瓶である。224～第75図233は肥前系磁器の丸碗で、234は碗類、235は坏、236は香炉で

ある。丸碗の染付は梅花文、梅樹文のものが多い。銘款は「大明年製」や崩れた「大明年製」が認められる。233と234は円盤として転用されている未製品である可能性がある。237から248は瀬戸美濃系陶器である。237と238は灰釉丸碗、239～241は腰鎗碗、242は鉄釉の施された碗類である。243と244はせんじ碗である。245は天目茶碗で鉄釉が施されている。246は白天目茶碗である。半透性の釉がかかる。247は坏である。248はいわゆる笠原鉢である。長石釉が施され、鉄絵が描かれている。249は古瀬戸系の平碗である。第76図250から252は京信楽系陶器の丸碗である。253と254は肥前系陶器の呉器手碗である。255は瀬戸美濃系陶器の志野鉄絵皿である。内面に鉄絵が描かれて

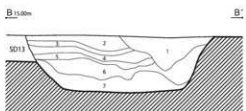
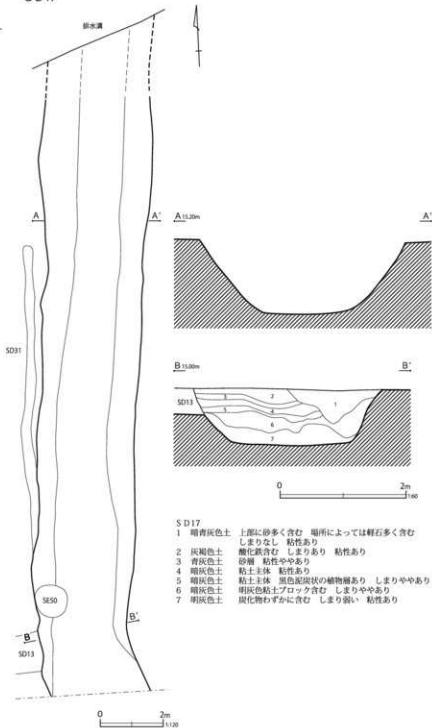
SD16



SD16

- 1 暗褐色土 粘土主体 黄砂子(φ1~5mm)多量
しまりやや弱い 粘性あり
- 2 暗褐色土 地山青緑色砂子(φ3mm)少量まだらに
含む しまりややあり 粘性あり
- 3 暗褐色土 2層より強い 粘土主体 酸化鉄中量
まだらに含む しまりややあり
粘性あり

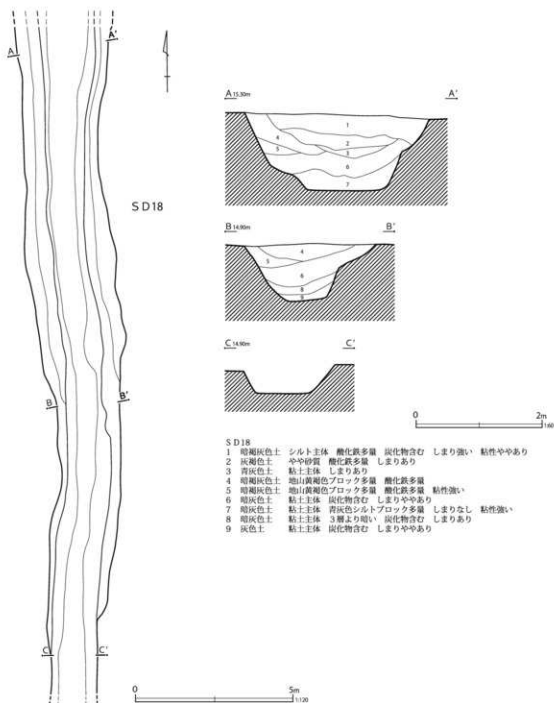
SD17



SD17

- 1 暗褐色土 上部に砂多く含む 場所によっては軽石多く含む
しまりなし 粘性あり
- 2 灰褐色土 腐化腐含む しまりあり 粘性あり
- 3 青灰色土 砂層 粘性ややあり
- 4 暗灰色土 粘土主体 粘性あり
- 5 暗灰色土 粘土主体 黒色配炭状の植物層あり しまりややあり
- 6 暗灰色土 明灰色粘土ブロック含む しまりややあり
- 7 明灰色土 炭化物わずかに含む しまり弱い 粘性あり

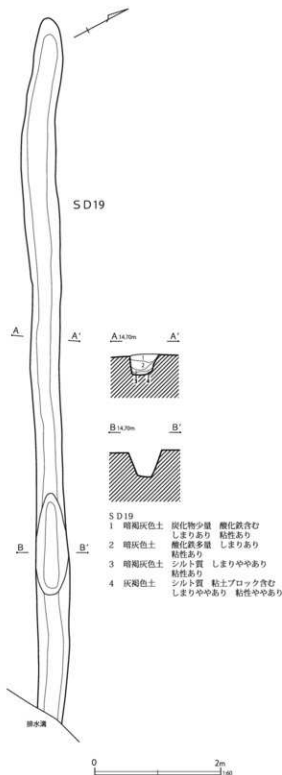
第46図 第16・17号溝跡



第47図 第18号溝跡

いる。256は瀬戸美濃系陶器の菊皿である。257は瀬戸美濃系陶器の皿である。258は肥前系陶器の輪奘皿である。259と260は古瀬戸系陶器である。259は縁軸小皿で、口縁部に鉄軸が施されている。260は盤類で、内外面に灰軸が施されている。261～263は常滑系陶器である。261と262は甕口縁部、263は鉢口縁部である。第77・78図264～276は瓦

質土器である。264～266は内耳鍋である。いずれも内耳部分が欠損している。267と268は焙烙である。267は口縁部をナデ、体部に指オサエ痕が残る。268は体部へのナデ調整が強く、内耳部分を欠損している。269～273は播鉢、274と275は鉢類、276は火鉢である。274は外面に赤彩の2条が認められる。277は焼塩壺の蓋である。278～284



第 48 図 第 19 号溝跡

はかわらけである。280の底部に穿孔が2箇所みられる。第79図285は丸瓦である。286は銭貨で銭種は「元符通寶」である。287と288は漆碗である。289は差歯下駄である。290と291は砥石である。292は石臼の上臼である。

遺構の埋没時期については、18世紀前半から中頃の遺物が多く出土しており、18世紀中頃にはほぼ埋没し、その後18世紀後半代にはAs-A軽石粒が含まれる第1層の部分のみが開孔していたと想定される。埋没時期に若干の差があるが軸方向が揃う第10号溝跡とは、調査区外で接続する同一の区画溝であった可能性がある。

第18号溝跡（第47・79・80図）

C-E-15グリッドに位置する。走行方位は南側がN-5°-E、北側がN-3°-Wを指し、南から北方向にかけて延びる。両端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長20.60m、幅1.45~2.85m、深さ0.42~1.10mで、断面形状は逆台形である。

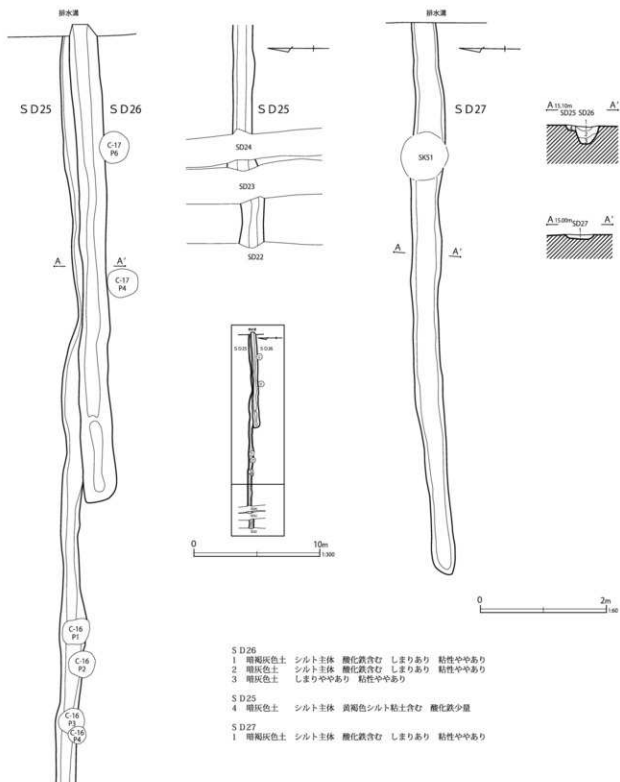
第79図293は龍泉窯系の青磁碗である。見込みに花卉文を有する。294は常滑系陶器の甕である。第80図295fは内耳鍋、296fは焙烙である。近世段階の遺物が伴わず、焙烙の年代観から16世紀後半頃には埋没していたと想定されよう。

第19号溝跡（第48図）

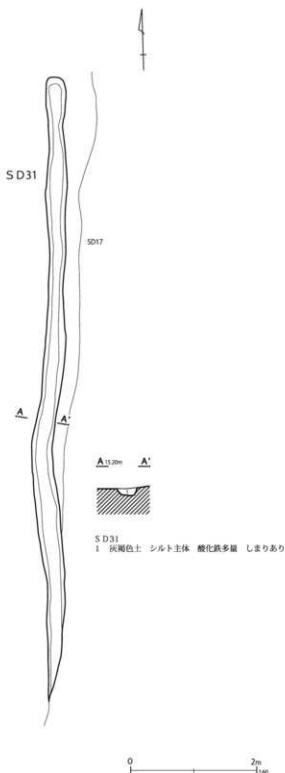
E-13・14グリッドに位置する。走行方位はN-63°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。南東側が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長11.10m、幅0.45~0.55m、深さ0.16~0.33mで、断面形状は逆台形である。遺物は出土していない。

第20号溝跡（第49・80図）

C-D-15グリッドに位置する。北に延びるにつれて西へなだらかに屈曲し、走行方位は南側がN-3°-W、北側がN-10°-Wを指す。検出全長12.40m、幅0.25~0.80m、深さ0.07~0.24mで、断面形状はU字形である。



第 50 図 第 25 ～ 27 号溝跡



第52図 第31号溝跡

遺物は磁器と銅製品が出土している。第80図297は肥前系磁器の仏飯器である。疊付部分が浅く削り込まれている。298は煙管の火皿である。肥前系磁器から時期は17世紀後半以降に位置付けられるが、詳細は判然としない。

第21号溝跡 (第49図)

B・C-15・16、D-16グリッドに位置する。走行方位は南側がN-5°-W、北側がN-2°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。検出全長13.90m、幅0.28~0.40m、深さ0.08~0.27mで断面形状は逆台形である。

遺物は、常滑系陶器壺が出土しているが破片のため、図示できない。

第22号溝跡 (第49・80図)

B~E-16グリッドにかけて位置する。走行方位は南側がN-10°-W、北側がN-2°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。両端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長22.80m、幅0.35~1.10m、深さ0.14~0.27mで断面形状は逆台形である。

第80図299は銭貨で、銭種は「元豊通寶」である。300は粘板岩製の硯である。線刻による文様がみられる。301は安山岩製の石鉢である。片口部分が残存している。

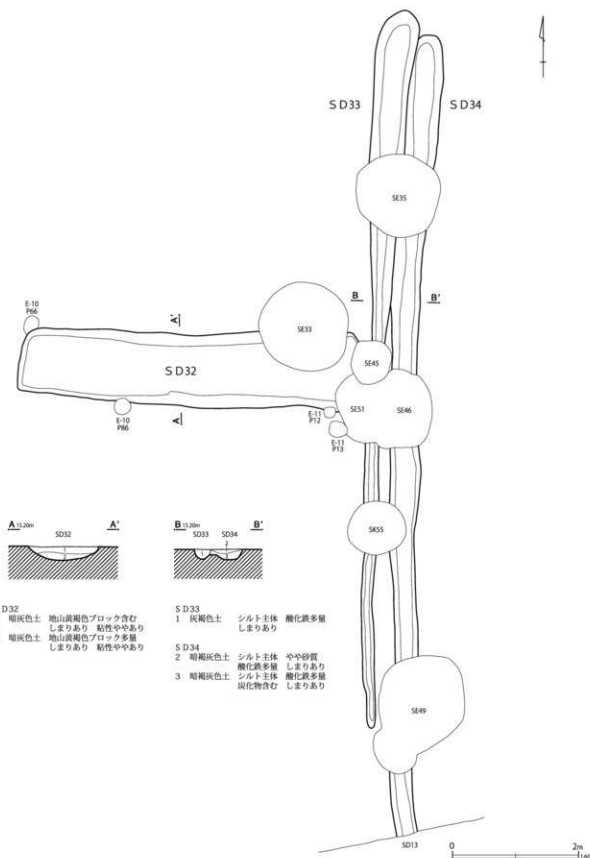
第23号溝跡 (第49・80図)

B~D-16グリッドに位置する。走行方位はN-2°-Wを指し、北から南方向にかけて延びる。北側が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長が16.35m、幅は0.18~0.60m、深さは0.05~0.35mで断面形状は皿形である。

第80図302は肥前系磁器の丸碗で円盤の未製品である可能性がある。303と304は瓦質土器の脚付火鉢である。305は鉄滓である。埋没時期は18世紀中頃以降に位置付けられる。

第24号溝跡 (第49・80・81図)

B~E-16グリッドに位置する。走行方位は南側がN-7°-W、北側がN-4°-Wを指

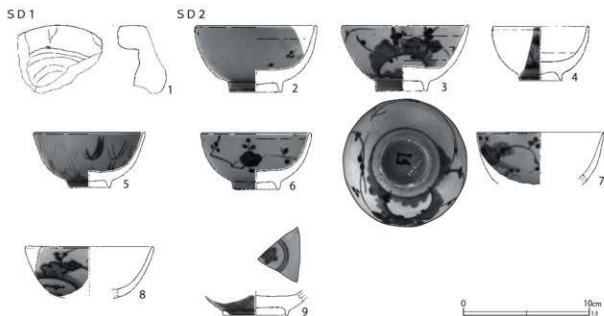


第53図 第32～34号溝跡

第4表 溝跡一覧表 (第37～53図)

番号	グリッド	長さ/m	幅/m	深さ/m	断面形	方位	走行方位	重複遺構
1	H・1-1・2	[7.80]	0.55～1.75	0.38～0.52	逆台形	東側N-26°-W 南側N-70°-E	北西→南東→ 南西	
2	F-6 G-5・6 H- 2-5 1-2・3	[59.00]	1.80～3.50	0.60～1.20	葉研形	東側N-16°-W 西側N-25°-W 南側N-65°-E	北西→南東→ 北東→北西	本跡→SD14、SO1
3	H-4～7 1-3-5 J-4	[38.80]	1.30～2.80	0.30～0.70	葉研形	東側N-40°-W 西側N-20°-W 北側N-65°-E	南東→北西→ 北東→南東	本跡→SD4、SK7
4	I-3・4	8.35	0.35～0.80	0.04～0.15	皿形	N-65°-E	南西→北東	SD3→本跡→SK7
5	G-5・6	7.40	0.20～0.40	0.34～0.43	U字形	N-75°-E	北東→南西	
6	G-7～10	[24.00]	1.05～2.40	0.48～0.68	葉研形	N-82°-E	西→東	SD12→本跡→SD8 ～10、SE1～3・ 5・7、SK14・20
7	H-2 I-2・3 J- 3	[23.00]	0.90～1.20	0.80	葉研形	N-24°-W	北西→南東	本跡→SO1
8	F-9・10 G-7～10	[27.10]	1.20～2.10	0.48～1.04	葉研形	N-77°-E	北東→南西	SD6・12、SE5・ 9→本跡→SD9・10、 SE4・8
9	F・G-7	[10.70]	1.45～1.90	0.53～0.56	葉研形	N-10°-W	南東→北西	SD6・8→本跡
10	E-7 F-7・8 G- 7～9 H-8	[24.80]	1.90～2.80	0.45～0.90	逆台形	西側N-15°-W 南側N-82°-W	南東→西→ 北西	SD6・8・16→本跡
11	F-6	[5.30]	1.35～1.90	0.42～0.51	葉研形	N-25°-W	北西→南東	
12	F・G-9	[5.00]	1.00～1.10	0.20	逆台形	N-3°-W	南→北	SD15→本跡→SD6 ・8・13、SE7・9
13	F-9～11	[20.80]	1.15～2.65	0.44～1.00	葉研形	N-80°-E	北東→南西	SD12・15・34、F-10 P33→本跡→SD17、 SE42・47 F-10P 3・4・17～19・32新 旧不明
14	F-6 G-6・7	[14.00]	0.45～0.65	0.18～0.25	葉研形	西側N-20°-W 南側N-84°-E	東→西→北西	SD2→本跡
15	F-9・10	[13.85]	0.45～1.60	0.12～0.54	葉研形	西側N-5°-W 南側N-77°-E	北西→南東→ 北東	SE11、F-10P33→本 跡→SD12・13、SE 47 F-10P20新旧不明
16	F-9 G-8・9	[9.60]	1.15～1.55	0.37～0.60	逆台形	N-79°-E	北東→南西	SE12・15→本跡→ SD10
17	D～F-11	[17.60]	3.00～3.20	0.89～1.10	逆台形	N-6°-E	南→北東	SD13・31→本跡→ SE50
18	C～E-15	[20.60]	1.45～2.85	0.42～1.10	逆台形	南側N-5°-E 北側N-3°-W	南→北	
19	E-13・14	[11.10]	0.45～0.55	0.16～0.33	逆台形	N-63°-W	北西→南東	
20	C・D-15	[12.40]	0.25～0.80	0.07～0.24	U字形	南側N-3°-W 北側N-10°-W	北西→南東→ 南	
21	B・C-15・16 D-16	[13.90]	0.28～0.40	0.08～0.27	逆台形	南側N-5°-W 北側N-2°-W	北西→南東	
22	B～E-16	[22.80]	0.35～1.10	0.14～0.27	逆台形	南側N-10°-W 北側N-2°-W	北西→南東	SD25→本跡
23	B～D-16	[16.35]	0.18～0.60	0.05～0.35	皿形	N-2°-W	北→南	SD25、SE29・30→ 本跡
24	B～E-16	[23.00]	0.22～0.50	0.04～0.46	皿形	南側N-7°-W 北側N-4°-W	北西→南東	SD25、SE29・30→ 本跡

番号	グリッド	長さ / m	幅 / m	深さ / m	断面形	方位	走行方位	重複遺構
25	B・C-16・17	[14.75]	0.25～0.35	0.03～0.14	逆台形	N-0°	東→西	本跡→SD22→24・26、C-16P1～4
26	C-17	[7.55]	0.37～0.53	0.22～0.44	逆台形	N-87°-E	東→西	SD25→本跡→C-17P4・6
27	C-16・17	[8.75]	0.32～0.48	0.03～0.07	皿形	N-88°-E	東→西	SK51→本跡
28	D・E-12	4.00	0.17～0.25	0.10～0.15	逆台形	N-21°-W	北西→南東	
29	D→F-12	[21.55]	0.40～1.10	0.12～0.48	逆台形	南側N-82°-W 北側N-2°-E	北東→南西→南東	本跡→SK47→49、D-12P4・6
30	D・E-12	[10.85]	0.17～0.70	0.06～0.45	逆台形	N-2°-E	南西→北東	SK48→本跡→D-12P1～3・7・8
31	D・E-11	[9.90]	0.22～0.38	0.07～0.15	逆台形	N-2°-E	北東→南西	本跡→SD17
32	E-10・11	[5.30]	1.05～1.22	0.10～1.00	皿形	N-86°-W	北西→南東	E-10P66→本跡→SE33・45・51、E-10P86、E-11P12
33	D→F-11	[8.10]	0.20～0.55	0.06～0.19	U字形	N-2°-E	南西→北東	SD34→本跡→SE35・45・46・51、SK55
34	D→F-11	[8.80]	0.30～0.55	0.07～0.25	逆台形	N-2°-E	南西→北東	本跡→SD13・33、SE35・46・49・51、SK55



第54図 溝跡出土遺物（1）

し、北西から南東方向にかけて延びる。両端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長23.00m、幅0.22～0.50m、深さ0.04～0.46mで、断面形状は皿形である。

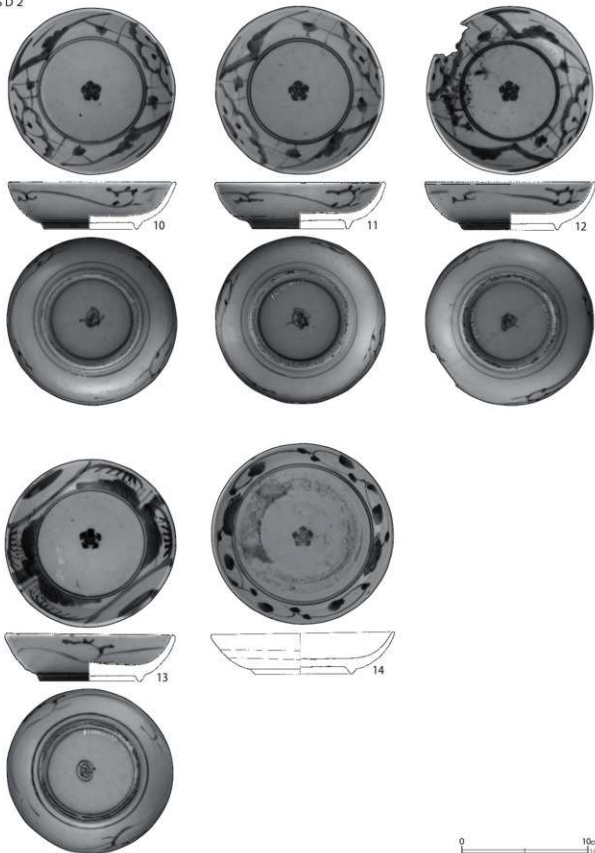
第80図306は埴明石系の播鉢である。307は常滑系陶器の甕口縁部である。308は瓦質土器の鉢類である。第81図309は焙烙である。口縁部にナ

デ調整が施されている。内耳部分は欠損している。310は脚付火鉢である。内面に煤が付着している。311は磨石である。刃物痕が複数確認できる。

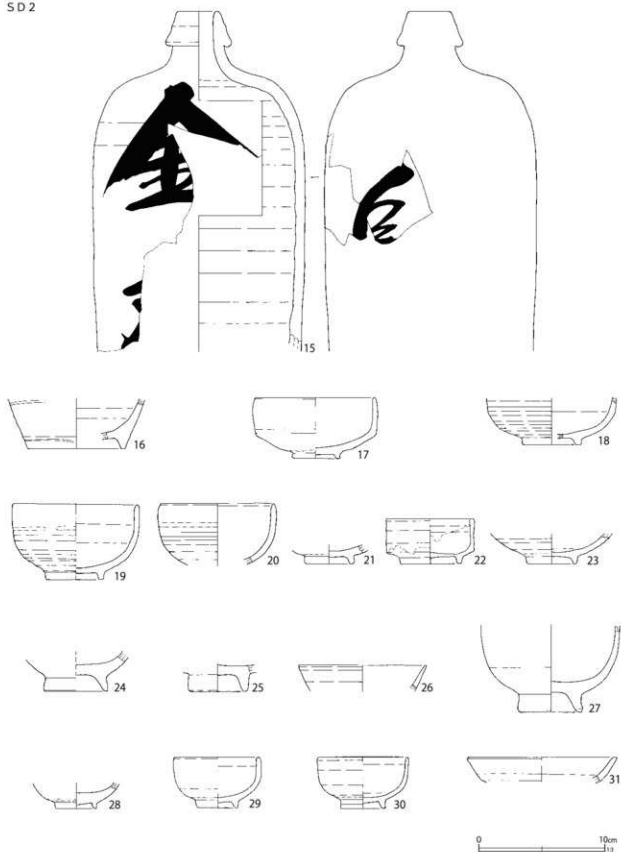
第25号溝跡（第50・81図）

B・C-16・17グリッドに位置する。走行方位はN-0°を指し、東から西方向にかけて延びる。東端が調査区外に至るため全長は不明であるが、

SD 2

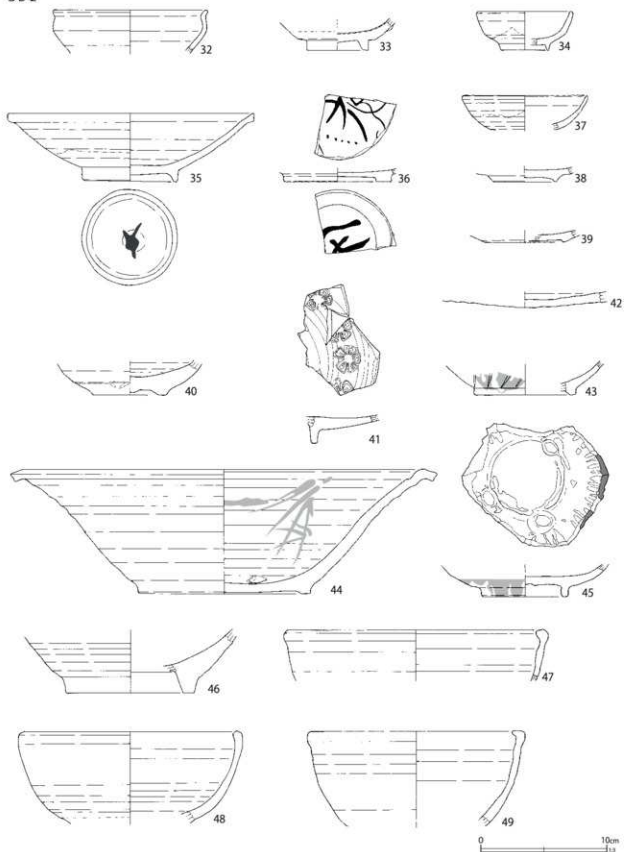


第 55 図 溝跡出土遺物 (2)



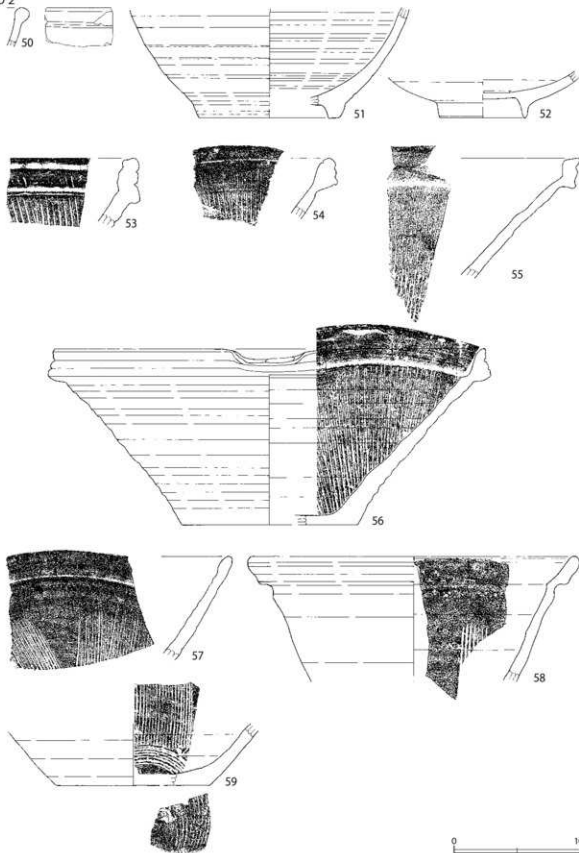
第56図 溝跡出土遺物（3）

SD2



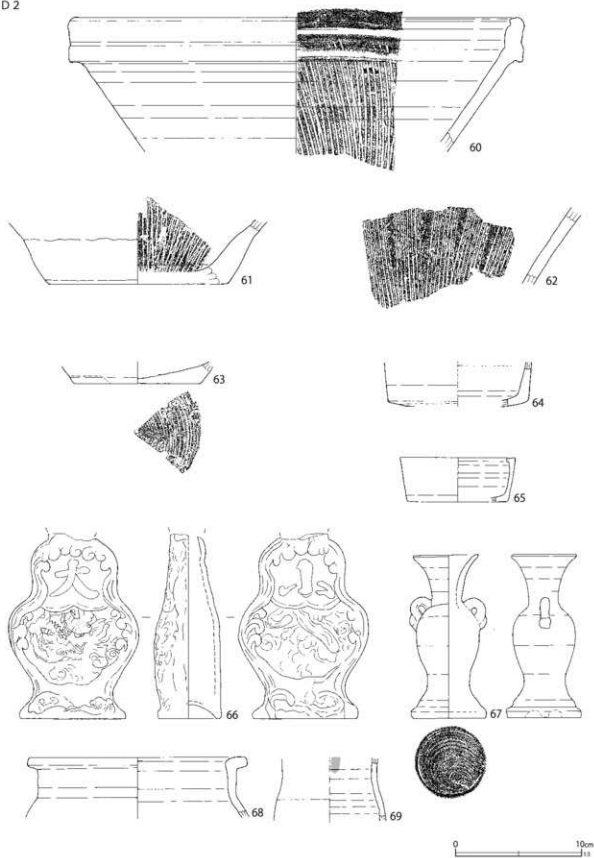
第 57 图 沟迹出土遗物 (4)

SD2



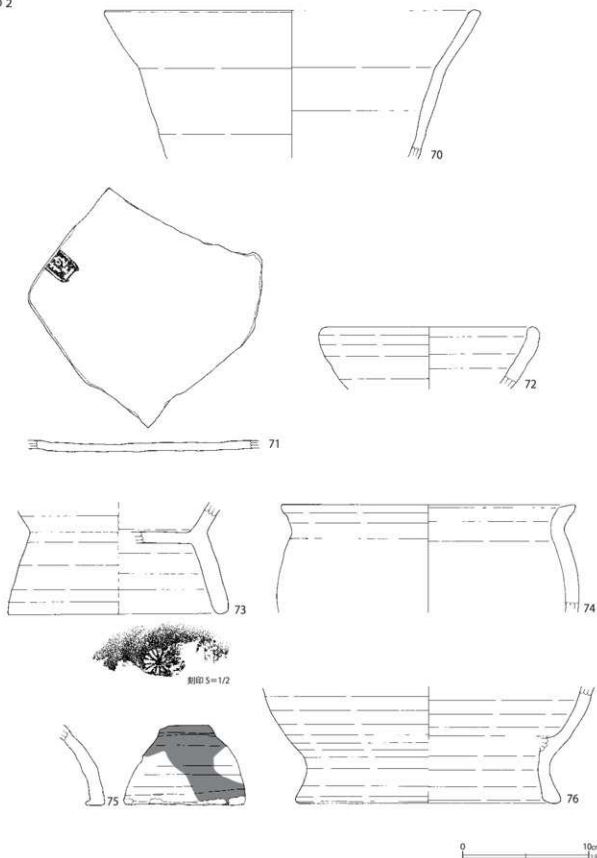
第58図 溝跡出土遺物(5)

SD2



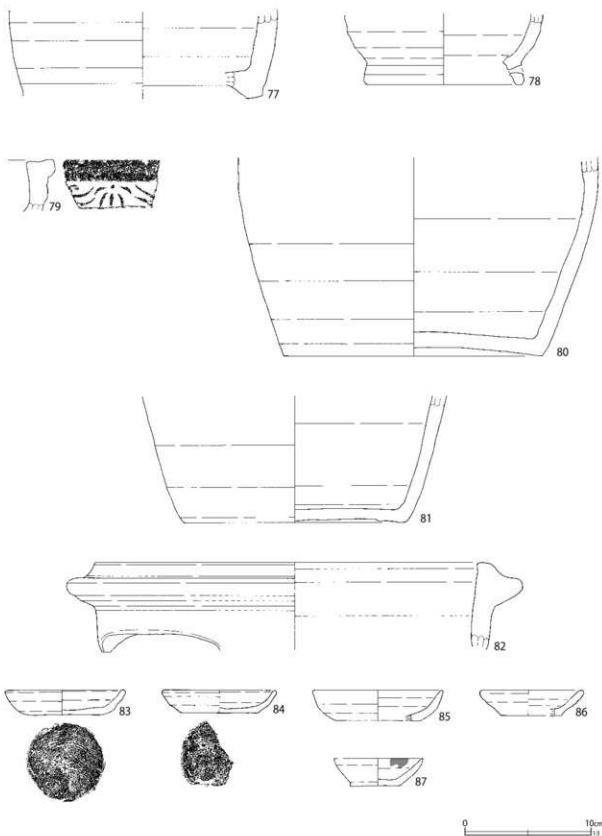
第59图 高九出土遗物(6)

SD2



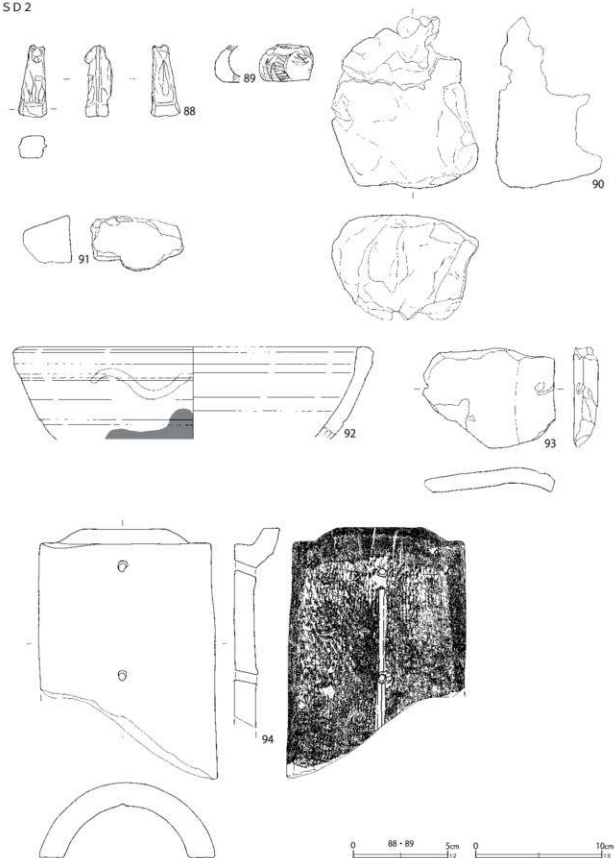
第60図 溝跡出土遺物(7)

SD2



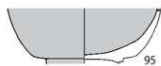
第61図 溝跡出土遺物(8)

SD2



第62図 溝跡出土遺物 (9)

SD2



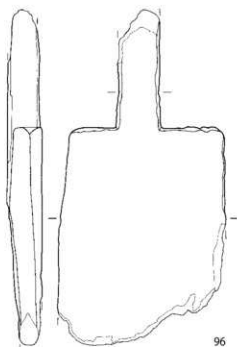
95



97



拓影



96



98



99



100



101~108



101



102



103



104



105



106



107



108



103



104



105



106



107



108



103



104



105



106



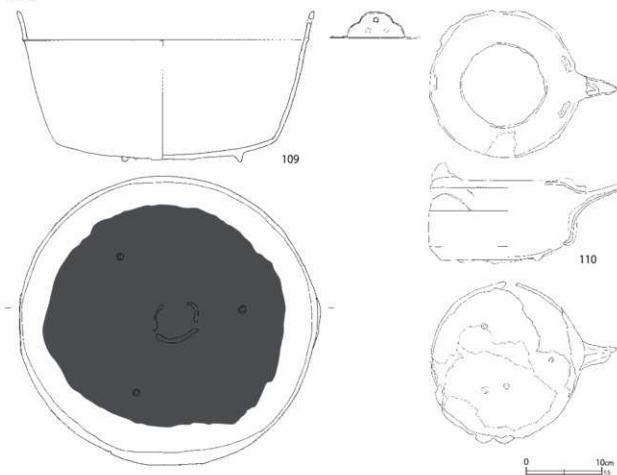
107



108



第63図 溝跡出土遺物 (10)



第64図 溝跡出土遺物 (11)

検出全長14.75m、幅0.25～0.35m、深さ0.03～0.14mで、断面形状は逆台形である。第81図312は肥前系磁器の丸碗で、313は磨石である。

第26号溝跡 (第50図)

C-17グリッドに位置する。走行方位はN-87°-Eを指し、東から西方向にかけて延びる。東端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長7.55m、幅0.37～0.53m、深さ0.22～0.44mで、断面形状は逆台形である。遺物は出土していない。

第27号溝跡 (第50図)

C-16・17グリッドに位置する。走行方位はN-88°-Eを指し、東から西方向にかけて延びる。北端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長8.75m、幅0.32～0.48m、深さ0.03～

0.07mで、断面形状は皿形である。遺物は出土していない。

第28号溝跡 (第51図)

D・E-12グリッドに位置する。走行方位はN-21°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。全長4.00m、幅0.17～0.25m、深さ0.10～0.15mで、断面形状は逆台形である。遺物は出土していない。

第29号溝跡 (第51・81図)

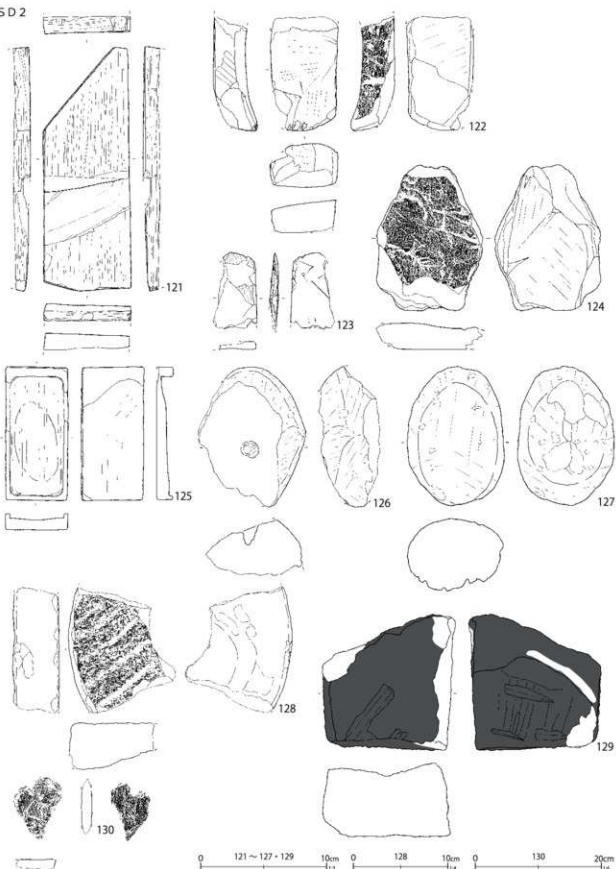
D・F-12グリッドに位置する。L字状に屈曲し、走行方位は南側がN-82°-W、北側がN-2°-Eを指す。北端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長21.55m、幅0.40～1.10m、深さ0.12～0.48mで、断面形状は逆台形である。軸方向が揃う第18号溝跡とは、調査区

SD2



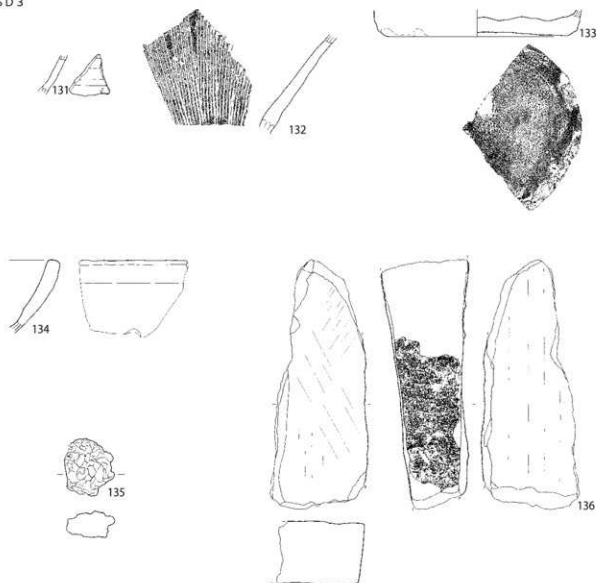
第65図 溝跡出土遺物 (12)

SD 2

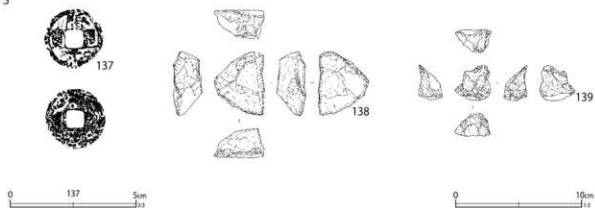


第66図 溝跡出土遺物 (13)

SD3

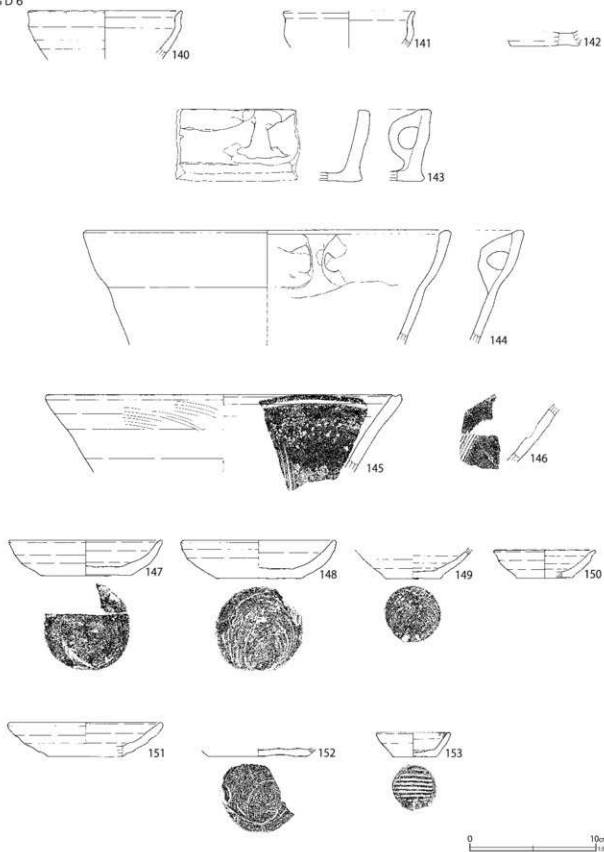


SD5



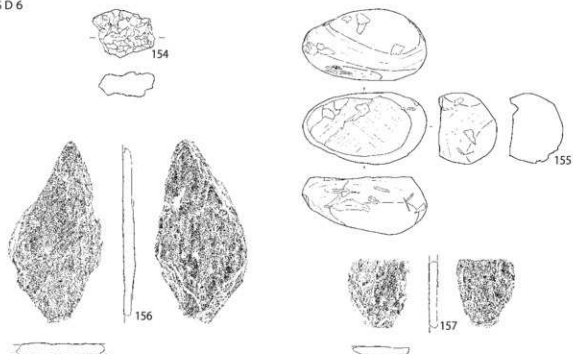
第67図 溝跡出土遺物 (14)

SD6



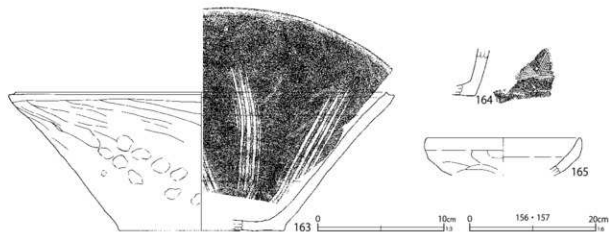
第68图 高家山出土文物 (15)

SD 6



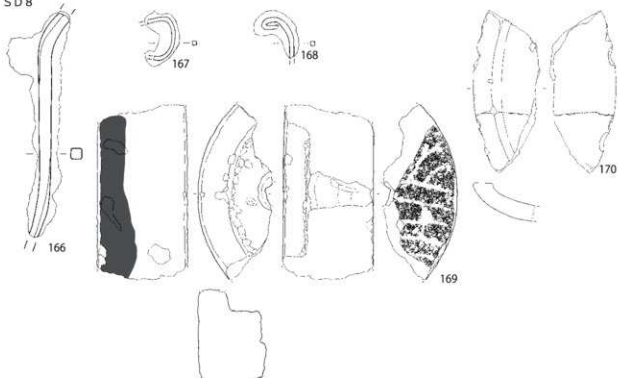
SD 7

SD 8

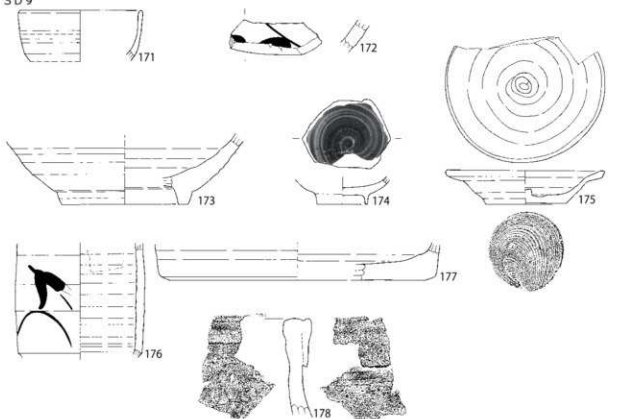


第 69 図 溝跡出土遺物 (16)

SD 8



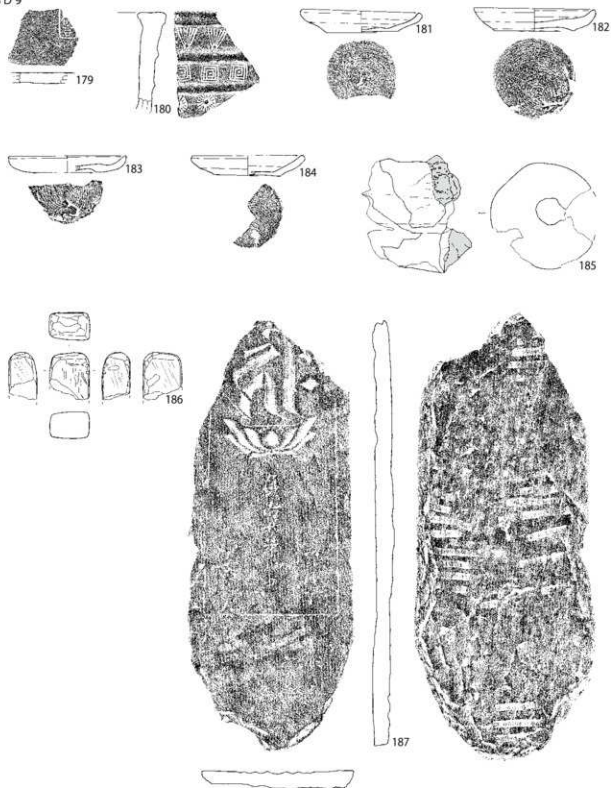
SD 9



0 166 ~ 168 5cm 0 10cm 0 169 ~ 170 10cm

第70図 溝跡出土遺物 (17)

SD9



第71図 溝跡出土遺物 (18)

SD10



188



190



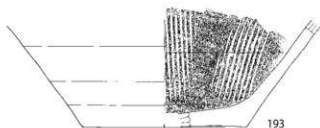
191



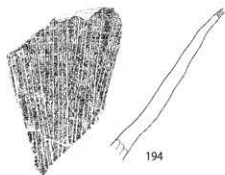
189



192



193



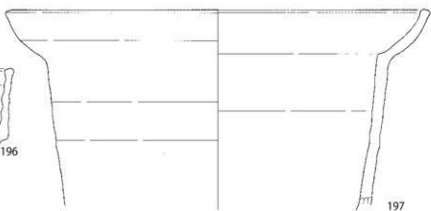
194



195



196

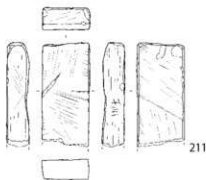
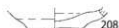
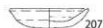
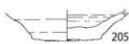
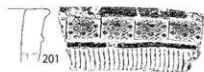
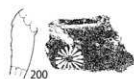
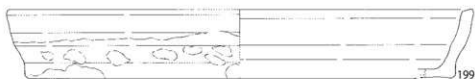


197



第72図 溝跡出土遺物 (19)

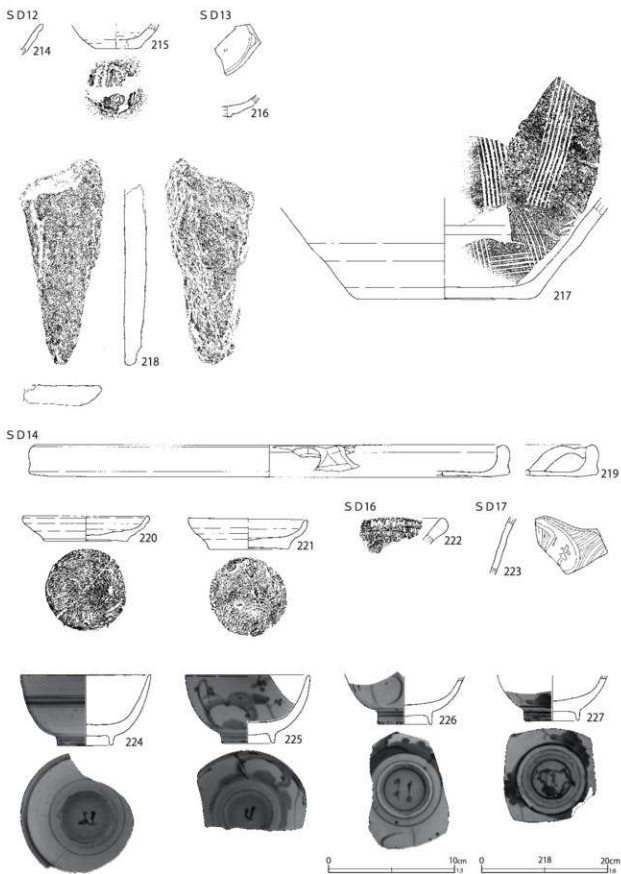
SD10



SD11

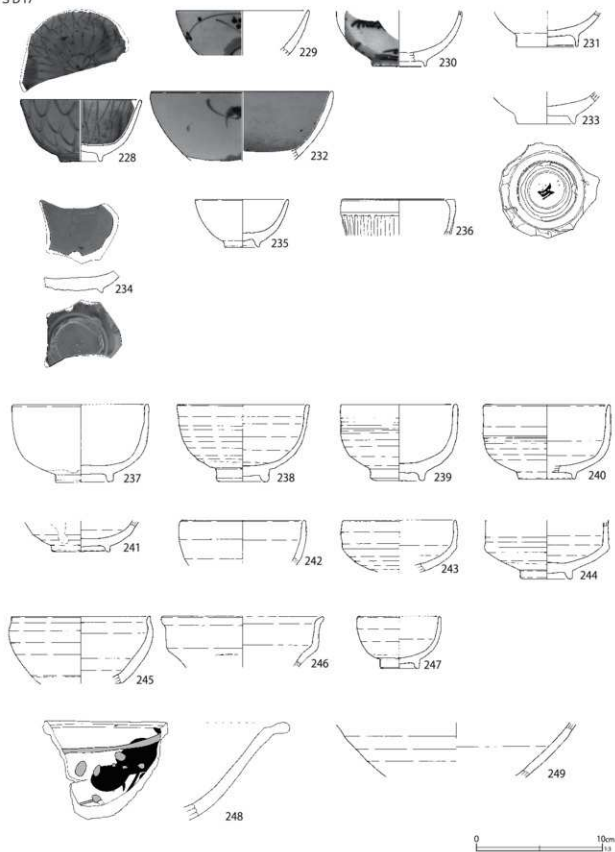


第73図 溝跡出土遺物 (20)



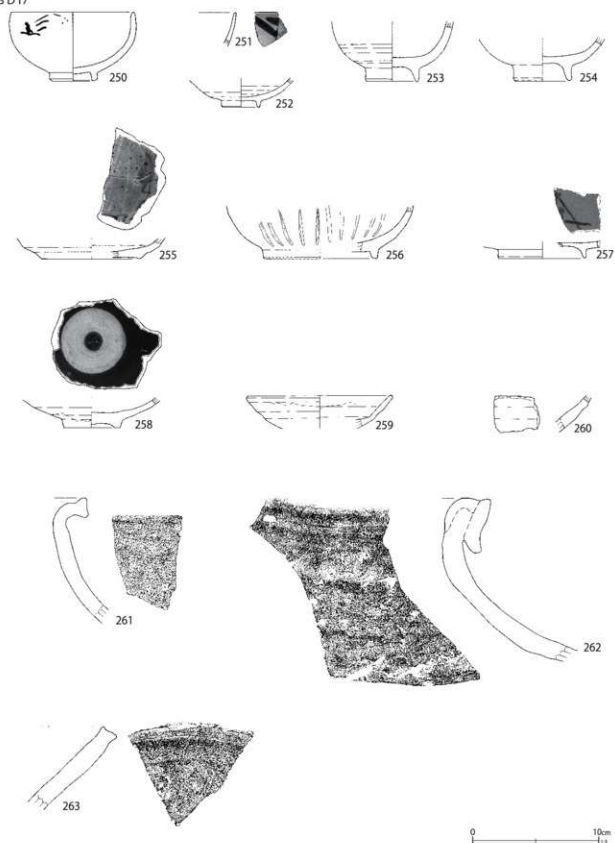
第74図 溝跡出土遺物 (21)

SD17



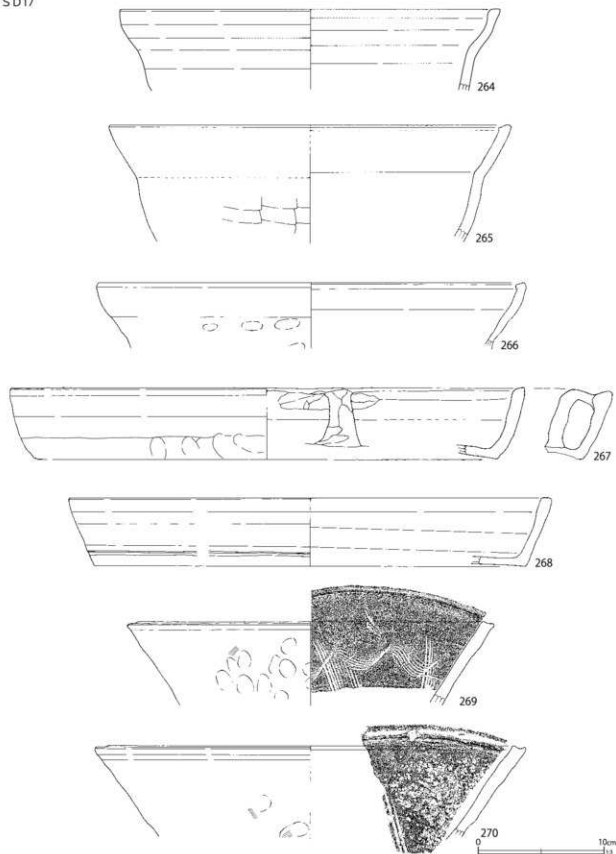
第75図 溝跡出土遺物 (22)

SD17



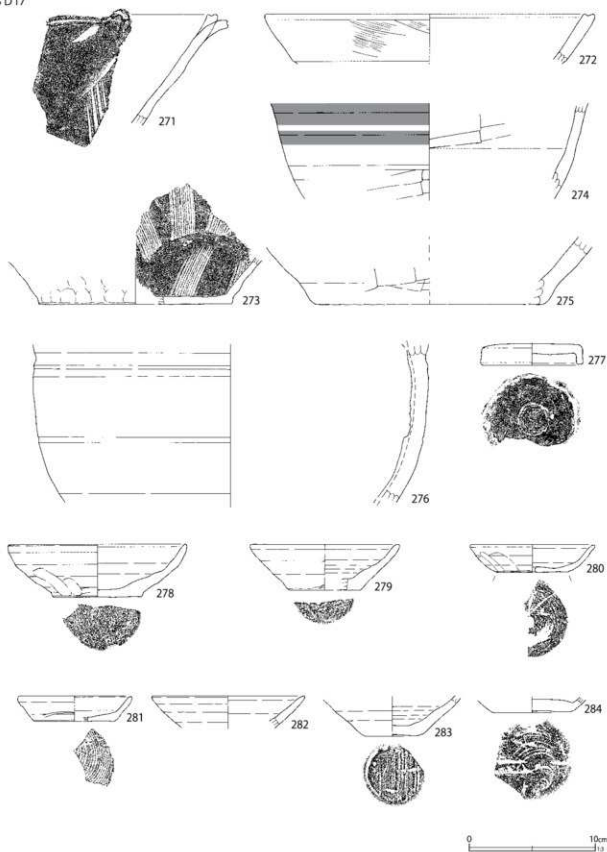
第76図 溝跡出土遺物 (23)

SD17



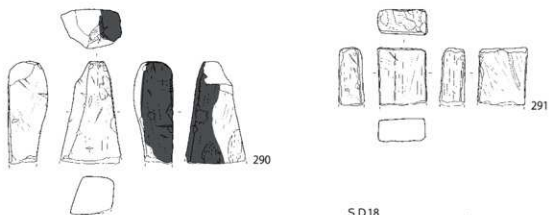
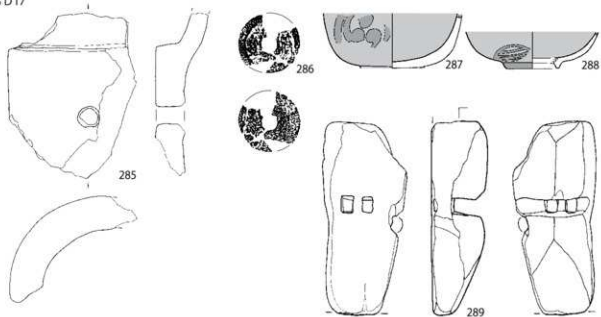
第77図 溝跡出土遺物 (24)

SD17

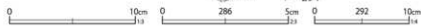
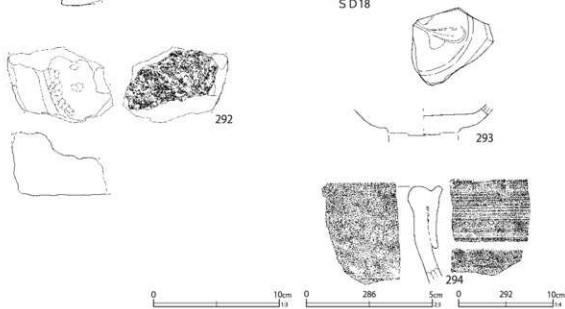


第78図 溝跡出土遺物 (25)

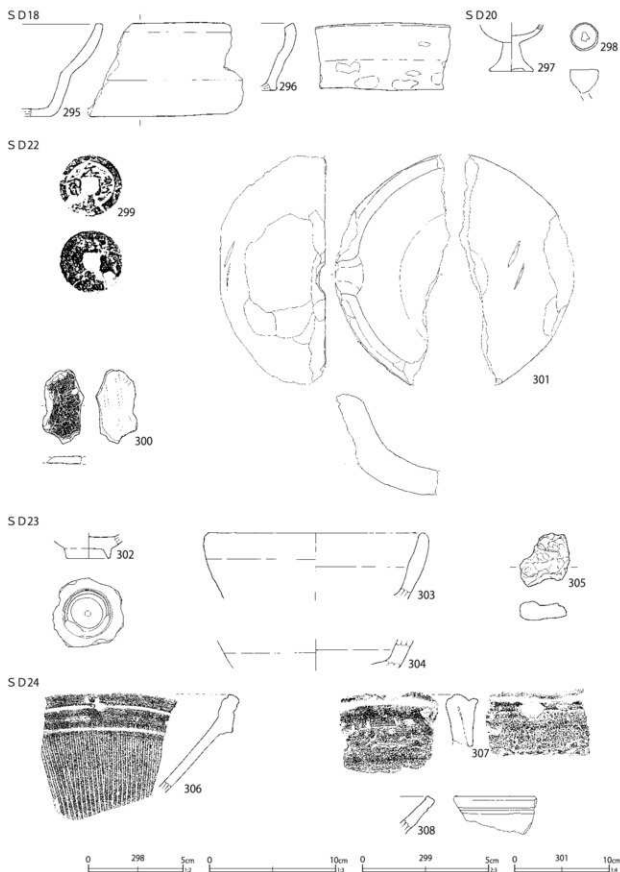
SD17



SD18

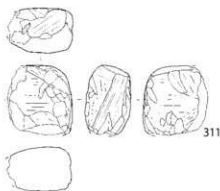
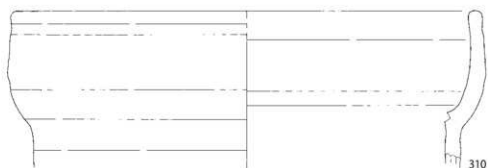


第79図 溝跡出土遺物 (26)

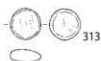


第80図 溝跡出土遺物 (27)

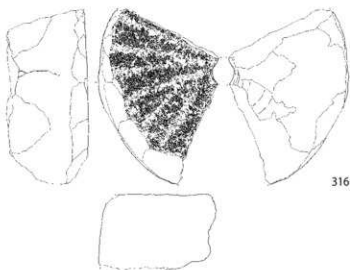
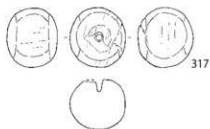
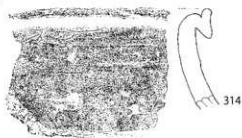
SD24



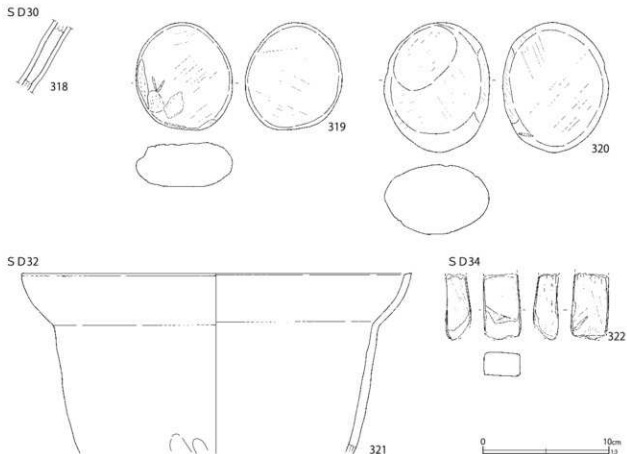
SD25



SD29



第 81 図 溝跡出土遺物 (28)



第82図 溝跡出土遺物 (29)

外で接続する同一の区画溝であった可能性が高い。

第81図314は常滑系陶器の甕口縁部である。315は古瀬戸系陶器の瓶子である。316は石臼の下臼である。317は流紋岩製の有孔球状製品である。中心に貫通しない加工孔がみられる。近世段階の遺物が伴わず、中世には埋没したと思われる。

第30号溝跡 (第51・82図)

D・E-12グリッドに位置する。走行方位はN-2°-Eを指し、南西から北東方向にかけて延びる。北端が調査区外に至るため全長は不明であるが、検出全長10.85m、幅0.17~0.70m、深さ0.06~0.45mで、断面形状は逆台形である。

第82図318は古瀬戸の盤類である。内外面ともに摩滅しており砥具として転用された可能性がある。319と320は磨石である。

第31号溝跡 (第52図)

D・E-11グリッドに位置する。走行方位はN

-2°-Eを指し、北東から南西方向にかけて延びる。南側が第17号溝跡に切られているため全長は不明であるが、検出全長9.90m、幅0.22~0.38m、深さ0.07~0.15mで、断面形状は逆台形である。遺物は出土していない。

第32号溝跡 (第53・82図)

E-10・11グリッドに位置する。走行方位はN-86°-Wを指し、北西から南東方向にかけて延びる。東側が第45号井戸跡、第51号井戸跡によって東端は切られている。検出全長5.30m、幅1.05~1.22m、深さ0.10~1.00mで、断面形状は皿形である。第82図321は内耳鍋である。

第33号溝跡 (第53図)

D-F-11グリッドに位置する。走行方位はN-2°-Eを指し、南西から北東方向にかけて延びる。全長8.10m、幅0.20~0.55m、深さ0.06~0.19mで、断面形状はU字形である。遺物は出

第5表 溝跡出土遺物観察表 (第54~82図)

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	SD1	瓦	軒丸瓦	長さ[5.4] 幅[5.5] 厚さ[3.7] 重さ58.6g			1 K	5	不良	浅黄橙	No.2 中世瓦か	26-3
2	SD2	磁器	丸碗	9.2 5.3 4.0	1 K	50	良好	灰白		I-2上層	肥前系 染付梅樹文 18C中	
3	SD2	磁器	丸碗	9.9 5.2 4.0	1 K	100	良好	灰白		H-4上層	肥前系 染付梅樹文 18C中	22-6
4	SD2	磁器	丸碗	(7.2) 4.3 3.2	1 K	30	良好	灰白		G-5下層	肥前系 染付草花文 18C中	
5	SD2	磁器	丸碗	(8.4) 4.4 (3.0)	1 K	50	良好	灰白		No.5 肥前系	染付二重綱目文 18C中	
6	SD2	磁器	丸碗	8.4 4.5 3.6	1 K	100	良好	灰白		G-6下層	肥前系 染付梅樹文 18C中	
7	SD2	磁器	丸碗	(9.8) [4.1]	—	K	20	良好	灰白	No.14 肥前系	染付梅樹文 18C中	26-3
8	SD2	磁器	丸碗	(9.9) [4.1]	—	K	30	良好	灰白	H-6 肥前系	染付梅樹文 18C中	26-3
9	SD2	磁器	碗類	— [1.9]	5.0	1 K	10	良好	灰白	1-2上層	肥前系 染付二重綱目文 18C前	26-3
10	SD2	磁器	皿	13.1 3.7 7.2	1 K	100	良好	灰白		G-6上層	肥前系 18C中	22-7
11	SD2	磁器	皿	12.8 3.7 7.2	1 K	100	良好	灰白		H-4上層	肥前系 18C中	
12	SD2	磁器	皿	13.2 3.8 7.4	1 K	95	良好	灰白		G-6上層	肥前系 18C中	
13	SD2	磁器	皿	13.0 3.8 7.7	1 K	100	良好	灰白		G-5下層	肥前系 18C中	
14	SD2	磁器	皿	14.5 3.3 7.7	1 K	100	良好	灰白		G-6下層	肥前系 蛇ノ目軸刺ぎ 18C中	
15	SD2	磁器	徳利	3.0 [26.7]	—	1 K	50	良好	灰白	G-5上層	瀬戸美濃系 「金口」「口」	22-8
16	SD2	磁器	徳利	— [4.0]	7.6	1 K	10	良好	灰白	G-6上層	肥前系	
17	SD2	陶器	碗	9.3 4.8 3.8	1 K	55	普通	灰白		No.10 瀬戸美濃系	せんじ碗 灰軸	22-9
18	SD2	陶器	碗	— [3.8]	(4.6)	1 K	20	普通	浅黄橙	No.3・7 瀬戸美濃系	腰結碗 18C中	
19	SD2	陶器	碗	9.8 6.0 4.6	1 K	90	普通	浅黄橙		No.21 G-6 瀬戸美濃系	18C中 腰結碗	22-10
20	SD2	陶器	碗	(8.8) [4.8]	—	H1 K	40	普通	浅黄橙	G-6上層	瀬戸美濃系 腰結碗 18C中	
21	SD2	陶器	丸碗	— [1.5]	4.0	1 K	20	良好	浅黄橙	G-6下層	瀬戸美濃系	
22	SD2	陶器	碗	6.8 3.7 4.9	1 K	100	良好	灰白		H-5上層	瀬戸美濃系 灰軸	22-11
23	SD2	陶器	碗	— [2.4]	4.0	1 K	40	普通	浅黄橙	G-6上層	瀬戸美濃系 灰軸	
24	SD2	陶器	碗	— [2.6]	5.0	1 K	25	良好	浅黄橙	H-2下層	肥前系 呉器手碗	
25	SD2	陶器	碗	— [2.1]	4.3	1 K	30	良好	灰白	G-6上層	肥前系 呉器手碗 円盤型用か	
26	SD2	陶器	碗	(10.0) [2.1]	—	I	5	良好	褐灰	H-4上層	肥前系 刷毛目碗	26-3
27	SD2	陶器	碗	— [6.9]	4.6	1 K	70	普通	灰白	H-5下層	肥前系	
28	SD2	陶器	丸碗	— [2.0]	3.0	1 K	50	良好	灰白	G-6上層	京信楽系	
29	SD2	陶器	丸碗	6.5 4.0 3.0	1 K	60	普通	灰白		No.23 H-4 京信楽系	煤付着	
30	SD2	陶器	小丸碗	(6.8) 4.0 3.4	K	50	普通	灰白		SD3 1-3上層 1-4 京信楽系		
31	SD2	陶器	丸皿	(11.6) [1.3]	—	1 K	5	普通	灰白	H-4上層	瀬戸美濃系 志野 長石軸	26-3
32	SD2	陶器	天目茶碗	(12.0) [3.5]	—	K	5	良好	灰白	H-5上層	瀬戸美濃系 鉄軸	26-3
33	SD2	陶器	天目茶碗	— [2.6]	(4.8)	1 K	20	普通	灰白	1-2下層	瀬戸美濃系 鉄軸	26-3
34	SD2	陶器	坪	(7.2) 3.1 (3.8)	1 K	30	普通	灰白		H-5下層	瀬戸美濃系 灰軸	
35	SD2	陶器	皿	19.0 5.4 7.4	1 K	100	良好	灰白		H-4上層	瀬戸美濃系 底部里痕 18C中	22-12
36	SD2	陶器	皿	— [1.0]	(8.4)	1 K	10	普通	明黄橙	G-5上層	産地不明 墨書「八」に「大」	22-13
37	SD2	陶器	皿	(9.6) [2.7]	—	1 K	10	普通	褐灰	H-5上層	志戸呂系 鉄軸	26-3
38	SD2	陶器	丸皿	— [1.2]	(4.8)	1 K	15	普通	浅黄橙	H-4下層	瀬戸美濃系 灰軸 17C前	
39	SD2	陶器	内茶皿	— [0.9]	(6.2)	1 K	20	良好	浅黄橙	H-3下層	瀬戸美濃系 大器3 後 灰軸	
40	SD2	陶器	皿	— [2.7]	5.8	1 K	20	普通	にぶい橙	G-6下層	肥前系 古唐津	
41	SD2	陶器	皿	— [2.2]	—	1 K	10	普通	にぶい橙	G-6・H-2上層	肥前系 三島手 鉄軸	23-1
42	SD2	陶器	飯類	— [1.3]	—	1 K	15	普通	浅黄橙	G-6上層	古瀬戸後期2・3期 灰軸	26-3
43	SD2	陶器	菊皿	— [2.7]	(7.6)	1 K	10	普通	浅黄橙	G-6上層	瀬戸美濃系 17C代	
44	SD2	陶器	鉢	(32.2) 9.7 13.4	1 K	30	良好	褐灰		No.20 G-6 瀬戸美濃系	笠原鉢 長石軸 緑軸 鉄軸 17C後	23-2
45	SD2	陶器	鉢類	— [2.6]	6.5	1 K	40	良好	浅黄橙	G-6上層	瀬戸美濃系 灰軸 煤付着	
46	SD2	陶器	鉢	— [5.0]	(10.0)	1 K	10	普通	にぶい黄橙	H-2下層	肥前系 三島手	26-3
47	SD2	陶器	片口鉢	(19.5) [4.0]	—	1 K	10	普通	浅黄橙	H-2上層	瀬戸美濃系 灰軸	26-3
48	SD2	陶器	片口鉢	(16.6) [7.2]	—	1 K	20	普通	浅黄橙	G-6上層	瀬戸美濃系	26-3

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使成	色調	備考	図版
49	SD 2	陶器	片口鉢	(15.6)	[7.5]	—	I K	15	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系 灰釉	26-3
50	SD 2	陶器	片口鉢	—	[3.1]	—	I K	5	普通	にぶい赤褐	H-5 下層 肥前系 三島手	26-3
51	SD 2	陶器	片口鉢	—	[8.6]	(11.0)	H K	30	普通	にぶい橙	№9 1-2・3下層 肥前系	
52	SD 2	陶器	片口鉢	—	[3.7]	(6.6)	I K	20	普通	浅黄橙	H-4 下層 肥前系 鉄軸 煤付着 18C中	
53	SD 2	陶器	擂鉢	—	[5.5]	—	I K	5	普通	にぶい赤褐	G-6 下層 堺明石系	27-1
54	SD 2	陶器	擂鉢	—	[4.8]	—	I K	5	普通	にぶい赤褐	G-5 上層 堺明石系 摺目13溝	27-1
55	SD 2	陶器	擂鉢	—	[9.5]	—	I K	5	普通	灰白	H-5 下層 丹波系 摺目3分画7溝	27-1
56	SD 2	陶器	擂鉢	(34.0)	[13.8]	(14.0)	I K	40	普通	浅黄橙	G・H-5 上層 丹波系 摺目16分画6溝	23-3
57	SD 2	陶器	擂鉢	—	[8.2]	—	I K	5	普通	浅黄橙	№11 瀬戸美濃系 摺目3分画13溝 鉄軸	26-3
58	SD 2	陶器	擂鉢	(25.9)	[9.9]	—	I K	10	普通	浅黄橙	1-3 上層 瀬戸美濃系 摺目1分画8溝	27-1
59	SD 2	陶器	擂鉢	—	[4.8]	(12.0)	I K	10	普通	浅黄橙	H-3 上層 瀬戸美濃系 底部摺目 2分画7溝 内面20溝単位不明	
60	SD 2	陶器	擂鉢	(36.2)	[10.5]	—	H I K	20	普通	明赤褐	H・1-3 上層 G-6・1-3 下層 堺明石系 摺目8分画6溝	
61	SD 2	陶器	擂鉢	—	[5.0]	(14.3)	I K	5	普通	橙	G-6 下層 堺明石系 小磯含む 摺目30溝	27-1
62	SD 2	陶器	擂鉢	—	[7.1]	—	I K	5	普通	にぶい赤褐	1-2 下層 丹波系 摺目5分画7溝	27-1
63	SD 2	陶器	鉢類	—	[1.8]	(10.2)	I K	10	良好	灰白	H・1-2 上層 古瀬戸系 灰釉	27-1
64	SD 2	陶器	香炉	—	[3.5]	—	I K	10	普通	灰白	H-4 下層 瀬戸美濃系 灰釉	27-1
65	SD 2	陶器	香炉	(7.6)	3.5	(9.0)	I K	20	普通	灰白	G-6 下層 京信系系 灰釉 煤付着	27-1
66	SD 2	陶器	花生	—	[14.6]	8.1	I K	90	良好	淡黄	H-5 上層 瀬戸美濃系 灰釉 正面「大」 龍文 裏「小」	23-5
67	SD 2	陶器	花生	4.3	12.9	5.6	I K	100	良好	灰白	G-6 上層 瀬戸美濃系 鉄軸	23-4
68	SD 2	陶器	徳利	(15.5)	[4.8]	—	I K	10	普通	浅黄橙	G-5 上層 産地不明 鉄軸	27-1
69	SD 2	陶器	徳利	—	[5.0]	—	I K	5	普通	灰白	№6 瀬戸美濃系 鉄軸	27-1
70	SD 2	瓦質土器	内耳鍋	(29.0)	[11.7]	—	I K	15	普通	浅黄橙	G-6 上層・下層	27-2
71	SD 2	瓦質土器	信條	—	[0.6]	—	A C K	15	普通	浅黄橙	G-6 上層 刻印「極上」	27-2
72	SD 2	瓦質土器	丸火鉢	(16.2)	[4.9]	—	I K	10	普通	灰黄	H-5 下層	27-1
73	SD 2	瓦質土器	脚付火鉢	—	(8.8)	(16.8)	G K	20	普通	褐灰	H-3 下層 底部に刻印	
74	SD 2	瓦質土器	火鉢	(20.2)	—	—	I K	10	普通	浅黄橙	G-6 上層 H-5 下層	
75	SD 2	瓦質土器	脚付火鉢	—	[6.3]	—	C I K	5	普通	浅黄橙	H-3 下層	27-1
76	SD 2	瓦質土器	脚付火鉢	(26.0)	[9.1]	20.2	H I K	20	普通	にぶい橙	№8・15 SO 1 G-6 下層 1-13	23-6
77	SD 2	瓦質土器	丸火鉢	—	[7.0]	(19.0)	A C G I K	15	普通	褐灰	H-4 下層 三点脚部か	
78	SD 2	瓦質土器	脚付火鉢	—	[5.5]	(12.2)	I K	20	普通	褐灰	H-5 下層 2箇所穿孔	
79	SD 2	瓦質土器	角火鉢	—	[4.4]	—	G K	10	普通	褐灰	H-4 上層	27-2
80	SD 2	瓦質土器	火消壺	—	[15.6]	20.4	I K	80	普通	褐灰	№22 H-4	
81	SD 2	瓦質土器	火消壺	—	[10.0]	17.4	I K	40	普通	褐灰	H-5 上層	
82	SD 2	瓦質土器	甕	(30.2)	[7.2]	—	I K	20	普通	褐灰	G-6 上層 煤付着	23-7
83	SD 2	かわらけ	小皿	(9.5)	2.0	6.0	I K	80	普通	褐灰	H-5 下層	23-8
84	SD 2	かわらけ	小皿	(8.7)	1.8	6.0	C I K	40	普通	橙	H-5 上層 底部回転糸切り左回転 煤付着	
85	SD 2	かわらけ	小皿	(10.0)	2.4	(6.6)	H I K	20	普通	にぶい橙	G-6 上層・下層	
86	SD 2	かわらけ	小皿	(8.6)	2.0	(4.1)	I K	10	普通	橙	G-6 上層	
87	SD 2	かわらけ	灯明皿	6.8	2.2	3.9	H I K	95	普通	浅黄橙	№8 C-8 底部回転糸切りナガ調整	23-9
88	SD 2	土製品	人形	長さ3.8 厚さ1.3 重さ5.4g	幅1.5	—	I K	95	普通	近代か 楊荷瓦		23-10
89	SD 2	土製品	人形	長さ2.0 厚さ0.8 重さ5.3g	幅2.8	—	I	10	普通	にぶい橙	H-4 下層 鳥か	23-11
90	SD 2	土製品	支脚	長さ13.6 厚さ8.0 重さ736.7g	幅11.5	—	H I K	50	不良	黄褐	H-5 下層	
91	SD 2	土師質土器	七輪	—	[4.1]	—	H K	5	不良	浅黄橙	G-6 上層 珪藻土	27-2
92	SD 2	土師質土器	丸火鉢	(28.0)	[7.3]	—	G K	10	普通	浅黄橙	H-4 下層	27-2
93	SD 2	瓦	平瓦	長さ[7.9] 厚さ[1.9]	幅[10.4] 重さ95.9g	—	K	10	普通	浅黄橙	H-3 下層	27-2

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
94	SD2	瓦	丸瓦	長さ[19.6] 厚さ2.2	幅14.0 重さ809.1g		1 K	60	普通	褐色	近代カ	23-12
95	SD2	木製品	漆碗	口径	器高[4.4]	底径	—				№19 G-5 内外面赤色系漆	35-4
96	SD2	木製品	杓	長さ[26.5]	幅13.0	厚さ2.5					H-4下層	36-2
97	SD2	銅製品	柄鏡	長さ18.9×11.1	厚さ0.15	径11.1	重さ112.8g				№18 G-5 十六菊花紋 銀青葉 銘「光政」	38-1
98	SD2	鉄製品	銭貨	長さ2.4	幅2.4	厚さ0.2	重さ2.3g				G-6 寛永通寶 鉄銭	38-3
99	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.4	厚さ0.1	重さ3.0g				G-6 寛永通寶	38-3
100	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.5	厚さ0.1	重さ2.8g				G-6	38-3
101	SD2	銅製品	銭貨	長さ(2.7)	幅(2.6)	厚さ(0.3)	重さ1.3g				G-6	38-3
102	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.5	厚さ0.1	重さ3.7g				G-6 寛永通寶(新)	38-3
103	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.6	厚さ0.1	重さ3.5g				G-6 寛永通寶	38-3
104	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.4	厚さ0.1	重さ2.8g				G-6 寛永通寶(新)	38-3
105	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.5	厚さ0.1	重さ3.0g				G-6 寛永通寶(新)	38-3
106	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.5	幅2.5	厚さ0.1	重さ2.8g				G-6 寛永通寶	38-3
107	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.3	厚さ0.1	重さ2.9g				G-6 寛永通寶(新)	38-3
108	SD2	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.4	厚さ0.1	重さ2.0g				G-6 寛永通寶	38-3
109	SD2	鉄製品	鉄鍋	口径35.9	器高19.7	底径28.8	重さ3149.7g				№19 G-6 吊手接線部 丸湯口 3足	37-1
110	SD2	鉄製品	鉄瓶	口径10.8	器高13.5	底径(18.6)	重さ1557.6g				№18 吊手接線部 文様あり 3足	37-2
111	SD2	鉄製品	鎌	長さ[8.1]	刀幅[3.3]	背幅[0.3]	重さ21.0g				H-5下層	38-2
112	SD2	鉄製品	釘	長さ[6.7]	幅0.4	厚さ[0.3]	重さ12.6g				H-3下層 角釘	38-2
113	SD2	鉄製品	釘	長さ[13.6]	幅0.5	厚さ[0.5]	重さ28.1g				I-3 角釘	38-2
114	SD2	鉄滓	碗型滓	長さ5.9	幅5.4	厚さ3.2	重さ68.6g 磁着○				G-6上層	38-2
115	SD2	鉄滓	碗型滓	長さ6.9	幅7.0	厚さ3.3	重さ187.1g 磁着○				H-4上層	38-2
116	SD2	鉄滓	碗型滓	長さ5.6	幅5.9	厚さ3.0	重さ54.6g 磁着○				H-4下層	38-2
117	SD2	石製品	砥石	長さ[5.9]	幅3.9	厚さ2.9	重さ108.4g 欠損				H-2上層 砂岩	
118	SD2	石製品	砥石	長さ[9.9]	幅3.6	厚さ2.5	重さ105.5g 欠損				H-4下層 流紋岩	
119	SD2	石製品	砥石	長さ[3.9]	幅4.1	厚さ[3.4]	重さ74.6g 欠損				I-2下層 流紋岩 一部黒色化	
120	SD2	石製品	砥石	長さ19.7	幅6.4	厚さ6.2	重さ1514.0g 一部欠損				G-6上層 片岩 長方形 全面使用	33-7
121	SD2	石製品	砥石	長さ19.2	幅6.9	厚さ[1.4]	重さ236.4g 裏面欠損				G-5上層 I-4 粘板岩	
122	SD2	石製品	砥石	長さ[9.0]	幅5.3	厚さ3.4	重さ172.8g 欠損				H-4下層 ホルンフェルス	
123	SD2	石製品	砥石	長さ[6.0]	幅[3.5]	厚さ[0.7]	重さ13.7g 欠損				G-6下層 粘板岩	
124	SD2	石製品	砥石	長さ11.5	幅8.3	厚さ2.1	重さ261.7g 周縁部欠損				G-6下層 緑泥片岩 表面刃物痕あり	
125	SD2	石製品	硯	長さ10.6	幅4.9	厚さ1.3	重さ101.3g 欠損				G-6下層 粘板岩	34-1
126	SD2	石製品	磨石カ	長さ[11.1]	幅[8.5]	厚さ[4.8]	重さ171.2g 一部欠損				G-6上層 軽石 加工孔あり	
127	SD2	石製品	磨石カ	長さ11.0	幅7.7	厚さ5.7	重さ247.3g 一部欠損				G-5下層 軽石 2面磨りあり	
128	SD2	石製品	石臼 (下臼)	長さ[13.2]	幅9.0	推定径(29.0)	高さ5.0 欠損				G-6下層 角閃石安山岩 掘目5溝	
129	SD2	石製品	石材	長さ10.8	幅10.5	厚さ6.8	重さ734.8g				G-5下層 凝灰質砂岩 一部黒色化	
130	SD2	石製品	板碑	長さ[9.1]	幅[6.4]	厚さ17.0	重さ148.7g				H-3下層 緑泥片岩	
131	SD3	陶器	—	[3.1]	—	1 K	5 普通			浅黄橙	H-6 古瀬戸系 灰釉	27-3
132	SD3	陶器	擂鉢	[7.9]	—	1 K	5 普通			褐色	H-6 丹波系 掘目5分画7溝	27-3
133	SD3	陶器	舟形鉢	[2.1]	(14.0)	1 K	10 普通			灰黄	H-6 瀬戸美濃系 底部器壁薄い 刻印 内面灰釉 外面鉄釉	
134	SD3	瓦質土器	丸火鉢	—	[5.8]	—	I	5 普通		褐色	H-6	27-3
135	SD3	鉄滓	碗型滓	長さ4.5	幅3.9	厚さ2.1	重さ54.6g 磁着○				H-6	38-2
136	SD3	石製品	砥石	長さ[19.6]	幅[7.8]	厚さ[7.0]	重さ1092.3g 欠損				№1 石灰質砂岩	
137	SD5	銅製品	銭貨	長さ(2.4)	幅(2.4)	厚さ(0.1)	重さ2.2g				№11 関元通寶	38-3
138	SD5	石製品	火打石	長さ5.1	幅4.0	厚さ2.3	重さ45.3g				G-5上層 チャート	
139	SD5	石製品	火打石	長さ2.8	幅2.8	厚さ1.9	重さ12.0g				G-5上層 玉髓	

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使成	色調	備考	図版
140	SD 6	陶器	天目茶碗	(11.8)	[3.8]	—	I K	10	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系大窯 鉄軸	27-3
141	SD 6	陶器	天目茶碗	(10.0)	[2.9]	—	I K	5	良好	灰白	G-10 瀬戸美濃系 鉄軸 17C中	27-3
142	SD 6	陶器	平碗	—	[1.1]	(5.4)	I K	10	普通	灰白	G-10 古瀬戸系 灰軸	27-3
143	SD 6	瓦質土器	焙烙	—	[5.7]	—	I K	10	普通	浅黄橙	G-10 内外面煤付着	23-13
144	SD 6	瓦質土器	内耳鍋	(28.4)	[8.9]	—	I K	10	普通	灰白	G-10 内外面煤付着	27-3
145	SD 6	瓦質土器	播鉢	(27.0)	[6.1]	—	I K	5	普通	灰白	G-8	27-3
146	SD 6	瓦質土器	播鉢	—	4.6	—	I K	5	普通	灰白	G-9	27-3
147	SD 6	かわらけ	小皿	(11.6)	2.8	(7.0)	C I K	60	普通	浅黄橙	SD17 F-11 G-8 底部回転糸切り 左回転ナデ	23-14
148	SD 6	かわらけ	小皿	(11.7)	3.0	6.8	I K	70	普通	浅黄橙	G-10 底部回転糸切り左回転	24-1
149	SD 6	かわらけ	小皿	—	[2.4]	4.3	C I K	60	普通	桃灰	G-8 底部回転糸切り右回転	
150	SD 6	かわらけ	小皿	(7.6)	2.2	(4.2)	C I K	50	普通	浅黄橙	G-9 底部回転糸切り	
151	SD 6	かわらけ	小皿	(11.6)	2.7	(5.9)	I K	30	普通	浅黄橙		
152	SD 6	かわらけ	小皿	—	[0.7]	(7.9)	C I K	20	普通	にぶい橙	G-8 底部回転糸切り左回転	
153	SD 6	かわらけ	灯明皿	5.6	1.9	3.4	I K	90	普通	浅黄橙	G-8 底部回転糸切り右回転後板目状 瓦煎	24-2
154	SD 6	鉄滓	碗型滓	長さ3.8	幅4.9	厚さ2.0	重さ44.8g	磁着○			G-8	38-2
155	SD 6	石製品	磨石	長さ9.8	幅5.7	厚さ4.6	重さ126.5g	完形			軽石 刃物痕あり	
156	SD 6	石製品	板碑	長さ[26.1]	幅[13.0]	厚さ23.0	重さ1118.5g				G-9 緑泥片岩	
157	SD 6	石製品	板碑	長さ[10.7]	幅[9.1]	厚さ[1.4]	重さ261.2g				緑泥片岩	
158	SD 7	陶器	天目茶碗	(9.8)	[5.1]	—	I K	10	普通	灰白	1-2上層 瀬戸美濃系 鉄軸	27-3
159	SD 7	陶器	灯明皿	—	[1.2]	—	I K	5	普通	灰白	G-7 瀬戸美濃系 灰軸	27-3
160	SD 7	陶器	灯明皿	—	[1.5]	—	I K	5	普通	灰白	1-2上層 志戸呂系 鉄軸	27-3
161	SD 8	陶器	鉢類	(14.4)	[3.3]	—	I K	5	普通	浅黄橙	SD 6・8 G-8 瀬戸美濃系 鉄軸	27-3
162	SD 8	瓦質土器	焙烙	(33.3)	8.0	(28.8)	I K	10	普通	橙	SD 6・8 G-7・8 G-8 内耳欠 付着 内外面煤付着	
163	SD 8	瓦質土器	播鉢	(29.2)	10.9	(13.0)	I K	40	普通	にぶい黄橙	Na1 播目4分画5溝	24-3
164	SD 8	瓦質土器	火鉢	—	[3.7]	—	I K	5	普通	にぶい橙	SD 6・8 G-8 三角形文 刻印	
165	SD 8	かわらけ	小皿	(12.0)	[3.0]	—	I K	10	普通	灰黄褐	F・G-10 手づくね	27-3
166	SD 8	不明	不明	長さ[11.9]	幅0.6	厚さ0.6	重さ42.8g				SD 6・8 G-8	38-2
167	SD 8	鉄製品	釘	長さ[3.5]	幅0.2	厚さ0.2	重さ6.6g				G-9 角釘	38-2
168	SD 8	鉄製品	釘	長さ[4.6]	幅0.2	厚さ0.2	重さ4.7g				G-9 角釘	38-2
169	SD 8	石製品	粉挽臼 (上臼)	長さ[18.4]	幅[7.9]	推定径(27.0)	高さ9.6				F・G-10 安山岩 一部黒色化 播目2 分画6溝	
170	SD 8	石製品	茶臼 (下臼)	長さ[17.3]	幅[7.1]	推定径(35.0)	高さ[4.1]				SD 6・8 G-8 安山岩	
171	SD 9	陶器	鉢	9.5	[4.1]	—	I K	20	普通	灰白	G-7 瀬戸美濃系 腰鉢跡 18C後	27-3
172	SD 9	陶器	鉢	—	[2.7]	—	H K	5	普通	浅黄橙	G-9 瀬戸美濃系 笠原鉢 鉄軸 長石 軸 17C	27-3
173	SD 9	陶器	鉢	—	[5.6]	(10.0)	I K	10	普通	桃灰	G-9 肥前系	27-3
174	SD 9	陶器	碗	—	[2.2]	4.0	I K	40	良好	浅黄橙	G-9 肥前系 刷毛目碗 17C末	
175	SD 9	陶器	蓋	11.7	2.6	6.2	I K	80	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系・有耳蓋	24-4
176	SD 9	陶器	水差	—	[9.4]	—	I K	20	良好	浅黄橙	G-7 瀬戸美濃系 志野 鉄絵 長石軸	28-1
177	SD 9	陶器	水差	—	[3.0]	(20.0)	I K	5	良好	桃灰	G-9 瀬戸美濃系 灰軸	
178	SD 9	陶器	甕	—	[7.9]	—	I K	5	普通	桃灰	SD 2 G-6上層 G-7 常滑系	28-1
179	SD 9	瓦質土器	焙烙	—	0.9	—	I K	5	普通	浅黄橙	G-9 刻印「口吉」	28-1
180	SD 9	瓦質土器	角火鉢	—	[8.3]	—	I K	10	普通	橙	刻印	28-1
181	SD 9	かわらけ	小皿	9.1	1.7	5.8	I K	80	普通	浅黄橙	底部回転糸切り右回転	24-5
182	SD 9	かわらけ	小皿	9.2	1.9	6.4	I K	90	普通	黄橙	G-7 底部回転糸切り右回転	
183	SD 9	かわらけ	小皿	(9.2)	1.3	(5.6)	I K	40	普通	浅黄橙	G-7 底部回転糸切り右回転	24-6
184	SD 9	かわらけ	小皿	8.3	1.7	5.2	I K	50	普通	浅黄橙	G-7 底部回転糸切り右回転	
185	SD 9	土製品	羽子	長さ8.0 厚さ3.6	幅8.3 重さ295.6g		I K	不明	普通	浅黄橙	SD10(G-7・8) D-17 G-8 鉄付 着	

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
186	SD 9	石製品	砥石	長さ[3.7]	幅3.1	厚さ2.2	重さ37.2g	欠損			G-9 流紋岩	
187	SD 9	石製品	板碑	長さ68.2	幅24.2	厚さ3.0	重さ9800.0g				H-7 緑泥片岩 貞治七年戊申/ 口月[]/口ノ羅尼ノ	
188	SD10	磁器	皿	(12.8)	—	—	I K	20	普通	褐色	G-7・8 肥前系	28-1
189	SD10	陶器	灯明皿	(11.2)	2.0	(6.0)	I K	35	普通	にぶい黄褐色	G-8 瀬戸美濃系 鉄軸	
190	SD10	陶器	縁軸小皿	(10.4)	[1.9]	—	I K	30	普通	にぶい黄褐色	古瀬戸後期4期古 灰軸 15C中	
191	SD10	陶器	縁軸小皿	—	[0.9]	(6.2)	I K	15	普通	浅黄緑	G-7・8 古瀬戸系	28-1
192	SD10	陶器	鉢	(40.3)	[8.7]	—	I K	15	普通	淡黄	F-8 G-7・8 瀬戸美濃系 笠原鉢 長石軸 緑軸 鉄絵 17C後	28-1
193	SD10	陶器	播鉢	—	—	12.8	I K	30	普通	にぶい黄褐色	G-7・8 瀬戸美濃系 播目10分画9溝	
194	SD10	陶器	播鉢	—	[12.0]	—	I K	5	普通	橙	G-7・8 京信楽系 播目4分画7溝	28-1
195	SD10	陶器	煮飯	(14.5)	[4.1]	—	I K	10	良好	褐色	G-8 常滑系 灰軸 煤付着 18C前	28-1
196	SD10	陶器	香炉	(10.8)	6.8	(8.2)	I K	45	普通	灰白	G-7・8 瀬戸美濃系 灰軸 18C前	24-7
197	SD10	瓦質土器	内耳鍋	(32.5)	[15.7]	—	H I K	20	普通	浅黄緑	G-7・8	28-2
198	SD10	瓦質土器	焙烙	(33.0)	[5.4]	(30.0)	I K	20	普通	褐色		24-8
199	SD10	瓦質土器	焙烙	(35.2)	5.4	(33.2)	I K	20	普通	灰白	G-8	
200	SD10	瓦質土器	火鉢	—	[5.7]	—	H I K	5	普通	にぶい橙	G-7・8 刻印	28-2
201	SD10	瓦質土器	火鉢	—	[4.7]	—	I K	5	普通	にぶい橙	刻印	28-2
202	SD10	瓦質土器	御付火鉢	—	[5.5]	—	A I K	5	普通	橙	G-7・8 刻印	28-2
203	SD10	瓦質土器	小皿	(11.4)	2.6	(6.9)	C H I K	10	普通	にぶい橙	底部回転系切り	28-2
204	SD10	かわらけ	小皿	—	[1.6]	5.8	H I K	40	普通	淡黄	G-8 底部回転系切り右回転板目状圧痕	
205	SD10	かわらけ	小皿	—	—	(5.4)	CHK	40	普通	浅黄緑	G-7・8 底部回転系切り右回転	
206	SD10	かわらけ	小皿	—	[1.7]	(4.8)	I K	40	普通	にぶい橙	底部回転系切り右回転	
207	SD10	かわらけ	小皿	(6.0)	[2.0]	(3.6)	I K	50	普通	にぶい黄褐色	底部回転系切り右回転	
208	SD10	かわらけ	小皿	—	[1.3]	4.4	C I K	40	不良	浅黄緑	G-7・8 底部回転系切り板目状圧痕	
209	SD10	ロクロ土器	高台付坏	—	[2.5]	8.0	I K	45	普通	浅黄緑	G-7・8 内面黒色化 10C中～後	
210	SD10	木製品	曲物	径(25.0)	高さ	—	厚さ0.8				G-8 底板 釘穴2箇所 刃物痕あり 樹皮残る	36-3
211	SD10	石製品	砥石	長さ[8.2]	幅3.7	厚さ1.8	重さ99.3g	欠損			G-7・8 流紋岩 長方形	
212	SD10	石製品	火打石	長さ3.1	幅3.5	厚さ1.8	重さ21.9g				G-7・8 チャート	
213	SD11	瓦質土器	土釜	—	[5.2]	—	C I K	5	普通	にぶい黄褐色	F-6 外耳あり	28-2
214	SD12	陶器	縁軸小皿	—	[2.5]	—	I K	5	普通	浅黄緑	F-9 古瀬戸後期 鉄軸	28-2
215	SD12	かわらけ	小皿	—	[1.8]	(3.6)	C K	50	不良	灰黄褐色	D-9	
216	SD13	陶器	平碗	—	[1.8]	—	I K	10	良好	灰白	古瀬戸系 灰軸	28-2
217	SD13	瓦質土器	播鉢	—	7.2	13.6	I K	30	普通	浅黄緑	播目9分画7溝	
218	SD13	石製品	板碑	長さ[28.9]	幅[12.4]	厚さ[3.2]	重さ1809.6g				緑泥片岩 13C～14C初頭か	
219	SD14	瓦質土器	焙烙	(37.0)	2.5	(37.8)	A H I K	20	普通	にぶい橙	G-6 19C	24-9
220	SD14	かわらけ	小皿	9.7	2.0	6.5	A H I	80	普通	橙	G-6 底部回転系切り右回転	
221	SD14	かわらけ	小皿	9.1	2.5	6.2	H I K	90	普通	浅黄緑	No.1 G-6 底部回転系切り左回転	
222	SD16	陶器	山茶碗	—	[2.1]	—	I	5	良好	灰白	常滑系	28-2
223	SD17	磁器	梅瓶	—	[4.5]	—	H	5	普通	白	D-11 景徳鎮系 青白磁	28-2
224	SD17	磁器	丸碗	10.4	5.6	—	K	50	良好	灰白	D-11 肥前系 底面崩れ大明年製	
225	SD17	磁器	丸碗	10.0	5.3	4.2	K	50	良好	灰白	D-11 肥前系 染付梅花文	
226	SD17	磁器	丸碗	—	4.0	4.1	K	60	良好	灰白	E-11 肥前系 染付草花文 底面大明年製	
227	SD17	磁器	丸碗	—	[3.5]	4.2	K	80	良好	灰白	E-11 肥前系 染付梅樹文 底面大明年製	
228	SD17	磁器	丸碗	9.6	4.9	3.3	K	50	良好	灰白	F-11 肥前系 染付網目文	
229	SD17	磁器	丸碗	(10.6)	3.6	—	K	20	良好	オリーブ灰	D-11 肥前系 染付梅樹文	28-2
230	SD17	磁器	丸碗	—	4.4	(4.3)	K	40	良好	灰白	E-11 肥前系 染付竹文	
231	SD17	磁器	丸碗	—	2.9	4.8	K	60	良好	白	D-11 肥前系	
232	SD17	磁器	丸碗	(14.5)	[5.4]	—	K	20	良好	灰白	D-11 肥前系 染付草花文か 大碗	28-2

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	使成	色調	備考	図版
233	SD17	磁器	丸碗	—	2.4	4.6	K	40	良好	灰白	D-11 肥前系 彫れ大明年製 円盤未製品	24-10
234	SD17	磁器	碗類	—	[1.7]	—	K	70	良好	明オリーブ灰	D-11 肥前系 円盤未製品	
235	SD17	磁器	坏	(7.4)	3.8	2.8	K	40	良好	明オリーブ灰	D-11 肥前系	
236	SD17	磁器	香炉	(9.0)	2.7	—	K	20	良好	明オリーブ灰	D-11 肥前系 青磁釉	28-2
237	SD17	陶器	丸碗	(10.8)	6.1	4.6	K	70	良好	浅黄橙	D-11 瀬戸美濃系 灰釉	
238	SD17	陶器	丸碗	10.4	6.1	2.8	K	70	良好	灰白	E-11 瀬戸美濃系 灰釉	24-11
239	SD17	陶器	碗	(9.2)	5.9	4.3	K	40	良好	灰白	D-11 瀬戸美濃系 腰縮碗 灰釉 鉄釉 18C後	
240	SD17	陶器	碗	(9.8)	6.0	4.5	I K	30	良好	褐灰	D-11 瀬戸美濃系 腰縮碗 墨付 無釉 内面貫入	24-12
241	SD17	陶器	碗	—	[2.4]	4.6	I K	70	良好	灰黄	D-11 瀬戸美濃系 腰縮碗	
242	SD17	陶器	碗類	(9.7)	[3.6]	—	K	15	良好	灰白	F-11 瀬戸美濃系 鉄釉	28-2
243	SD17	陶器	碗	(8.8)	[4.2]	—	I K	40	良好	浅黄	D-11 瀬戸美濃系 せんじ碗 灰釉	28-3
244	SD17	陶器	碗	—	[4.2]	4.0	I K	30	良好	灰白	D-11 瀬戸美濃系 せんじ碗 灰釉	
245	SD17	陶器	天目茶碗	(10.8)	5.3	(6.4)	K	40	良好	淡黄	F-11 瀬戸美濃系 鉄釉	28-3
246	SD17	陶器	白天下茶碗	(12.8)	[4.0]	—	I K	10	良好	灰黄	F-11 瀬戸美濃系 2・3期 17C前〜中	28-3
247	SD17	陶器	坏	6.4	4.1	3.0	K	70	良好	灰白	D-11 瀬戸美濃系 長石釉	
248	SD17	陶器	鉢	—	[7.5]	—	H I K	5	良好	浅黄	F-11 瀬戸美濃系 笠原鉢 鉄釉 長石釉	28-3
249	SD17	陶器	平碗	—	[4.3]	—	I K	20	良好	灰黄	D-11 瀬戸美濃系 灰釉	28-3
250	SD17	陶器	丸碗	(10.0)	5.5	3.8	K	30	良好	灰白	D-11 京信楽系 全面灰釉 摺繪	
251	SD17	陶器	丸碗	—	[2.8]	—	I	5	良好	淡黄	D-11 京信楽系 式絵丸碗	28-3
252	SD17	陶器	丸碗	—	[2.1]	3.0	K	70	良好	灰白	D-11 京信楽系 灰釉	
253	SD17	陶器	碗	—	4.8	4.2	K	30	良好	浅黄橙	D-11 肥前系 武器手碗	
254	SD17	陶器	碗	—	3.5	4.6	K	30	良好	灰白	D-11 肥前系 武器手碗	
255	SD17	陶器	皿	—	[1.7]	(7.6)	K	40	良好	灰白	F-17 瀬戸美濃系 志野 鉄絵皿 16C後	28-3
256	SD17	陶器	菊皿	—	[4.2]	(9.0)	I K	10	良好	灰黄	D-11 瀬戸美濃系 灰釉 17C後	
257	SD17	陶器	皿	—	1.3	(7.0)	K	5	良好	灰白	瀬戸美濃系 型紙摺 梅樹文か	28-3
258	SD17	陶器	皿	—	[2.4]	4.5	I K	70	良好	灰黄	D-11 肥前系 外面灰釉 輪売	28-3
259	SD17	陶器	縁軸小皿	(11.3)	[3.6]	—	K	10	良好	にぶい黄緑	古瀬戸後期3期 鉄釉 15C前	28-3
260	SD17	陶器	盤類	—	[2.9]	—	K	5	良好	灰黄	D-11 古瀬戸後期 灰釉 14C後〜15C	28-3
261	SD17	陶器	盤	—	[10.0]	—	E I K	5	良好	灰黄褐	E-11 常滑系 13C前	28-3
262	SD17	陶器	盤	—	[12.9]	—	I K	5	良好	褐灰	D-11 常滑系 15C後	29-1
263	SD17	陶器	鉢	—	[6.6]	—	E I K	5	良好	にぶい褐	D-11 常滑系	29-1
264	SD17	瓦質土器	内耳鍋	(29.7)	[5.8]	—	AH I K	5	普通	灰黄褐	D-11 内耳欠損 内外面煤付着	28-3
265	SD17	瓦質土器	内耳鍋	(31.6)	9.2	—	A I K	20	良好	灰黄	D-11 内耳欠損 煤付着	29-1
266	SD17	瓦質土器	内耳鍋	(33.8)	[5.2]	—	HK	15	普通	褐灰	内耳欠損 煤付着	28-3
267	SD17	瓦質土器	焙烙	(40.6)	5.6	(36.4)	ACH I	20	普通	灰白	E-11 煤付着	24-13
268	SD17	瓦質土器	焙烙	(38.2)	5.3	(34.0)	I K	10	普通	浅黄橙	D・E-11 内耳欠損 煤付着	
269	SD17	瓦質土器	播鉢	(27.8)	[6.6]	—	ACEH I K	20	普通	褐灰	F-11 播目3分面6溝 波状溝 煤付着	29-1
270	SD17	瓦質土器	播鉢	(32.0)	[7.2]	—	EH I K	10	普通	灰黄	E-11	29-1
271	SD17	瓦質土器	播鉢	—	[8.8]	—	ACEH I K	5	普通	褐灰	D-11	29-1
272	SD17	瓦質土器	播鉢	(25.8)	[4.0]	—	EH I K	10	普通	にぶい黄緑	E-11	28-3
273	SD17	瓦質土器	播鉢	—	[3.7]	(15.1)	AEH I K	25	普通	灰黄	播目5分面18溝	
274	SD17	瓦質土器	鉢	—	[7.5]	—	AC I K	10	普通	褐灰	D-11 赤彩2条	29-2
275	SD17	瓦質土器	鉢	—	[5.3]	(18.0)	ACH I K	15	普通	灰黄	E-11	29-2
276	SD17	瓦質土器	火鉢	—	[12.5]	—	A I K	20	普通	にぶい黄緑	D-11 内面厚い煤付着	29-2
277	SD17	土師質土器	蓋	7.6	1.7	7.0	ACH I K	80	普通	にぶい橙	F-11 焼塩釜	
278	SD17	かわらけ	小皿	(12.8)	—	7.0	ACH K	40	普通	にぶい黄緑	D-11 底部回転糸切り右回転	
279	SD17	かわらけ	小皿	(11.8)	3.6	(5.5)	ACEH I K	25	普通	にぶい橙	D-11 底部回転糸切り右回転	
280	SD17	かわらけ	小皿	(9.7)	2.2	(5.8)	ACH I K	60	普通	にぶい黄緑	D-11 底部回転糸切り 底部2箇所穿孔	
281	SD17	かわらけ	小皿	(8.8)	2.0	(6.3)	ACE I K	25	普通	にぶい褐	D-11 底部回転糸切り	
282	SD17	かわらけ	小皿	(12.0)	[2.6]	—	ACH I K	20	普通	にぶい橙	D-11	29-2

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
283	SD17	かわらけ	小皿	—	[3.1]	4.3	A C H I K	40	普通	灰白	E-11 底部回転糸切り板目状圧痕	
284	SD17	かわらけ	小皿	—	[1.2]	(6.0)	H I K	40	普通	にぶい黄褐色	F-11 底部回転糸切り左回転	
285	SD17	瓦	丸瓦	長さ[13.1]	幅[10.0]		I K	20	普通	褐灰	D-11	29-2
				厚さ[8.4]	重さ344.3g							
286	SD17	銅製品	銭貨	長さ(2.4)	幅(2.5)	厚さ(0.1)					Na59 元符通寶 篆書	38-3
287	SD17	木製品	漆桶	口径—	器高[4.3]	底径—					内外面赤色系漆 丸に三巴文 黒色系漆	36-3
288	SD17	木製品	漆桶	口径—	器高[2.9]	底径(4.2)					E-11 内外面赤色系漆 高台外面黒色系漆 三引両文	36-3
289	SD17	木製品	釜蓋下駄	長さ[15.3]	高さ4.3(台座)	幅[6.6]					E-11 裏面	35-5
290	SD17	石製品	砥石	長さ[8.1]	幅[4.8]	厚さ3.1					一部黒化 表裏側縁部刃物痕多数 表裏両面使用	
291	SD17	石製品	砥石	長さ[4.6]	幅[3.9]	厚さ[2.0]					D-11 流紋岩 長方形 表裏側縁部刃物痕多数	
292	SD17	石製品	石臼(上臼)	長さ[8.0]	幅[11.1]	推定径(23.0)					南側法面 デイサイト 掘目4溝 摩滅	
				重さ590.6g	欠損							
293	SD18	磁器	碗	—	[2.1]	(3.0)	I K	20	良好	灰白	D-15 龍泉窯系 青磁 花卉文	29-2
294	SD18	陶器	甕	—	[8.0]	—	I	5	普通	灰	D-15 常滑系 15C後	29-2
295	SD18	瓦質土器	内耳鍋	—	[7.3]	—	A I K	10	普通	浅黄褐色	D-15 内耳欠損 煤付着	29-3
296	SD18	瓦質土器	焙烙	—	5.3	—	I K	5	普通	褐灰	法面 内耳欠損 煤付着	29-2
297	SD20	磁器	仏飯器	—	[3.8]	3.5	K	30	良好	白	C-15 肥前系 17C後～18C	
298	SD20	銅製品	煙管	火皿径1.5	重さ2.3g						C-15 火皿	38-2
299	SD22	銅製品	銭貨	長さ(2.4)	幅(2.5)	厚さ(0.1)					Na52-1 元通寶 行書	38-3
300	SD22	石製品	硯	長さ[5.7]	幅[3.2]	厚さ[0.7]					粘板岩	
301	SD22	石製品	石鉢	長さ[24.1]	幅[11.2]	推定径(24.0)					D-16 安山岩 片口残存	34-2
302	SD23	磁器	丸碗	—	[1.9]	(3.4)	I K	30	良好	灰白	C-16 肥前系 内盤未製品	
303	SD23	瓦質土器	脚付火鉢	(16.4)	[5.2]	—	I	15	不良	褐灰	C-16 脚部欠損	
304	SD23	瓦質土器	脚付火鉢	—	[2.2]	—	I	5	不良	褐灰	C-16 脚部欠損	
305	SD23	鉄滓	陶型滓	長さ4.1	幅3.9	厚さ1.6					C-16	38-2
306	SD24	陶器	搥鉢	—	[7.8]	—	I	5	普通	橙	堺明石系 掘目32溝	29-2
307	SD24	陶器	甕	—	[4.1]	—	I	5	普通	褐灰	C-16 常滑系 15C後	29-3
308	SD24	瓦質土器	鉢類	—	[3.0]	—	I K	5	不良	灰黄	C-16	29-3
309	SD24	瓦質土器	焙烙	(42.6)	[5.0]	(40.0)	I K	30	普通	灰黄褐色	C-16 内耳欠損 煤付着	
310	SD24	瓦質土器	脚付火鉢	(35.6)	[12.4]	—	H I K	20	普通	明黄褐色	煤付着	29-3
311	SD24	石製品	磨石	長さ[5.5]	幅[5.0]	厚さ3.6					C-16 軽石 刃物痕あり	
312	SD25	磁器	丸碗	(9.0)	[3.4]	—	I K	20	普通	灰白	C-16 肥前系	29-3
313	SD25	石製品	磨石	長さ1.7	幅1.6	厚さ0.7					C-16 軽石	
314	SD29	陶器	甕	—	[8.1]	—	I	5	普通	褐灰	Na.2 常滑系 自然釉 13C後	29-3
315	SD29	陶器	飯子	—	[4.3]	(9.4)	I K	5	普通	灰白	古瀬戸後期1・2期 灰釉 14C後	
316	SD29	石製品	石臼(下臼)	長さ[18.5]	幅[12.7]	推定径(25.0)					E-12 角閃石デイサイト 掘目6溝 摩滅	
				重さ2331.0g	欠損							
317	SD29	石製品	不明	長さ4.3	幅4.4	厚さ4.0					流紋岩 加工あり 有孔球状製品	34-3
318	SD30	陶器	飯碗	—	[5.3]	—	I K	5	普通	にぶい黄褐色	古瀬戸後期2・3期 灰釉 砥石転用	29-3
319	SD30	石製品	磨石	長さ8.5	幅7.6	厚さ3.7					軽石	
320	SD30	石製品	磨石	長さ10.4	幅8.4	厚さ5.6					軽石	
321	SD32	瓦質土器	内耳鍋	(30.8)	[14.2]	—	I K	30	普通	褐灰	内耳欠損 煤付着	29-3
322	SD34	石製品	砥石	長さ[5.3]	幅3.0	厚さ2.0					流紋岩 断面長方形	

土していない。

第34号溝跡 (第53・82図)

D～F-11グリッドに位置する。走行方位はN-2°-Eを指し、南西から北東方向にかけて延びる。南端が第13号溝跡に切られているが、第13

号溝跡の反対側では認められないので、この部分で立ち上がっていたとみられる。検出全長8.80m、幅0.30～0.55m、深さ0.07～0.25mで、断面形状は逆台形である。

第82図322は砥石である。

4. 土壌

土壌は計54基検出されている。形状は楕円形や隅丸長方形のものが多い。第14号土壌に馬が埋葬されていた以外は、用途が明確に判定できる土壌はない。個々の土壌については第6表にまとめ、以下に特徴的な土壌について述べる。

第2号土壌 (第83図)

J-2グリッドに位置し、長軸方向はN-28°-Eを指す。平面形は楕円形であり、規模は長軸1.19m、短軸0.61m、深さ0.22mである。覆土は砂を主体とし、第1層では炭化物粒が少量含まれている。遺物は出土していない。

第3号土壌 (第83図)

I-3グリッドに位置し、長軸方向はN-34°-Eを指す。平面形は楕円形の形状で、規模は長軸1.63m、短軸1.29m、深さ0.21mである。覆土は砂を主体としている。遺物は出土していない。

第4号土壌 (第83・89図)

I-3グリッドに位置し、長軸方向はN-64°-Eを指す。平面形は不整形の形状であり、規模は長軸1.17m、短軸0.93m、深さ0.29mである。覆土は砂を主体としている。

遺物は第89図3のかわらけが1点出土している。底部に回転切り左回転の痕がみられる。

第5号土壌 (第83図)

I・J-3グリッドに位置し、長軸方向はN-80°-Wを指す。平面形は楕円形の形状であり、規模は長軸1.23m、短軸1.14m、深さ0.16mである。覆土は砂を主体としている。第1層にはやや粗い砂が堆積している。

第6号土壌 (第83図)

I-3グリッドに位置し、長軸方向はN-61°-Eを指す。平面形は楕円形の形状であり、規模は長軸1.33m、短軸1.21m、深さ0.19mである。覆土は砂を主体としている。

第7号土壌 (第83図)

I-4グリッドに位置し、長軸方向はN-11°

-Eを指す。平面形は楕円形の形状で、規模は長軸1.29m、短軸1.15m、深さ0.20mである。覆土は砂を主体としている。

第8号土壌 (第83図)

J-2・3グリッドに位置し、長軸方向はN-85°-Eを指す。平面形は楕円形の形状であり、規模は長軸2.31m、短軸1.80m、深さ0.56mである。覆土は砂を主体としている。

第2～8号土壌はいずれも上層に褐灰色砂、下層に灰黄褐色砂が堆積する層序となっており、類似した過程、もしくは一時期に埋没した土壌である可能性がある。これらの土壌は、第1号道路跡の第Ⅱ面から掘り込められている。

砂が多く堆積しているこれらの土壌は、災害復旧痕にみられるシルト質土が堆積していない。このことから、これらの土壌は天地返しを目的としたものではなく、砂の廃棄を目的とした可能性が想定される。

第13号土壌 (第83・89図)

G-9グリッドに位置し、長軸方向はN-89°-Wを指す。平面形は楕円形の形状で、規模は長軸0.80m、短軸0.46m以上、深さ0.38mである。覆土は暗褐灰色土を主体としており、As-A軽石粒が極めて微量だが、まだらに含まれている。遺物は第89図4の角火鉢が出土している。時期は18世紀後半以降に埋没した土壌である。

第14号土壌 (第84図)

G-9グリッドに位置し、長軸方向はN-0°を指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸1.87m、短軸1.12m以上、深さ0.22mである。

馬の全身骨が埋葬された土壌である。南側に頭骨及び歯が認められ、南側に頭を向けた姿勢で埋葬されたとみられる。覆土は単層で、暗褐灰色土を主体とし、炭化物粒をまだらに多く含んでいる。遺物は出土しておらず、副葬品の有無は確認されなかった。

第26号土壇 (第85・89・90図)

C-14・15グリッドに位置し、長軸方向はN-10°-Eを指す。平面形は楕円形の形状であり、規模は長軸1.53m、短軸1.11m、深さ0.12mである。

第89図7は瀬戸美濃系大窯の大皿である。内外面に灰釉を施されている。大窯第4段階後半に位置付けられる。第90図8と9は焙烙である。いずれも内耳部分が欠損している破片資料であるが、器形や胎土が異なるため別個体である。10はかわらけである。底部回転糸切り右回転の痕が残る。11は平瓦である。埋没時期は、大窯製品の年代から16世紀末頃に位置付けられる。そのほかの焙烙やかかわらけの年代も概ね同様の時期に収まる。

第28号土壇 (第85図)

D-13グリッドに位置し、長軸方向はN-88°-Wを指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸1.10m、短軸0.44m、深さ0.26mである。遺物は出土していない。

第29号土壇 (第85図)

D-13グリッドに位置し、長軸方向はN-88°-Wを指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸1.07m、短軸0.48m、深さ0.28mである。遺物は出土していない。

第30号土壇 (第85図)

D-13グリッドに位置し、長軸方向はN-82°-Wを指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸1.35m、短軸0.45m、深さ0.23mである。遺物は出土していない。

第31号土壇 (第86・90図)

D-13グリッドに位置し、長軸方向はN-82°-Wを指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸1.07m、短軸0.44m、深さ0.24mである。第90図12はシマメノウ製の火打石で、1点出土している。

第28～31号土壇は、いずれも隅丸長方形の平面形態であり、長軸方向もほぼ同じ方向を向く。長

軸1.07～1.35m、短軸0.44～0.48m、深さ0.23～0.28mとはほぼ同じ規模で、東西方向に一直列に並んでいる。覆土はいずれも上層に砂が堆積し、下層には暗灰色や暗褐色の土が堆積する。これらのことから同一の目的で同時期に掘削され、その後埋没した土壇と考えられる。明確な用途は不明である。

これらの土壇からの出土遺物は、第31号土壇の火打石1点のみであり、時期の特定には至らない。また、平面形態や規模がやや異なるが、同じ軸線上に並ぶ第32号土壇、第36号土壇、第37号土壇や、軸は異なるが平面形態や規模が類似する第33号土壇、第34号土壇も同様の性格を有していた可能性が想定される。

第38号土壇 (第86・90・91図)

D-13グリッドに位置し、長軸方向はN-84°-Eを指す。平面形は楕円形の形状で、規模は長軸2.82m、短軸1.50m、深さ0.49mである。第1層には泥炭状の炭化した植物遺体が認められる。

遺物は肥前系磁器の碗、坏、京信楽系の小杉碗、常滑系の陶器甕、瓦質土器の脚付火鉢、桶蓋が出土している。埋没時期は、18世紀中頃に位置付けられる。

第46号土壇 (第87・91図)

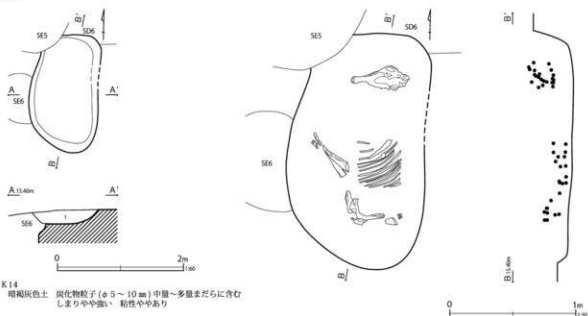
D-16グリッドに位置し、長軸方向はN-5°-Eを指す。平面形は楕円形の形状であり、規模は長軸0.90m、短軸0.75m、深さ0.70mである。他の遺構との重複関係はない。覆土は第1層と第2層に地山由来の黄褐色シルトブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されたものとみられる。

遺物は第91図24の安山岩製茶臼の土臼が出土している。挽き手口は菱形文様である。残存率は約50%であり、上面から下面にかけて割れ口部分が黒色化している。摩擦面の摩擦が激しく、使用感が強い。

第47号土壇 (第87・91図)

E-12グリッドに位置し、長軸方向はN-82°

SK14



第84図 土壌(2)

ーEを指す。平面形は隅丸長方形の形状であり、規模は長軸2.03m、短軸1.11m、深さ0.43mである。第29号溝跡と重複し、これよりも新しい。

第91図25は肥前系磁器の碗である。外面及び底部に染付が施されている。26と27は肥前系陶器の呉器手碗である。いわゆる京焼風の淡黄色の胎土を有している。26は円盤に転用されているか。埋没時期は18世紀中頃に位置付けられる。

第49号土壌 (第87・91・92図)

D-12グリッドに位置し、長軸方向はN-0°を指す。平面形は隅丸方形の形状であり、規模は長軸2.23m、短軸2.08m、深さ0.82mである。覆土には第1層にAs-A軽石が含まれており、18世紀後半頃に埋没したと想定される。

遺物は陶磁器の碗や皿、かわらけ、鉄製の吊手、漆碗、下駄、石臼といった多様な遺物が出土している。第91図28は肥前系磁器の碗である。外面に梅樹文の染付が施されている。29と30は京信楽系の丸碗である。胎土がやや軟質で灰黄色さみの色調を有する。第92図33~38はかわらけである。いずれも底部回転糸切りで35~37は板目状圧痕が認

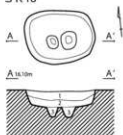
められる。33には底部の中心部に0.30cmほどの孔が焼成後に穿たれており、見込み側の穿孔付近には、極めて微量であるが墨が確認できる。39は鉄製の吊手である。鉄鍋を吊るした吊手と思われる。40は漆碗である。高台部分は欠損している。内外面に赤色系漆が塗られ、底部に黒色系漆で「木口」の文字が書かれている。41は差歯下駄で陰卯のものである。後ろ半分は欠損している。42は安山岩製粉挽臼の上臼である。約3分の1が欠損しているが、芯棒受け孔、供給孔、側面には挽き手口が確認される。

第51号土壌 (第87・93図)

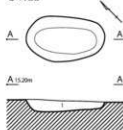
C-17グリッドに位置し、長軸方向はN-81°-Wを指す。平面形は円形の形状で、規模は長軸0.80m、短軸0.74m、深さ0.68mである。

遺物は安山岩製粉挽臼が上臼と下臼揃って出土している。上臼はほぼ完形であるが、摩擦面の摩擦が激しい。下臼は半分欠損している。径の規模や芯棒孔の位置が一致することから、セットで使用されていたものがまとめて廃棄された可能性が想定される。

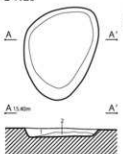
SK 18



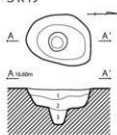
SK 22



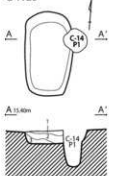
SK 26



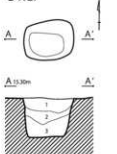
SK 19



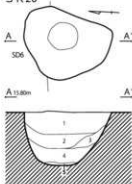
SK 23



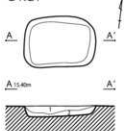
SK 27



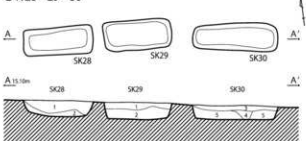
SK 20



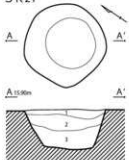
SK 24



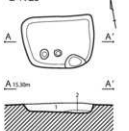
SK 28・29・30



SK 21



SK 25



SK 18

- 1 暗褐色土 黄褐色砂子 (φ 2~3mm) 多量層全体にまだらに含む 暗灰色土 少量 しり強い 粘性なし
- 2 暗褐色土 黄褐色砂子 (φ 3mm) 多量 しり強い 粘性ややあり
- 3 暗褐色土 炭化物砂子 (φ 3mm) 中量

SK 19

- 1 暗褐色土 灰白色土中量~多量 しり強い 粘性なし
- 2 暗褐色土 1層の土少量 しり強い 粘性ややあり
- 3 暗褐色土 同色の砂少量 しりあり 粘性あり

SK 20

- 1 暗褐色土 白色砂子 (φ 1~3mm) 多量 炭化物砂子・焼土砂子 (φ 3~5mm) 各少量 しり強い 粘性なし
- 2 暗褐色土 地山黄褐色土 (粘性の強い粘土)・暗青灰色砂子 (φ 5mm) 多量 しり強い 粘性あり
- 3 暗褐色土 同色の砂少量~中量 炭化鉄多量 しり強い 粘性なし
- 4 暗褐色土 3層より強い 同色の砂少量~中量 炭化鉄多量 しり強い
- 5 暗褐色土 粘土主体 炭化鉄少量 しり強い 粘性あり

SK 21

- 1 暗褐色土 暗褐色砂子 (φ 5mm) 少量 しりなし 粘性なし
- 2 暗褐色土 暗褐色砂層以上多量 しりややあり 粘性あり
- 3 暗褐色土 粘土主体 同色砂少量 しりややあり 粘性ややあり

SK 22

- 1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物砂子・炭化鉄含む しりあり 粘性ややあり

SK 23

- 1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物砂子・炭化鉄含む しりあり 粘性ややあり
- 2 暗褐色土 シルト質 灰白色粘土砂子・炭化物含む しりあり 炭化鉄含む しりあり
- 3 灰褐色土 炭化鉄含む しりあり

SK 24

- 1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物砂子・炭化鉄含む しりあり 粘性ややあり
- 2 暗褐色土 シルト質 灰白色粘土砂子・炭化物砂子含む

SK 25

- 1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物砂子・炭化鉄含む しりあり 粘性ややあり
- 2 暗褐色土 シルト質 灰白色粘土砂子・炭化物砂子含む しりあり

SK 26

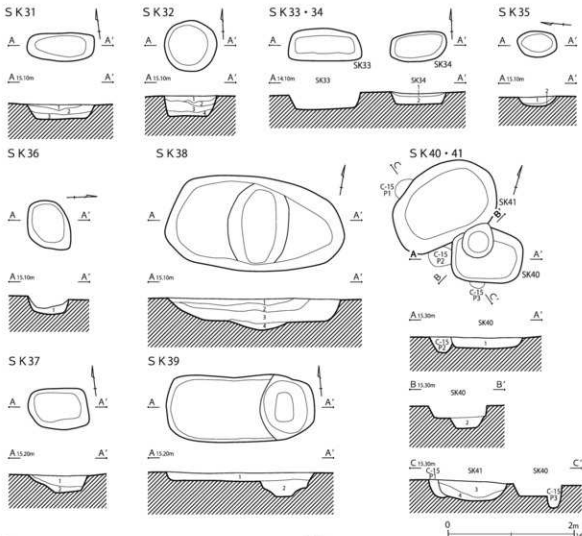
- 1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化物砂子・炭化鉄含む しりあり 粘性ややあり
- 2 暗褐色土 シルト質 灰白色粘土砂子・炭化物砂子含む しりあり

SK 27

- 1 暗褐色土 炭化物砂子 (φ 10mm) 少量 炭化鉄中量 灰白色砂子 (φ 3mm) 多量 しり強い 粘性なし
- 2 暗褐色土 炭化鉄中量 しり強い 粘性なし
- 3 暗褐色土 粘土主体 炭化鉄 (φ 1~2mm) 少量~中量 しり強い 粘性ややあり

SK 28・29・30

- 1 灰褐色土 砂層 砂砂子非常に細かい 炭化鉄層状に入る (SK28のみ) しり強い 粘性なし (SK28・29)
- 2 暗褐色土 粘土主体 1層の灰褐色砂少量~中量まだらに含む 黄褐色砂子 (φ 5~8mm) 少量層上部に含む 炭化鉄少量まだらに含む しり強い 粘性強い (SK28・29)
- 3 暗褐色土 黄褐色砂子 (φ 3~5mm) 少量層全体にまだらに含む しり強い 粘性なし (SK30)
- 4 暗褐色土 粘土主体 灰褐色土中やや同色砂含む しりややあり 粘性あり (SK30)
- 5 暗褐色土 粘土主体 炭化鉄少量まだらに含む しり強い 粘性強い (SK30)



- SK31
1 暗灰色土 砂粒子粗い層 しまりなし 粘性なし
2 暗灰色土 粘土主体 黄褐色粒子 (φ 3mm) 中量・炭化物粒子 (φ 5mm) 少量
各まだらに含む しまりややあり 粘性あり
3 暗褐色土 炭化物粒子 (φ 3mm) 少量 暗褐色ブロック (φ 10～20mm) 少量
まだらに含む しまりあり 粘性ややあり

- SK32
1 暗褐色土 灰白色土まだらに含む しまりややあり 粘性あり
2 暗褐色土 粘土主体 灰白色粒子 (φ 3～5mm)・炭化物粒子 (φ 5mm)
暗褐色土まだらに含む しまりややあり 粘性あり
3 暗褐色土 粘土主体 暗褐色中量～多量まだらに含む しまり弱い
粘性強い
4 暗褐色土 3層より白い粘土主体 暗褐色中量～多量まだらに含む
しまりややあり 粘性あり

- SK34
1 暗褐色土 砂質土主体 SK28・29の1層砂とSK31の1層砂の中ぐら
いの砂粒 灰白色粒子 (φ 10～20mm) 少量まだらに含む
しまりなし 粘性なし
2 暗褐色土 粘土主体 SK28・29の1層の灰色砂少量～中量まだらに含む
黄褐色粒子 (φ 5～8mm) 少量層上部に含む 酸化鉄少量まだらに
含む しまり弱い 粘性強い

- SK35
1 暗褐色土 砂質土主体 SK28・29の1層砂とSK31の1層砂の中ぐら
いの砂粒 灰白色粒子 (φ 10～20mm) 少量まだらに含む
しまりなし 粘性なし
2 暗褐色土 粘土主体 SK28・29の1層の灰色砂少量～中量まだらに含む
黄褐色粒子 (φ 5～8mm) 少量層上部に含む 酸化鉄少量まだらに
含む しまり弱い 粘性強い

- SK36
1 暗褐色土 砂質土中量～多量まだらに含む しまりやや弱い 粘性やや弱い

- SK37
1 灰色土 砂層 砂粒子非常に細かい しまり弱い 粘性なし
2 暗褐色土 粘土主体 SK28・29の1層の灰色砂少量～中量まだらに含む
黄褐色粒子 (φ 5～8mm) 少量層上部に含む 酸化鉄少量まだら
に含む しまり弱い 粘性強い

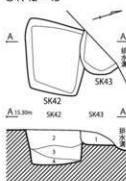
- SK38
1 暗褐色土 ビート (泥炭) 状の炭化したような植物体層 しまりあり
2 青緑灰色土 粘土主体 やや明るい青灰色粘土ブロック多量 しまりあり
粘性あり
3 青緑灰色土 粘土主体 酸化鉄わずかに含む しまりあり 粘性あり
4 暗褐色土 粘土主体 全体的に酸化鉄含む しまりあり 粘性ややあり

- SK39
1 暗褐色土 炭化物粒子 (φ 2～5mm) 少量～中量・灰白色粒子 (φ 2～8mm)
中量各まだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 粘土主体 黄褐色粒子 (φ 5～8mm) 少量層上部に含む 酸化鉄
少量まだらに含む しまり弱い 粘性強い

- SK40
1 暗褐色土 灰白色粒子 (φ 2～5mm) 中量・炭化物粒子 (φ 2mm) 極少量各
まだらに含む しまりややあり 粘性ややあり
2 暗褐色土 1層より暗い炭化物粒子 (φ 3mm) 中量まだらに含む 黄褐色
ブロック (φ 10～20mm) 少量まだらに含む しまりややあり
粘性あり

- SK41
3 暗褐色土 炭化物粒子 (φ 3～5mm)・黄褐色粒子 (φ 1～8mm) 少量各
まだらに含む しまり含む しまり強い 粘性ややあり
4 暗褐色土 3層よりやや明るい 暗山黄褐色ブロック (φ 1～40mm) 中量
まだらに含む しまり強い 粘性なし

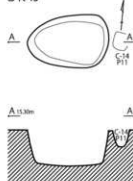
SK 42・43



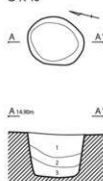
SK 44



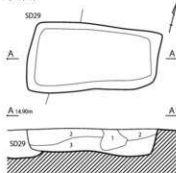
SK 45



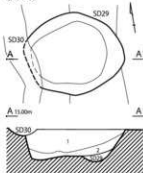
SK 46



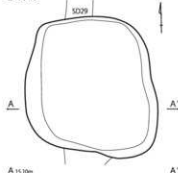
SK 47



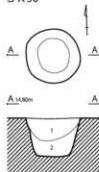
SK 48



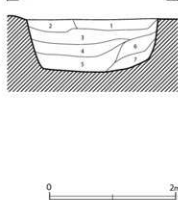
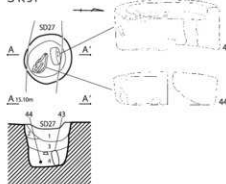
SK 49



SK 50



SK 51



0 2m 1:100

SK 43

1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック (φ 2 ~ 50 mm) 中量 ~ 多量・炭化物粒子 (φ 2 ~ 5 mm) 少量層全体まだらに含む しまりやや強い 粘性なし

SK 42

2 暗褐色土 地山黄褐色ブロック (φ 10 ~ 50 mm) 多量 しまり強い
粘性ややあり
3 暗灰色土 粘土主体 黄褐色粒子 (φ 5 mm) 少量 しまりややあり 粘性あり
4 暗褐色土 暗い暗褐色土主体 しまりやや弱い 粘性なし

SK 44

1 暗褐色土 黄褐色粒子 (φ 2 ~ 5 mm) 多量・炭化物粒子 (φ 2 mm)・少量各
まだらに含む しまり弱い 粘性あり
2 暗褐色土 炭化鉄多量 しまりやや強い 粘性ややあり

SK 46

1 暗褐色土 地山黄褐色ブロック多量 しまりあり
2 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化鉄多量 しまりあり
3 暗褐色土 粘土主体 しまりややあり 粘性あり

SK 47

1 灰色土 砂主体 軽石含まない 軽石粗い しまりなし
2 暗灰色土 粘土主体 軽石遺体多量 しまりなし
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物多量 しまりややあり

SK 48

1 灰褐色土 砂質 炭化鉄多量 しまりなし
2 灰褐色土 砂質 炭化物含む しまりなし 粘性ややあり

SK 49

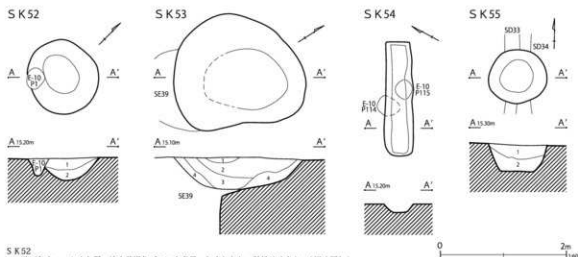
1 灰褐色土 砂主体 (自然軽石、As-A) 含む
2 灰褐色土 砂質土主体 炭化鉄多量 SK 48 の 1 層に似る
3 暗灰色土 粘土主体 炭化物多量 しまりあり
4 暗灰色土 粘土主体 砂 (粗粒) 多く含む
5 暗灰色土 粘土主体 炭化物含む
6 青灰緑色土 粘土主体 炭化物多量 しまりややあり
7 青灰緑色土 粘土主体 全体的に砂含む しまりややあり

SK 50

1 灰褐色土 シルト主体 地山黄褐色ブロック・炭化物多量 (埋め戻し)
2 灰褐色土 シルト主体 地山黄褐色ブロック含む (埋め戻し)

SK 51

1 暗褐色土 シルト質 地山黄褐色ブロック多量 しまりあり
粘性ややあり (埋め戻し)
2 暗褐色土 シルト質 1 層より黄色味強い 炭化物含む しまりあり
粘性ややあり (埋め戻し)
3 暗褐色土 地山黄褐色ブロック・炭化鉄多量
4 暗褐色土 粘土主体 地山黄褐色ブロック少量 炭化物含む しまりあり
粘性あり



SK52
1 暗灰色土 シルト質 地山黄褐色ブロック多量 しまりあり 粘性ややあり (埋め戻し)
2 暗灰色土 地山黄褐色ブロック・酸化鉄多量

SK53
1 灰褐色土 シルト主体 砂質 しまりあり
2 暗褐色土 シルト主体 炭化物粒子 (φ20～30mm) 少量含む しまりあり
3 黄褐色土 シルト主体 炭化物シルトブロック・暗灰色粘土ブロック少量 しまりあり 粘性ややあり
4 暗褐色土 シルト主体 酸化鉄多量

SK55
1 暗灰色土 シルト質 地山黄褐色ブロック多量 しまりあり 粘性ややあり (埋め戻し)
2 暗灰色土 地山黄褐色ブロック・酸化鉄多量

第88図 土壌 (6)

第6表 土壌一覧表 (第83～88図)

番号	グリッド	平面形態	長軸方位	長軸 / m	短軸 / m	深さ / m	重複遺構
1	I-1・2	隅丸長方形	N-16°-W	2.41	[1.27]	0.17	
2	J-2	楕円形	N-28°-E	1.19	0.61	0.22	
3	I-3	楕円形	N-34°-E	1.63	1.29	0.21	
4	I-3	不整形	N-64°-E	1.17	0.93	0.29	
5	I・J-3	楕円形	N-80°-W	1.23	1.14	0.16	
6	I-3	楕円形	N-61°-E	1.33	1.21	0.19	
7	I-4	楕円形	N-11°-E	1.29	1.15	0.20	SD3・4→本跡
8	J-2・3	楕円形	N-86°-E	2.31	1.80	0.56	
9	G-9	不整形	N-7°-W	0.76	0.56	0.27	
10	G-9	楕円形	N-15°-W	0.88	0.63	0.22	
11	G-9	隅丸長方形	N-5°-W	0.78	0.76	0.28	
12	G-8	楕円形	N-66°-E	0.88	0.70	0.35	
13	G-9	楕円形	N-89°-W	0.80	[0.46]	0.38	
14	G-9	隅丸長方形	N-0°	1.87	[1.12]	0.22	SE6、SD6→本跡→SE5
15					矢番		
16	E・F-9	円形	N-36°-W	1.08	0.98	0.33	
17	F-9	円形	N-47°-W	0.99	0.93	0.52	
18	F-9	楕円形	N-84°-W	1.11	0.86	0.40	
19	E-8	楕円形	N-24°-E	1.06	0.80	0.54	SB1→本跡
20	G-8	不整形	N-7°-E	1.39	1.08	0.85	SD6→本跡
21	G-6	円形	N-54°-E	1.32	1.31	0.62	
22	C-16	楕円形	N-43°-W	1.25	0.72	0.18	
23	C-14	隅丸長方形	N-0°	1.32	0.75	0.20	本跡→C-14P1
24	C-14	隅丸長方形	N-82°-E	1.12	0.80	0.18	

番号	グリッド	平面形態	長軸方位	長軸 / m	短軸 / m	深さ / m	重複遺構
25	C-14	隅丸長方形	N-81°-W	1.13	0.81	0.15	
26	C-14・15	槽凹形	N-10°-E	1.53	1.11	0.12	
27	C-14	隅丸長方形	N-85°-E	0.79	0.62	0.63	
28	D-13	隅丸長方形	N-88°-W	1.10	0.44	0.26	
29	D-13	隅丸長方形	N-88°-W	1.07	0.48	0.28	
30	D-13	隅丸長方形	N-82°-W	1.35	0.45	0.23	
31	D-13	隅丸長方形	N-82°-W	1.07	0.44	0.24	
32	D-12	円形	N-88°-W	0.83	0.81	0.32	
33	D-12	隅丸長方形	N-88°-W	1.13	0.51	0.23	
34	D-12	隅丸長方形	N-85°-E	0.89	0.46	0.17	
35	D-13	槽凹形	N-0°	0.63	0.42	0.15	
36	D-13	槽凹形	N-51°-E	0.91	0.68	0.30	
37	D-13	隅丸長方形	N-82°-W	0.94	0.65	0.27	
38	D-13	槽凹形	N-84°-E	2.82	1.50	0.49	
39	C・D-13	槽凹形	N-85°-W	2.32	1.05	0.37	
40	C-15	隅丸長方形	N-73°-E	1.11	0.83	0.17	SK41、C-15P2・3→本跡
41	C-15	隅丸長方形	N-46°-E	1.74	1.17	0.30	C-15P1・2→本跡→SK40
42	C-13・14	隅丸長方形	N-70°-W	1.12	0.90	0.55	本跡→SK43
43	C-14	槽凹形	N-63°-E	0.76	[0.42]	0.20	SK42→本跡
44	D-12	槽凹形	N-72°-E	0.89	[0.57]	0.50	
45	C-14	槽凹形	N-84°-E	1.27	0.84	0.52	
46	D-16	槽凹形	N-5°-E	0.90	0.75	0.70	
47	E-12	隅丸長方形	N-82°-E	2.03	1.11	0.43	SD29→本跡
48	D・E-12	槽凹形	N-79°-W	(1.58)	1.26	0.48	SD29→本跡→SD30
49	D-12	隅丸長方形	N-0°	2.23	2.08	0.82	SD29→本跡
50	D-17	円形	N-25°-E	0.89	0.86	0.60	
51	C-17	円形	N-81°-W	0.80	0.74	0.68	本跡→SD27
52	D・E-10	槽凹形	N-79°-W	1.17	1.05	0.34	本跡→E-10P1
53	F-10	槽凹形	N-33°-E	(2.09)	1.81	0.51	SE39→本跡
54	E-9・10	隅丸長方形	N-62°-E	1.81	0.45	0.13	E-10P114・115→本跡
55	E-11	円形	N-68°-E	0.93	0.85	0.42	SD33・34→本跡

SK1



SK4



SK13



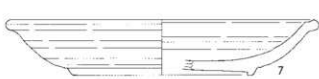
SK19



SK21



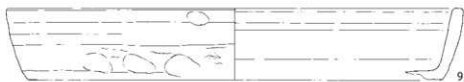
SK26



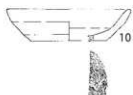
0 10cm

第89図 土壙出土遺物(1)

S K 26



S K 31



S K 35

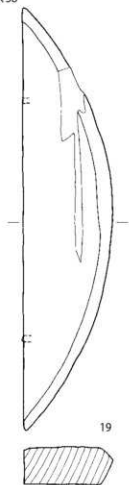


S K 38

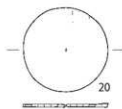


第 90 図 土坑出土遺物 (2)

S K 38



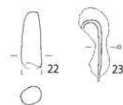
S K 39



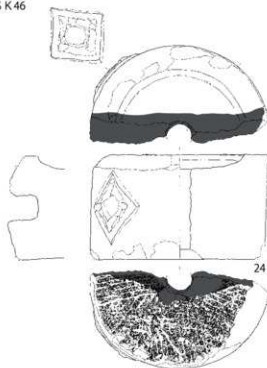
S K 41



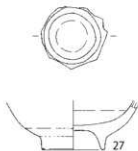
S K 42



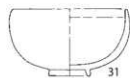
S K 46



S K 47

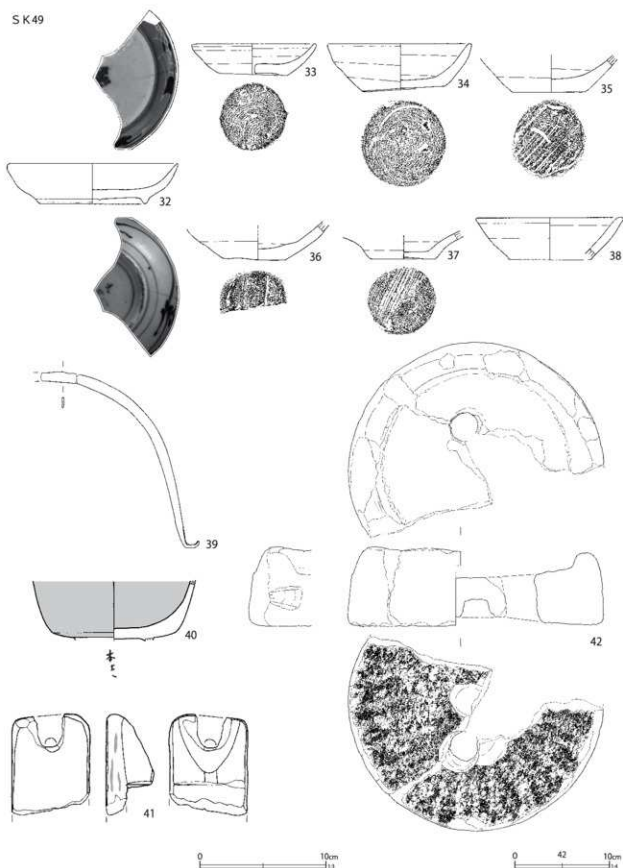


S K 49



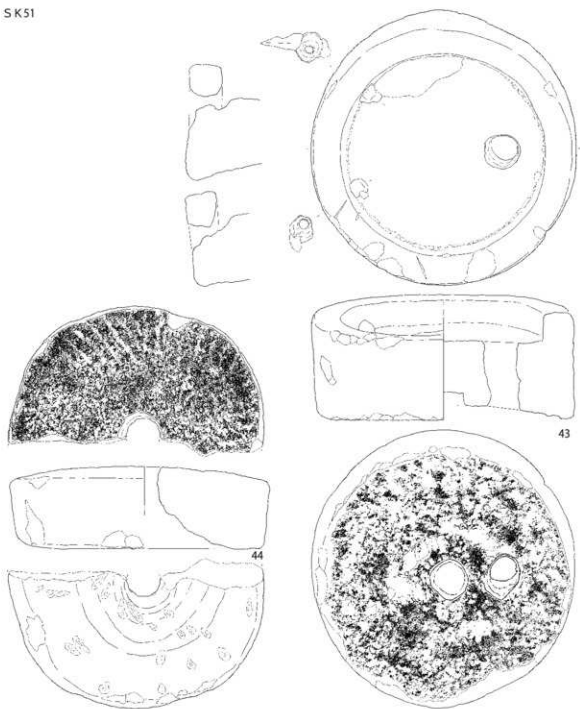
第91図 土壙出土遺物(3)

SK49



第 92 図 土壙出土遺物 (4)

S K51



S K53



第93図 土壙出土遺物（5）

第7表 土壌出土遺物観察表 (第89～93図)

番号	遺物名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	SK1	磁器	蓋	(6.4)	[1.2]	—	I	10	良好	白	肥前系 合子 19C後か	24-14
2	SK1	土師質土器	香炉	(12.2)	[3.2]	—	H I K	10	普通	明黄褐		30-1
3	SK4	かわらけ	小皿	(9.9)	2.6	(6.7)	A C I K	30	普通	浅黄褐	底部回転糸切り左回転	
4	SK13	瓦質土器	角火鉢	—	[3.5]	—	H I K	20	普通	褐灰		
5	SK19	陶器	筒形容器	—	[6.3]	—	G I K	5	普通	にがい黄褐	古瀬戸系 外面灰釉	30-1
6	SK21	陶器	鉢	—	[1.2]	—	I K	5	普通	灰白	産地不明 内外面灰釉 内面鉄絵	
7	SK26	陶器	大皿	(24.0)	4.4	(14.2)	I K	15	普通	灰黄	瀬戸美濃系大皿4後 内外面灰釉	24-15
8	SK26	瓦質土器	焙烙	(34.0)	5.7	(31.8)	I K	10	普通	浅黄褐	内外面コナナデ 体部下指圧痕 内耳欠損	
9	SK26	瓦質土器	焙烙	(36.0)	5.6	(32.8)	I K	10	普通	灰白	内外面コナナデ 体部下指圧痕 内耳欠損	
10	SK26	かわらけ	小皿	(9.8)	[2.5]	(6.0)	C I K	10	普通	浅黄褐	底部回転糸切り右回転	
11	SK26	瓦	平瓦	長さ[14.2] 幅[7.6] 厚さ1.9 重さ182.1g			AG	30	普通	褐灰	外面工具ナデ 16C末	30-1
12	SK31	石製品	火打石	長さ3.1 幅3.0 厚さ1.7 重さ14.8g							シマメノウ	
13	SK35	陶器	碗	(9.0)	[3.4]	—	G I K	10	普通	浅黄褐	瀬戸美濃系 せんに碗 外面染付 18C	30-1
14	SK38	磁器	碗	—	[1.8]	3.3	I K	20	普通	灰白	肥前系 外面黒線 染付 見込に昆虫・園絵	
15	SK38	磁器	坏	—	3.6	2.8	I K	60	普通	灰白	肥前系 外面染付	25-1
16	SK38	陶器	碗	—	[1.8]	3.0	I K	40	普通	灰白	京信楽系 小杉碗 内外面灰釉	
17	SK38	陶器	甕	—	[6.1]	(20.0)	I K	15	普通	にがい黄褐	常滑系	
18	SK38	瓦質土器	脚付火鉢	(23.8)	4.2	(20.4)	H I	5	普通	褐灰	内外面煤付着	30-1
19	SK38	木製品	桶蓋	径(46.0)	高さ — 厚さ3.0							36-3
20	SK39	木製品	曲物	径6.7	高さ — 厚さ0.3						底板 刀物痕あり 中心に穿孔	36-3
21	SK41	陶器	碗形鉢	—	[3.3]	—	I K	5	普通	灰白	古瀬戸後期1期 内外面灰釉	30-1
22	SK42	土製品	不明	長さ1.5 幅0.5 厚さ0.4 重さ0.3g			I K	不明	不明	にがい黄褐		30-1
23	SK42	鉄製品	釘	長さ[3.7] 幅0.2 厚さ0.2 重さ4.9g							角釘	38-2
24	SK46	石製品	茶臼	長さ[10.4] 幅[18.7] (上臼) 重さ2900.0g 欠損			推定径(19.0) 高さ11.1				安山岩 一部黒色化 挽き手口あり 菱形に装飾 指目摩滅 指目4分画5溝	34-4
25	SK47	磁器	碗	—	[2.5]	4.2	I K	40	良好	白	肥前系 外面・底部染付	
26	SK47	陶器	碗	—	[2.0]	4.4	I K	30	普通	淡黄	肥前系 呉器手碗 内盤転用か	
27	SK47	陶器	碗	—	[3.9]	(5.0)	I K	35	普通	淡黄	肥前系 呉器手碗	
28	SK49	磁器	碗	9.8	4.8	3.9	I K	70	良好	白	肥前系 外面樹文様染付	
29	SK49	陶器	丸碗	(9.4)	5.4	3.4	I	50	良好	灰黄	京信楽系 内面目跡 外面鉄絵	
30	SK49	陶器	丸碗	9.6	5.4	3.6	I	90	良好	灰黄	京信楽系 外面鉄絵	
31	SK49	陶器	丸碗	[9.0]	5.3	3.2	K	50	良好	灰白	京信楽系	
32	SK49	磁器	皿	(13.1)	3.2	(8.4)	I K	30	良好	白	肥前系 見込に五弁花文	
33	SK49	かわらけ	小皿	(9.6)	2.5	5.4	C H I K	70	普通	浅黄褐	底部回転糸切り左回転 中心に穿孔	25-2
34	SK49	かわらけ	小皿	11.1	3.8	6.4	A I K	90	普通	にがい黄褐	底部回転糸切り左回転後ナデ	25-3
35	SK49	かわらけ	小皿	—	[2.9]	(5.8)	I K	40	普通	浅黄褐	底部回転糸切り回転方向不明板目状圧痕	
36	SK49	かわらけ	小皿	—	3.0	4.9	I K	25	普通	淡黄	底部回転糸切り右回転板目状圧痕	
37	SK49	かわらけ	小皿	—	2.2	5.1	C K	40	普通	にがい黄褐	底部回転糸切り左回転板目状圧痕	
38	SK49	かわらけ	小皿	(11.1)	3.3	(6.4)	C H I	15	普通	にがい黄褐		30-1
39	SK49	鉄製品	吊手	長さ12.3 幅0.8 厚さ0.2 重さ16.9g								38-2
40	SK49	木製品	漆碗	口径 — 器高[4.7] 底径(9.2)							内外面赤色系漆 底部黒色系漆「木口」	35-6
41	SK49	木製品	差歯下駄	長さ[8.0] 高さ[3.7] 幅6.2							陰印 側面黒色系漆	35-7
42	SK49	石製品	粉挽臼	長さ[20.3] 幅26.9 推定径(27.0) 高さ8.4 重さ3400.0g 欠損							SD29 E-12 安山岩 側面に挽き手口あり 指目4分画5溝か 摩滅	34-5
43	SK51	石製品	粉挽臼	長さ29.6 幅28.7 推定径(30.0) 高さ13.1 重さ8900.0g 欠損(ほぼ完形)							%1 安山岩 挽き手口2箇所 指目摩滅が激しい	34-6
44	SK51	石製品	粉挽臼	長さ[15.8] 幅26.9 推定径(34.0) 高さ8.8 重さ3800.0g 欠損1/2							%3 安山岩 黒色化 裏面に工具痕あり 指目4分画7溝 摩滅	34-7
45	SK53	瓦質土器	内耳鍋	—	[5.1]	—	I K	5	普通	にがい黄褐	外面摩滅が激しい	30-1

5. 道路跡

第1号道路跡 (第94・96・97図)

道路跡は、H～J-2、I・J-3グリッドに位置し、調査区の西側から1条検出されている。南東方向から北西方向にかけて直線状に硬化面が延び、I-2グリッド付近で十字路状に硬化面が広がる。西側は調査区外に至る。東側は第2号溝跡と第3号溝跡の間に延びるが、途中で硬化面が確認できなくなった。

南北両端が調査区外に至るため、規模は不明である。検出長23.70m、幅2.40～3.00m、深さ1.40mが確認された。現況の道路に至るまで機能が継続していた。第1号道路跡と重複して、第7号溝跡が検出されている。これが埋没した後に構築され、計4時期の道路面が確認された。

最上面の第Ⅰ面は、現地表面から約0.50m下で検出された第3層の砂利層上面である。現況の道路が敷設される以前に使用されていた緑石や陶磁器類が確認され、主に19世紀から20世紀前半に機能していた道路面に位置付けられる。

第Ⅱ面は第Ⅰ面から約0.40m下で硬化面が検出された面であり、第7層上面に位置付けられる。第9層上面は、第Ⅱ面道路の側溝として機能していた可能性がある。時期はAs-A軽石を含む層よりも上層であることから、18世紀後半以降に機能していた道路面となる。

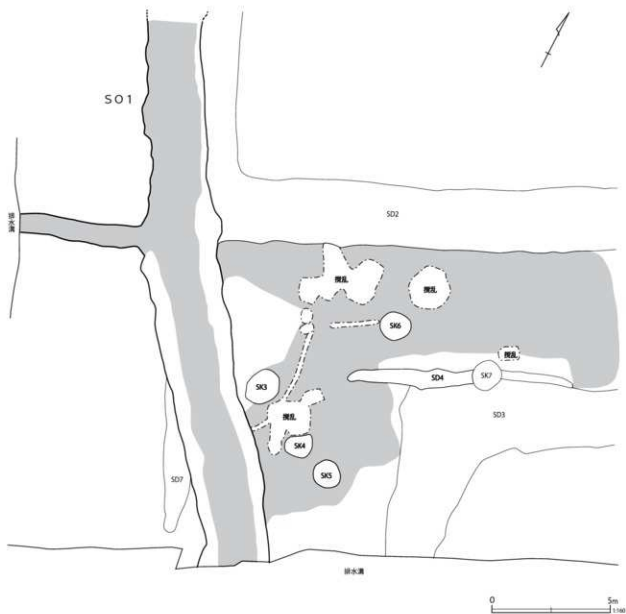
第Ⅲ面は第Ⅱ面から約0.80m下で、硬化面が検出された面であり、第24層上面に位置付けられる。直上の第23層は粒径の粗い白色砂で、As-A軽石粒を含む。時期は天明3年(1783)の直前で、18世紀後半頃まで機能していた道路面となる。第Ⅱ面と第Ⅲ面の間は約0.80mの厚さがあり、As-A軽石粒を含む砂層が厚く堆積している。第16層から第22層にかけての砂層は、第Ⅲ面道路と第2号溝跡の両方を覆うように堆積していることから、同時に埋没したといえる。第Ⅱ面道路が敷設された際には、第2号溝跡は埋没したままであった。

第Ⅳ面は第26層上面に位置付けられ、最初の敷設段階になる。第Ⅲ面から0.10m下で硬化面が検出されている。第27・28層は第1号道路跡の掘方埋土で、下層に位置する第7号溝跡の覆土を掘り込んで構築されている。第7号溝跡は16世紀後半頃に位置付けられることから、第1号道路跡の敷設はそれ以降の時期となる。

重複する第3～7号土壌は、第Ⅱ面道路の硬化面を掘り込んで掘削されたとみられる。いずれも第1号道路跡の中央からやや東にそれた地点、第2号溝跡と第3号溝跡の間に広がる硬化面を掘り込んでおり、砂が堆積している。このことから、道路が砂に覆われた後に砂を除去するため、応急的に掘削された土壌であった可能性が想定される。第2号溝跡、第3号溝跡は砂で埋没した後は復旧されず「廃絶した」とみられることから、土壌が掘削された段階では、この範囲は道路としての機能が低下していた可能性も想定される。

道路幅は、硬化面の範囲から第Ⅳ面から第Ⅱ面道路にかけては約1.80mの幅で各時期を通じて大きな変化はなかったが、最も新しい第Ⅰ面道路は2.80m以上となり大きく拡張されている。

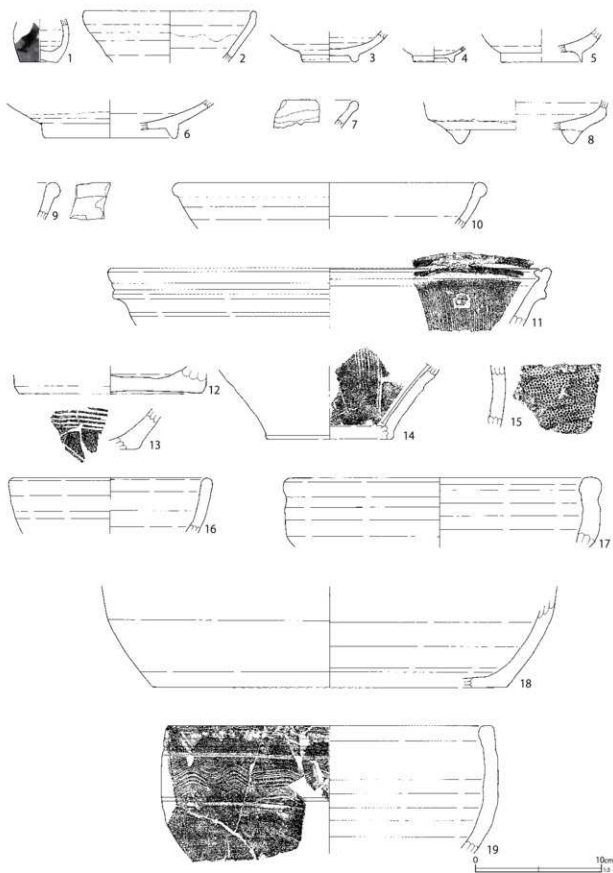
第96図1は肥前系磁器の御神酒徳利である。外面に染付を施す。2は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗である。内外面に鉄釉を施す。3は瀬戸美濃系陶器の丸碗である。内外面に灰釉を施す。4は京信楽系陶器の坏底部である。5は肥前系陶器の碗である。内外面に陶胎染付を施す。6は瀬戸美濃系陶器の輪壳皿である。7は瀬戸美濃系陶器の志野織部皿である。8は瀬戸美濃系陶器の香炉である。外面に鉄釉、内面に灰釉を施す。9と10は肥前系陶器の片口鉢である。11は堺明石系陶器の播鉢である。内面に播目がみられる。12は瀬戸美濃系陶器の徳利底部である。13と14は瓦質土器の播鉢である。いずれも内面に播目が残るが、14は砥具に転用され摩滅している。15は瓦質土器の涼炉、16



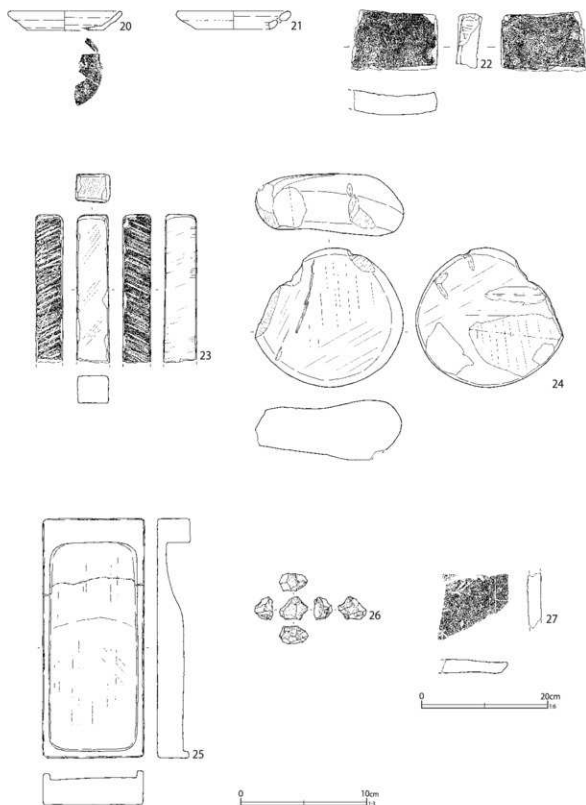
第95図 第1号道路路硬化面範囲

と17は瓦質土器の火鉢である。18は瓦質土器の火消壺である。19は土師質土器の火鉢である。第97図20と21は小型のかわけである。胎土がやや異なるため別個体である。20は底部に回転糸切り痕が残るが、回転方向は不明である。21は口縁部から体部にかけての破片であるが、体部に0.20cmの穿孔がみられる。22は平瓦である。23と24は砥

石である。23は長方形の形状で平タガネ痕がみられる。24は軽石を転用したもので、擦痕とともに刃物痕がみられる。25は凝灰岩製の硯である。26は玉髄製の火打石である。27は板碑の破片である。一部、銘文が残存している。遺物の多くが第Ⅲ面の上層から出土しており、洪水砂とともに流れ込んで堆積していたものと思われる。



第96图 第1号道路跡出土遺物(1)



第97图 第1号道路跡出土遺物(2)

第8表 第1号道路跡出土遺物観察表 (第96・97図)

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	施成	色調	備考	図版
1	SO1	磁器	御神酒徳利	—	[3.4]	(3.0)	G I	20	普通	灰白	1-2 Ⅲ面 肥前系	25-4
2	SO1	陶器	天目茶碗	(13.4)	[4.1]	—	I K	10	良好	浅黄橙	上層 瀬戸美濃系 鉄軸	30-2
3	SO1	陶器	丸碗	—	[2.4]	(4.0)	I K	30	良好	浅黄橙	上層 瀬戸美濃系 灰軸	
4	SO1	陶器	環	—	[1.2]	(2.9)	I K	15	良好	浅黄橙	上層 京信系	
5	SO1	陶器	碗	—	[2.7]	(6.4)	I K	10	普通	灰白	1-2 Ⅲ面 肥前系 陶胎染付	30-2
6	SO1	陶器	皿	—	[3.0]	(10.4)	I K	10	良好	灰白	1-2 Ⅲ面 瀬戸美濃系 輪壳	
7	SO1	陶器	皿	—	[2.2]	—	I K	5	普通	にぶい黄橙	1-2 Ⅲ面 瀬戸美濃系 志野織部	30-2
8	SO1	陶器	香炉	—	[2.4]	(8.8)	I K	10	普通	浅黄橙	1-2 Ⅲ面 瀬戸美濃系 内面灰軸 外面鉄軸	30-2
9	SO1	陶器	片口鉢	—	[2.9]	—	I K	5	普通	にぶい黄橙	1-2 Ⅲ面 肥前系 摺目	30-2
10	SO1	陶器	片口鉢	(24.8)	[3.6]	—	I K	10	良好	にぶい黄橙	1-2 Ⅲ面 肥前系 摺目23溝	30-2
11	SO1	陶器	摺鉢	(34.6)	[4.6]	—	I K	10	良好	橙	1-2 Ⅲ面 堺明石系	30-2
12	SO1	陶器	徳利	—	[2.1]	(14.4)	G I	10	普通	浅黄橙	1-2 Ⅲ面 瀬戸美濃系	
13	SO1	瓦質土器	摺鉢	—	[3.2]	—	I K	5	普通	浅黄橙	1-2 Ⅲ面 摺目2分画5溝	30-2
14	SO1	瓦質土器	摺鉢	—	[5.8]	(10.0)	A C I K	10	普通	浅黄橙	上層 砥具転用 摺目7溝 摩滅	30-2
15	SO1	瓦質土器	涼鉢	—	[4.9]	—	H I K	5	普通	浅黄橙	上層	30-2
16	SO1	瓦質土器	火鉢	(15.2)	[4.4]	—	G K	10	普通	褐灰	1-2 Ⅲ面	30-2
17	SO1	瓦質土器	丸火鉢	25.0	[5.5]	—	G I K	10	普通	褐灰	1-2 Ⅲ面	30-2
18	SO1	瓦質土器	火消壺	—	[8.0]	(28.0)	I K	10	普通	褐灰	1-2 Ⅲ面	25-5
19	SO1	土師質土器	火鉢	(24.6)	[10.0]	—	I K	10	普通	褐灰	No.2 1-2 Ⅲ面	30-2
20	SO1	かわらけ	小皿	(8.6)	[1.5]	(6.0)	I K	30	普通	橙	1-2 Ⅲ面 回転糸切り痕	
21	SO1	かわらけ	小皿	(9.0)	1.3	(6.0)	C I	5	普通	にぶい黄橙	1-2 Ⅲ面	30-2
22	SO1	瓦	平瓦	長さ[4.8] 幅[6.3] 厚さ1.5 重さ75.0g			A C G I K	10	普通	褐灰	1-2 Ⅲ面	30-2
23	SO1	石製品	砥石	長さ[11.7] 幅2.7 厚さ2.2 重さ131.6g 欠損							SD 2 北壁面トレンチ 凝灰岩 長方形 2面平タガナ板 掘方 軽石 刀物底 擦痕	34-8
24	SO1	石製品	砥石	長さ10.9 幅11.6 厚さ4.9 重さ228.7g								
25	SO1	石製品	硯	長さ18.9 幅8.0 厚さ2.7 重さ527.6g 完形								34-9
26	SO1	石製品	火打石	長さ1.8 幅2.2 厚さ1.4 重さ5.6g							玉割	
27	SO1	石製品	板碑	長さ[8.7] 幅[10.6] 厚さ2.1 重さ352.1g							上層 緑泥片岩 応永カ/	

6. 災害復旧痕

災害復旧痕は、計4群51条検出された。調査区の中央付近のF～H-7～9グリッドに集中して認められる。大きく4群に分けられる。各遺構の規模は第10表にまとめた。いずれの覆土にも砂が多く堆積している。耕作土を復旧するために洪水によって堆積した砂を除去するために天地返しを行った際の痕跡とみられる。

災害復旧痕群1 (第99・102図)

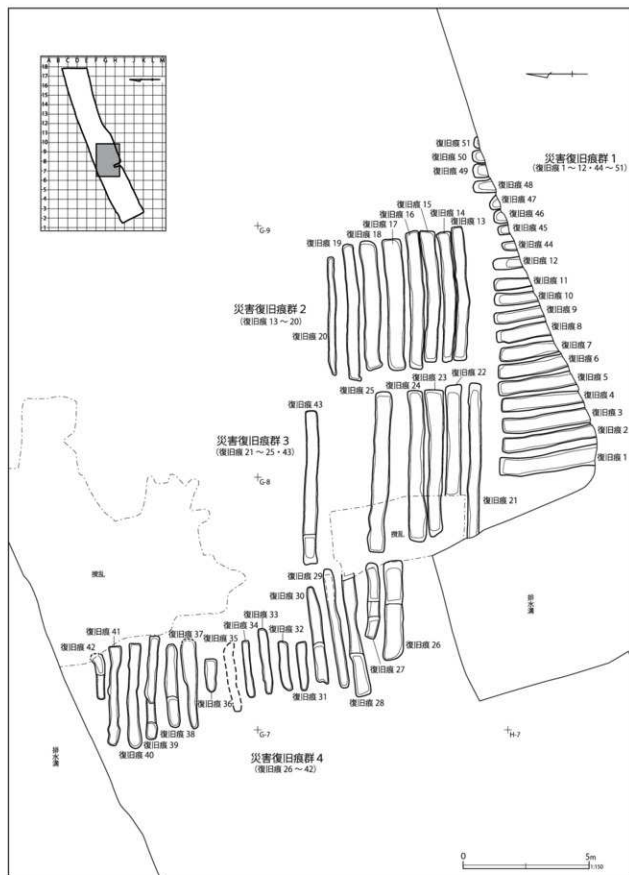
災害復旧痕1～12・44～51の計20条で構成される群である。南北方向に延び、全て調査区外に至る。遺物は災害復旧痕49から第102図1の角釘が1点、災害復旧痕1から2の粘土板製硯が1点出土している。

災害復旧痕群2 (第100・102図)

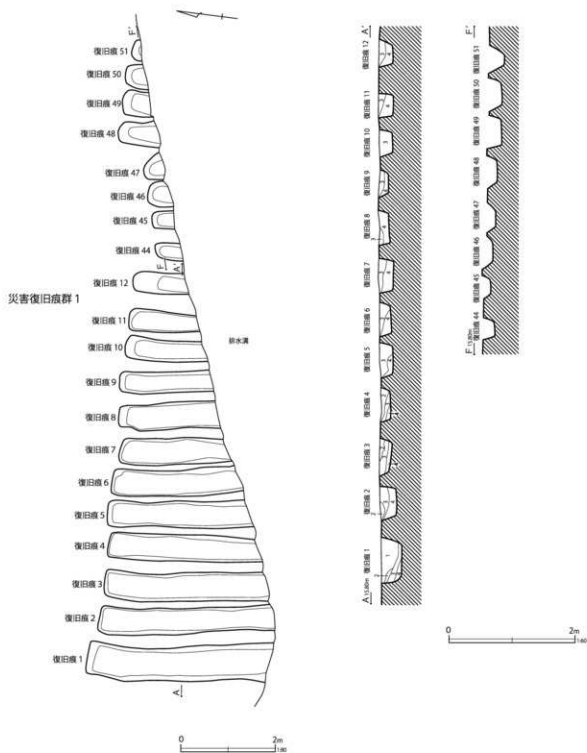
災害復旧痕13～20の計8条で構成され、東西南方向に延びる。遺物は災害復旧痕13から第102図3の肥前系磁器環、災害復旧痕18から4の肥前系磁器の香炉と5の板碑片が出土している。

災害復旧痕群3 (第100・102図)

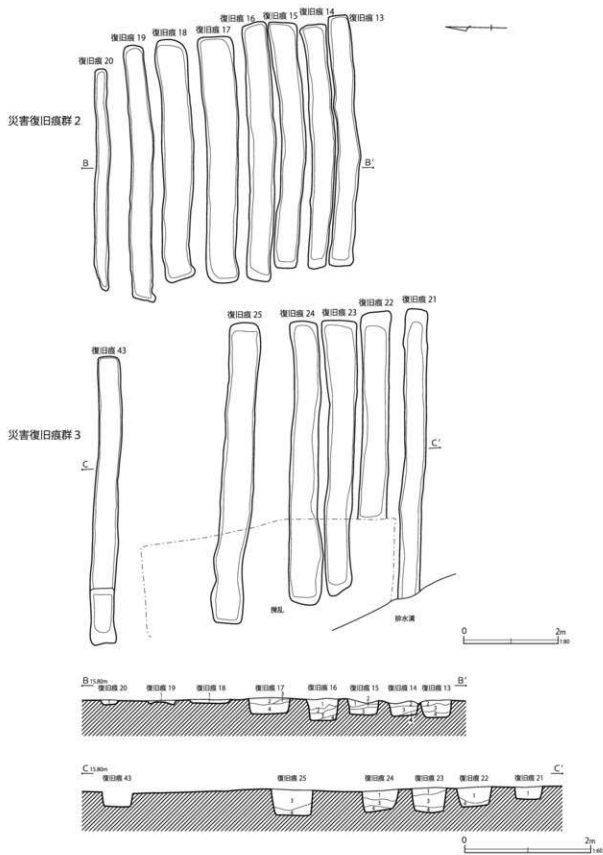
災害復旧痕21～25・43の計6条で構成され、東西南方向に延びる。災害復旧痕群2と約0.60mの間隔があいている。遺物は災害復旧痕21から第102図6の瀬戸美濃系陶器の鍔手碗、災害復旧痕25から7と8のかかわりけ2点、災害復旧痕23から9の丸瓦と10のチャート製火打石が出土している。



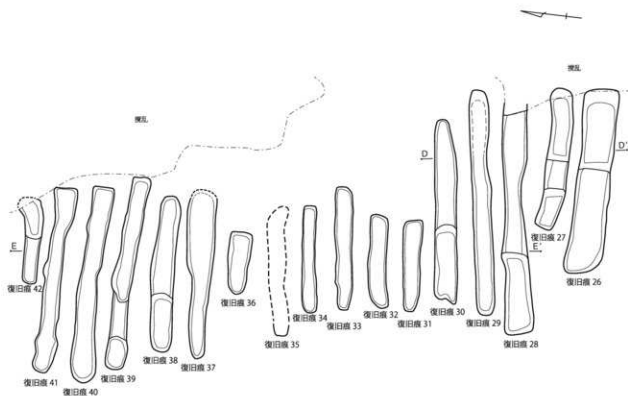
第 98 図 災害復旧痕全体図



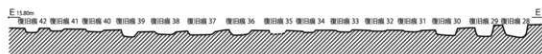
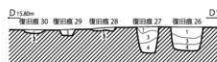
第 99 図 災害復旧痕群 1



第 100 図 災害復旧痕群 2・3



災害復旧痕群 4



復旧痕 1 ~ 30

- | | | | |
|---------|--------|------|---------|
| 1 黒褐色砂 | 砂鉄多く含む | 粗い | しまりなし |
| 2 褐色シルト | 砂含む | 粘性あり | しまりややあり |
| 3 褐色砂 | 白色軽石含む | 粗い | しまりなし |
| 4 黒色砂 | 砂鉄多く含む | 微細 | しまりなし |

第 101 図 災害復旧痕群 4

災害復旧痕群 1

復旧痕 49



復旧痕 1



災害復旧痕群 2

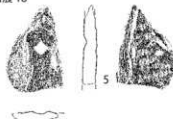
復旧痕 13



復旧痕 18



復旧痕 18

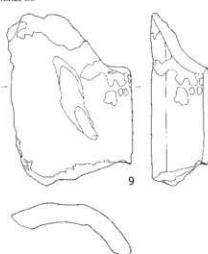


災害復旧痕群 3

復旧痕 21



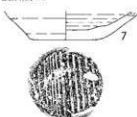
復旧痕 23



復旧痕 23



復旧痕 25



復旧痕 25



第 102 図 災害復旧痕群 1～3 出土遺物

第 9 表 災害復旧痕出土遺物観察表 (第 102 図)

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	復旧痕 49	鉄製品	釘	長さ [4.8]	幅 0.4	厚さ 0.4	重さ 5.1g			角釘		38-2
2	復旧痕 1	石製品	硯	長さ [2.6]	幅 4.5	厚さ 1.8	重さ 29.1g	欠損		H-8 粘板岩 砥石として転用か		
3	復旧痕 13	磁器	坏	(6.8)	3.1	(2.8)	I K	25	良好	灰白 G-8 肥前系		30-3
4	復旧痕 18	磁器	香炉	(11.4)	[4.9]	—	K	10	良好	灰白 G-8 肥前系 砥石転用		30-3
5	復旧痕 18	石製品	板碑	長さ [12.6]	幅 [9.0]	厚さ 2.1	重さ 300.0g			G-8 緑泥片岩 キリーク(異)/ 裏ノミ痕		
6	復旧痕 21	陶器	碗	(7.8)	[3.7]	—	I	10	普通	浅黄橙 G-7・8 瀬戸美濃系 総手碗		30-3
7	復旧痕 25	かわらけ	灯明皿	—	2.3	5.6	C I K	50	普通	灰白 G-7・8		
8	復旧痕 25	かわらけ	小皿	(6.4)	2.2	(3.8)	G I K	80	普通	浅黄橙 G-7・8		
9	復旧痕 23	瓦	丸瓦	長さ [13.3]	幅 [9.9]	厚さ [1.6]	G H I K	25	普通	褐灰 G-7・8		30-3
10	復旧痕 23	石製品	火打石	長さ 2.9	幅 2.1	厚さ 1.6	重さ 11.1g			G-7・8 チャート		

災害復旧痕群 4 (第101図)

災害復旧痕26～42の計17条で構成され、東西方

向に延びる。災害復旧痕群3と約0.20mの間隔が空いている。遺物は出土していない。

第10表 災害復旧痕一覧表 (第99～101図)

遺構名	番号	グリッド	長さ/m	幅/m	深さ/m	遺構名	番号	グリッド	長さ/m	幅/m	深さ/m
災害復旧 痕群 1	1	G・H-8	[3.85]	0.75	0.37	災害復旧 痕群 2	19	G-8	5.35	0.49	0.06
	2	G・H-8	[3.70]	0.56	0.26		20	G-8	4.69	0.30	0.08
	3	G・H-8	[3.45]	0.63	0.20		21	G-7・8	6.06	0.50	0.18
	4	G・H-8	[3.17]	0.59	0.15	災害復旧 痕群 3	22	G-7・8	[4.38]	0.60	0.31
	5	G・H-8	[3.02]	0.57	0.21		23	G-7・8	5.81	0.72	0.40
	6	G・H-8	[2.74]	0.60	0.19		24	G-7・8	5.96	0.74	0.34
	7	G・H-8	[2.27]	0.59	0.24	災害復旧 痕群 4	25	G-7・8	6.35	0.70	0.41
	8	G・H-8	[2.09]	0.58	0.17		43	G-7・8	6.06	0.54	0.23
	9	G・H-8	[1.95]	0.45	0.14		26	G-7	3.94	0.77	0.50
	10	G・H-8	[1.66]	0.50	0.20		27	G-7	3.00	0.46	0.55
	11	G・H-8	[1.45]	0.47	0.23		28	G-7	[5.00]	0.60	0.25
	12	G・H-8	[1.15]	0.45	0.21		29	G-7	4.76	0.42	0.18
	44	G・H-8	[0.57]	0.36	0.17		30	G-7	3.85	0.50	0.14
	45	G-8・9	[0.48]	0.38	0.14		31	G-7	1.92	0.40	0.03
	46	G-9	0.55	[0.50]	0.16		32	G-7	1.94	0.37	0.02
	47	G-9	0.57	[0.45]	0.15		33	G-7	2.60	0.38	0.02
	48	G-9	[0.87]	0.55	0.17		34	F-7	2.25	0.32	0.03
	49	G-9	[0.59]	0.54	0.23		35	F-7	(2.73)	(0.37)	0.07
	50	G-9	0.50	[0.45]	0.20		36	F-7	1.32	0.47	0.12
	51	G-9	0.44	[0.23]	0.23		37	F-7	[3.55]	0.62	0.07
災害復旧 痕群 2	13	G-8	5.30	0.50	0.27		38	F-7	3.29	0.51	0.05
	14	G-8	5.14	0.52	0.23		39	F-6・7	4.09	0.45	0.12
	15	G-8	5.19	0.54	0.22		40	F-6・7	4.15	0.53	0.03
	16	G-8	5.46	0.54	0.34		41	F-6・7	3.92	0.49	0.05
	17	G-8	5.22	0.73	0.25		42	F-7	[1.83]	0.49	0.07
	18	G-8	5.11	0.68	0.05						

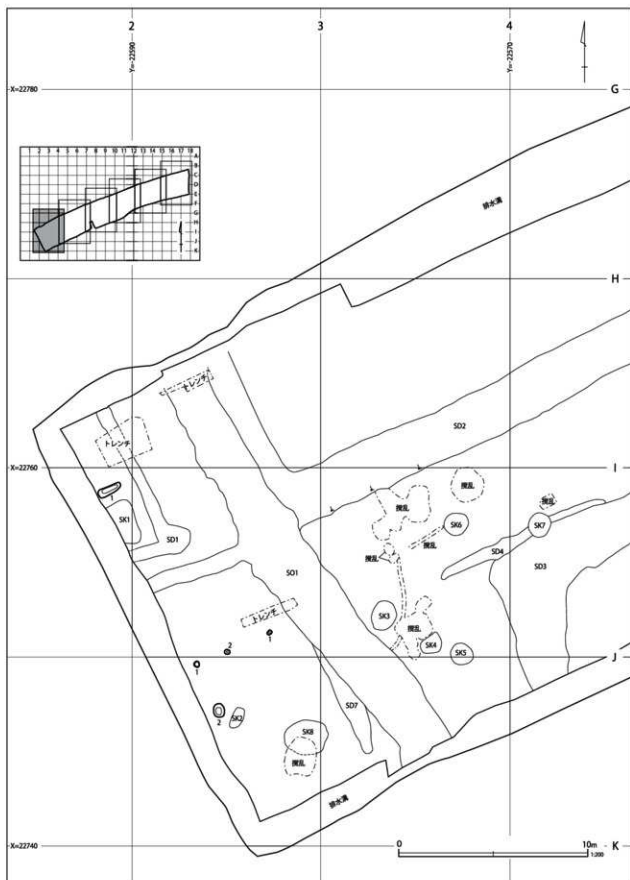
7. 柱穴・ピット

柱穴・ピットは、計695基検出された。柱穴・ピットの規模と土層注記は第11表に示し、土層注記の類型は第12表に示した。これらの柱穴・ピットは不規則に位置しており、第1号掘立柱建物跡を除いて掘立柱建物跡や木柵などの建築物として組み合わせを把握するには至らなかったが、掘立柱建物跡の柱穴であった可能性が高い。

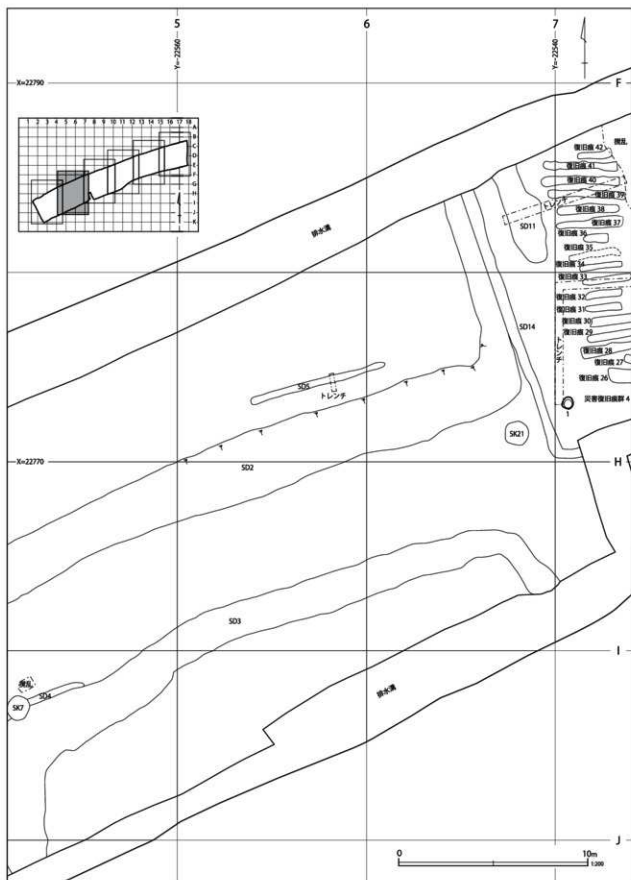
柱穴・ピットは、数量の疎密はあるが調査区域に広く分布している。特にE-9・10、F-9グリッドに集中して検出されている。E-9・10、F-9グリッド周辺は、第10号溝跡や第17号溝跡、あるいは第13号溝跡の区画内に密集している。その一方で、柱穴・ピットが希薄な範囲もみられる。特に顕著なのは、第2号溝跡及び第3号溝跡が区画する範囲である。これらの範囲からは柱穴・ピットが全く検出されていない。この状況は、区

画内に建てられていた建築物が掘立柱建物であったか土台建物であったかの違いに起因する可能性が考えられる。

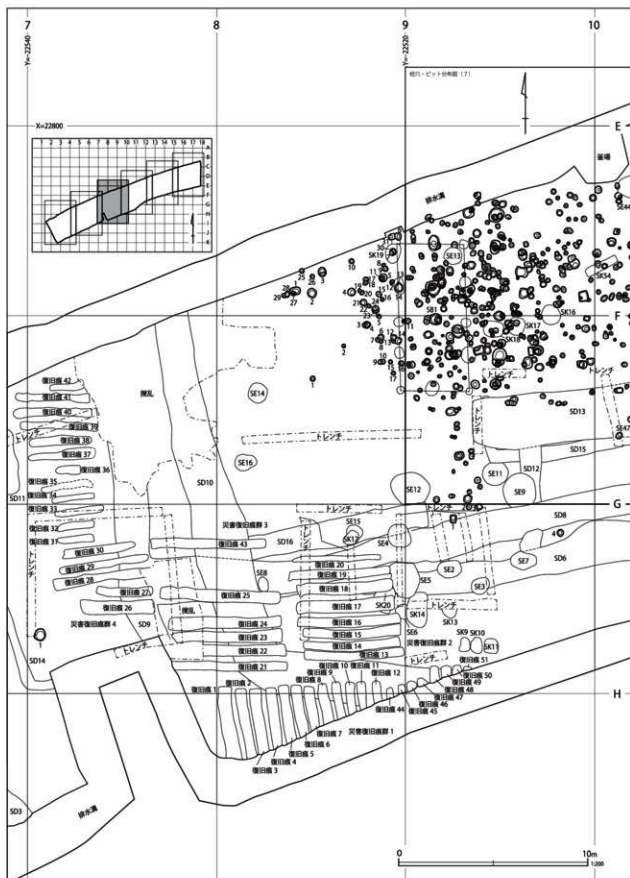
第110図1はB-17P1出土の銅製飾り金具である。2はC-13P4出土の銭貨で、銭種は「治平元寶」の真書である。3はC-17P1出土の銅製品である。L字状に屈曲し、U字状の断面形を有して穿孔がみられるが、器種は不明である。4はE-9P1出土の鉄滓である。5はE-9P161出土の粘土岩製の硯である。草花の文様が刻まれている。6はE-9P12出土のチャート製火打石である。7はE-10P78出土の古瀬戸系の大皿である。内外面に灰釉が施されている。時期は15世紀代以降の時期に位置付けられる。8はF-9P15出土の板碑である。銘文は観察表に記した。9はF-9P51出土の銭貨である。状態が悪く銭種



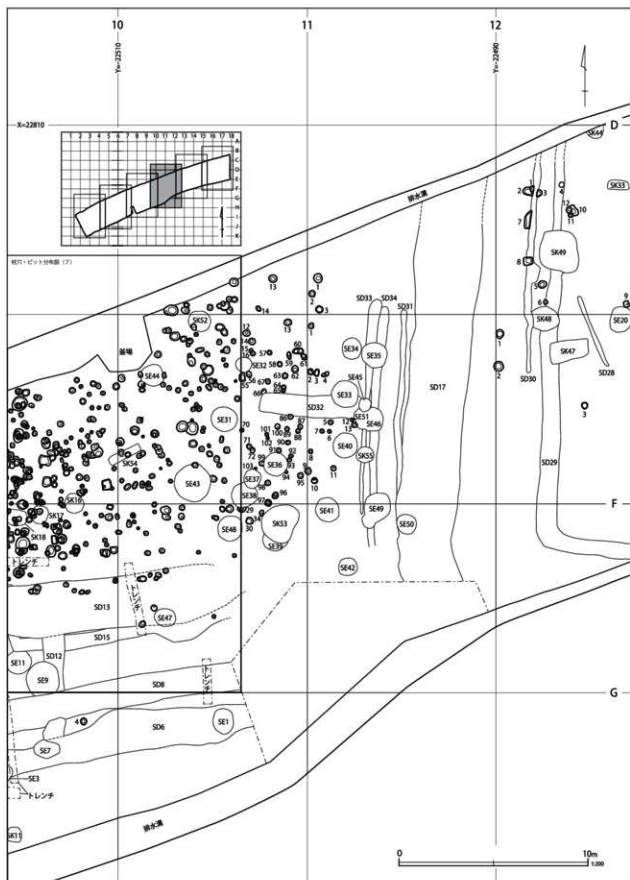
第103図 柱穴・ピット分布図(1)



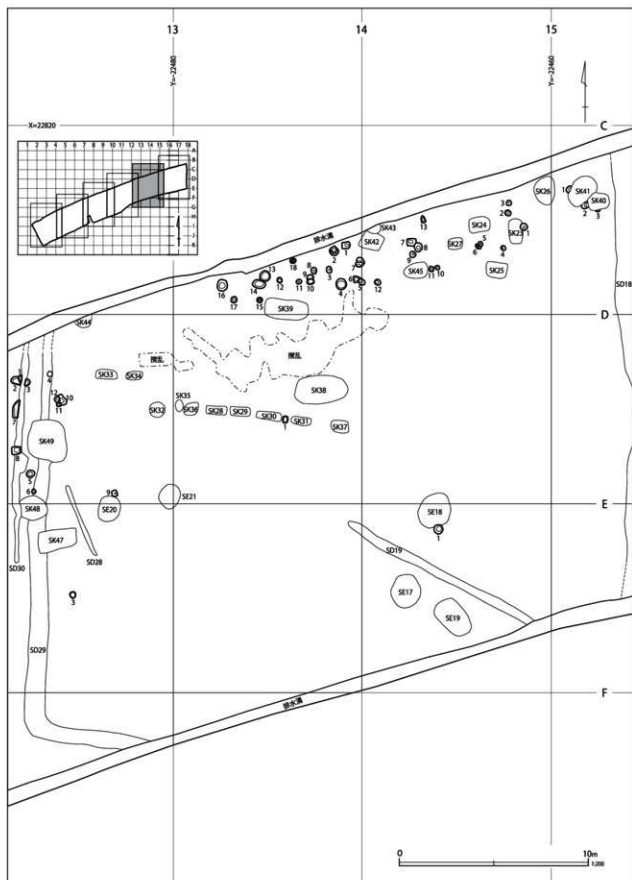
第 104 図 柱穴・ビット分布図 (2)



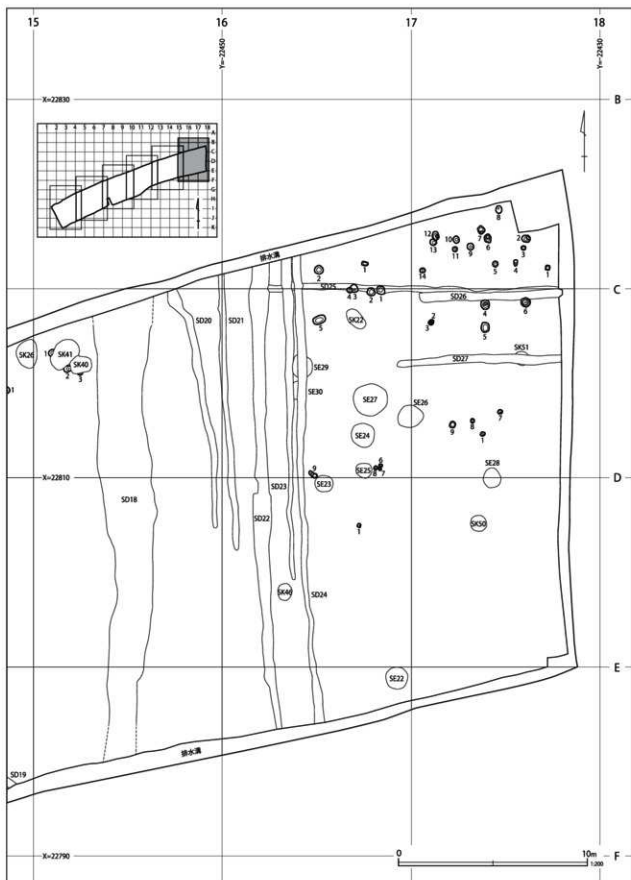
第105図 柱穴・ピット分布図 (3)



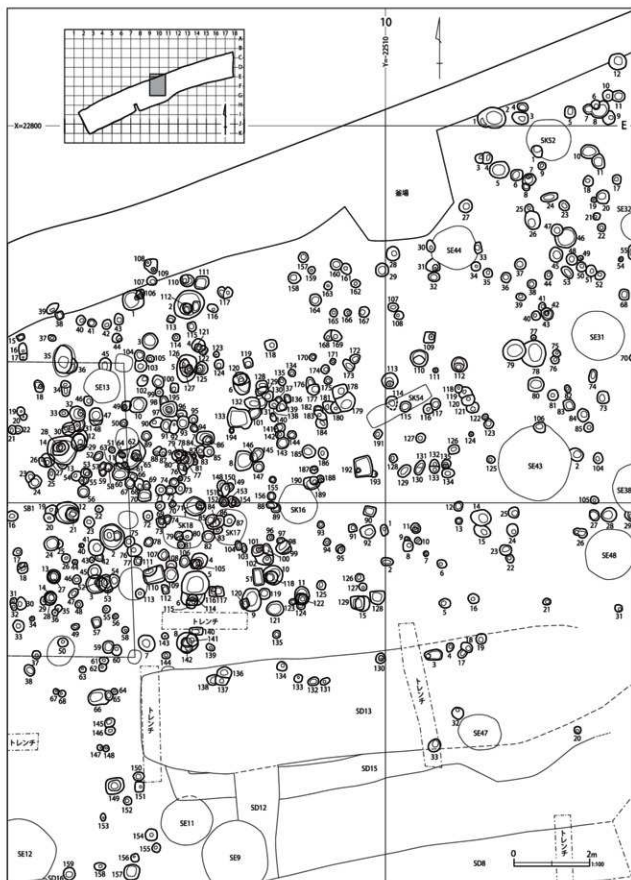
第106図 柱穴・ピット分布図(4)



第 107 図 柱穴・ピット分布図 (5)



第108図 柱穴・ピット分布図(6)



第109図 柱穴・ピット分布図(7)

第11表 柱穴・ビット一覧表

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
B-16	P 1	35	20	22.5	C 2
	P 2	45	45	13.3	C 1 C 2 C 3
	P 1	25	23	24.0	D 2
	P 2	45	35	18.0	B 2 B 3
	P 3	25	22	8.0	D
B-17	P 4	32	20	23.6	C 1 C 2 C 3
	P 5	30	30	14.4	C 2
	P 6	45	34	23.8	C 3
	P 7	43	36	8.0	C 1 C 2 C 3
	P 8	40	30	23.4	D 3
	P 9	35	35	14.8	D 1 D 2
	P 10	40	32	14.6	C 1
	P 11	25	25	12.5	D 2
	P 12	47	34	26.5	D 2
	P 13	35	[30]	26.6	D 2
	P 14	30	25	15.0	D 3
	P 1	44	36	45.0	C 1 C 2 C 3
	P 2	50	50	37.0	C 1 C 2 C 3 柱底
	P 3	35	27	27.0	C 1 C 2
C-13	P 4	58	55	37.0	C 1 C 2
	P 5	[35]	30	34.0	C 1 C 2 C 3
	P 6	35	30	27.0	C 1
	P 7	50	45	54.0	C 2
	P 8	35	30	34.7	D 1
	P 9	36	[22]	33.6	C 1 C 2
	P 10	38	30	35.6	C 1 C 2
	P 11	30	23	28.6	C 1 C 2
	P 12	30	25	17.0	C 1 C 2
	P 13	55	55	12.5	D 2
	P 14	66	43	86.4	C 2
	P 15	28	28	25.0	C 2
	P 16	62	44	27.4	C 1 C 2
	P 17	33	32	20.0	C 1 C 2
	P 18	31	30	34.0	D 1 D 2 D 3 柱底
	P 1	39	36	61.0	B 3 C 3 D 2
	P 2	33	30	42.5	C 1 C 2
C-14	P 3	27	27	37.0	C 2
	P 4	36	34	54.5	B 1 B 2
	P 5	26	24	18.0	C 2
	P 6	31	[18]	25.5	C 2
	P 7	47	38	39.0	C 1 C 2
	P 8	47	40	33.2	C 1
	P 9	32	32	28.0	C 1 C 2
	P 10	25	19	24.8	C 2
	P 11	27	24	24.0	C 1 C 2
	P 12	32	30	37.0	C 1
	P 13	37	23	13.0	C 3
	P 1	[37]	[25]	24.6	D 3
C-15	P 2	40	30	27.5	C 2
	P 3	26	22	34.8	D 1
C-16	P 1	50	40	34.8	D 3

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
C-16	P 2	45	40	26.0	C 2
	P 3	43	[40]	47.6	D 1
	P 4	30	26	32.5	D 1
	P 5	56	42	19.5	C 1
	P 6	20	17	4.8	C 1
	P 7	16	16	10.0	C 1 C 2
	P 8	20	17	8.5	C 1 C 2
	P 9	47	24	23.0	C 1 C 2
	P 1	24	22	23.5	C 1 C 2
C-17	P 2	24	21	26.5	C 1 C 2 C 3
	P 3	25	[10]	17.0	C 1
	P 4	50	45	31.0	C 2
	P 5	50	40	25.5	C 3
	P 6	50	47	34.5	C 1 C 2
	P 7	23	23	10.2	D 3
	P 8	22	20	10.3	C 1 C 2
	P 9	36	30	7.0	D 2
	P 1	43	[15]	18.7	C 1 C 2
D-10	P 2	60	55	27.8	C 1 C 2
	P 3	43	32	27.5	C 1 C 2
	P 4	37	21	14.6	D 1 D 2
	P 5	32	29	19.5	C 1 C 2
	P 6	24	22	18.6	C 1 C 2
	P 7	26	[22]	13.8	C 1 C 2
	P 8	50	38	10.0	C 1 C 2 C 3
	P 9	34	[26]	18.3	C 1 C 2
	P 10	30	26	18.0	C 1 C 3
	P 11	33	30	16.7	B 1
	P 12	45	40	26.6	C 1 C 2
	P 13	42	39	23.8	C 1 C 2
	P 14	30	20	21.0	C 1 C 2
	P 1	47	44	24.8	B 1 B 2 B 3
D-11	P 2	34	32	23.0	B 1 B 2 B 3
	P 3	37	35	18.3	C 1
	P 1	45	22	—	E
D-12	P 2	52	40	12.5	E
	P 3	38	26	22.3	E
	P 4	27	26	—	D 2
	P 5	44	39	22.6	C 2
	P 6	[26]	[23]	27.5	C 2
	P 7	90	30	5.5	D 3
	P 8	53	40	44.3	D 2
	P 9	33	28	64.7	D 3
	P 10	58	[36]	39.8	D 3
	P 11	26	22	37.2	D 3
	P 12	34	[27]	21.4	D 3
D-13	P 1	36	29	22.0	A
D-16	P 1	20	16	12.5	C 1 C 2
E-8	P 1	58	40	17.6	C 3
	P 2	50	45	20.7	C 1 C 2 C 3
	P 3	47	41	35.5	C 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-8	P 4	43	40	37.4	C 1 C 2 C 3
	P 5	43	40	47.4	D 1 D 2
	P 6	35	30	34.8	B 2 B 3 D 3
	P 7	28	20	12.6	B 1 B 2
	P 8	20	[15]	6.6	C 2
	P 9	30	26	18.9	D 1 D 2
	P 10	25	25	6.2	D 2
	P 11	23	23	4.4	B 3
	P 12	26	19	16.5	D 2
	P 13	15	[5]	4.4	D 3
	P 14	45	43	10.4	B 2
	P 15	33	27	16.3	D 2
	P 16	20	20	7.3	D 2
	P 17	25	[19]	6.1	D 3
	P 18	26	20	8.7	C 1
	P 19	20	20	9.3	D 3
	P 20	25	[15]	10.6	D 1 D 2
	P 21	35	33	12.2	D 1 D 2
	P 22	23	20	8.3	C 3
	P 23	36	[12]	9.3	D 1 D 2
	P 24	36	[27]	19.0	D 1 D 2
	P 25	25	23	6.4	D 2
	P 26	25	22	14.5	C 1 C 2
	P 27	25	24	8.8	D 1 D 2
	P 28	34	27	9.7	C 2
	P 29	25	20	6.6	D 2
	P 30	35	[21]	9.1	B 3
	P 31	35	33	40.6	B 2 B 3 D 3
E-9	P 1	57	50	56.9	D 2
	P 2	85	71	67.3	D 1 D 2 D 3
	P 3	43	40	34.1	D 1 D 2 D 3
	P 4	35	34	53.6	D 2
	P 5	73	53	57.4	D 2 D 3
	P 6	55	45	62.9	C 1 C 2 C 3
	P 7	48	35	35.2	D 2
	P 8	56	50	32.7	C 2 C 3
	P 9	38	30	36.9	B 2 B 3
	P 10	50	40	31.5	D 2 D 3
	P 11	85	[58]	58.3	B 3 D 3
	P 12	48	[37]	59.4	C 1 C 2 C 3
	P 13	26	[12]	32.2	C 1 C 2 C 3
	P 14	80	[75]	61.6	B 2 B 3 D 3
	P 15	20	15	3.8	D 3
	P 16	[29]	21	13.6	D 2
	P 17	19	[16]	15.4	D 2
	P 18	33	23	13.0	C 1 C 2
	P 19	21	21	18.6	D 2
	P 20	18	15	9.5	D 2
	P 21	23	[20]	1.3	D 3
	P 22	[20]	21	7.1	D 2
	P 23	25	23	8.7	D 2
	P 24	36	[23]	11.2	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-8	P 25	27	19	14.2	D 2
	P 26	26	16	18.9	D 1 D 2
	P 27	35	[25]	22.1	D 1 D 2
	P 28	47	35	37.5	D 2
	P 29	45	41	40.6	D 1 D 2
	P 30	35	33	31.0	D 1 D 2
	P 31	[30]	[29]	19.8	D 1 D 2
	P 32	40	40	20.1	B 2
	P 33	24	18	13.5	D 1
	P 34	43	26	13.9	C 3
	P 35	73	45	27.2	B 2
	P 36	40	[15]	25.3	D 2
	P 37	20	17	5.5	C 3
	P 38	21	21	5.9	D 3
	P 39	37	21	22.3	D 3
	P 40	28	23	7.2	C 2
	P 41	23	21	5.3	D 2
	P 42	29	23	13.8	D 2
	P 43	30	23	26.4	D 2
	P 44	25	25	19.0	D 3
	P 45	32	[30]	8.5	C 3
	P 46	25	25	10.0	C 1 C 2
	P 47	35	35	29.0	D 3
	P 48	34	12	12.1	D 1
	P 49	30	24	21.7	D 2
E-9	P 50	20	19	6.3	D 2
	P 51	17	16	8.9	D 3
	P 52	29	20	1.6	C 2
	P 53	28	25	12.6	D 2
	P 54	33	[23]	8.2	D 3
	P 55	25	21	9.7	D 3
	P 56	31	31	6.4	D 2
	P 57	25	15	12.1	C 2
	P 58	21	[17]	7.5	C 2
	P 59	20	[18]	9.0	C 2
	P 60	45	[27]	17.5	D 1 D 2
	P 61	[15]	[12]	8.7	D 2
	P 62	15	13	8.5	D 2
	P 63	[26]	20	15.3	D 3
	P 64	20	15	7.0	D 3
	P 65	30	22	25.8	D 1 D 2
	P 66	[25]	[17]	16.8	C 2
	P 67	27	26	11.4	B 3
	P 68	[31]	25	10.3	D 3
	P 69	25	19	15.9	D 3
	P 70	35	[32]	25.4	D 3
	P 71	29	27	15.5	D 1 D 2
	P 72	[25]	23	6.9	D 3
	P 73	30	24	38.4	D 3
	P 74	25	22	7.0	C 1 C 2
	P 75	14	12	8.5	D 2
	P 76	35	23	20.6	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-9	P 77	36	35	15.6	D 2
	P 78	[11]	10	9.4	C 3
	P 79	22	18	13.5	D 3
	P 80	14	[12]	9.3	B 3
	P 81	16	[12]	15.8	D 2
	P 82	16	[10]	6.1	D 2
	P 83	14	[7]	4.2	D 2
	P 84	28	[23]	23.7	D 2
	P 85	28	27	23.5	D 3
	P 86	25	22	16.3	D 2
	P 87	21	18	7.8	D 3
	P 88	25	20	11.1	B 2
	P 89	25	25	8.3	D 1 D 2
	P 90	35	25	26.8	D 2
	P 91	37	[24]	2.7	D 1 D 2
	P 92	35	24	10.8	D 3
	P 93	36	31	9.6	D 2
	P 94	22	20	11.2	D 3
	P 95	25	23	14.3	D 3
	P 96	25	[20]	12.7	D 3
	P 97	47	44	21.0	D 3
	P 98	23	15	9.2	D 3
	P 99	23	20	11.8	D 2
	P 100	36	30	27.6	D 1 D 2
	P 101	[32]	29	9.3	D 2
	P 102	32	25	22.0	D 3
	P 103	32	[29]	23.0	D 2
	P 104	29	29	10.3	D 2
	P 105	21	19	7.1	D 2
	P 106	25	22	11.9	C 2
	P 107	27	24	8.3	D 2
	P 108	17	16	18.8	D 2
	P 109	38	36	5.9	D 2
	P 110	36	31	21.5	D 2
	P 111	35	35	8.8	D 2
	P 112	31	29	25.2	D 2
	P 113	20	18	32.5	D 2
	P 114	20	19	18.3	D 2
	P 115	25	23	18.1	D 1 D 2
	P 116	30	20	13.6	D 2
	P 117	41	30	15.8	D 3
	P 118	31	30	23.7	D 2
	P 119	26	25	34.0	D 2
	P 120	35	33	27.8	D 2
	P 121	22	15	12.8	D 3
	P 122	25	[21]	13.8	D 1 D 2
	P 123	16	15	11.0	D 3
	P 124	23	23	33.5	D 2
	P 125	36	35	24.1	B 2
	P 126	25	[20]	16.0	D 2
	P 127	31	[27]	18.8	D 2
	P 128	30	[18]	25.1	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-9	P 129	32	[18]	10.6	D 3
	P 130	31	[29]	13.8	D 1 D 2
	P 131	36	20	10.0	D 1 D 2
	P 132	42	21	23.7	D 2
	P 133	65	51	22.6	D 2
	P 134	19	18	6.0	D 3
	P 135	24	18	7.4	D 3
	P 136	20	17	2.7	D 3
	P 137	20	[19]	7.4	D 2
	P 138	[25]	22	17.1	D 3
	P 139	28	25	10.4	D 1 D 2
	P 140	24	15	7.9	D 2
	P 141	30	23	8.3	D 3
	P 142	24	[17]	5.7	D 3
	P 143	31	27	5.9	D 2
	P 144	24	20	6.4	D 3
	P 145	30	[21]	4.4	D 2
	P 146	26	20	4.7	D 2
	P 147	27	26	14.4	D 2
	P 148	26	15	19.9	D 2
	P 149	23	13	11.2	D 3
	P 150	33	20	21.5	D 3
	P 151	[21]	[11]	5.9	D 2
	P 152	26	26	6.7	D 3
	P 153	25	11	6.2	D 2
	P 154	25	[11]	16.8	D 3
	P 155	19	16	3.7	D 1
	P 156	23	21	4.5	D 3
	P 157	27	26	39.9	C 1 C 2
	P 158	35	30	16.3	C 1 C 2
	P 159	20	20	27.5	C 2
	P 160	33	30	20.5	C 1 C 2
	P 161	29	28	22.5	C 2
	P 162	25	24	15.2	C 2
	P 163	21	21	25.1	C 2
	P 164	37	35	15.2	C 1 C 2 C 3
	P 165	23	20	16.1	C 2
	P 166	20	18	24.0	C 2
	P 167	28	27	47.0	C 1 C 2
	P 168	29	20	14.9	D 1 D 2
	P 169	34	25	13.5	D 1 D 2
	P 170	20	18	13.4	D 3
	P 171	16	15	12.5	D 2
	P 172	29	25	24.9	D 3
	P 173	36	35	18.4	D 2
	P 174	24	22	14.3	D 2
	P 175	22	20	15.5	D 2
	P 176	[25]	25	10.3	
	P 177	[32]	[30]	22.6	
	P 178	[41]	[31]	27.3	D 3
	P 179	[46]	[41]	24.9	D 2
	P 180	31	[21]	25.8	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-9	P 181	[41]	30	14.8	D 2
	P 182	24	[21]	9.6	
	P 183	36	20	14.7	
	P 184	31	[23]	21.4	
	P 185	35	34	11.1	D 2
	P 186	32	24	11.9	D 2
	P 187	21	20	7.3	D 2
	P 188	20	[18]	9.6	D 2
	P 189	22	22	22.7	D 2 D 3
	P 190	[41]	33	18.0	D 2
	P 191	24	20	11.5	
	P 192	55	46	31.0	
	P 193	17	[13]	27.3	
	P 194	15	13	3.2	D 2
	P 195	24	21	18.5	D 3
	P 1	33	25	28.7	C 1 C 2 C 3
	P 2	[40]	33	10.2	C 1 C 2
	P 3	25	[20]	20.4	C 1 C 2
	P 4	30	26	16.9	C 1 C 2 C 3
E-10	P 5	50	45	20.0	C 1 C 2 C 3
	P 6	44	30	31.2	C 1 C 2 C 3
	P 7	35	32	28.8	D 1 D 2
	P 8	21	20	6.0	C 3
	P 9	20	18	13.4	C 1 C 2 C 3
	P 10	48	35	9.4	C 1 C 2 C 3
	P 11	38	32	19.8	D 1 D 2 柱痕
	P 12	39	30	19.8	C 1 C 2 C 3
	P 13	40	33	19.4	C 1 C 2 C 3
	P 14	35	35	17.0	C 1 C 2 C 3 柱痕
	P 15	20	15	14.2	C 1 C 2
	P 16	25	23	18.0	C 1
	P 17	25	22	22.8	C 1 C 2
	P 18	27	27	20.8	C 1 C 2
	P 19	15	14	14.0	C 1 C 2
	P 20	35	35	24.8	C 1 C 2 C 3
	P 21	21	20	14.0	C 1 C 2 C 3
	P 22	21	21	14.5	C 2 C 3
	P 23	30	25	12.8	C 2
	P 24	45	23	15.8	C 1 C 2 C 3
	P 25	22	[18]	14.6	C 1 C 2
	P 26	50	40	53.6	C 1 C 2 C 3 杭
	P 27	35	33	17.8	C 1
	P 28	36	34	30.0	C 2
	P 29	35	35	12.0	C 1 C 2
	P 30	32	22	30.0	C 1 C 2 C 3
	P 31	39	[33]	31.2	C 1 C 2 柱痕
	P 32	30	22	10.5	C 1
	P 33	28	17	20.0	C 1 C 2 C 3
	P 34	25	23	20.0	C 1 C 2 C 3
	P 35	25	24	24.0	C 1 C 2
	P 36	27	25	17.7	C 1 C 2 C 3
	P 37	30	29	27.7	C 1 C 2 C 3

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-10	P 38	24	22	15.0	C 1 C 2 C 3
	P 39	25	18	16.6	C 1
	P 40	23	22	15.0	C 2
	P 41	20	18	6.0	C 2
	P 42	10	10	26.8	C 1 C 2 C 3
	P 43	[33]	30	10.0	C 2
	P 44	24	20	10.8	D 1 D 2 D 3
	P 45	40	35	14.0	C 1 C 2 C 3
	P 46	55	[50]	9.0	C 1 C 2 C 3 柱痕
	P 47	33	30	18.3	C 1 C 2 C 3
	P 48	30	29	25.8	C 1 C 2 C 3
	P 49	15	12	4.2	C 1 C 2
	P 50	25	25	27.2	C 1 C 2
	P 51	30	28	22.8	C 2
	P 52	27	22	15.4	D 1 D 2 D 3
	P 53	37	20	12.8	C 1 C 2 C 3
	P 54	12	12	15.7	C 1 C 2 C 3
	P 55	44	30	25.2	C 1 C 2 C 3
	P 56	32	25	17.2	C 2
	P 57	25	23	9.2	D 1 D 2
	P 58	25	25	11.2	C 1 C 2
	P 59	40	22	17.5	C 1 C 2 C 3
	P 60	55	30	16.7	C 1 C 2 C 3 柱痕
	P 61	[40]	26	17.5	C 1 C 2 C 3
	P 62	35	35	22.7	C 1 C 2 C 3
	P 63	30	30	23.8	C 1 C 2 C 3
	P 64	25	23	15.6	C 1
	P 65	20	[15]	15.5	B 1 B 2
	P 66	30	22	16.3	C 1 C 2
	P 67	26	23	17.8	C 1 C 2
	P 68	30	25	16.3	C 1 C 2 C 3
	P 69	欠番			
	P 70	20	20	6.2	C 1
	P 71	[27]	24	8.2	C 1 C 2
	P 72	29	25	44.3	C 1 C 2
	P 73	35	32	15.8	C 1
	P 74	35	20	15.0	C 1 C 2
	P 75	20	20	23.0	B 3
	P 76	22	[18]	20.3	B 3
	P 77	15	13	17.2	C 2
	P 78	70	[53]	28.0	C 1 C 2 C 3
	P 79	60	54	29.3	C 1 C 2 C 3
	P 80	40	37	19.7	C 1 C 2 C 3
	P 81	29	27	19.4	C 1 C 2
	P 82	20	15	23.7	C 1 C 2
	P 83	35	30	15.8	C 1 C 2 C 3
	P 84	34	30	26.7	C 1 C 2 C 3
	P 85	25	25	8.3	B 1 B 2
	P 86	26	26	11.6	C 1
	P 87	25	25	30.8	C 1
	P 88	22	22	28.6	D 2
	P 89	25	24	9.7	C 3

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-10	P 90	27	22	18.5	C 1 C 2
	P 91	26	25	25.1	C 1 C 2 C 3
	P 92	23	19	4.0	D 2
	P 93	22	20	6.0	D 3
	P 94	[17]	14	7.2	B 1 B 2
	P 95	30	30	36.7	C 1 C 2
	P 96	35	30	15.2	C 1 C 2
	P 97	38	33	30.2	C 1 C 2 柱痕
	P 98	29	26	24.5	B 1 B 2 B 3
	P 99	[30]	20	11.4	B 1 B 2 B 3
	P 100	30	26	6.8	C 1 C 2 C 3
	P 101	20	18	7.0	C 3
	P 102	15	15	—	C 1
	P 103	[15]	12	6.6	B 1 B 2
	P 104	28	25	18.0	B 1 B 2 B 3
	P 105	22	21	19.0	C 1 C 2 C 3
	P 106	30	30	36.5	C 2 C 3
	P 107	27	22	28.2	C 2
	P 108	24	21	27.4	D 1
	P 109	30	30	33.8	C 3
	P 110	45	45	18.0	C 1 C 2
	P 111	14	12	8.4	C 2
	P 112	40	38	20.2	C 2 柱痕
	P 113	42	42	32.0	D 1 D 2 D 3 柱痕
	P 114	35	30	25.0	C 1 C 2
	P 115	30	28	26.8	C 1 C 2
	P 116	28	26	21.3	C 1
	P 117	30	26	7.8	C 3
	P 118	20	19	23.4	C 1 C 2
	P 119	34	[25]	32.0	C 1 C 2
	P 120	35	[30]	35.3	C 1 C 2
	P 121	32	[25]	23.0	C 1 C 2
	P 122	17	15	16.2	B 3
	P 123	25	25	16.3	C 1 C 2
	P 124	13	11	21.2	B 3
	P 125	22	17	14.5	C 3
	P 126	30	25	20.4	C 2
	P 127	26	23	26.7	C 3
	P 128	25	21	24.3	C 1 C 2
	P 129	39	26	11.6	C 2
	P 130	21	[15]	17.7	C 2
	P 131	22	[21]	55.9	C 1 C 2
	P 132	23	[20]	19.5	C 1
	P 133	25	20	20.0	C 2 C 3
	P 134	33	25	20.2	C 1 C 2
	P 135	25	25	31.1	B 3
E-11	P 1	31	27	29.3	C 1 C 3
	P 2	33	26	28.5	C 1 C 2 C 3
	P 3	37	25	8.2	C 1
	P 4	41	20	27.5	C 1 C 2
	P 5	28	25	16.5	C 1
	P 6	21	19	18.4	C 1

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
E-11	P 7	23	20	18.2	C 2
	P 8	23	21	14.9	C 1 C 2
	P 9	35	33	42.9	C 1 C 2
	P 10	32	32	22.0	C 1 C 2 C 3
	P 11	27	27	37.7	C 3
	P 12	19	12	28.0	C 1
	P 13	28	26	21.4	C 1
	P 1	49	42	17.6	D 3
E-12	P 2	51	51	18.5	C 3
	P 3	34	32	6.5	E
	P 1	53	48	48.5	E
F-8	P 1	25	25	36.6	D 3
	P 2	19	17	5.5	D 3
	P 3	30	[13]	11.2	D 2
	P 4	31	30	22.7	D 3
	P 5	27	19	9.6	D 3
	P 6	31	[25]	13.0	D 1 D 2
	P 7	25	20	11.3	D 1 D 2
	P 8	[20]	20	4.3	D 1 D 2
	P 9	24	20	10.6	D 2
	P 10	25	[17]	13.2	D 3
	P 11	20	19	25.0	D 2
	P 12	34	[29]	14.5	D 2
	P 13	30	[15]	3.4	C 3
	P 14	35	32	10.6	C 3
	P 15	20	20	7.2	D 3
	P 16	29	25	16.0	D 2
	P 17	22	21	6.3	D 2
F-9	P 1	57	55	46.3	C 1 C 2 C 3
	P 2	69	65	54.1	C 1 C 2
	P 3	55	48	30.3	C 2 C 3
	P 4	44	41	48.2	C 1 C 2 C 3
	P 5	[74]	63	37.5	C 3
	P 6	61	[27]	54.2	C 1 C 2 C 3
	P 7	47	41	30.1	D 2 D 3
	P 8	56	52	43.4	C 2 C 3
	P 9	60	50	19.3	D 1 D 2 D 3
	P 10	52	51	58.2	D 1 D 2 D 3
	P 11	50	39	64.0	C 2 C 3
	P 12	63	59	42.5	C 3 D 3
	P 13	38	35	29.7	D 1 D 2 D 3
	P 14	32	32	31.7	C 1 C 2 C 3
	P 15	41	39	—	D 3
	P 16	29	27	24.4	D 2
	P 17	23	21	24.1	D 1 D 2
	P 18	29	29	13.0	D 2
	P 19	32	[26]	8.8	D 3
	P 20	32	25	10.5	D 2
	P 21	37	35	10.2	D 1 D 2
	P 22	19	19	9.9	D 3
	P 23	30	26	16.7	D 1 D 2
	P 24	40	35	4.7	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
F-9	P 25	24	[15]	12.9	D 3
	P 26	25	25	13.8	D 3
	P 27	30	27	4.4	D 3
	P 28	35	31	5.0	D 3
	P 29	22	[13]	6.0	D 3
	P 30	33	28	11.6	D 2
	P 31	[17]	15	7.6	D 3
	P 32	17	[16]	8.2	D 2
	P 33	31	27	9.7	D 2
	P 34	14	12	4.3	D 3
	P 35	19	[15]	26.4	D 2
	P 36	16	16	5.3	D 1
	P 37	22	21	5.0	D 1 D 2
	P 38	32	25	19.8	D 1 D 2
	P 39	欠番			
	P 40	12	10	6.0	D 3
	P 41	43	42	21.0	D 1 D 2
	P 42	[21]	16	4.7	D 2
	P 43	15	14	12.2	D 3
	P 44	14	14	3.2	D 3
	P 45	37	34	8.5	D 1 D 2
	P 46	24	22	19.2	D 3
	P 47	29	20	11.7	D 2
	P 48	20	20	13.4	D 3
	P 49	21	16	7.9	D 3
	P 50	28	23	7.1	D 1
	P 51	45	26	26.9	D 1
	P 52	25	[12]	5.5	D 3 柱根
	P 53	49	[32]	40.5	D 1 D 2
	P 54	35	22	12.0	D 3
	P 55	21	19	6.8	D 3
	P 56	15	15	8.5	D 3
	P 57	28	25	10.5	D 3
	P 58	19	17	7.0	D 3
	P 59	33	28	12.0	D 3
	P 60	27	[24]	16.7	D 1 D 2
	P 61	24	[19]	15.7	D 2
	P 62	[22]	20	11.9	D 3
	P 63	18	18	7.0	B 3
	P 64	16	16	4.3	D 3
	P 65	25	19	22.1	D 2
	P 66	[45]	40	40.5	D 1 D 2
	P 67	15	14	10.2	D 2
	P 68	19	19	12.6	D 3
	P 69	25	23	18.2	C 2
	P 70	21	19	6.0	D 2
	P 71	23	21	26.8	D 3
	P 72	26	26	23.1	D 2
	P 73	30	[21]	18.4	D 2
	P 74	22	19	5.6	D 2
	P 75	19	17	19.0	D 3
	P 76	40	[28]	24.7	D 3

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
F-9	P 77	23	20	17.3	D 3
	P 78	25	23	10.1	D 3
	P 79	25	24	23.3	D 3
	P 80	26	26	15.0	D 2
	P 81	19	18	4.8	D 3
	P 82	32	30	7.0	D 1 D 2
	P 83	25	15	14.2	D 1
	P 84	25	[10]	12.5	D 1
	P 85	32	22	8.9	D 1 D 2
	P 86	29	[15]	6.5	D 3
	P 87	32	30	18.7	C 3
	P 88	28	18	51.2	D 2
	P 89	25	22	12.0	D 2
	P 90	30	26	18.4	D 3
	P 91	21	21	11.6	D 2
	P 92	38	35	24.2	C 3
	P 93	20	18	4.4	D 3
	P 94	20	19	5.8	D 3
	P 95	23	23	19.0	D 3
	P 96	19	16	10.1	D 2
	P 97	20	15	6.3	D 3
	P 98	38	27	23.0	D 3
	P 99	[30]	[10]	10.3	D 3
	P 100	34	21	11.2	D 3
	P 101	29	[28]	14.0	D 3
	P 102	48	[32]	29.9	D 2
	P 103	25	15	3.2	D 3
	P 104	25	16	4.5	D 3
	P 105	25	25	13.5	D 2
	P 106	31	26	9.0	D 2
	P 107	29	28	18.0	D 3
	P 108	28	18	8.8	D 1 D 2
	P 109	40	[34]	23.9	D 2
	P 110	58	44	16.0	D 1 D 2
	P 111	36	18	20.5	D 1 D 2
	P 112	25	18	14.8	D 2
	P 113	25	25	16.8	D 1 D 2
	P 114	26	18	5.1	D 3
	P 115	32	24	18.5	D 2
	P 116	28	[16]	22.9	D 1
	P 117	[23]	22	16.5	D 2
	P 118	31	31	13.1	D 3
	P 119	30	30	13.1	C 3
	P 120	25	24	17.3	D 3
	P 121	44	36	7.0	C 2
	P 122	33	[26]	3.5	D 3
	P 123	[20]	15	4.1	D 3
	P 124	22	[15]	4.3	D 3
	P 125	25	25	7.4	D 3
	P 126	23	22	20.5	D 3
	P 127	21	19	12.0	D 3
	P 128	38	36	27.4	D 2

グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
F-9	P 129	38	36	23.5	D 2
	P 130	25	24	21.0	D 3 柱痕
	P 131	26	15	12.6	C 2
	P 132	28	21	2.0	C 3
	P 133	23	20	14.0	C 3
	P 134	26	25	11.0	D 3
	P 135	22	21	13.8	D 3
	P 136	38	[30]	33.0	D 2
	P 137	36	[22]	23.7	D 3
	P 138	29	[22]	8.5	D 3
	P 139	24	16	10.0	D 1
	P 140	36	20	5.0	D 2
	P 141	45	34	15.1	D 3
	P 142	30	[20]	17.5	D 2
	P 143	18	16	6.2	D 3
	P 144	22	16	6.5	D 3
	P 145	29	25	14.2	D 2
	P 146	28	21	8.0	D 2
	P 147	15	15	7.5	D 3
	P 148	17	15	6.7	D 3
	P 149	49	43	34.2	D 2
F-10	P 150	29	23	13.1	D 2
	P 151	27	24	45.9	D 3
	P 152	23	21	11.5	D 3
	P 153	21	18	8.3	D 3
	P 154	33	31	11.7	D 1 D 2
	P 155	22	20	3.3	D 3
	P 156	22	21	25.0	D 3
	P 157	42	41	31.5	D 2
	P 158	30	21	13.5	D 3
	P 159	35	33	24.8	D 3
	P 1	30	18	12.8	D 3
	P 2	32	20	10.3	C 1 C 2
	P 3	48	27	32.0	C 1 C 2 C 3
	P 4	25	20	13.3	C 1
	P 5	30	25	25.0	C 2
	P 6	26	22	19.6	C 1 C 2
	P 7	15	12	10.0	C 2

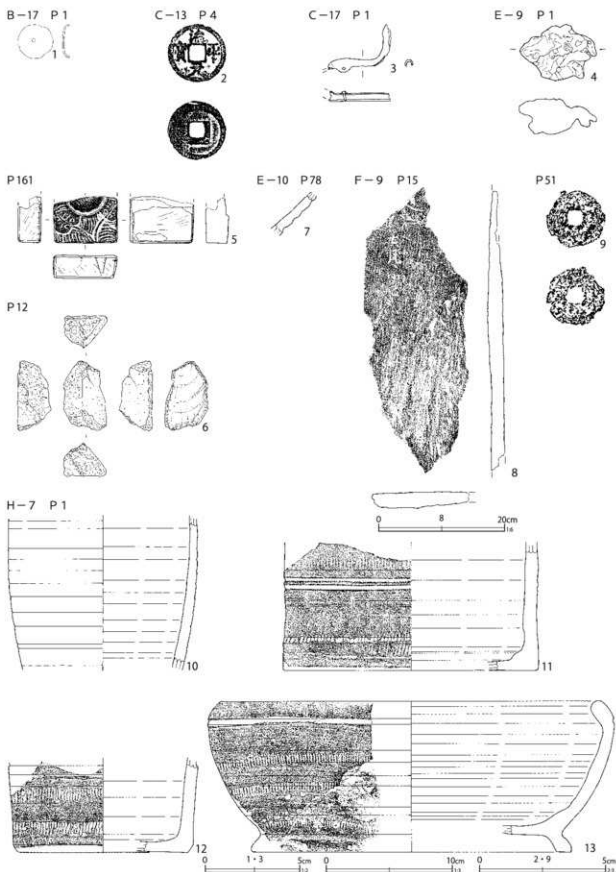
グリッド	番号	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	土層注記
F-10	P 8	30	27	10.0	C 2
	P 9	15	[10]	5.0	C 3
	P 10	20	16	12.3	B 2 B 3
	P 11	26	24	38.0	C 2 柱痕
	P 12	26	22	20.0	C 3
	P 13	17	15	16.2	D 1
	P 14	53	41	24.8	C 1 C 2 C 3
	P 15	47	30	27.3	C 1 C 2
	P 16	30	25	15.4	C 1 C 2
	P 17	[23]	21	27.7	C 1
	P 18	31	22	17.0	C 1
	P 19	28	28	15.0	C 1 C 2
	P 20	18	17	25.0	C 1
	P 21	22	17	10.0	C 1
	P 22	22	21	14.0	C 3
	P 23	31	28	13.2	C 3
	P 24	33	30	23.0	C 1 C 2
	P 25	28	27	16.3	C 1 C 2
	P 26	37	25	10.5	C 1 C 2 C 3
	P 27	31	27	25.0	C 1 C 2
	P 28	41	37	27.0	C 1 C 2 C 3
G-7	P 29	42	[30]	24.8	C 1 C 2
	P 30	40	38	17.0	C 1 C 2
	P 31	20	20	24.0	C 1 C 2
	P 32	32	30	20.0	C 1 C 2 C 3
G-9	P 33	36	30	30.0	C 3
	P 34	32	21	21.0	
	P 1	62	57	40.0	D 2 柱痕
	P 1	44	32	10.0	D 1 D 2
I-1	P 2	30	27	12.0	D 3
	P 3	30	30	10.0	D 2
	P 4	37	31	17.6	
	P 1	130	46	17.0	
I-2	P 1	27	20	8.0	A
	P 2	29	26	8.4	A
J-2	P 1	32	28	8.0	A
	P 2	70	56	13.2	A

第12表 柱穴・ピット土層類型表

類型	色調	含有物
A	褐灰色砂	—
B	1 暗褐色土	焼土粒
	2 暗褐色土	炭化物粒
	3 暗褐色土	黄褐色粒
C	1 暗褐色土	焼土粒
	2 暗褐色土	炭化物粒
	3 暗褐色土	黄褐色粒
D	1 暗灰色土	焼土粒
	2 暗灰色土	炭化物粒
	3 暗灰色土	黄褐色粒
E	暗青灰色土	—

は不明である。10～13はH-7 P 1 から出土した。10は瀬戸美濃系陶器の舟徳利である。11と12は瓦質土器の平底火鉢、13は脚付火鉢である。時期は18世紀代に位置付けられる。

遺物が出土する柱穴・ピットは少なく、ほとんどの柱穴・ピットは時期の特定には至らないが、周辺の遺構と同様に中世後半から近世にかけての時期に機能していたと想定される。



第110図 柱穴・ビット出土遺物

第13表 柱穴・ビット出土遺物観察表 (第110図)

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	B-17 P 1	銅製品	飾り金具	長さ1.8	幅1.9	厚さ0.1	重さ1.5g				Na47-2 治平元寶 真書	38-2
2	C-13 P 4	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.3	厚さ0.1	重さ3.3g					38-3
3	C-17 P 1	銅製品	不明	大きさ[3.3] × [2.5]			重さ1.8g					38-2
4	E-9 P 1	鉄滓	駒型滓	長さ6.0	幅4.4	厚さ2.8	重さ66.3g	磁着○				38-2
5	E-9 P 161	石製品	硯	長さ[3.7]	幅5.0	厚さ1.8	重さ55.9g	欠損			粘板岩 模様あり	34-10
6	E-9 P 12	石製品	火打石	長さ5.5	幅3.4	厚さ2.6	重さ49.5g	完形			チャート	
7	E-10 P 78	陶器	大皿類	—	[3.4]	—	1 K	5	普通	灰白	古瀬戸系 灰釉 15C以降	30-3
8	F-9 P 15	石製品	板碑	長さ[44.8]	幅[15.6]	厚さ2.4	重さ2600.0g				緑泥片岩 [] 二年/七月日/裏ノミ痕	
9	F-9 P 51	銅製品	銭貨	長さ2.4	幅2.3	厚さ0.1	重さ2.1g				瀬戸美濃系	38-3
10	H-7 P 1	陶器	舟徳利	—	[12.2]	—	1 K	10	良好	灰黄褐色		30-3
11	H-7 P 1	瓦質土器	平底火鉢	—	[10.0]	(20.0)	G K	10	普通	褐灰		
12	H-7 P 1	瓦質土器	平底火鉢	—	[7.4]	(13.2)	1 K	10	普通	浅黄褐色		
13	H-7 P 1	瓦質土器	脚付火鉢	(30.0)	11.8	(25.2)	1 K	25	普通	褐灰	18C	25-6

8. グリッド・調査区出土遺物

遺構外のグリッド及び調査区出土の遺物から特徴的な遺物を抽出した(第111~113図)。第111図1は瀬戸美濃系陶器のこね鉢である。見込みに目跡が残る。割れ口には煤が付着している。2と3は古瀬戸系の天目茶碗である。いずれも内外面に鉄釉が施されている。3の時期は15世紀代に位置付けられる。4は形象埴輪であるが、詳細な部位は判断できない。胎土に角閃石が含まれることから利根川流域の窯で焼成されたとみられる。5はかわらけで底部に回転糸切り左回転の痕跡がある。6は石臼の下臼である。一部黒色化している。

7は瀬戸美濃系陶器の片口鉢である。内外面に灰釉が施される。19世紀代に位置付けられる。8は龍泉窯系青磁の碗である。内外面とも均一に施釉されている。口縁部及び高台部が欠損している。9は瀬戸美濃系陶器の徳利である。口縁部の外面及び内面部分に錆釉が施されている。18世紀前半に位置付けられる。10は瓦質土器の底部と思われるが器種は判断できない。小型瓦の可能性も想定される。

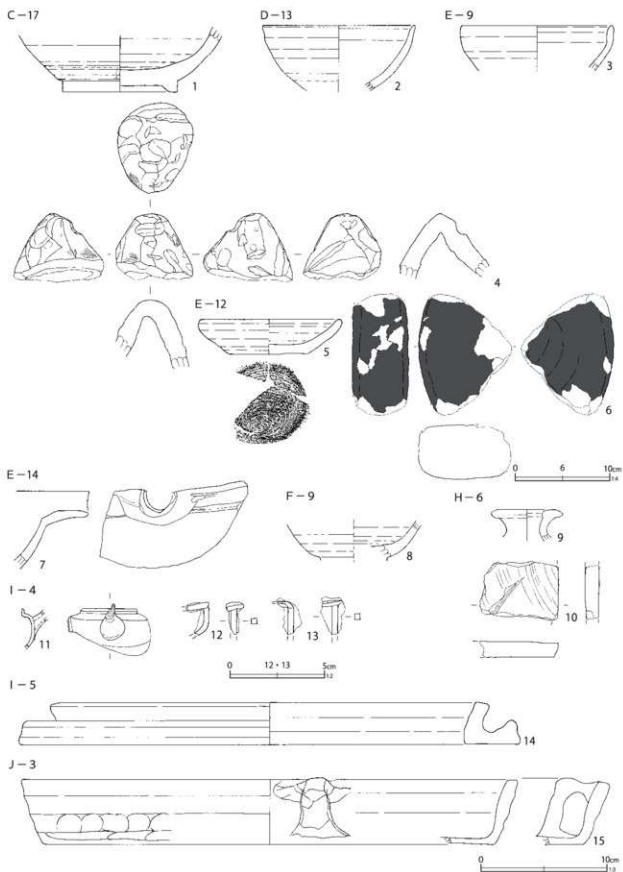
11は萬古焼の急須である。把手の部分と茶漉し部分の一部が残存している。12と13は鉄製の釘である。いずれも角釘である。14は瓦質土器の甕掛

け口である。内外面ともに焼されて黒色化している。15は焙烙である。内耳部分が1箇所残存している。口縁部にナデ調整、体部下半に指オサエ痕が残る。

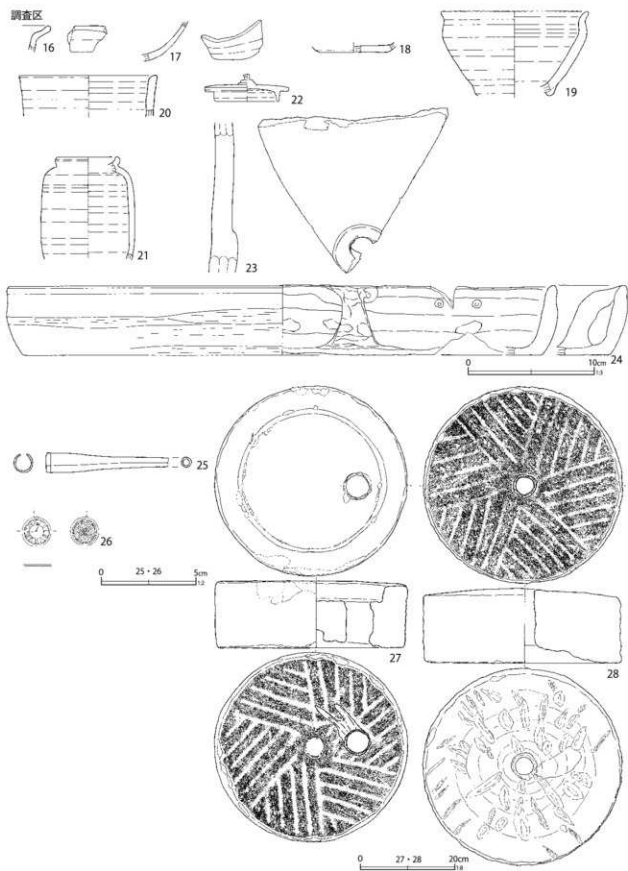
第112図16と17は龍泉窯系青磁である。16は皿の口縁部、17は碗の体部である。いずれも内外面とも均一に施釉されている。18は舶載磁器の白磁皿である。内外面に釉が施されている。19は瀬戸美濃系陶器の天目茶碗である。内外面に鉄釉が施されている。

20は瀬戸美濃系陶器の志野香炉である。内外面を長石釉によって施釉されている。21は瀬戸美濃系陶器の茶入れである。時期は大窯第4段階に位置付けられることから16世紀末となる。22は萬古焼の急須蓋である。23は常滑系陶器の焼酎瓶である。下胴部の呑み口孔が残存している。24は焙烙である。内耳部分が1箇所残存している。口縁部をナデ調整、体部下半に指オサエ痕が残る。体部に2箇所の補修孔がみられる。25は煙管の吸口である。26は銅製の飾り金具である。

27と28は安山岩製粉挽臼である。いずれもほぼ完形で、27が上臼、28が下臼となり組み合わせる。上臼の描目単位は6分画4溝を基本として、一部5

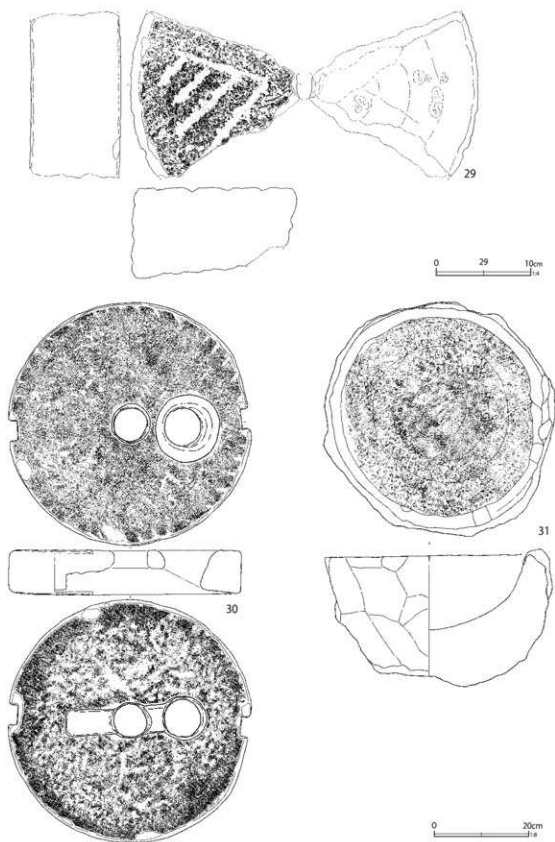


第111図 グリッド・調査区出土遺物(1)



第112図 グリッド・調査区出土遺物(2)

調査区



第113図 グリッド・調査区出土遺物(3)

第14表 グリッド・調査区出土遺物観察表 (第111～113区)

番号	遺構名	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	C-17	陶器	こね鉢	—	[4.5]	8.9	I K	45	良好	浅黄橙	表採 瀬戸美濃系 煤付着	
2	D-13	陶器	天目茶碗	(11.8)	[5.2]	—	I K	20	普通	灰白	表採 古瀬戸後期1期 鉄軸 14C前	31-1
3	E-9	陶器	天目茶碗	(11.6)	[3.6]	—	I K	5	良好	灰白	古瀬戸後期4期古 鉄軸 15C	31-1
4	E-9	埴輪	形象埴輪	長さ[6.8] 高さ[5.2]	幅[5.8] 重さ126.1g	—	C K	5	普通	にがい帯	埴輪頭部か	25-7
5	E-12	かわらけ	小皿	(11.5)	2.7	(6.8)	I K	60	普通	浅黄橙	底部回転軸切り左回転	
6	E-12	石製品	石臼 (下臼)	長さ[12.9] 863.2g	幅[9.9] 欠損	推定径(27.0)	高さ[6.0]	重さ	—	—	角閃石安山岩 一部黒色化 播目2分面5溝 摩滅	
7	E-14	陶器	片口鉢	—	[6.8]	—	K	10	普通	淡黄	表採 瀬戸美濃系 灰軸 19C	31-1
8	F-9	磁器	碗	—	[3.1]	—	I K	10	良好	楊灰	表採 龍泉窯系 青磁	31-1
9	H-6	陶器	徳利	4.6	[2.5]	—	I K	10	普通	浅黄橙	瀬戸美濃系 精軸 18C前	31-1
10	H-6	瓦質土器	不明	—	[1.2]	6.1	I K	5	普通	橙	—	31-1
11	I-4	陶器	急須	—	[3.3]	—	I	20	普通	楊灰	萬古焼	
12	I-4	鉄製品	釘	長さ[2.0]	幅0.3	厚さ0.3	重さ1.1g	—	—	—	角釘	38-2
13	I-4	鉄製品	釘	長さ[2.2]	幅0.3	厚さ0.3	重さ1.8g	—	—	—	角釘	38-2
14	I-5	瓦質土器	甕	(33.0)	3.3	(39.4)	I K	20	普通	にがい帯	掛け口 黒色化	25-8
15	J-3	瓦質土器	焙烙	(38.0)	5.1	(35.5)	I K	20	普通	浅黄橙	—	25-9
16	調査区	磁器	皿	—	[2.1]	—	G I K	5	普通	灰白	東地区西側表採 龍泉窯系 青磁 13C中～14C初	31-1
17	調査区	磁器	碗	—	[3.0]	—	I K	5	普通	灰白	東地区東側表採 龍泉窯系 青磁	31-1
18	調査区	磁器	皿	—	[0.7]	5.4	I K	15	普通	にがい帯	東表採 白磁	31-1
19	調査区	陶器	天目茶碗	(11.0)	[6.7]	—	K	45	普通	灰白	東表採 瀬戸美濃登2期 鉄軸	31-1
20	調査区	陶器	香炉	(10.3)	[3.3]	—	I K	10	普通	灰白	東表採 瀬戸美濃系 志野 長石軸	31-1
21	調査区	陶器	茶入れ	(4.8)	[8.0]	—	G I K	15	普通	浅黄橙	東表採 瀬戸美濃系大窯4 16C末	31-1
22	調査区	陶器	蓋	—	2.1	4.8	I K	95	普通	楊灰	一括 萬古焼 急須	31-1
23	調査区	陶器	焼酎瓶	—	[12.1]	—	I K	5	良好	にがい帯	東表採 常滑系 19C後	31-1
24	調査区	瓦質土器	焙烙	(42.8)	5.5	(41.0)	I K	5	普通	浅黄橙	体部補修孔2箇所	25-10
25	調査区	銅製品	煙管	長さ[6.4]	小口径1.0	口径0.5	重さ6.0g	—	—	—	一括 吸口	38-2
26	調査区	銅製品	飾り金具	大きさ[1.6]×1.5	厚さ0.025	重さ1.0g	—	—	—	—	一括	38-2
27	調査区	石製品	粉挽臼 (上臼)	長さ40.5	幅40.9	推定径(41.0)	高さ14.2	重さ	—	—	安山岩 播目6分面4溝	34-11
28	調査区	石製品	粉挽臼 (下臼)	長さ42.2	幅42.3	推定径(42.0)	高さ16.0	重さ	—	—	安山岩 播目6分面5溝	34-11
29	調査区	石製品	粉挽臼 (下臼)	長さ[17.4]	幅[17.8]	推定径(34.0)	高さ9.6	重さ	—	—	安山岩 上面・側面成形痕良好 播目4溝	
30	調査区	石製品	石臼 (下臼)	長さ52.0	幅51.4	推定径(52.0)	高さ9.6	重さ	—	—	黒雲母花崗岩 上面かなり磨りこんで ある 播目摩滅	34-12
31	調査区	石製品	石鉢	口径39.7	底径27.0	高さ28.0	重さ61100.0g	—	—	—	安山岩 内面摩滅	34-13

溝の分画も認められる。下臼の播目単位は6分面5溝を基本として、一部4溝や6溝の分画が認められる。

第113図29は安山岩製石臼の下臼である。播目の溝4条確認できる。30は黒雲母花崗岩製石臼の下臼である。他の粉挽臼などとは異なり、小麦などを脱穀するために使用されていたものと思われる。播目の単位は摩滅が激しく判然としない。外周部に短く播目がみられる。

31は安山岩製の石鉢である。側面は半円球状を呈し、上面はほぼ円形で口縁部は平に整形され、片口部が削り出されている。底部が水平を保っていないため正位で設置すると口縁部が片口の対面側に大きく傾く。外面は削り出しのままで、整形されていない。内面は穿打によって整形されている。見込みから約12cm上にかけて磨滅しており、使用感が強く残る。

V 自然化学分析

自然科学分析は、木材の放射性炭素年代測定と花粉分析を実施した。

遺構の年代決定は、基本的には出土した陶磁器類をはじめとした遺物の編年研究の成果に基づいたが、クロスチェックによって精度を高める必要から放射性炭素年代測定を行った。

サンプルには、天明3年（1783）の年代を捉えられる浅間山スコリアの直下から出土した第2号

溝跡の試料を用いる。

花粉分析は、放射性炭素年代測定のサンプル木材（ケヤキ）と同一層から採取した。これは、木材として使用されていた木が当地域周辺に自生していたものか、製品として他所から流通してきたものかを判別し、当時の木材利用の実態について検討することを目的に実施した。

1. 木材の放射性炭素年代測定

（1）はじめに

木材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定（ウィグルマッピング法）を行った。

（2）試料と方法

試料は、第2号溝跡から出土した丸木材No. 17（PLD-22948～22950）で、浅間山スコリアの直下から出土している。丸木は直径18.2cm、樹種はケヤキで、残存しているのは25年輪であった。最終形成年輪は残存していなかったが、木取りは芯持丸木で辺材があり、外側の年輪は最終形成年輪に近いと考えられる。

測定試料の情報、調製データは第15表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、14C年代、暦年代を算出した。

（3）結果

第16表に同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（ $\delta^{13}\text{C}$ ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した14C年代、ウィグルマッピングの結果を、第114図にウィグルマッピング結果をそれぞれ示

す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後、暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

14C年代は、AD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。14C年代（yrBP）の算出には、14Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した14C年代誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の14C年代がその14C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示す。

なお、暦年較正、ウィグルマッピング法の詳細は以下のとおりである。

〔暦年較正〕

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が5568年として算出された14C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い（14Cの半減期5730 $\pm$ 40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。14C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ：IntCal09）を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal1の確率法を使用して算出された14C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は95.4%信頼限界の暦年代範囲であ

る。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は14C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年代校正曲線を示す。

[ウィグルマッピング法]

ウィグルマッピング法とは、複数の試料を測定し、それぞれの試料間の年代差の情報を用いて試料の年代パターンと校正曲線のパターンが最も一致する年代値を算出することによって、高精度で年代値を求める方法である。測定では、得られた年輪数が確認できる木材について、1年毎あるいは数年分をまとめた年輪を数点用意し、それぞれ年代測定を行う。個々の測定値から暦年代校正を行い、得られた確率分布を最外試料と当該試料の中心値の差だけずらしてすべてを掛け合わせるにより最外試料の確率分布を算出し、年代範囲を求める。なお、得られた最外試料の年代範囲は、最外試料としてまとめた試料の中心部分の年代を示している。したがって、試料となった木材の最外年輪年代を得るためには、最外試料の中心部分よりも外側にある年輪数を考慮する必要がある。

(4) 成果

各年輪試料は、3点(PLD-22948~22950)を用いてウィグルマッピング法により最外試料の暦年代を求めた。なお、測定試料は5年輪ずつ採取しているため、最外年輪(最終形成年輪近く)の年代は、最外試料の中心部分よりも外側にある2年輪分(正確には2.5年輪だが、ここでは小数第1位以下切り捨て)を最外試料の暦年代に加算した。以下、暦年代校正結果のうち1 σ 暦年代範囲(確率68.2%)に着目して、結果を整理する。

試料の外側から1~5年目(PLD-22948)と10~15年目(PLD-22949)、20~25年目(PLD-22950)を用いてウィグルマッピングを行った結果、最外年輪(最終形成年輪近く)の1 σ 暦年代範囲は1786~1802cal AD(68.2%)であった。この年代は18世紀後半~19世紀初頭であり、江戸時代後期に相当する。なお、この年代は、天明3年(1783)の浅間火山の噴火に伴う天明泥流に近い年代であり、伐採・加工されて、貯木されていた木材が流されてこの場所に堆積した可能性が考えられる。

引用・参考文献

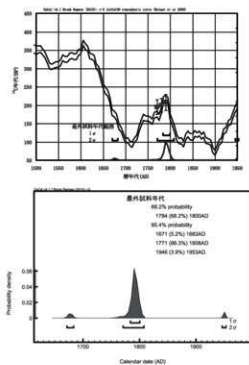
- Bronk Ramsey, C., van der Plicht, J., and Weninger, B. (2001) 'Wiggle matching' radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 43(2A), 381-389.
- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」日本先史時代の14C年代編集委員会編『日本先史時代の14C年代』3-20 日本第四紀学会
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 51, 1111-1150.

第15表 ユィグルマッチング測定試料および処理

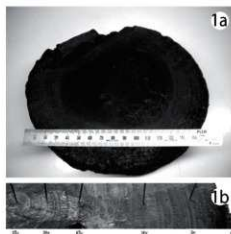
測定番号	遺跡・試料データ	採取データ	前処理
PLD-22948	遺構:SD 2 試料No. 17 種類:生材(ケヤキ) 性状:最終形成年輪付近 木取り:芯持丸木	採取位置:1-5年輪 (最終形成年輪付近)	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%, 塩酸:1.2%)
PLD-22949	性状:最終形成年輪付近 木取り:芯持丸木	採取位置:10-15年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%, 塩酸:1.2%)
PLD-22950	形状:直径18.2cm, 25年輪 状態:dry	採取位置:20-25年輪	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2%, 水酸化ナトリウム:1.0%, 塩酸:1.2%)

第16表 放射性炭素年代測定、暦年校正、ユィグルマッチングの結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-22948 試料 No. 17	-28.76 ± 0.19	208 ± 22	210 ± 20	1655AD (22.2%) 1675AD 1778AD (31.5%) 1799AD 1942AD (14.5%) 1953AD	1649AD (29.6%) 1683AD 1738AD (5.2%) 1755AD 1762AD (42.8%) 1803AD 1937AD (17.8%) 1955AD
PLD-22949 試料 No. 17	-26.25 ± 0.17	200 ± 19	200 ± 20	1662AD (17.3%) 1678AD 1766AD (33.4%) 1799AD 1940AD (17.5%) 1953AD	1654AD (24.2%) 1683AD 1737AD (50.1%) 1804AD 1936AD (21.0%) 1955AD
PLD-22950 試料 No. 17	-27.56 ± 0.16	195 ± 20	195 ± 20	1663AD (17.0%) 1679AD 1764AD (33.9%) 1800AD 1939AD (17.3%) 1953AD	1656AD (22.3%) 1684AD 1735AD (52.2%) 1805AD 1932AD (20.9%) 1955AD
最外試料年代				1784AD (68.2%) 1800AD	1671AD (5.2%) 1683AD 1771AD (86.3%) 1808AD 1946AD (3.9%) 1953AD
最終形成年輪近くの年代				1786AD (68.2%) 1802AD	1673AD (5.2%) 1685AD 1773AD (86.3%) 1810AD 1948AD (3.9%) 1955AD



第114図 ユィグルマッチング結果



第115図 年代測定を行った木材(PLD-22948 ~ 22950)と年輪計測結果

2. 花粉分析

(1) はじめに

第2号溝跡から採取された試料の花粉分析結果を示し、堆積当時の古植生について推定した。なお、同一層から採取された木材で樹種同定と放射性炭素年代測定も行われている。

(2) 試料と方法

分析試料は、第2号溝跡下層から採取されたオリブ黒色(5Y3/2)粘土1点である。

この試料から、次の手順で花粉化石を抽出した。試料(湿重量約3g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣よりプレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで、単体標本作製した。図版に載せた分類群ごとの単体標本(PLC.780~787)は、パレオ・ラボに保管されている。

(3) 結果

検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉16、草本花粉9、形態分類を含むシダ植物胞子2の総計27である。これらの花粉・胞子の一覧を第17表に、花粉分布図を第116図に示した。分布図において、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉および胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図および表においてハイフン(ー)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源の両方が含まれるが、各々に分けることが困難なため、便宜的に

草本花粉に一括して入れてある。

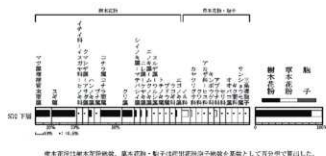
最も多く産出している樹木花粉はスギ属であり、29%の産出率を示す。次いでコナラ属コナラ亜属が25%、マツ属複維管束亜属が18%、クリ属が13%の産出率を示す。草本花粉ではイネ科が8%、アブラナ科が3%、カヤツリグサ科が2%を示す他は、全て0.5%以下である。

(4) 成果

今回の分析試料は、産出花粉胞子総数に対する樹木花粉の産出割合が高い。したがって、第2号溝跡周辺には樹木を中心とした植生が広がっていた可能性がある。樹木花粉の中ではスギ属が最も多く産出しており、スギ林主体の森林であったと思われる。なお、辻誠一郎(辻1997)は関東平野における弥生時代以降の植生変化は3つの段階があり、第3の変化(18世紀初頭)はマツやスギの植林が拡大し、森林資源量が増加したと指摘している。今回の分析結果は、マツ属複維管束亜属やスギ属の産出が目立つ点や、試料採取地点が近世の溝である点から、この第3の変化に対応していると考えられる。その他では、コナラ属コナラ亜属やクリ属など陽樹を含む分類群の産出率が高い。これらは里山の二次林として知られる種を含む分類群であり、遺跡周辺にはこれらの分類群からなる二次林が分布を広げていたと思われる。また、湿地林要素のハンノキ属や、河畔林要素のエノキ属・ムクノキ属などが産出しているため、溝周辺の水分条件の良い場所にはこうした樹木が生育していたと思われる。ちなみに、溝から産出した材はケヤキであるが、花粉分析においてもニレ属・ケヤキ属がわずかに産出している。草本花粉ではイネ科やカヤツリグサ科、アブラナ科などの産出があり、狭い分布範囲ながらもこれらの分類群が草本植生を構成していたと思われる。また、水生植物のサンショウモ属が産出しており、溝に生育していた可能性がある。

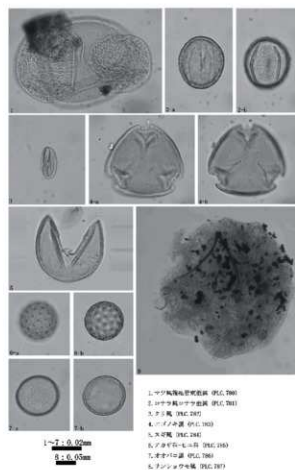
引用・参考文献

辻 誠一郎 1997 『関東平野における弥生時代以降の植生史と人間活動』 『国立歴史民俗博物館研究報告』第72集
103-141



樹木花粉は樹木定形花粉、草本花粉・胞子は樹形定形花粉を基礎として百分率で算出した。

第 116 図 東畑遺跡 (SD 2 下層) における花粉分布図



1. マツ属花粉 (定形花粉) (PLC. 706)
2. シラカサ属花粉 (定形花粉) (PLC. 707)
3. アザミ属 (PLC. 707)
4. アザミ属 (PLC. 707)
5. アザミ属 (PLC. 707)
6. アザミ属 (PLC. 707)
7. オオバコ属 (PLC. 708)
8. アザミ属 (PLC. 707)

第 117 図 東畑遺跡 (SD 2 下層) から産出した花粉・胞子

第 17 表 産出花粉・胞子一覧

学名	和名	SD2 下層
樹木		
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雄管束系属	29
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	63
<i>Taxaceae - Cephalotaxaceae - Cupressaceae</i>	イチョウ科-イヌギヤ科-ヒノキ科	1
<i>Carpinus - Ostrya</i>	クマシゲ属-アサゲ属	1
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	8
<i>Fagus</i>	ブナ属	1
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	54
<i>Castanea</i>	クリ属	28
<i>Castanopsis - Pasania</i>	シイノキ属-マテバシイ属	6
<i>Ulmus - Zelkova</i>	ニレ属-ケヤキ属	4
<i>Celtis - Aphananthe</i>	エノキ属-ムクノキ属	4
<i>Rhus - Toxicodendron</i>	ヌルギ属-ウルシ属	1
<i>Aucularia</i>	トチノキ属	1
<i>Vitex</i>	ブドウ属	1
<i>Araliaceae</i>	ウコギ科	1
<i>Styrax</i>	エゴノキ属	3
草本		
<i>Gramineae</i>	イネ科	22
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	5
<i>Moraceae</i>	タケ科	1
<i>Chenopodiaceae - Amaranthaceae</i>	アカザ科-ヒユ科	1
<i>Ranunculaceae</i>	キンポウゲ科	1
<i>Burseriaceae</i>	アブラナ科	9
<i>Apiaceae</i>	セリ科	1
<i>Plantago</i>	オオバコ属	1
<i>Tubuliflorae</i>	キク亜科	1
シダ植物		
<i>Salvinia</i>	サシショウモ属	1
trilete type spore	三葉線胞子	1
Arboreal pollen		
	樹木花粉	216
Nonarboreal pollen		
	草本花粉	42
Spores		
	シダ植物胞子	2
Total Pollen & Spores		
	花粉・胞子総数	269
Unknown pollen		
	不明花粉	1

VI 調査のまとめ

1. 遺構の時期区分

東畑遺跡の時期は大きく6時期に区分できる(第118図)。Ⅰ期は15世紀代から16世紀前半代、Ⅱ期は16世紀後半、Ⅲ期は16世紀末～17世紀初頭、Ⅳ期は18世紀前半～中頃(天明3年以前)、Ⅴ期はAs-A軽石粒の堆積状況から天明3年以後の18世紀後半、Ⅵ期は19世紀以降に位置付けられる。主な遺構の廃絶段階の時期区分は、以下の通りである。

Ⅰ期 SE44

Ⅱ期 SE1、2、3、5、6、7、8、9、15、17、27、39、SD6、7、8、18、SK14、26

Ⅲ期 SE18、43

Ⅳ期 SE49、SD10、23、SK38、47

Ⅴ期 SE50、SD1、2、3、5、9、17、SK2、3、4、5、6、7、8、13、49、災害復旧痕群1～4

Ⅵ期 SD14、SK1

時期不明(中世) SE4、14、19、21、31、36、

40、41、42、45、46、48、51、

SD11、12、13、15、29、30、32、33、34、SK19、41、48、51、53

時期不明(近世) SE16、28、SD4、20、24、25、SK21、35

遺構の多くがⅡ期とⅤ期に廃絶されている。確実に17世紀代の廃絶といえる遺構は確認されなかったが、17世紀代の遺物も少ないながらも出土している。そのことから、遺跡が断絶していたわけではなく、18世紀代に前段階から機能していた遺構が廃絶したことによるものと想定できる。

また、第1号道路跡は近世から現代まで継続して機能していた。中世段階から近世初頭にあたるⅠ期からⅢ期にかけての時期は、調査区の中央から西側に遺構が分布する傾向にある。その後、Ⅳ期からⅥ期にかけて、西側に第1号道路跡や第1号溝跡、第2号溝跡、第3号溝跡といった区画溝が築かれていった。

2. 主な遺構について

(1) 板碑出土の遺構

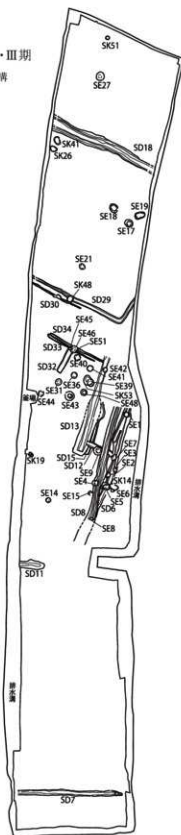
東畑遺跡において出土した板碑は、井戸跡からの出土事例が多いという傾向にあった。なかでも第9号井戸跡からは10枚の板碑が割れた状態でまとめられて出土した。その上部には石臼と焼石が置かれ、種実類が散乱し、12枚のかかわりが重なって置かれていた(第16図)。このような出土状況から単に、井戸へ投棄したものではなく、何らかの儀礼行為に伴う可能性が想定される。

東畑遺跡から利根川下流側に位置する加須市大越の旧利根川堤防跡、長竹遺跡といった遺跡においても、遺構から板碑が出土する事例がみられるが、いずれも東畑遺跡のようなかわかけを伴う様

子は窺えない。

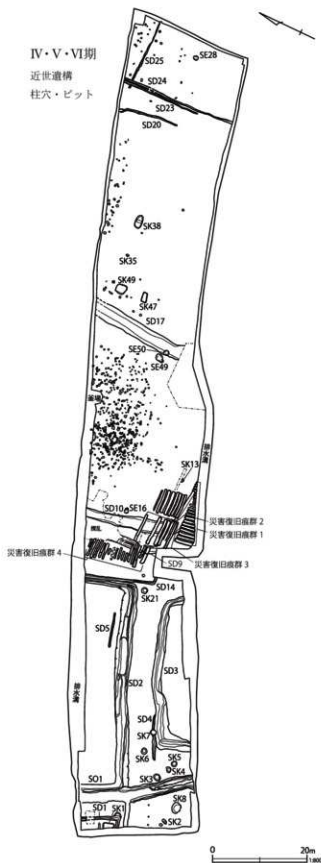
旧利根川堤防跡では、第18号・第28号井戸跡から板碑がまとまって出土していた(砂生2017)。第18号井戸跡からは、「永仁五年」(1297)、「延慶二年」(1309)、「応安四年」(1371)の紀年銘を持つ板碑のほか、宝篋印塔の部材や石臼、安山岩製の大型不明石製品などの石製品が出土した。第28号井戸跡からは、「貞治七年」(1368)、「文明三年」(1471)、「文明十三年」(1481)の紀年銘を持つ板碑が出土したが、石塔や石臼といったほかの石製品はない。旧利根川堤防跡は16世紀後半に堤防の築堤が開始されるので、ほぼ全ての遺

中世遺構



近世遺構

柱穴・ピット



第 118 図 東畑遺跡時期区分図

構はこれ以前の時期となる。そのため、これら井戸跡の廃絶時期は、板碑にある紀年銘の年代以降から16世紀後半以前となる。

また、長竹遺跡B区の第484号・第485号土壌からも板碑が出土した。第484号土壌出土の板碑は「文保二年十一月 日」(1318)の紀年銘が刻まれている。この土壌からは馬の下顎骨等の骨もあわせて出土した。第485号土壌からは「康安 十月 日」(1361～1362)の年号を刻む板碑と「嘉元三年 乙 巳」(1305)の年号を刻む板碑2枚とともに、馬の下顎骨等の骨がまとまって出土した。第486号土壌と第487号土壌には板碑の出土がないが、馬の頭骨と下顎骨が出土したことから同様の性格の土壌であったといえる。『長竹遺跡Ⅰ』(埼玉県埋蔵文化財調査事業団編2014)では、これらを廃棄土壌に投棄されたものと想定している。板碑を土壌へ投棄していた状況も想定されるが、これらの土壌からは馬の頭骨と板碑以外の遺物が出土していない。単なる廃棄土壌ではなく、殺馬祭祀のような行為に伴っていた可能性も想定されよう。時期は板碑の紀年銘以降の年代ということしか判断できない。

一方、東畑遺跡から利根川上流1kmの位置に所在する米の宮遺跡からは、13世紀後半と15世紀前半の遺物が主体的に出土しているが、板碑は出土していない(埼玉県埋蔵文化財調査事業団編2018)。東畑遺跡、旧利根川堤防跡、長竹遺跡はそれぞれ井戸跡や土壌に板碑を投棄しながらも状況が異なり、米の宮遺跡からは出土しないなど、遺跡ごとに違った様相がみられる。周辺遺跡の調査が進展すればより類型が増え、具体的な検討が進むと期待される。

(2) 災害復旧痕

天明3年(1783)に起こった浅間山の噴火により発生した泥流が、利根川に流れ込んだ。そのため河床が上昇し、以後、利根川水系では洪水が頻発するようになった。東畑遺跡において検出された

災害復旧痕は、このような洪水後に対処した痕跡とみられる。東畑遺跡では耕作地などの場所で天地返しが行われ、実施された範囲は限定的である。

東畑遺跡において検出された災害復旧痕の覆土は、第1層が黒褐色砂、第2層が粘性のある褐色シルト、第3層がAs-A軽石を含む褐色砂、第4層は黒色砂が堆積していた。ここから判断すると、第3層と第4層が洪水によって堆積し天地返しによって埋められた洪水砂で、第2層の褐色シルトが天地返しによって掘り返されて洪水砂の上に載せられた土となる。第1層は天地返し後に再度発生した洪水による砂層の可能性もある。また、災害復旧痕群1のみ軸方向が南北方向であり、土層堆積も第3層が検出面に露出しているものが多い。このことから災害復旧痕群1は、ほかの災害復旧痕群よりも新しく、上面が削平されているものと考えられる。そこで東畑遺跡での災害復旧痕は、2時期に区分が可能と思われる。いずれもAs-A軽石を含むことから、天明3年の噴火以後に起こった洪水への対処と想定される。それ以前の天地返しの痕跡は確認されていない。

利根川の対岸となる群馬県邑楽郡板倉町に所在する島悪途遺跡は、利根川流路のひとつである合の川の旧流路上に位置し、近世初頭から継続した畠が検出された(群馬県埋蔵文化財調査事業団編2006)。島悪途遺跡は合の川の旧流路上に立地するという環境から頻繁に洪水被害を受け、その都度、天地返しが行われている。上流から運ばれてくる土砂に含まれる養分を取り込むことを目的として、そのような場所にあって畠を開いたとみられている。しかし、天明3年段階の島悪途遺跡については、As-A軽石粒を含む洪水層が他の堆積層と比べ薄いという状況にあり、この時の被害は少なかった可能性もあるとされる。

東畑遺跡では、天明3年以後にしか天地返しが行われていない。そこで、島悪途遺跡とは異なり、この時の被害が大きかった可能性が想定される。

3. 主な遺物について

第64図109の鉄鍋は、吊手がつくタイプの鉄鍋である。吊手がつくこのタイプは、五十川伸矢による分類の鍋B類に該当する（五十川1992）。鍋B類は14世紀代に西日本で出現し、少なくとも16世紀代には関東や東北へ普及したとされる。

小野哲也は耳部製作をカンナで耳部を削り出す「カンナ削り式」、中子を削った後に取り付ける「後込め式」、中子を削る前に取り付ける「先込め式」、板状の耳型で中子に隙間をつくる「モツソウ式」に分けている（小野2003、2004）。先込め式の特徴は、穴の大きさが内外でほぼ同じで、内面に合わせ目状の段が認められ、口縁部は外側に張り出す。第64図109の耳部面はやや外面が広いが、穴は外側と内側がほぼ同じといえ、耳部と本体の接続部に段が認められ、口縁部は外側に張り出すことから、この先込め式と類似するといえる。

第64図110の鉄瓶は、109の鉄鍋よりも錆による状態が悪く、詳細に判別できない部分も多い。しかし鉄瓶の出土事例は鉄鍋以上に少なく、貴重な

資料といえる。これらの遺物は第2号溝跡においてAs-A軽石粒を含む砂層より下層から出土していることから、天明3年（1783）以前、18世紀後半以前の製品であるといえる。第2号溝跡からはこれらの鋳物製品のほかにも完形の陶磁器類が出土しており、洪水など何らかの理由で廃棄されたものであると想定される。

また、東畑遺跡では中世段階においても茶臼（第35図105、第91図24）や青白磁の梅瓶（第74図223）をはじめとする舶載磁器が、少ないながらも出土している。このような遺物は都市的な場や城館、寺院からの出土が多く、農村部での出土事例は限られる。近隣に永明寺や利根川の渡河点が存在するという立地環境を背景に、このような遺物が出土したこととの関連性が想定できる。

以上のように東畑遺跡では、中世後半から近世にかけて多くの資料を得ることができた。これらの成果は羽生市や利根川中流域の歴史を考える上での貴重な資料になるだろう。

引用・参考文献

- 愛知県史編さん委員会編 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県
蘆田伊人編 1968『新編武蔵風土記稿』第10巻 大日本地誌体系（10）雄山閣
五十川伸矢 1992『古代・中世の鉄鍋鋳物』『国立歴史民俗博物館研究報告』第46集
磯野治司 2012『板碑の廃棄と儀礼性』『考古学論究』第14号
大成可乃 2011『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（2）一器種（小器種）の出土状況一』
『東京大学埋蔵文化財調査室研究紀要7』
小野哲也 2003『列島各地における鉄鍋製作方法について』『物質文化』76
小野哲也 2004『中世・近世における鉄鍋製作方法の地域差』『物質文化』77
群馬県埋蔵文化財調査事業団編 2006『島悪塗遺跡』財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第376集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2014『長竹遺跡1』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第413集
埼玉県埋蔵文化財調査事業団編 2018『米の宮遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第439集
砂生智江 2017『地中に埋もれた板碑』『発掘された中世の姿』平成28年度東京・神奈川・埼玉埋蔵文化財関係財団
普及連携事業公開セミナー
東京大学埋蔵文化財調査室編 1997『東京大学構内遺跡調査研究年報1』1996年度
宮代町教育委員会編 2002『宮代町史 通史編』宮代町